静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第71集

加茂ノ洞B遺跡

平成６年度東駿河湾環状道路建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

１９９６

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第71集

加茂ノ洞B遺跡

平成６年度東駿河湾環状道路建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

１９９６

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

加茂ノ洞B遺跡より愛鷹山麓を望む

旧石器時代土坑群

序

加茂ノ洞Ｂ遺跡の調査は、箱根西麓から愛鷹南麓を通過する東駿河湾環状道路建設工事に伴い実施された。本遺跡が立地する箱根西麓は、黒耀石の原産地を箱根・伊豆に控え、旧石器時代から縄文時代にかけての多くの遺跡が確認されており、全国的にも注目を集めている地域である。すでに当研究所が東駿河湾環状道路関係で調査を実施した焼場遺跡・下原遺跡でも多くの成果をあげていることから、本遺跡に対しても大いに期待が寄せられた。

検出された遺構・遺物の中でも、特筆されるのが、約27,000年前のものと考えられる17基の土坑である。これらは、形態や規模がよく類似しており、また、規則性をもたせながら二列並行して配置している点など、当時の集団が明らかにある意図を持って構築したと考えられる。山田川を挟んだ南側の尾根に立地する下原遺跡や初音ヶ原遺跡群からも、同時期の土坑が規則的に配置されていることが報告されている。今後、これらの検出例と関連させて、構築目的のみならず集団の行動形態にまで及んだ検討が深まることを期待している。また、礫群や石器ブロックを除くと、旧石器時代の遺構の検出例は全国的にも稀少な中で、遺構密度が高い本遺跡の報告資料は、貴重なものになると考える。

調査ならびに本書の作成にあたっては、建設省・三島市教育委員会をはじめとする関係機関各位に多大なる援助・協力を受けた。この場をお借りして深くお礼申し上げる。また、現地調査・資料整理に参加された多くの方々の労をねぎらいたい。

平成８年３月

財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長　斎藤　忠

例　　言

1　本書は静岡県三島市沢地字河洞に所在する加茂ノ洞Ｂ遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は、平成５年度に実施した第１次調査の結果を受け、平成６年度東駿河湾環状道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、建設省中部建設局沼津工事事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成６年４月から平成７年３月まで現地調査を実施した。

3　加茂ノ洞Ｂ遺跡の資料整理は、平成７年４月から平成８年３月まで実施した。

4　調査体制は、以下のとおりである。

平成５年度（第１次調査）

所長　斎藤　忠、常務理事　鈴木　勲、調査研究部長　植松章八、

調査研究三課長　佐野五十三、調査研究員　伊林修一・横山秀昭・小野千賀子

平成６年度

所長　斎藤　忠、常務理事　鈴木　勲、調査研究部長　小﨑章男、

調査研究四課長　橋本敬之、調査研究員　横山秀昭・瀬戸俊昭

平成７年度

所長　斎藤　忠、副所長　池谷和三、常務理事　三村田昌昭、調査研究部長　小﨑章男、

調査研究四課長　橋本敬之、調査研究員　横山秀昭

5　本書の執筆は、横山秀昭が行い、遺物写真撮影は、湊　嘉秀が行った。

6　黒耀石の原産地分析は、国立沼津工業高等専門学校の望月明彦氏の御指導のもと、横山秀昭が実施した。

7　調査では次の方々・団体に御指導、御助言を賜った。厚くお礼申し上げる。（敬称略）

芦川忠利　池谷信之　長田　実　鈴木忠司　鈴木敏中　瀬川裕市郎　辻本崇夫　向坂鋼二

望月明彦　山下秀樹　三島市教育委員会

8　発掘調査資料は、すべて静岡県埋蔵文化財調査研究所が保管している。

9　本書の編集は静岡県埋蔵文化財調査研究所が行った。

凡　　例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

1　グリッドは、国家座標に則り設定した。

2　出土遺物は、10m方眼のグリッドごとに通し番号を付して取り上げた。

3　石器の実測は、原則として第三角投影図法に拠った。

4　出土遺物実測図の縮尺は、基本的に石器4/5、土器1/2、礫石器1/3で掲載した。

5　遺物の出土位置については、一覧表内に座標で明記した。座標はＦ９グリッド杭を（Ｘ.Ｙ)＝(0.0)とし、南北方向をＸ軸に、東西方向をＹ軸にとった。

6　土層の色調は、新版『標準土色帖』(農林水産技術会議事務局監修1992）を使用した。

7　本文中・挿図中の表記は以下のとおりである。

層名				石材名		黒耀石原産地	
ＹＬＵ	休場層上層	ＢＢⅡ	第Ⅱ黒色帯	Ｏｂ.	黒耀石	ＨＴＪ	畑宿
ＹＬＭ	休場層中層	ＳＣⅡ	第Ⅱスコリア層	Ｃｈ.	チャート	ＫＭＴ	上多賀
ＹＬＬ	休場層下層	ＢＢⅢ	第Ⅲ黒色帯	Ａｎｄ.	安山岩	ＫＳＷ	柏峠
ＢＢ０	休場層直下黒色帯	ＳＣⅢs1	第Ⅲスコリア帯スコリア１	Ｂ．Ａｎ.	黒色緻密安山岩	ＫＲＭ	霧ヶ峰系
ＳＣＩ	第Ⅰスコリア層	ＳＣⅢb1	第Ⅲスコリア帯黒色帯１	Ｇｒ.	凝灰岩	ＴＴＳ	蓼科系
ＢＢＩ	第Ⅰ黒色帯	ＳＣⅢs4	第Ⅲスコリア帯スコリア４	Ｓｈ.	頁岩	ＷＤＴ	和田峠系
ＮＬ	ニセローム			Ｓａｄ.	砂岩	ＫＯＺ	神津島系
				Ｂａｓ.	玄武岩		

目　　次

巻頭写真
序
例言
凡例

第Ⅰ章　調査の概要
第１節　調査に至る経過 …… 1
第２節　調査の経過 …… 1
1　現地調査の方法 …… 1
2　資料整理の方法 …… 3
3　現地調査の経過 …… 3

第Ⅱ章　遺跡の概要
第１節　遺跡の位置と歴史的環境 …… 7
第２節　基本土層 …… 10
第３節　遺跡の土層堆積状況 …… 12
第４節　遺構・遺物の概要 …… 15

第Ⅲ章　縄文時代の遺構と遺物
第１節　富士黒土層の遺構と遺物 …… 16
第２節　休場層上層の遺構と遺物 …… 34

第Ⅳ章　旧石器時代の遺構と遺物
第１節　休場層中層内の遺構と遺物 …… 37
第２節　休場層直下黒色帯の遺構と遺物 …… 70
第３節　第Ⅰ黒色帯の遺構と遺物 …… 74
第４節　第Ⅱ黒色帯の遺構と遺物 …… 79
第５節　第Ⅲ黒色帯の遺構と遺物 …… 87

第Ⅴ章　調査の成果と課題 …… 117

出土石器・礫一覧表

挿図目次

第１図　調査区グリッド配置図及び試掘坑・トレンチ設定図 …… 2
第２図　第11・12地点試掘坑及びトレンチ設定図 …… 4
第３図　調査範囲及びテストピット設定図 … 6
第４図　周辺の遺跡 …… 8
第５図　周辺地形及び周辺遺跡立地図 …… 9
第６図　基本土層柱状図 …… 11
第７図　土層堆積図 …… 13
第８図　FB 層土坑図 …… 16
第９図　FB 層遺構・土器分布図 …… 17
第10図　FB 層石鏃実測図 …… 18
第11図　FB 層石器実測図１ …… 19
第12図　FB 層石器実測図２ …… 20
第13図　FB 層石器実測図３ …… 21
第14図　FB 層石器実測図４ …… 22
第15図　FB 層石器実測図５ …… 23
第16図　FB 層石器実測図６ …… 24
第17図　FB 層石器実測図７ …… 25
第18図　縄文土器拓影図１ …… 28
第19図　縄文土器拓影図２ …… 29
第20図　縄文土器拓影図３ …… 30
第21図　縄文土器拓影図４ …… 31
第22図　YLU 層石器実測図１ …… 34
第23図　縄文時代草創期石器分布図 …… 35
第24図　YLU 層石器実測図２ …… 36
第25図　YL 層遺物出土状況図 …… 38
第26図　YL 層石器器種別分布図 …… 39
第27図　YL 層礫群平面・垂直分布図 …… 42
第28図　YL 層石器実測図１ …… 43
第29図　YL 層石器実測図２ …… 44
第30図　YL 層石核実測図１ …… 46
第31図　YL 層石核実測図２ …… 47
第32図　YL 層石核実測図３ …… 48
第33図　YL 層石核実測図４ …… 49
第34図　YL 層石核実測図５ …… 50
第35図　YL 層敲石・磨石・凹石実測図１ … 51
第36図　YL 層敲石・磨石・凹石実測図２ … 52
第37図　YL 層敲石・磨石・凹石実測図３ … 53
第38図　YL 層敲石・磨石・凹石実測図４ … 54
第39図　YL 層敲石・磨石・凹石実測図５ … 55
第40図　YL 層石器接合資料 …… 56
第41図　遺跡内出土黒耀石の原産地判別 …… 57
第42図　箱根系原産地判別 …… 57
第43図　個体別資料分布図１　柏峠・上多賀・畑宿 …… 61
第44図　個体別資料分布図２　蓼科・霧ヶ峰・和田峠 …… 63
第45図　１区 YL 層遺物石材別平面・垂直分布図 …… 65
第46図　３区 YL 層遺物石材別平面・垂直分布図 …… 67
第47図　BB ０層遺物出土状況図 …… 71
第48図　BB ０層Ａブロック平面・垂直分布図 …… 72
第49図　BB ０層Ａブロック石器器種別分布図 …… 72
第50図　BB ０層石器実測図 …… 72
第51図　BB ０層Ｂブロック平面・垂直分布図 …… 73
第52図　BB ０層Ｂブロック石器器種別分布図 …… 73
第53図　BB Ⅰ層遺物出土状況図 …… 75
第54図　BB Ⅰ層石器ブロック平面・垂直分布図 …… 77
第55図　BB Ⅰ層石器ブロック器種別分布図 …… 77
第56図　BB Ⅰ層礫群平面・垂直分布図 …… 77
第57図　BB Ⅰ層石器実測図１ …… 77
第58図　BB Ⅰ層石器実測図２ …… 78
第59図　BB Ⅱ層遺物出土状況図 …… 80
第60図　BB Ⅱ層Ａブロック平面・垂直分布図 …… 81
第61図　BB Ⅱ層Ａブロック器種別分布図 … 81
第62図　BB Ⅱ層礫群平面・垂直分布図 …… 81

第63図　BB Ⅱ層Bブロック平面・垂直分布図 …… 84
第64図　BB Ⅱ層Bブロック器種別分布図 … 84
第65図　BB Ⅱ層Cブロック平面・垂直分布図 …… 84
第66図　BB Ⅱ層Cブロック器種別分布図 … 84
第67図　BB Ⅱ層Dブロック平面・垂直分布図 …… 85
第68図　BB Ⅱ層Dブロック器種別分布図 … 85
第69図　BB Ⅱ層石器実測図１ …… 85
第70図　BB Ⅱ層石器実測図２ …… 86
第71図　BB Ⅲ層遺物出土状況図 …… 88
第72図　BB Ⅲ層石器ブロック平面・垂直分布図 …… 89
第73図　BB Ⅲ層石器ブロック器種別分布図 …… 89
第74図　BB Ⅲ層石器実測図１ …… 89
第75図　BB Ⅲ層石器実測図２ …… 90
第76図　１号土坑図 …… 91
第77図　BB Ⅲ層土坑分布図 …… 92
第78図　２号土坑図 …… 94
第79図　３号土坑図 …… 96
第80図　４号・５号土坑図 …… 98
第81図　６号土坑図 …… 100
第82図　７号土坑図 …… 101
第83図　８号土坑図 …… 103
第84図　９号土坑図 …… 104
第85図　10号土坑図 …… 106
第86図　11号土坑図 …… 107
第87図　12号土坑図 …… 108
第88図　13号土坑図 …… 110
第89図　14号土坑図 …… 111
第90図　15号土坑図 …… 113
第91図　16号土坑図 …… 114
第92図　17号土坑図 …… 115

挿表目次

表１　作業工程表 …… 5
表２　遺構・遺物一覧表 …… 15
表３　縄文層石器計測表 …… 26
表４　土器観察表 …… 32・33
表５　YLU 層石器計測表 …… 34
表６　YL 層石材別器種組成表 …… 37
表７　YL 層ナイフ形石器・掻器・削器等計測表 …… 45
表８　YL 層石核計測表 …… 51
表９　YL 層敲石・磨石・凹石計測表 …… 56
表10　個体別資料分類表 …… 58・59
表11　個体別資料別石器器種組成表 …… 60
表12　主要石材別石器器種組成表 …… 69
表13　BB ０層石器器種組成表 …… 70
表14　BB ０層石器計測表 …… 70
表15　BB Ⅰ層石器器種組成表 …… 74
表16　BB Ⅰ層石器計測表 …… 76
表17　BB Ⅱ層石器器種組成表 …… 79
表18　BB Ⅱ層石器計測表 …… 83
表19　BB Ⅲ層石器器種組成表 …… 87
表20　BB Ⅲ層石器計測表 …… 87
表21　BB Ⅲ層土坑計測表 …… 116

図版目次

図版１　１　調査区発掘前近景
　　２　基本土層
　　３　基本土層（分層後）
図版２　１　縄文層遺物出土状況
図版２　２　縄文土器（鵜ヶ島台式）出土状況
図版３　１　BB Ⅰ層石器ブロック検出状況
　　２　BB Ⅱ層Aブロック検出状況
図版４　１　BB Ⅲ層石器ブロック検出状況

図版４　２　BB Ⅲ層２号土坑層断面
　　３　BB Ⅲ層３号土坑土層断面
図版５　１　BB Ⅲ層９号土坑検出状況
　　２　BB Ⅲ層４号・５号土坑土層断面
図版６　１　BB Ⅲ層１号土坑完掘状況
　　２　BB Ⅲ層土坑遠景
図版７　　縄文時代の石器
図版８　　FB 層石核
図版９　　FB 層敲石
図版10　　FB 層敲石・磨石・凹石
図版11　　FB 層敲石・磨石
図版12　　FB 層台石・石皿
図版13　　縄文土器１
図版14　　縄文土器２
図版15　１　縄文土器３
　　２　縄文土器復元資料
図版16　　縄文時代草創期の石器
図版17　　YL 層出土石器
図版18　　YL 層石核１
図版19　　YL 層石核２
図版20　　YL 層石核３
図版21　　YL 層敲石・凹石
図版22　　YL 層敲石・凹石
図版23　　YL 層磨石
図版24　　YL 層敲石・磨石
図版25　１　YL 層敲石・磨石
　　２　YL 層黒色緻密安山岩原石
図版26　　BB ０層・BB Ⅰ層出土石器
図版27　　BB Ⅱ層・BB Ⅲ層出土石器
図版28　１　YL 層接合資料１
　　２　BB Ⅱ層接合資料
　　３　YL 層接合資料２
　　４　BB Ⅲ層石核
　　５　BB Ⅱ層台石

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経過

静岡県三島市は、県の東部、伊豆半島の付け根に位置し、古くから東海道に於ける東西交通の接点として重要な役割を担い、同時に、箱根・伊豆・富士という一大観光地への拠点として栄えてきた。近年の人口増加に伴い、住宅化が進み、振興住宅地が丘陵地や山間部にまで造成されている。人口増加は即ち車両増加に繋がり、加えて、市内に於ける主要幹線道路である国道１号線、136号線、主要地方道が市街地内で接続されているため、慢性的な交通渋滞が発生し、市民生活のみならず経済活動にも少なからず影響を及ぼしてきた。これを解消するためにバイパスの建設や国道の２車線化が行われてきたが、三島市内の渋滞はさほど解消されず、効果のほどは今一つであった。東駿河湾環状道路の建設は、この混雑の緩和と経済発展等を目的として計画された。路線は、沼津市岡宮から愛鷹南麓・箱根西麓を通過し、函南町平井に至る総延長15.0㎞の片側２車線の道路である。

愛鷹南麓・箱根西麓は旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が集中する地域であり、愛鷹南麓では約40箇所、箱根西麓では約60箇所の遺跡調査が実施され成果をあげているが、当該地域の開発行為は増加の一途を辿っていることから、今後相当数の遺跡が確認されることが予想される。この東駿河湾環状道路の路線内の各台地上にも多くの遺跡が存在する可能性があるため、平成２年９月に三島市教育委員会により予定路線内の遺跡確認踏査が行われ、周知の遺跡を含んだ31箇所の遺跡が確認された。このうち周知の遺跡である加茂ノ洞Ｂ遺跡は11地点にあたる。

平成４年度に委託者である建設省中部建設局沼津工事事務所と静岡県教育委員会文化課による協議を経て、平成５年５月６日から６月24日まで第11地点（加茂ノ洞Ｂ遺跡）と第12地点の第１次調査を合わせて行い、このうち加茂ノ洞Ｂ遺跡については、平成５年５月26日から６月24日まで調査を実施した。

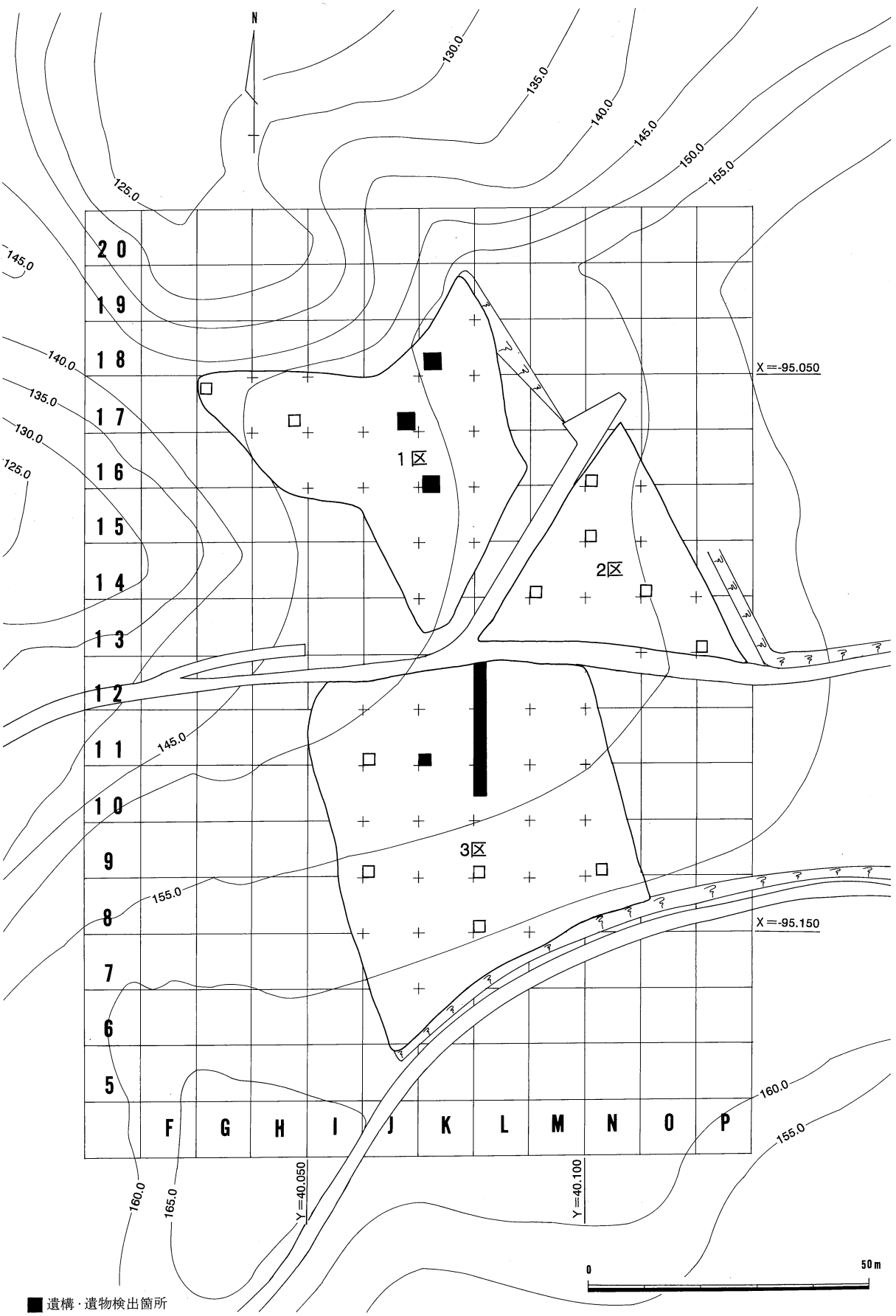
調査の結果、富士黒土層（FB 層）から縄文時代早期の土器片が出土し、さらに第Ⅲスコリア帯黒色帯１（SC Ⅲｂ1）直下に於いて、旧石器時代の土坑が１基検出されたことから、本調査が必要な旨を静岡県教育委員会文化課に回答し、平成６年４月１日から本調査の準備を始め、４月21日から現地調査を実施した。

第２節　調査の経過

１　現地調査の方法

調査開始当初は、１区のみが調査対象であったが、調査を進めていく過程で、畑作による撹乱を受け、調査区に僅かに残存する程度であった縄文層が、南東部では比較的良好に堆積していることが確認され、土器片の出土も多かったことから、私道を挟んだ東側の用地買収が済んでいる地域を調査対象とし、２区と呼称した。加えて、１区の第Ⅲスコリア帯黒色帯１直下で検出された旧石器時代の土坑列が、調査区を南北に縦断する形で、規則性を持って列状に配置されていることが確認されたことから、市道を挟んだ南側も調査対象に加え、３区と呼称した。

グリッドは国土座標に基づき、１グリッドを10×10m方眼で設定した第１次調査時に設けたものをそのまま流用した。グリッド呼称は、東西方向をアルファベットで表し、西からＦ・Ｇ・Ｈ……とし、南北方向は算用数字で南から５・６・７……とし、南西優位とした。



■遺構・遺物検出箇所

※１区は平成５年度の調査結果

第１図　調査区グリッド配置図及び試掘坑・トレンチ設定図（1/1000）

１区の調査方法は、地形確認のため東西方向・南北方向それぞれに１本ずつの土層帯を設定し、耕作土を重機によって除去した後、縄文層から第Ⅰ黒色帯（BB Ⅰ層）上面までを全面精査した。BB Ⅰ層以下は、１グリッドに３×３ｍのテストピットを４箇所設定し、遺物や遺構が確認された時点で拡張する方法をとりながら、それぞれ第Ⅲスコリア帯まで掘削した。その結果、第Ⅲスコリア帯黒色帯１（SC Ⅲ b 1）直下に於いて、第１次調査時に確認されているものと同時期と考えられる土坑が多数検出されたため、全域を第Ⅲスコリア帯まで重機によって掘削した。２区は、年度後半の11月下旬から約１カ月間第１次調査を実施した。調査区内に２×２ｍのテストピットを５箇所設定し、それぞれ第Ⅲスコリア帯まで掘削した。遺構や遺物は確認されなかったが、本調査に於いて、１区同様に土坑の有無を確認するため、全域を第Ⅲスコリア帯まで重機によって掘削した。３区は、２区に並行して第１次調査を実施した。調査区内に２×２ｍのテストピットを６箇所、２×25ｍのトレンチを１本設定し、テストピットは第Ⅲスコリア帯まで、トレンチは休場層直下黒色帯上面まで（２箇所第Ⅲスコリア帯まで深掘り）それぞれ掘削した。調査区北半は、縄文層以下第Ⅲスコリア帯まで良好な土層の堆積状況が確認され、縄文層と休場層上層（YLU 層）に於いて遺物の出土を見たが、調査区南半は畑作による撹乱が第Ⅲ黒色帯（BB Ⅲ層）にまで及んでおり、遺物の出土も見られなかった。したがって、本調査では、手掘りによる調査は、時間的制約と遺物の出土状況から、調査区北半の縄文層と YLU 層に限り実施し、休場層中層（YLM 層）以下は重機によって第Ⅲスコリア帯まで掘削することとした。

写真撮影は、中型カメラ（６×７判）１台、小型カメラ（35㎜）３台を使用して行った。遺物の取り上げにはトータルステーションを使用し、遺構・遺物の検出状況は、1/20の図面に記録し、必要に応じて1/10の図面を作成した。

２　資料整理の方法

平成７年４月から本書作成のための整理作業に入った。遺構については、図面の整理・検討を行った後、トレース作業を行い、1/20及び1/40の縮尺で掲載している。出土遺物については、土器・石器・礫の接合作業を行い、実測図の作成とトレース作業を行った。原則として土器は1/2、石器は4/5の縮尺で掲載したが、個体が大型の場合は紙面の都合上縮尺率を変えてある。なお、出土した土器は図化できるものは全て掲載したが、礫は全て、石器は器種により掲載されていないものがある。また、黒耀石約140点については、国立沼津工業高等専門学校の望月明彦氏の御指導のもと、調査員の責任において蛍光X線分析による産地同定を行い、この分析結果をもとに、個体別資料分類を行った。遺物写真は、本文のあとに写真図版として掲載している。

実測が終了した遺物については、遺物カードを作成し、所内に保管する予定である。また、調査記録写真は、フィルムの状態では退色、劣化が進行するため、フォト CD に置き換えて別途保存し、将来的には、コンピュータを利用した画像検索システムを確立していく予定である。

３　現地調査の経過

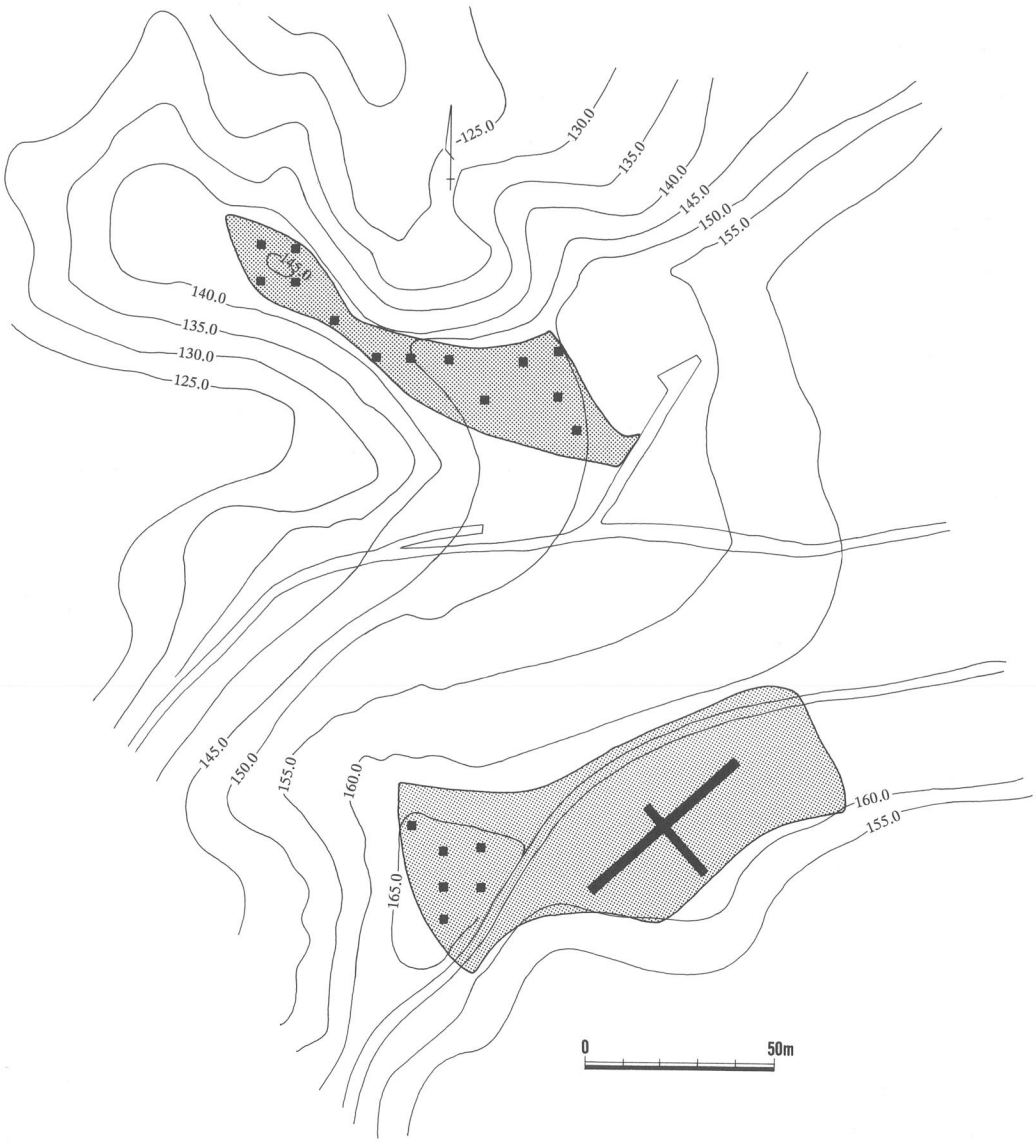
⑴　第１次調査

第11地点（加茂ノ洞Ｂ遺跡）（1,820㎡）

国土座標に基づき、調査区内に10×10ｍのグリッドを設定し、２×２ｍのテストピットを11箇所設け、必要に応じて拡張する方法をとった。調査区西側は、斜面崩落が激しく、表土から50㎝程掘削したところで中部ローム層中の三島パミスが認められたため、本調査の対象外とした。東側については、縄文層が畑作による撹乱を受け、残りは良好でなかったが、YL 層以下は比較的安定した堆積状況であり、縄文土器片が10点、SC Ⅲ層で旧石器時代の土坑が１基確認されたため、本調査に至った。

第12地点（4,470㎡）

調査区は第11地点の南側に隣接している。調査の主体となる南側は大部分が削平されており、地表面には中部ローム層中のペアスコリアが露出している状況であった。地形確認のため２×51mのトレンチを北東から南西方向に１本、これに直交する２×21mのトレンチを北西から南東方向に１本設定し、前者は三島パミスが確認されるところまで掘削した。後者は、表土直下で箱根新期軽石流相当と考えられる礫層に当たった。また、農道を挟んだ西部は小丘陵で、削平も受けていなかったため、遺物の出土を期待して２×２mのテストピットを６箇所設定した。頂部付近は崩落が激しく、表土直下にSC Ⅲ層が認められる状況であり、裾部はYL層から残存していたが、堆積状況は良好でなかった。頂部については三島パミスまで、裾部についてはSC Ⅲ層までそれぞれ掘削したが、遺構・遺物は検出されなかった。以上の結果から、調査区内からは遺構・遺物は確認されないと判断し、本調査は実施しなかった。



第２図　第11・12地点試掘坑及びトレンチ設定図（1/2000）

⑵　本格的調査

1区　平成６年４月21日～平成７年３月31日（1,805㎡）

４月１日より安全フェンスの設置、プレハブ棟の設置場所の養生等の諸準備を行い、４月21日より表土除去を開始した。なお、表土を含む調査中の排土は、12地点に仮置きすることとした。

５月12日より本格的な調査に入った。調査区の西側1/3は第１次調査の結果から、ニセローム以上は畑作による撹乱を受けていることが確認されているため、テストピット調査から入った。このうち、H－16グリッドに設定したテストピットのSC Ⅲｂ1直下において、土坑が１基検出されている東側2/3については、地形確認のため設定した東西・南北方向それぞれの土層帯を残し、一部残存していた縄文層からBB Ⅰ層上面までを全面精査した。このうちBB ０層からは、散漫な分布ながら石器ブロックが２基検出されている。BB Ⅰ層の上面において地形測量を行い、以下SC Ⅲ層までは、１グリッドに３×３ｍのテストピットを４箇所設定し、９月からそれぞれ掘削を開始した。この結果、BB Ⅰ層とBB Ⅲ層でそれぞれ１基の石器ブロックと、調査区南半のBB Ⅱ層で数箇所石器が集中する地点が確認された。したがって、11月からBB Ⅱ層における石器の分布を確認するため、南半のBB Ⅱ層以下SC Ⅲ層まで全面精査を開始した。また、設定したテストピットのSC Ⅲｂ1直下において、土坑が７基検出されたため、２月に入り、全域を重機によってSC Ⅲ層まで掘削したところ、新たに６基検出された。２月下旬に空中写真撮影を実施した後、３月に土坑覆土及び標準土層のサンプリングを行い、３月末に全調査を終了した。

2区　平成７年３月１日～平成７年３月31日（1,034㎡）

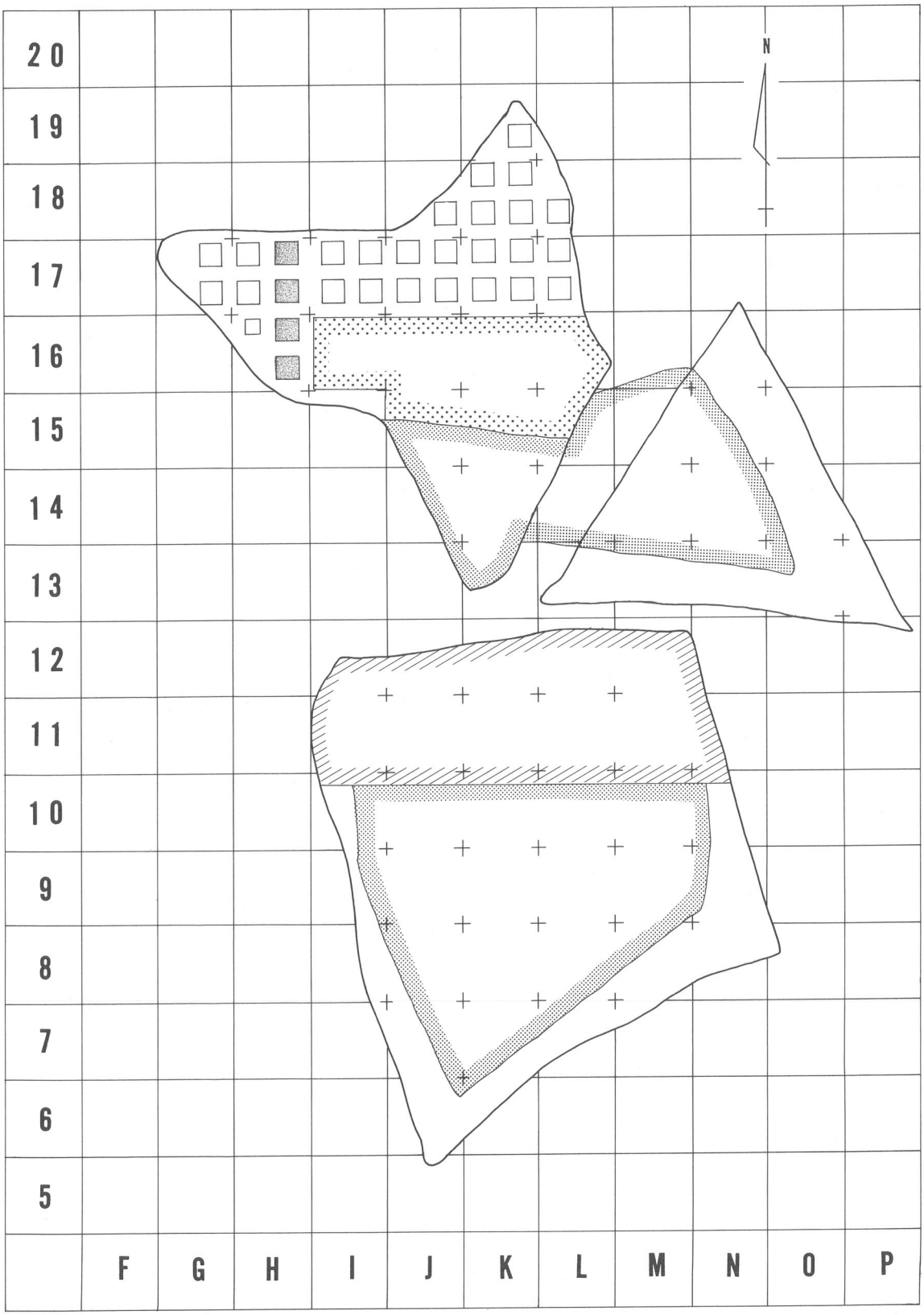
第１次調査の結果、縄文層以下上部ロームの各層は、斜面堆積ではあるが、安定的に堆積している状況が確認されているが、遺構・遺物の検出はなかった。したがって、本調査では、SC Ⅲ層において土坑を検出することのみに主眼がおかれた。周囲の市道や畑地への安全を考慮しながら、重機による掘削を行ったが、土坑は検出されなかった。３月末にSC Ⅲ層の地形実測を実施した後、埋め戻しを行い、調査を終了した。

3区　平成７年１月９日～平成７年３月31日（2,590㎡）

第１次調査の結果を受けて、１月上旬から調査区北半の表土除去を行った後、調査区の南北・東西方向にそれぞれ１本ずつ設定した土層帯を残し、縄文層からYLU層まで全面精査を行った。頁岩や黒色緻密安山岩製の石器は多数出土するが、黒耀石製の石器が１点も出土してないことが整理段階で判った。遺構は検出されなかった。２月中旬から、YLM層以下SC Ⅲ層まで重機による掘削を実施したところ、SC Ⅲｂ1下面で土坑が２基検出された。３月下旬に地形実測を行い、調査を終了した。

表１　作業工程表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成５年度		←→ 試掘調査										
平成６年度	←― 1区現地調査 ―→											
								←→ 2区・3区第1次調査				
											←→ 2区現地調査	
										← 3区現地調査 →		
平成７年度	←― 資料整理 ―→											



ペアスコリアまで掘削

BBⅡ層以下SCⅢ層まで全面調査

SCⅢ層のみ調査

FB・YLU・SCⅢ層のみ調査

第3図　調査範囲及びテストピット設定図（1/800）

第Ⅱ章　遺跡の概要

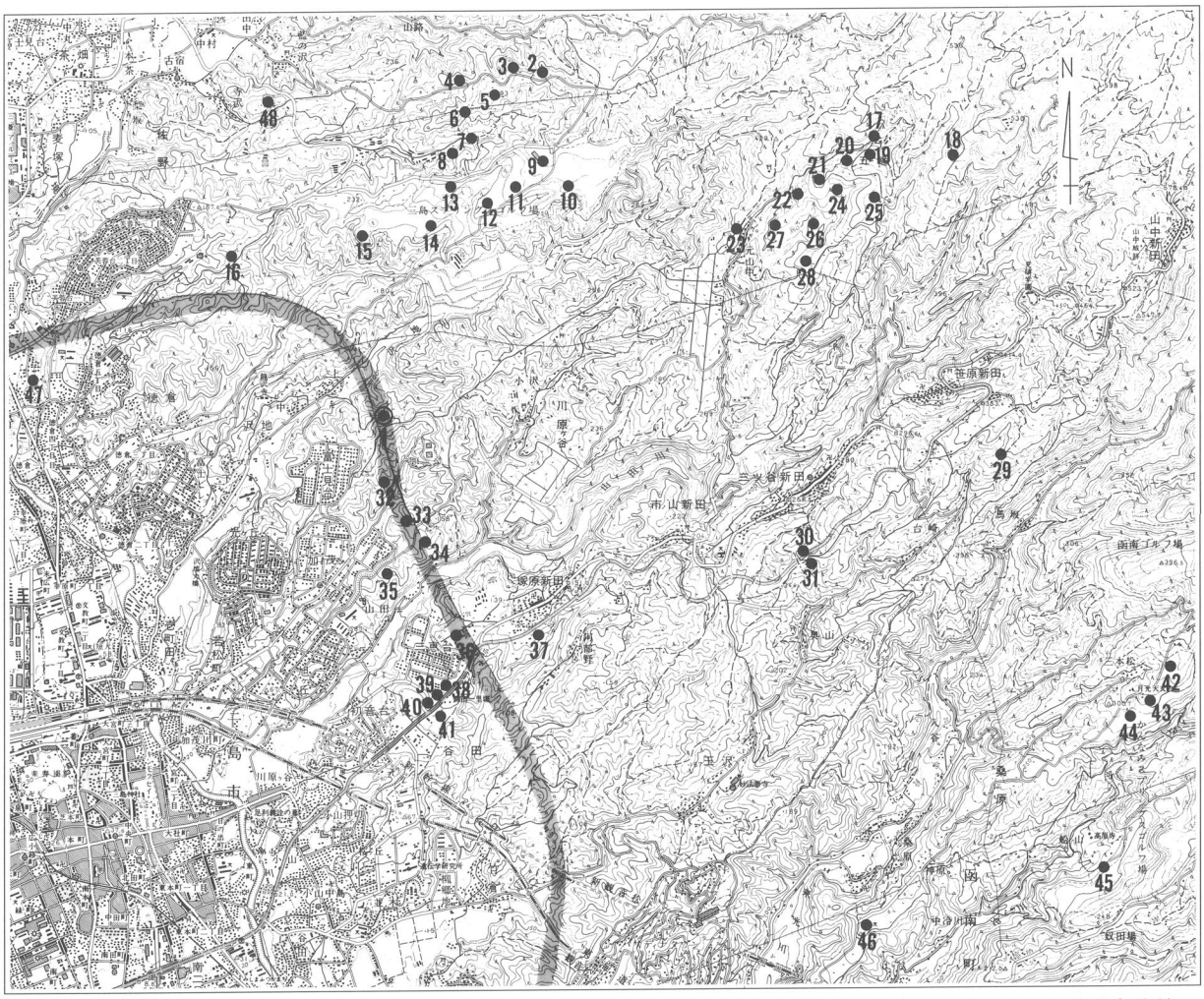
第１節　遺跡の位置と歴史的環境

箱根山は、約40万年ほど前に小御岳火山の噴火と前後して活動を開始したと考えられている。約６万年前に、新期軽石流期と呼ばれる活動期に入り、約５万年前には大噴火を起こし、大量の軽石（TP）と軽石流（TP-flow）を噴出させている。現在の箱根西麓の緩斜面地形は、この軽石流（新期軽石流）により形成されたものであり、その上層に、愛鷹上部ローム層に対比される、古富士火山後期の活動による火山灰が厚く堆積している。さらに、狩野川の支流である大場川、山田川、沢地川などに開析され櫛の歯状の尾根地形を作り出している。

この地域は、石器の石材である黒耀石の原産地を、伊豆の柏峠、箱根の畑宿・上多賀などに控えているため、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が多数確認されており、愛鷹南麓や磐田原台地西縁と並び、当該期の遺跡の宝庫として全国的にも知られている。第４図に当遺跡周辺の遺跡を掲載したが、旧石器時代の主なものについて記述する。

本遺跡からは、旧石器時代の土坑が17基検出されているため、旧石器時代から縄文時代草創期の土坑が検出されている遺跡を最初にとりあげたい。当研究所が調査を実施した焼場遺跡Ａ地点（34）では、休場層と第Ⅲ黒色帯から石器ブロックが１基ずつ、第Ⅲスコリア帯において、第Ⅲ黒色帯中から掘り込まれたと考えられる土坑が２基検出されている。同じく当研究所が調査した下原遺跡（36）からも同時期のものと考えられる土坑が、規則的に配置されたかたちで７基確認されている他、縄文時代草創期の土坑が11基検出され、そのうち、逆茂木痕を伴ったものが４基確認されている。これは東日本では最古の例になるものである。この下原遺跡と同一尾根上にある初音ヶ原遺跡群（38～41）からも、第Ⅲ黒色帯中から掘り込まれている土坑が13基検出されている。これらは、弧を描きながら丘陵を横断するように配置されている。初音ヶ原遺跡群からは、さらに多くの土坑が検出されているが、調査継続中であるため、詳細については本報告を待ちたい。また、第Ⅲスコリア帯中から、台形様石器や局部磨製石斧が出土しており、箱根西麓最古の文化層を持つ遺跡として注目される。

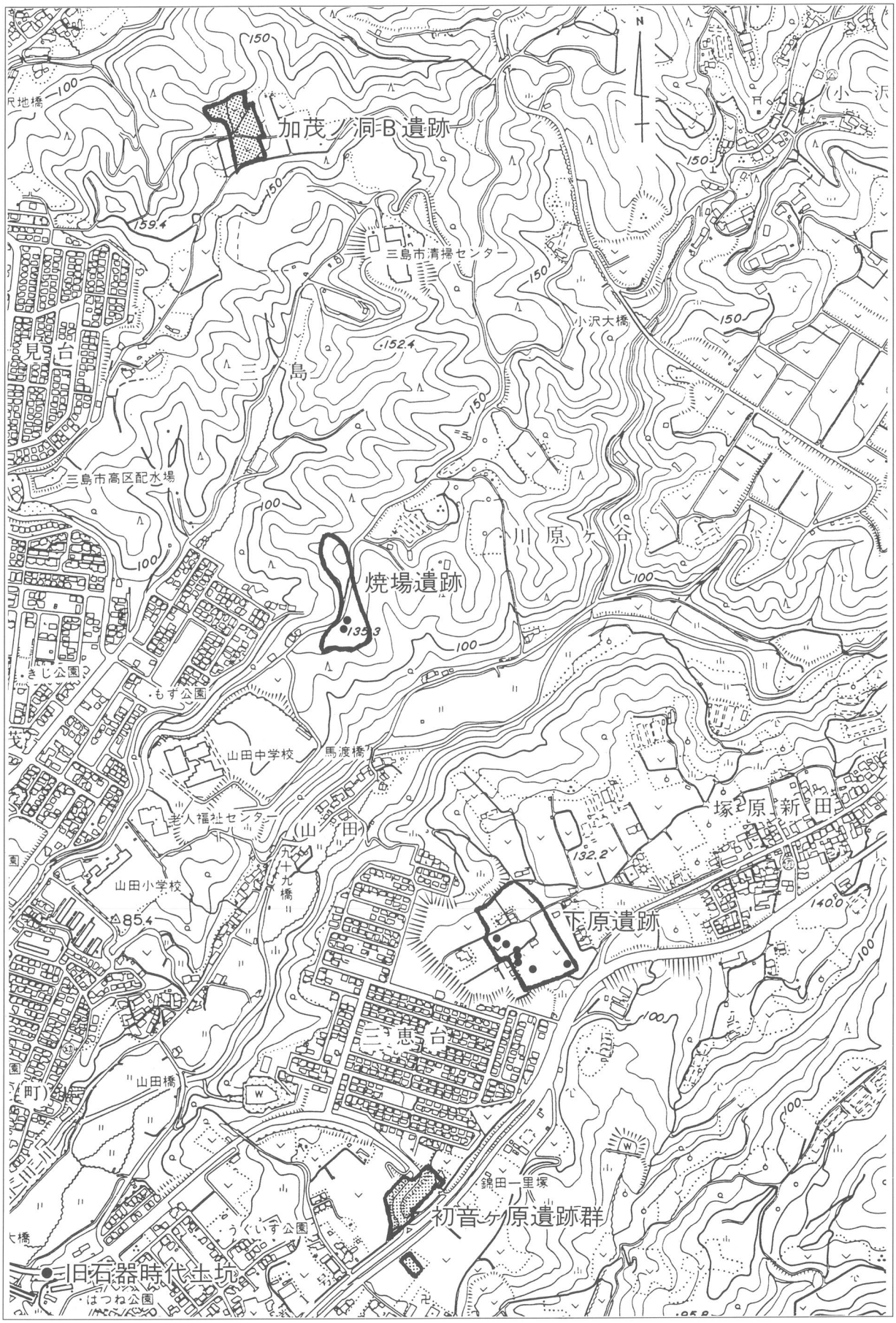
この他、観音洞Ｇ遺跡第１地点をはじめ、陰洞Ａ遺跡、観音洞Ｂ遺跡などを含む10遺跡から構成される観音洞遺跡群（19～28）からは、総数３万点弱の遺物、黒耀石の埋納施設、石囲炉などが検出され、中村Ｃ遺跡（11）からは、細石刃（約350点）を主体とした石器ブロックが検出されている。また、柳沢Ｃ遺跡（43）では、休場層中から石囲炉が検出された。これは、ほぼ完成された形状をとどめており、箱根西麓では唯一の検出例になっている。



第４図　周辺の遺跡

※網部は東駿河湾環状道予定路線

1　加茂ノ洞Ｂ遺跡
2　佐野片平山Ｆ遺跡
3　佐野片平山Ｇ遺跡
4　陣笠山Ａ遺跡
5　佐野片平山Ｈ遺跡
6　陣笠山Ｈ遺跡
7　佐野片平山Ｓ遺跡
8　佐野片平山Ｔ遺跡
9　徳倉片平山Ｂ遺跡
10　徳倉片平山Ｉ遺跡
11　中村Ｃ遺跡
12　片平山遺跡
13　ソノエンサレＢ遺跡
14　徳倉片平山Ｋ遺跡
15　徳倉片平山Ｌ遺跡
16　徳倉片平山Ｅ遺跡
17　五輪遺跡
18　北原菅遺跡Ａ地点
19　観音洞Ｇ遺跡第１地点
20　観音洞Ｇ遺跡第２地点
21　元山中Ｃ遺跡
22　陰洞Ｂ遺跡
23　元山中遺跡
24　陰洞Ａ遺跡
25　観音洞Ｂ遺跡
26　陰洞Ｅ遺跡
27　陰洞Ｃ遺跡
28　観音洞Ｈ遺跡
29　中村分遺跡
30　奥山遺跡
31　笹原Ｆ遺跡
32　加茂・向山遺跡
33　焼場遺跡Ｂ地点
34　焼場遺跡Ａ地点
35　十石洞遺跡
36　下原遺跡
37　塚原・南原遺跡
38　初音ヶ原Ａ遺跡第１地点
39　初音ヶ原Ａ遺跡第２地点
40　初音ヶ原Ａ遺跡第３地点
41　初音ヶ原Ｂ遺跡第１地点
42　柳沢Ｂ遺跡
43　柳沢Ｃ遺跡
44　柳沢Ｄ遺跡
45　上黒岩遺跡
46　中原遺跡
47　徳倉片平山Ｄ遺跡
48　乾草峠遺跡



第5図　周辺地形及び周辺遺跡立地図（1:10000）

第２節　基本土層

箱根西麓に堆積しているローム層は、『箱根西麓ローム層』と呼称され、上から上部ローム、中部ローム、下部ロームと大きく３層に区分される。この区分は、愛鷹ローム層に対比される。このうち上部ローム層は、関東ローム層の立川ロームに対比され、旧石器時代の遺構・遺物が確認されているのはこの層のみである。箱根西麓の上部ローム層は、愛鷹ローム層のそれとほぼ同様な層序を示すが、第Ⅲスコリア帯においては、黒色帯の発色が弱いため、愛鷹山麓では２層確認されている黒色帯が１層のみにとどまる。

第６図は、１区の調査区南部に設けた土層観察用の土層帯の断面図であるが、表土は２ｍの層厚がある上に、下部１ｍ程が砂質土であったため、安全に万全を期す上から、ＳＣⅢｓ4以下の掘削を行わなかった。したがって、ＳＣⅢｓ4以下の土層断面図は、H16グリッドに設けたテストピットの土層断面図を代用した。また、重鉱物組成等の分析結果は、続いて発刊される『下原遺跡Ⅱ』で、土坑の覆土の埋積状況や埋積過程等を科学分析資料を用いて論じる際に掲載することとする。

第１層　表土（耕作土）　上部は盛土で大小多数の礫を含む。下部は黒色の砂質土で締まりがなく脆い。

第２層　富士黒土層（FB）　暗褐色土で、0.1～0.2cmの橙色スコリアを若干含み、YLUに漸移的に変化する。本来周辺遺跡の土層堆積状況から、カワゴ平パミスを含んだより黒色の強いFBaが存在していたと考えられるが、撹乱の影響で消滅したと思われる。したがって、本遺跡では、FBを１層として扱う。

第３層　休場層上層（YLU）　明黄褐色ローム層で、パウダー状である。0.2～0.4cmのスコリアをごくわずか含む。

第４層　休場層中層（YLM）　黄褐色ローム層で、0.2～0.4cmの橙色スコリアを含み、0.3～0.5cmの黒色スコリアを若干含む。第３層との層界は明瞭でないが、スコリアの頻度により分層した。

第５層　休場層下層（YLL）　暗黄褐色ローム層で、0.2～0.5cmの橙色、黒色、赤色のスコリアを多量に含み、0.2～0.4cmの黄色スコリアを若干含む。休場層中最も硬質である。

第６層　休場層直下黒色帯（BB０）　0.2～0.6cmの黒色、赤色スコリア、0.2～0.4cmの橙色、黄色スコリアを含む暗黄褐色ローム層である。硬質だが、一部締まりがない箇所がある。石器ブロックが２基検出されている。

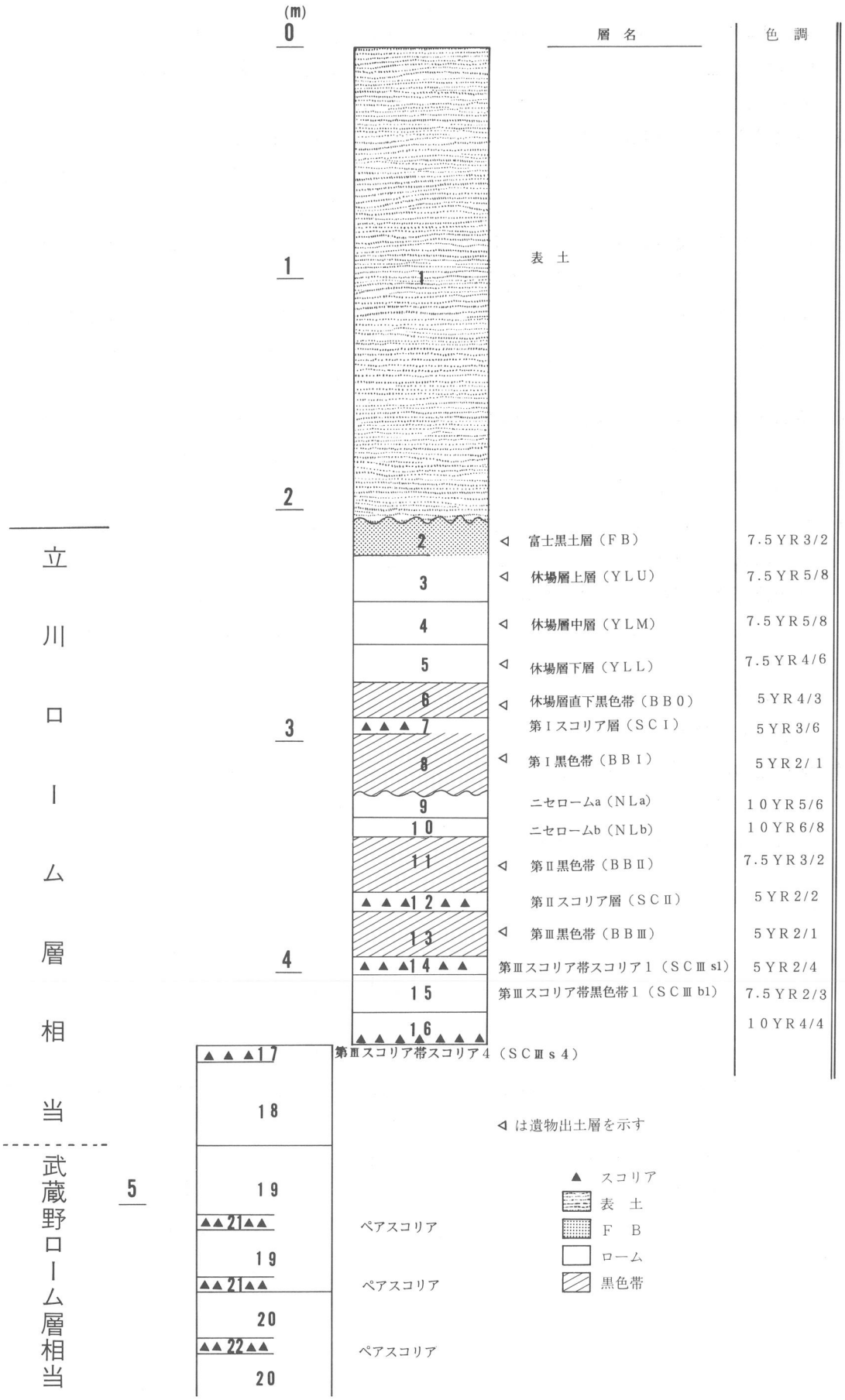
第７層　第Ⅰスコリア層（SCⅠ）　赤褐色スコリア層で、0.1～0.4cmの黒色、赤色、橙色スコリアから成り、0.1～0.2cmの白色パミスを若干含む。硬質であるが、乾燥すると黄色に変色し、脆くなる。第６層中にブロック状に認められる。無遺物層。

第８層　第Ⅰ黒色帯（BBⅠ）　黒褐色スコリア層で、0.2～0.4cmの橙色、黒色スコリアを多く含み、0.2～0.3cmの黄色スコリアを少量含む。石器ブロックが１基検出されている。

第９層　ニセローム（NLa）　黄褐色スコリア層で、0.2～0.4cmの橙色、黒色スコリア、黄色スコリアから成る。スコリアの密集度が高く、硬質であるが、乾燥すると脆く崩れやすい。姶良・丹沢広域火山灰（AT）を多く含み、ブロック状に確認できる箇所もある。

第10層　ニセローム（NLb）　明黄褐色スコリア層で、第９層と同様なスコリアから成るが、スコリアやATの頻度は低下する。

第11層　第Ⅱ黒色帯（BBⅡ）　黒褐色スコリア質層で、0.2～0.5cmの橙色、黒色スコリアを含み、0.1～0.2cmの黄色スコリアを少量含む。石器ブロックが４基検出されている。


(m)
0
1
2
3
4
5
層名
色調
表土
富士黒土層（FB） 7.5YR3/2
休場層上層（YLU） 7.5YR5/8
休場層中層（YLM） 7.5YR5/8
休場層下層（YLL） 7.5YR4/6
休場層直下黒色帯（BB0） 5YR4/3
第Iスコリア層（SCI） 5YR3/6
第I黒色帯（BBI） 5YR2/1
ニセロームa（NLa） 10YR5/6
ニセロームb（NLb） 10YR6/8
第II黒色帯（BBII） 7.5YR3/2
第IIスコリア層（SCII） 5YR2/2
第III黒色帯（BBIII） 5YR2/1
第IIIスコリア帯スコリア1（SCIII s1） 5YR2/4
第IIIスコリア帯黒色帯1（SCIII b1） 7.5YR2/3
10YR4/4
第IIIスコリア帯スコリア4（SCIII s4）
◁は遺物出土層を示す
立川ローム層相当
武蔵野ローム層相当
ペアスコリア
ペアスコリア
ペアスコリア
スコリア
表土
FB
ローム
黒色帯

第6図　基本土層柱状図

第12層　第Ⅱスコリア層（SC Ⅱ）　暗赤褐色スコリア層で、0.2～0.6cmの橙色スコリアから成り、0.2～0.3cmの黒色、黄色スコリアを若干含む。第11層と第13層との層界は明瞭でないため、橙色スコリアの頻度によって分層した。無遺物層。

第13層　第Ⅲ黒色帯（BB Ⅲ）　黒褐色スコリア質土で、0.2～0.6cmの橙色スコリア、0.2～0.3cmの黄色スコリアを含み、0.2～0.6cmの黒色スコリアを少量含む。17基検出されている土坑の掘り込み面と考えられる層であり、石器ブロックが１基検出されている。

第14層　第Ⅲスコリア帯スコリア１（SC Ⅲ s 1）　暗赤褐色スコリア層で、0.2～0.4cmの橙色、赤色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを多く含む。

第15層　第Ⅲスコリア帯黒色帯１（SC Ⅲ b 1）　暗褐色スコリア質土で、0.2～0.4cmの橙色、赤色スコリアを多く含み、0.3～0.6cmの黒色スコリアも少量含む。黒色の発色が弱い箇所があり、第13層および第14層との分層を難しくしているところもある。

第16層　暗赤褐色スコリア層　0.2～1.2cmの黒色スコリアを中心とし、0.2～0.7cmの橙色、赤色スコリアから成る。硬質で、下位に向かうにしたがい、黄褐色へと変化する。17基の土坑の大部分がこの層の上面で検出されている。

第17層　第Ⅲスコリア帯スコリア４（SC Ⅲ s 4）　暗黄褐色スコリア層で、非常に硬質のスコリアの純層である。ブロック状に確認され、乾燥すると黄色に変色する。

第18層　黄褐色スコリア質ローム土　0.2～1.0cmの黒色スコリア、0.2～0.5cmの赤色スコリアから成り、下位に向かうにつれ、黒色スコリアの径が小さくなり、頻度も低下する。漸移的にローム質化していく。

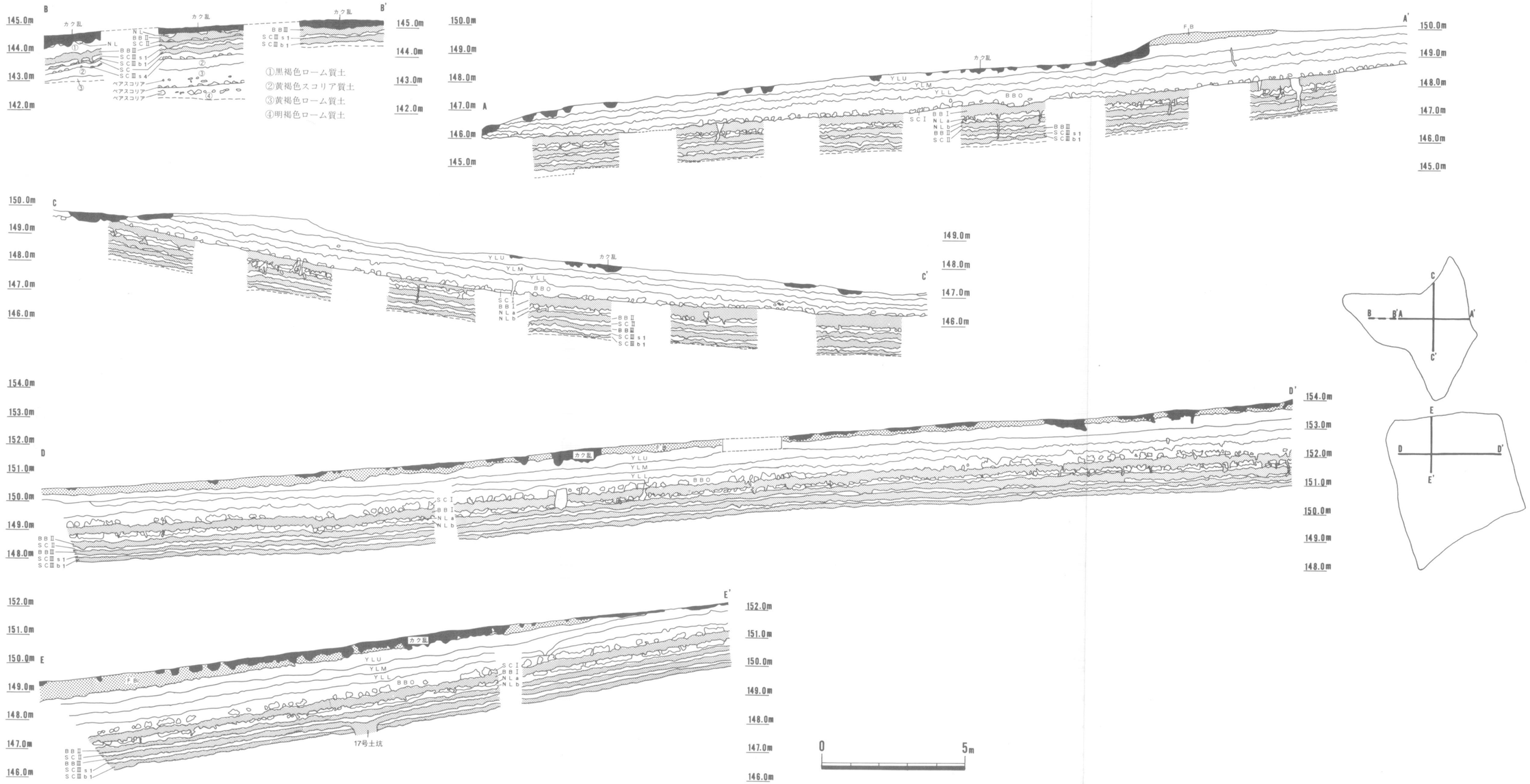
第19層　黄褐色ローム質土　0.2～0.5cmの赤色スコリアをまんべんなく含み、0.2～0.3cmの黒色スコリアを含む。第21層のブロックを部分的に含む。

第20層　明褐色ローム層　第19層に類似するが、黒色スコリアの頻度が低下する。

第21層　ペアスコリア　赤褐色スコリアから成り、下位のものほどスコリアの密度が高く硬質で、乾燥すると黄色に変化する。本遺跡では３層が確認されているが、調査された遺跡によっては増減がある。

第３節　遺跡の土層堆積状況

本遺跡は、沢地川とその支流の小河川により浸食されたと考えられる急峻な谷を、調査区の北側と西側にもつ、標高約150mの谷頭部に立地している。調査区は、ごく最近まで牧草地や畑地として利用されており、１区東側のFB層の大部分と西側のNL層以上、３区南半のBB Ⅲ層以上が撹乱を受けていた。土壌は、２区と３区に斜面堆積の様相が認められたが、比較的安定した堆積状況を示し、１区は谷に向かい南西緩傾斜面を形成し、３区は西に緩やかに傾斜しながら谷に向かう北西急斜面を形成している。また、Ｉ－15～Ｊ－13、14、15グリッドの西部付近は、SC Ⅲ層以下から土壌の崩落が始まっていることが確認された。



第７図　土層堆積図（1/125）

第4節　遺構・遺物の概要

遺跡からは、旧石器時代から縄文時代にかけての遺構・遺物が検出されている。FB層は、1区では撹乱による影響で大部分が消滅していたが、3区は比較的残存状態が良く、磨石・敲石・石皿などの出土が多い。遺構は、1区から栗色土層を覆土に持つ土坑が1基検出されたにとどまる。

旧石器時代については、調査区によって調査方法が異り、記述に統一性を欠くため、各調査区ごとにその概要を記す。

1区　YL層の遺物は、YLU層中位からYLM層中位にかけて、削平されていた箇所及び未調査部を除く全域から出土したが、石器の分布は拡散的で、東側はとくに密集度が低い。したがって、石器についてはあえてブロック分けをせず、1区全域を1ユニットとして扱うことにした。礫についても散漫な分布状況が見られたが、小規模ながら赤化礫が集中している箇所及び接合関係が見られる3箇所を礫群として扱った。BB 0層以下BB Ⅲ層までは、SC Ⅰ層とSC Ⅱ層のスコリア層を除く各層で遺物が出土し、拡散的な在り方を示すもの、比較的集中するものなど密集度に差はあるが、それぞれに石器ブロックを検出している。このうち、BB Ⅰ層とBB Ⅱ層のブロックは礫群を内包している。また、SC Ⅲ層において、BB Ⅲ層中に掘り込み面があると考えられる15基の土坑が検出された。土坑は東側に6基、西側に9基、南北方向に2列並行するように配置されており、東側はほぼ一直線に配置されている。これらは、焼場遺跡・下原遺跡・初音ヶ原遺跡群から検出されたものと形態や規模が類似しており、構築時期も同時期のものと考えられる。

3区　調査はYLU層とSC Ⅲ層のみ実施した。遺物は、YLU層上位から中位にかけて西側に偏在するかたちで出土した。FB層同様に磨石や敲石などの加工具の出土が多いことと、黒耀石製の石器が皆無であることが特徴としてあげられる。また、調査区北端のSC Ⅲ層から、1区の土坑列に連続するものと考えられる土坑が2基検出された。

両調査区をとおしての石材は、全体の37%を黒耀石、21%を頁岩が占め、以下黒色緻密安山岩、安山岩と続く。このうち黒耀石については、蛍光X線分析を行ったところ、伊豆・箱根・長野など7箇所の原産地から搬入されていることが判り、さらに個体別資料は、34種類が確認された。

表2　遺構・遺物一覧表

時　代	遺　　構	遺　　物
縄文	土坑　1	石鏃　石匕　石皿　磨石　敲石　凹石　土器
縄文（草創期）		有舌尖頭器　石槍　石鏃
旧石器	石器ブロック　8 礫群　5 土坑　17	ナイフ形石器　掻器　削器・抉入削器　錐形石器　楔形石器 石刃　磨石　敲石　台石

第Ⅲ章　縄文時代の遺構と遺物

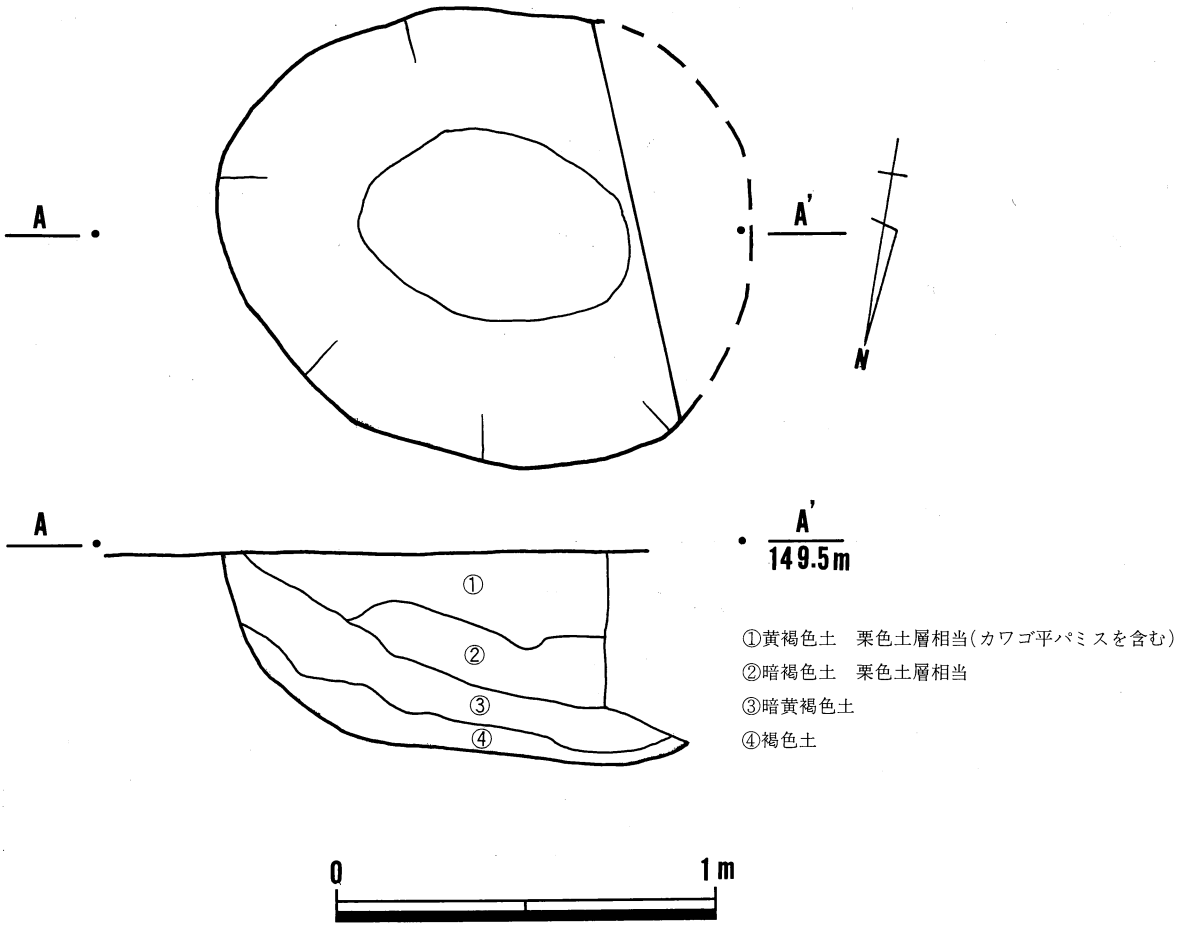
第１節　富士黒土層の遺構と遺物

１　概　要

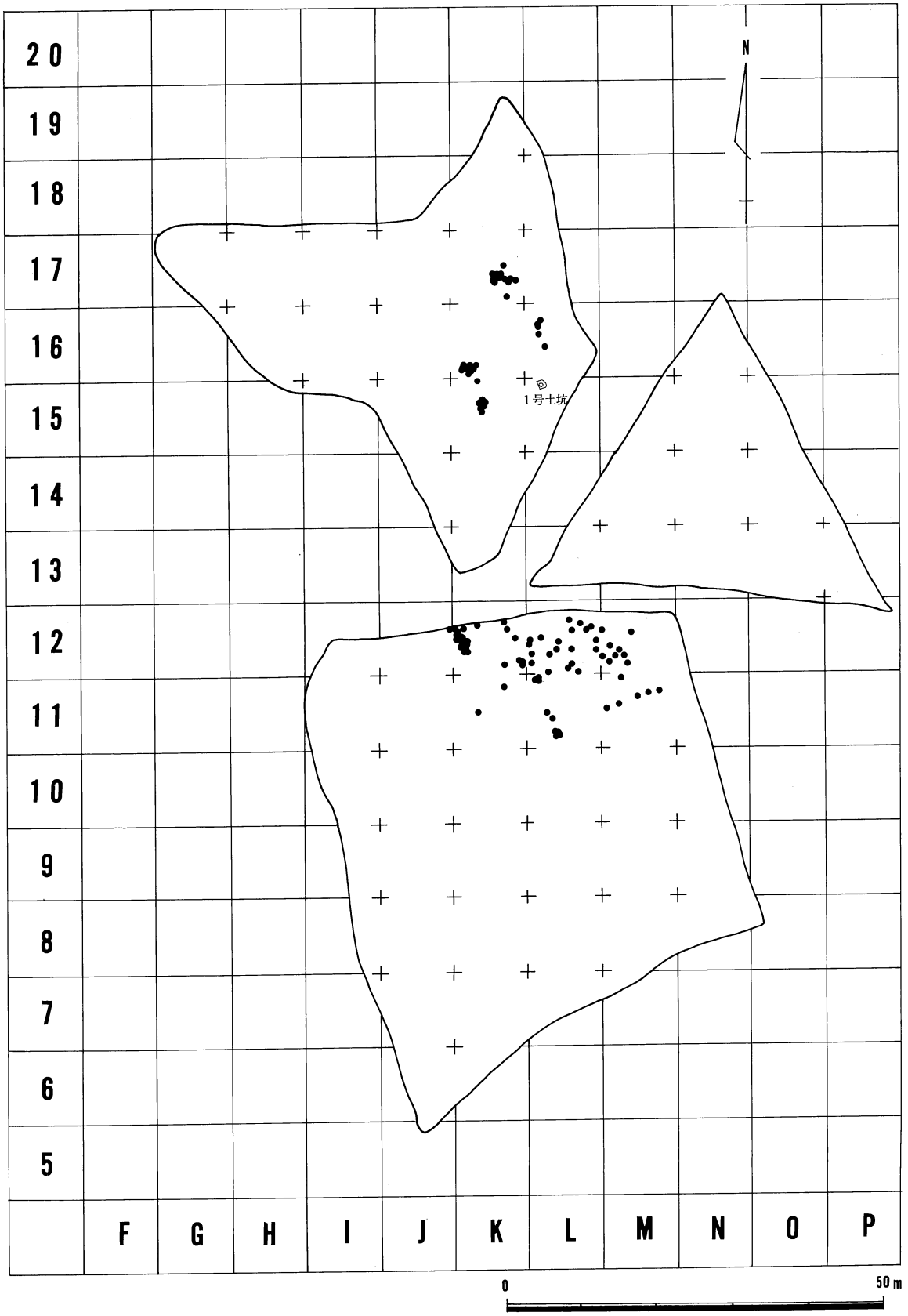
本来富士黒土層は、黒色の発色の強弱によってFBa層とFBb層に分層されるが、１区ではａ・ｂ層の大部分が、３区ではａ層（一部ｂ層にかかる）が畑作による撹乱を受け消滅していた。したがって本書ではFB層を１層として扱う。遺構はFB層が僅かに残る１区の東側から、土坑が１基検出されたのみである。遺物はFB層の残存状況が比較的良好な、３区からの出土量が圧倒的に多い。両調査区を合わせて、土器125点、石器96点が出土しており、石器はその60％近くがＬ－12からＭ－12グリッドに集中する。

２　遺　構

土坑〈第８図〉　Ｌ－15グリッド北部から検出され、西側約1/5は撹乱のため破壊されていた。長径は推定145cm、短径117cm、深さ55cmを測る。覆土上層に、カワゴ平パミスと思われる0.1cm程の白色パミスを若干含む栗色土層相当の褐色土が堆積する。遺物は伴わず、用途は不明である。



第８図　ＦＢ層土坑図（1/20）



第９図　ＦＢ層遺構・土器分布図（1/800）

3　石　器

⑴　石鏃〈第10図１～５〉

３区から５点出土しており、いずれも黒耀石製である。１、２は凹基無茎石鏃で、１は柏峠産、２は神津島産である。４は神津島産の、基部に抉りのない平基無茎石鏃である。５は表裏に素材となった剥片の剥離面を残しており、石鏃の未製品と考えられる。

⑵　楔形石器〈第11図６～８〉

３区から３点が出土している。６は縦長の剥片の両端を折断し、剥片の縁辺部を利用したものである。７は和田峠産の黒耀石製で、縦長剥片の上下端を利用したものである。８は表裏両面に剥離面が認められるため、石核から転用した可能性がある。

⑶　削器〈第11図９、第12図11〉

９は黒色緻密安山岩製の抉入削器で、大型の剥片の縁辺部にノッチ加工を施してある。11は礫面を残す剥片の裏面末端部に、スクレイパーエッジを削出している。玄武岩製。

⑷　石匕〈第11図10〉

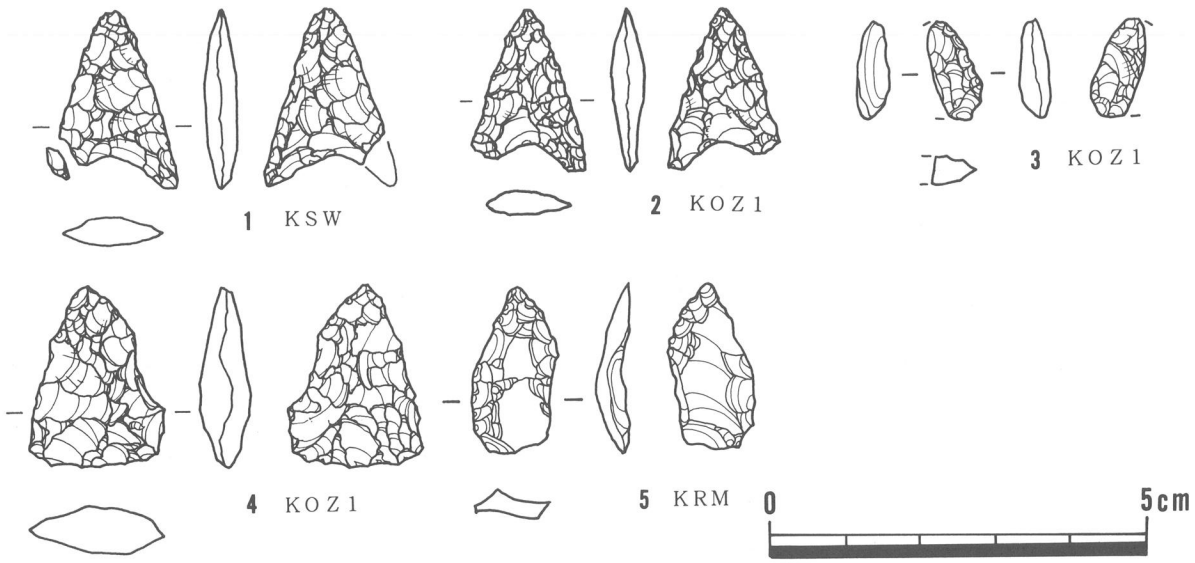
頁岩製で、基部に抉りを入れて突起部を削出し、剥片の末端部を刃部としている。

⑸　石核〈第12図12・13、第13図〉

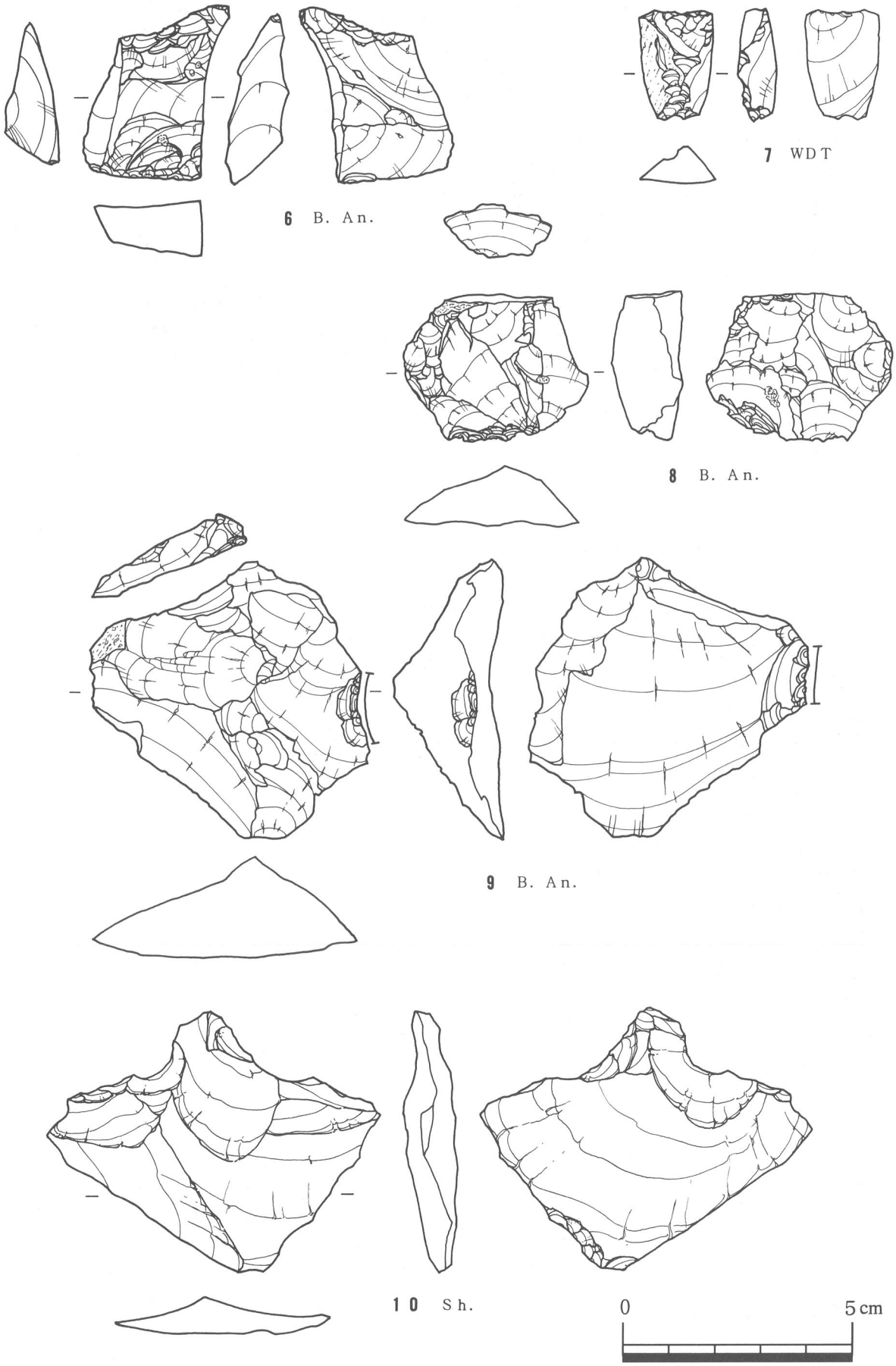
12は、上面の礫面を打面とした単設打面石核で、寸詰まりの縦長剥片を剥離したものである。13は、作業面を90度展開しながら剥片を剥離したものと思われるが、石の節理が強く、良好な石器素材となる剥片は得られなかったものと考えられる。14は複設打面石核である。打面を90度ずつ展開することで最終的にサイコロ状の石核となるが、礫面が残っていることから、剥離した剥片数はそれほど多くないと考えられる。

⑹　敲石・磨石・凹石〈第14～16図〉

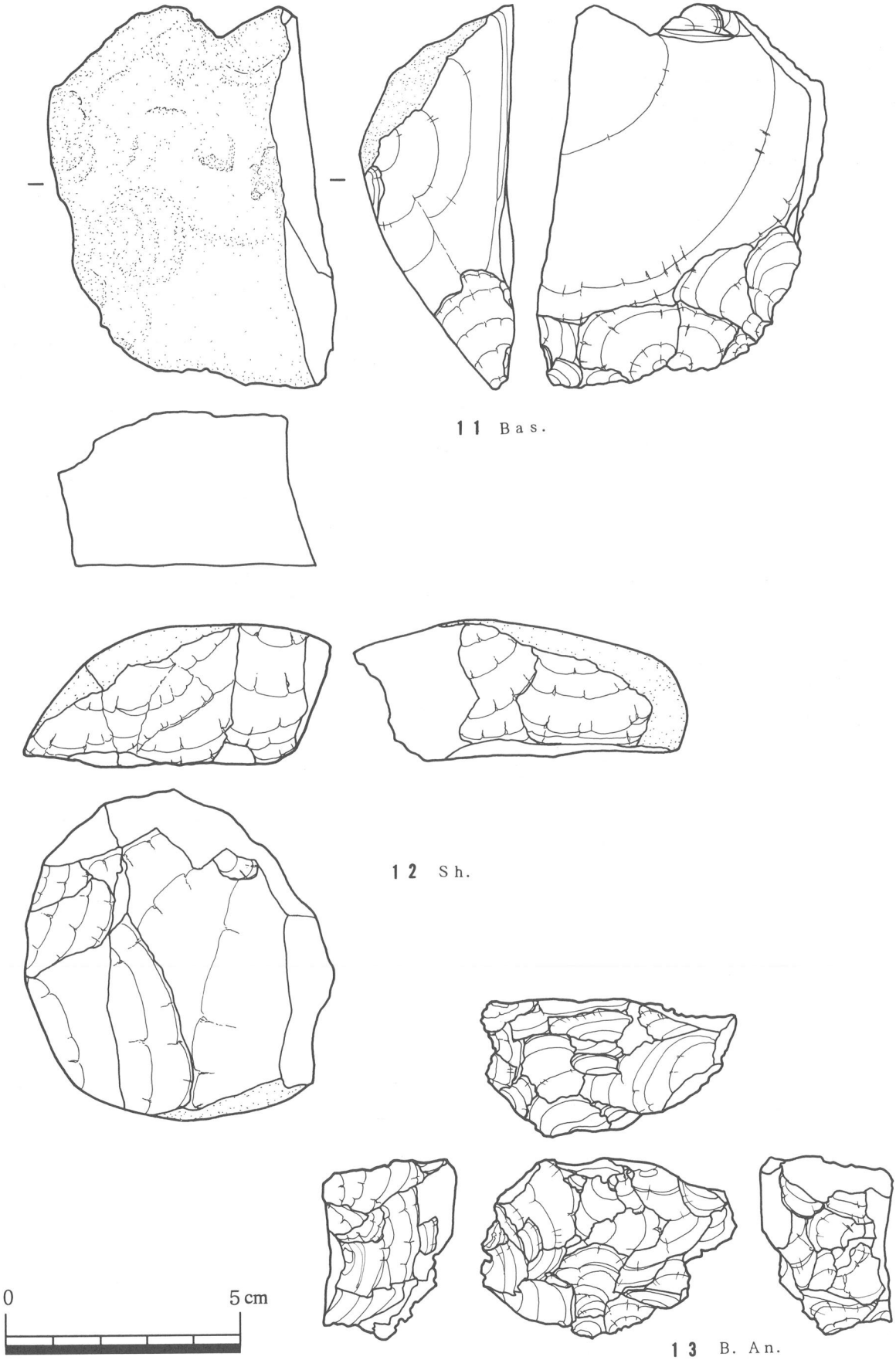
玄武岩と安山岩を石材の主体にしている。内訳は敲石14点（15～28）、磨石５点（32～36）、敲石・凹石の複合石器３点（29～31）、敲石・磨石の複合石器６点（37～42）である。このうち敲石は、礫の先端に敲打痕が集中するもの（15～22）と、礫の縁辺部にも敲打痕が及ぶもの（23～28）と２種類に分類した。



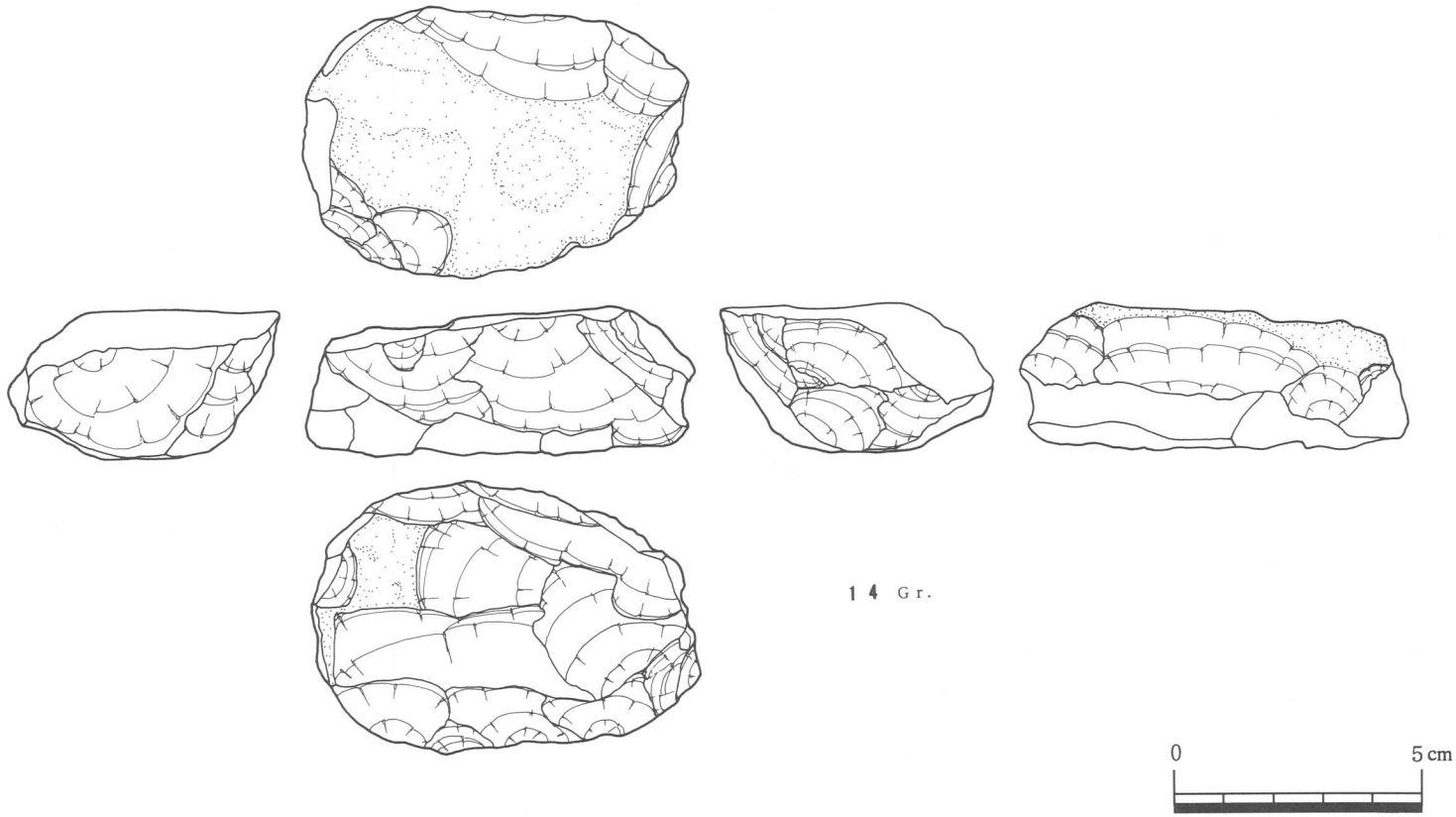
第10図　ＦＢ層石鏃実測図（1/1）



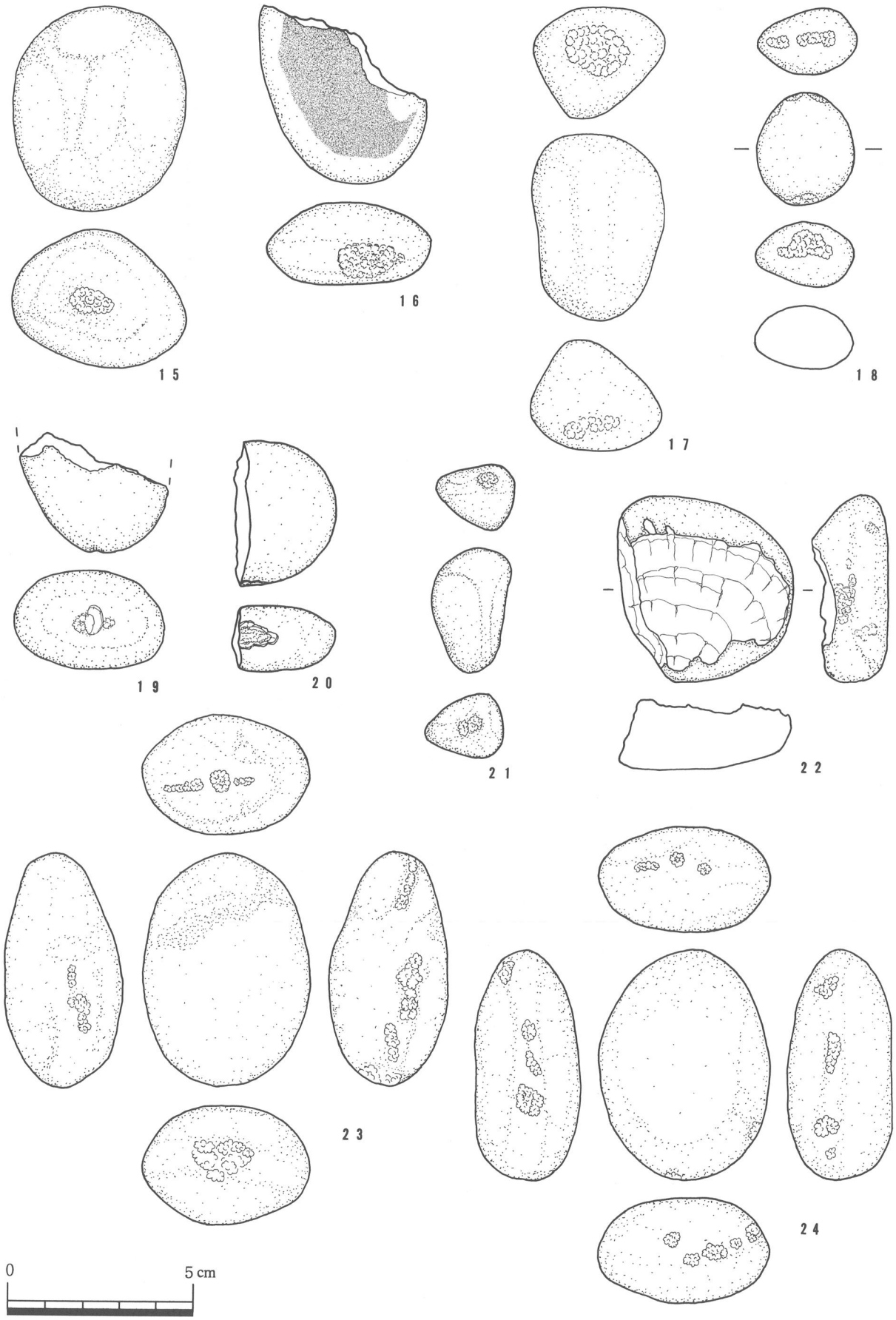
第11図　FB層石器実測図１（4/5）



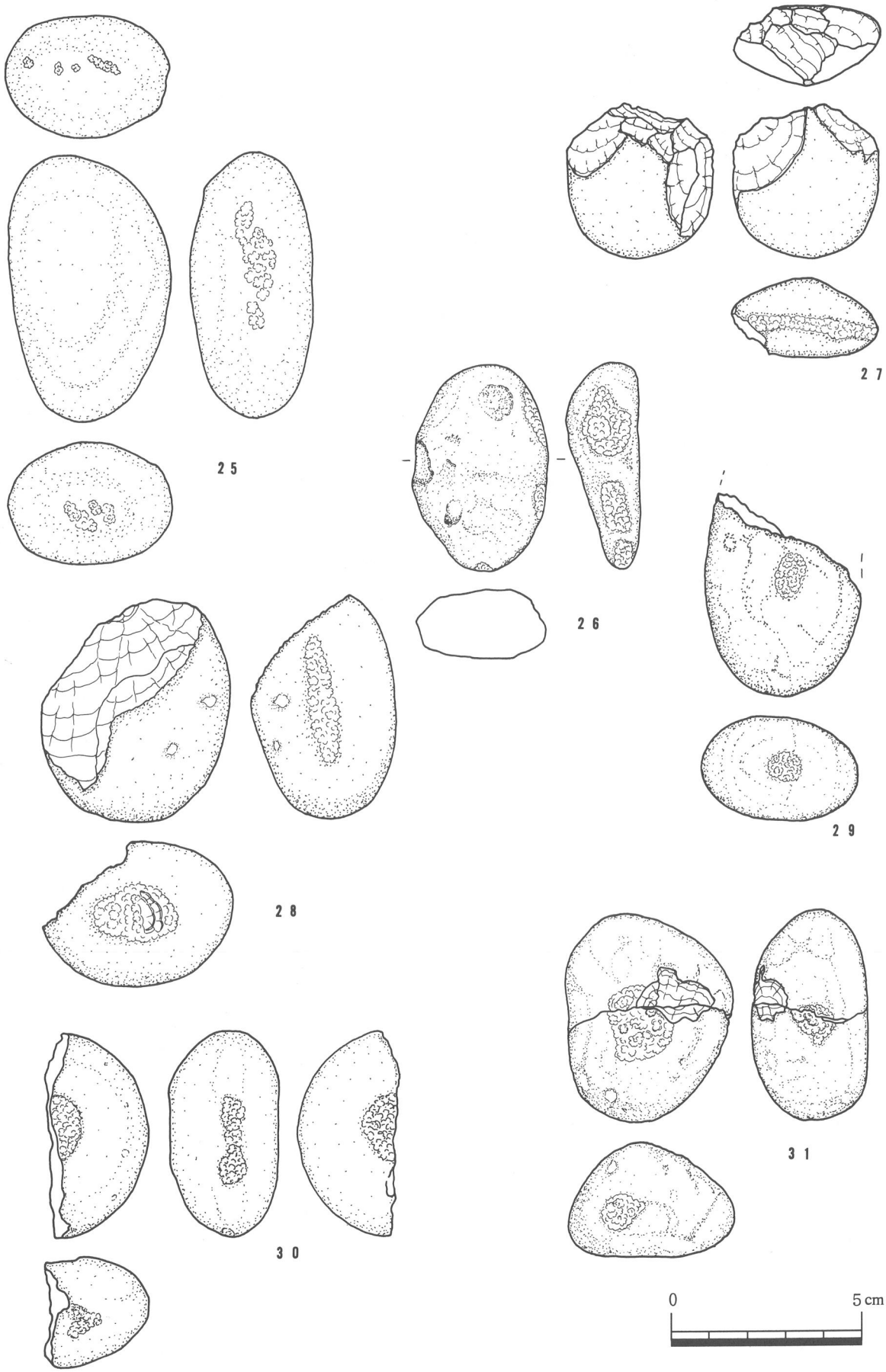
第12図　FB層石器実測図２（4/5）



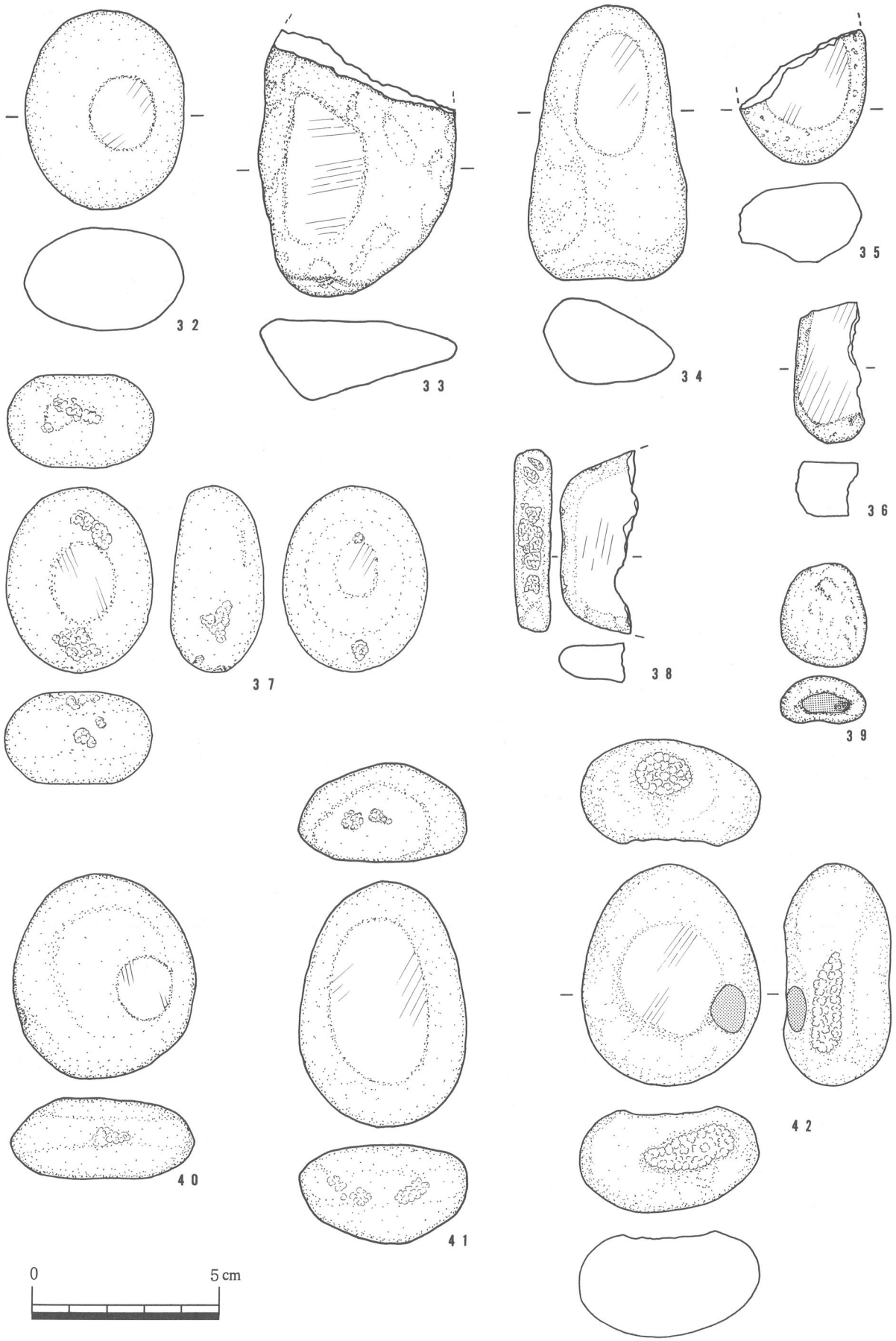
第13図　FB層石器実測図３（1/3）



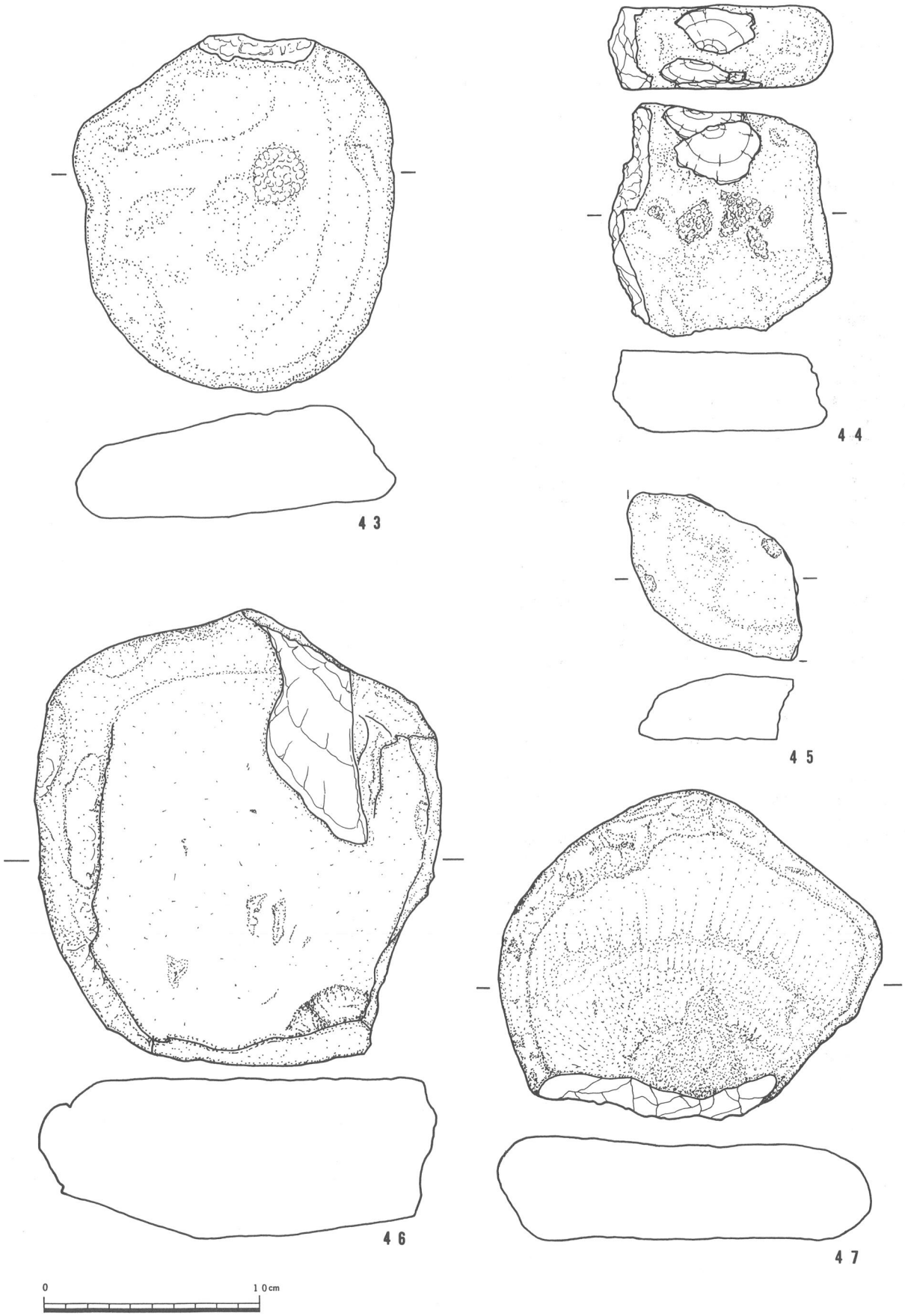
第14図　FB層石器実測図４（1/3）



第15図　FB層石器実測図５（1/3）



第16図　ＦＢ層石器実測図６（1/3）



第17図　FB層石器実測図７（1/4）

(7) 台石・石皿〈第17図〉

台石２点、石皿３点が出土している。石材はいずれも安山岩系のものが使用されている。43には１箇所、44には４箇所、敲打による凹みが見られる。47は、表面全体に使用による磨耗が見られるが、折損部付近の磨耗が顕著で、浅い凹みが見られる。

表３　縄文層石器計測表

器種	NO.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長㎜	最大横長㎜	最大厚㎜	重量g
石鏃	1	M12	1	黒耀石	KSW－1	23.0	(15.0)	4.0	(0.9)
石鏃	2	M12	20	黒耀石	KOZ1－1	22.0	(15)	5.0	(0.7)
石鏃	3	M12	43	黒耀石	KOZ1－1	13.5	7.0	(4.5)	0.3
石鏃	4	表採		黒耀石	KOZ1－5	23.5	18.0	7.0	2.0
石鏃？	5	M12	16	黒耀石	KRM－3	22.0	12.0	4.5	0.6
楔形石器	6	M12	23	黒色緻密安山岩		32.0	38.0	14.0	14.7
楔形石器	7	K12	3	黒耀石	WDT－3	24.0	16.0	9.0	3.0
楔形石器	8	M12	8	黒色緻密安山岩		32.0	40.5	16.0	19.2
抉入削器	9	L11	3	黒色緻密安山岩		60.0	61.5	24.5	55.9
石匕	10	K11	8	頁岩		57.0	73.5	12.0	30.8
削器	11	L12	13	玄武岩		82.5	62.0	33.0	193.9
石核	12	K10	1	頁岩		30.0	66.0	72.0	176.4
石核	13	M12	9	黒色緻密安山岩		38.5	55.0	28.5	64.1
石核	14	L16	11	溶結凝灰岩		58.0	158.5	101.0	1420.0
敲石	15	K11	4	玄武岩		111.0	93.0	74.5	1115.0
敲石	16	L11	5	輝石安山岩		99.0	89.5	45.0	475.1
敲石	17	J12	4	玄武岩		101.0	72.5	60.0	580.0
敲石	18	L16	8	輝石安山岩		60.5	53.5	35.5	143.6
敲石	19	L11	6	輝石安山岩		64.5	82.0	54.0	299.6
敲石	20	L16	9	輝石安山岩		79.5	56.5	36.0	203.2
敲石	21	L16	10	玄武岩		68.0	43.0	35.0	122.8
敲石	22	M12	3	輝石安山岩		101.0	96.0	42.0	590.0
敲石	23	M12	46	玄武岩		127.0	92.0	64.5	1065.0
敲石	24	L11	4	玄武岩		124.0	93.5	57.0	956.0
敲石	25	表採		玄武岩		141.5	87.0	64.0	1075.0
敲石	26	K16	20	玄武岩		108.0	72.0	38.0	364.8
敲石	27	M12	21	砂岩		81.0	77.5	42.0	296.5
敲石	28	I17	1	石英安山岩		117.0	76.0	78.0	865.0
敲石・凹石	29	L11	8	輝石安山岩		106.5	83.0	55.0	620.0
敲石・凹石	30	K11	2	石英安山岩		108.5	54.5	58.0	413.4
敲石・凹石	31	I18	1	輝石安山岩		88.0	51.0	61.0	415.0
敲石・凹石	31	I18	2	輝石安山岩		85.0	60.0	60.0	425.0
磨石	32	K11	5	玄武岩		108.0	86.0	55.0	740.0
磨石	33	J12	5	輝石安山岩		107.0	133.0	44.0	890.0
磨石	34	M12	31	玄武岩		149.0	86.5	54.0	890.0
磨石	35	K17	7	多孔質玄武岩		73.0	67.5	43.0	217.7
磨石	36	K11	9	輝石安山岩		76.0	38.5	30.0	135.3
敲石・磨石	37	K11	6	輝石安山岩		100.0	79.0	50.0	597.1
敲石・磨石	38	I17	2	輝石安山岩		41.0	98.0	21.0	120.0
敲石・磨石	39	L12	4	輝石安山岩		56.5	46.0	25.0	85.0
敲石・磨石	40	M12	32	輝石安山岩		110.0	98.0	44.0	694.0
敲石・磨石	41	M12	47	輝石安山岩		132.0	91.0	53.0	890.0
磨石・敲石	42	K10	2	輝石安山岩		119.0	97.0	57.0	850.0
台石	43	K12	2	多孔質安山岩		253.5	228.0	85.0	6200.0
台石	44	M12	4	角閃石輝石安山岩		164.5	157.0	58.5	2450.0
石皿	45	J12	3	過斑晶質安山岩		120.0	124.0	46.5	960.0
石皿	46	J12	2	輝石安山岩		324.0	286.0	113.0	17500.0
石皿	47	L12	2	輝石安山岩		232.5	270.5	85.0	7500.0

4　土　器

本遺跡からは、縄文時代早期・前期・中期の土器が出土している。土器は以下の５群に分類し、そのうち１群～３群について記載した。

１群　条痕文系
　１類　野島式（第18図１～９）
　２類　鵜ヶ島台式（第18図10～26、第19図27～30）
　３類　条痕文系土器（第20図31～43）
２群　入海１式（第20図44、45）
３群　諸磯式
　１類　諸磯ｂ式（第20図46～56）
　２類　諸磯ｃ式（第21図57～70）
　３類　諸磯の型式内におさまる土器（第21図71～77）
４群　勝坂２式（第21図78～80）
５群　型式不明（第21図81～89）

１群　野島式、鵜ヶ島台式、条痕文系の土器を本群とした。

ａ類　野島式を本類とした。１～４は、集合沈線と幅広で浅い沈線により文様が構成されるもので、焼成は普通である。５は、隆帯上に刻みを施し、集合沈線の上に指による幅広の沈線を施したものである。６は、棒状工具による押し引き状の刺突が施され、７は、竹管により平行の押し引き文が施されている。

ｂ類　鵜ヶ島台式を本類とした。10～19は、隆線に竹管状工具による刺突を施し、裏面に貝殻腹縁による条痕を施したものである。焼成は概ね普通で、褐色・暗褐色を呈する。30は、推定口径28cm、推定器高30cm、器厚0.9cmを測る深鉢形土器である。口縁部は僅かに内彎し、口唇部は刻みが加えられ、内側に傾斜する。２段の段を有し、口縁部と１段目の間に、襷状の隆線を施し、隆線上や交差部には竹管状工具による刺突を施す。条痕文が施された部分を挟み、２段目の上部にも同様の文様を施す。胎土には、石英、長石、金雲母、黒色・橙色粒子、繊維を含み、焼成は良好である。底部を欠損しているが、平底であったと思われる。23は、表裏に貝殻条痕が見られるもので、30と同一個体の可能性がある。20～22は表面に貝殻による条痕を施し、裏面に擦痕状の横位のナデ痕が見られるものである。明褐色で、焼成は普通である。

ｃ類　ａ、ｂ類に属さない条痕文系土器を本類とした。表裏に条痕が施されているもの（31～36）と、表面に条痕が施されているもの（36～42）に大別できる。焼成は普通である。

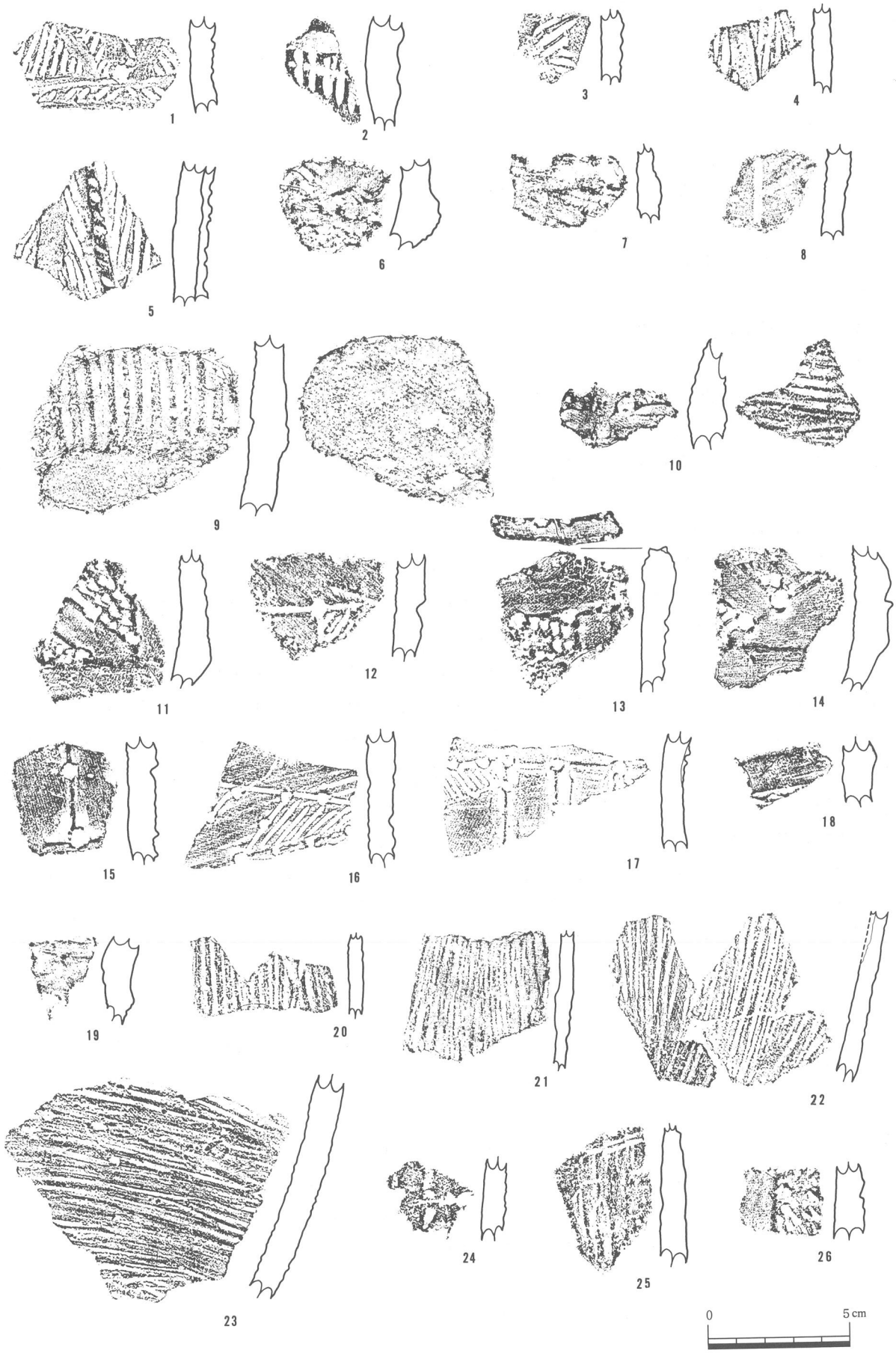
２群　入海１式を本群とした。２点出土している。いずれも焼成は普通で、隆帯上に斜めに刻みが施されている。44、45が相当する。

３群　諸磯ｂ式、ｃ式、諸磯の型式内におさまるものの３種類を本群とした。

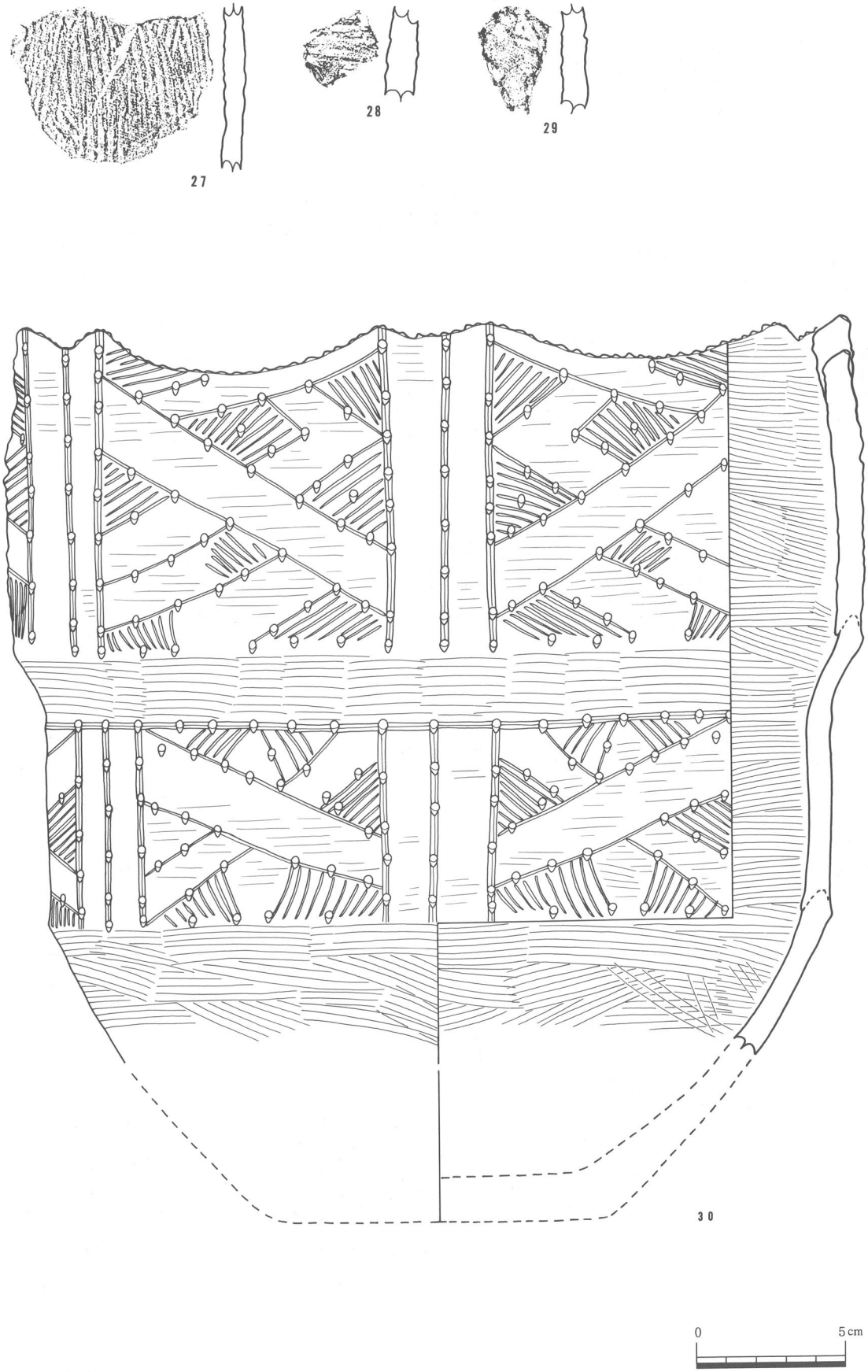
ａ類　ｂ式を本類とした。46～50、52は、RLの縄文に、半截竹管による平行沈線を施したもので、47は、口唇部に半截竹管による連続刺突が施されている。焼成は概ね良好である。53～55は、半截竹管による平行沈線を施したものである。色調は、赤褐色を呈する。

ｂ類　ｃ式を本類とした。57～68は、半截竹管による平行沈線文と刺突文を施し、二対の円形浮文と半裁竹管の押さえに拠る細粘土紐の貼り付けが見られる。

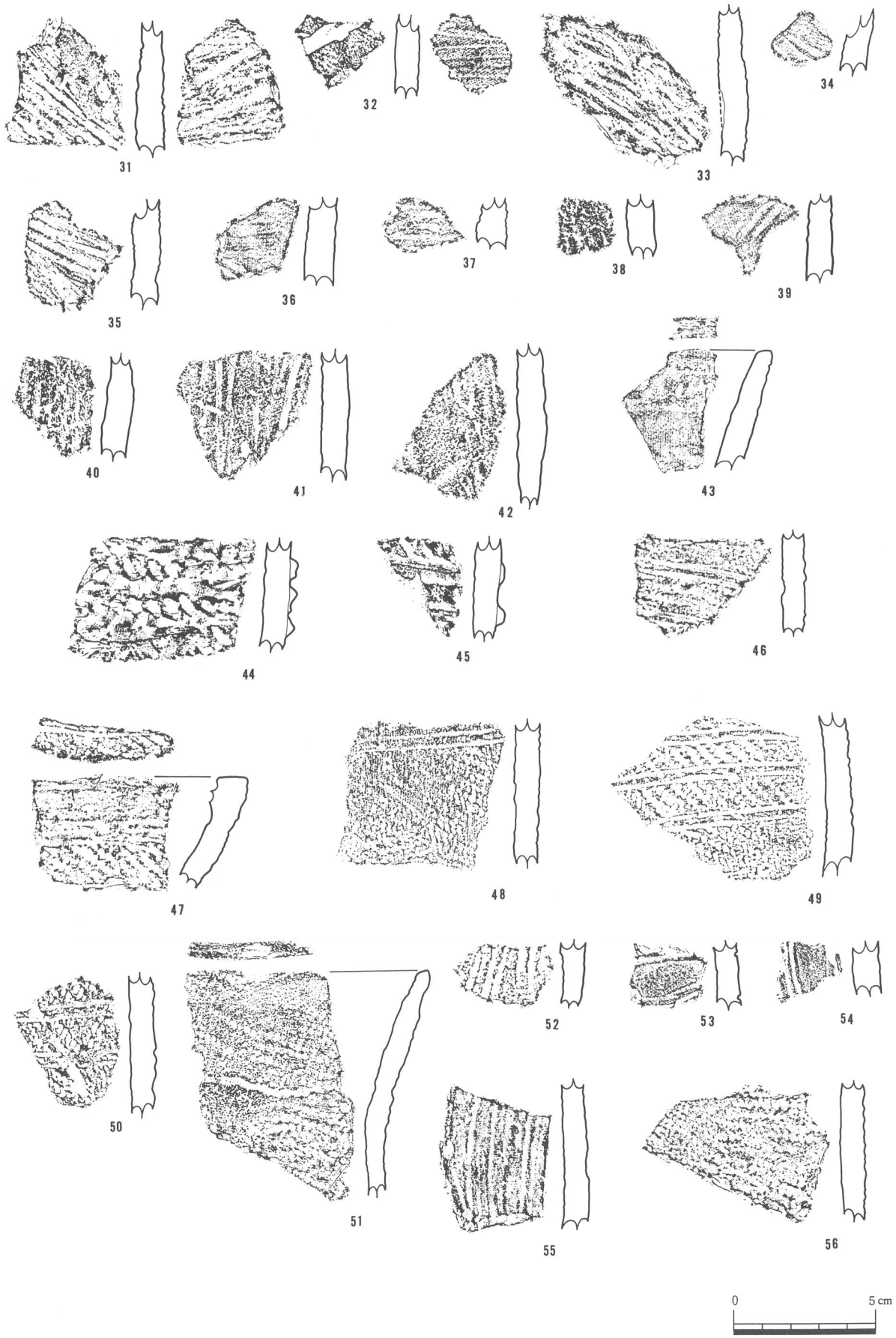
ｃ類　諸磯の型式内におさまるものを本類とした。71～73は、LRの縄文を施したものである。76は、LRの横位の施文、77は、RLの縦位、横位の施文が見られる。



第18図　縄文土器拓影図１（1/2）



第19図　縄文土器拓影図２（1/2）



第20図　縄文土器拓影図３（1/2）

第21図　縄文土器拓影図４（1/2）

表4　土器観察表

No.	型式	分類	グリッド	遺物番号	器厚（cm）	色調	胎土	文様等
1	野島	1a	K17	4	0.9	鈍い褐色	石英、長石、橙色・黒色粒子含む	集合沈線に、幅広の浅い沈線。
2	野島	1a	M12	1	1.2	橙色	石英、橙色・黒色粒子含む。繊維含む。	集合沈線に、幅広の浅い沈線。
3	野島	1a	撹乱		0.7	鈍い黄橙色	石英、黒色粒子含む。繊維含む。	集合沈線に、幅広の浅い沈線。
4	野島？	1a	表採		0.7	明赤褐色	石英、黒色粒子含む。	集合沈線に、幅広の浅い沈線。
5	野島？	1a	K17	7	0.8	鈍い褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	集合沈線に、幅広の浅い沈線。隆帯上に刻みを施す。
6	野島？	1a	表採		1.0	明赤褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	棒状工具による押し引き状の刺突。
7	野島？	1a	撹乱		0.8	鈍い黄橙色	石英、黒色粒子含む。繊維含む。	竹管による平行の押し引き文。
8	野島	1a	K16	8	0.7	明褐色	石英、黒色粒子含む。	集合沈線に、沈線。
9	野島	1a	表採		1.2	橙色	石英、橙色・黒色粒子含む。繊維含む。	集合沈線に有段。
10	鵜ヶ島台	1b	L16	3	1.1	鈍い褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	隆線に竹管状工具による刺突。裏に条痕
11	鵜ヶ島台	1b	L12	8	0.9	褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	隆線に竹管状工具による刺突。裏に条痕
12	鵜ヶ島台	1b	L18	4	1.0	橙色	石英、長石、黒色粒子含む。	隆線に竹管状工具による刺突。裏に条痕
13	鵜ヶ島台	1b	M12	4	0.9	褐色	石英、長石、黒色粒子含む。繊維含む。	隆線に竹管状工具による刺突。裏に条痕
14	鵜ヶ島台	1b	M12	7	1.2	褐色	石英、長石、黒色粒子含む。繊維含む。	隆線に竹管状工具による刺突。裏に条痕
15	鵜ヶ島台	1b	M12	8	1.0	褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	隆線に竹管状工具による刺突。裏に条痕
16	鵜ヶ島台	1b	K12	12	1.0	暗褐色	石英、長石、黒色粒子含む。繊維含む。	隆線に竹管状工具による刺突。裏に条痕
17	鵜ヶ島台	1b	K12	20	0.8	暗褐色	石英、黒色粒子含む。	隆線に竹管状工具による刺突。裏に条痕
18	鵜ヶ島台	1b	L12	17	1.0	黒色褐色	石英、長石、黒色粒子含む。繊維含む。	隆線に竹管状工具による刺突。裏に条痕
19	鵜ヶ島台	1b	K16	2	1.0	明褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	隆線に竹管状工具による刺突。裏に条痕
20	鵜ヶ島台	1b	K17	8,9,11	0.5	明赤褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	表面に条痕、裏面に擦痕状の横ナデ。
21	鵜ヶ島台	1b	表採		0.5	明赤褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	表面に条痕、裏面に擦痕状の横ナデ。
22	鵜ヶ島台	1b	K17	2,3,5	0.7	明赤褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	表面に条痕、裏面に擦痕状の横ナデ。
23	鵜ヶ島台	1b	K12	6	1.0	明褐色	石英、長石、橙色・黒色粒子含む繊維含む。	表裏に条痕。（30と同一個体か）
24	鵜ヶ島台	1b	K17	13	0.8	橙色	石英、黒色粒子含む。繊維含む。	竹管による円形の刺突。
25	鵜ヶ島台？	1b	L11	4	0.9	橙色	石英、橙色・黒色粒子含む。	細い竹管による平行の押し引き文。
26	鵜ヶ島台？	1b	L12	19	1.0	明赤褐色	石英、長石、黒色粒子含む。繊維含む。	隆線を施し、棒状工具による刺突。
27	鵜ヶ島台	1b	K17	6,14	0.7	明赤褐色	石英、長石、黒色粒子含む。繊維含む。	表裏に条痕。
28	鵜ヶ島台	1b	表採		1.0	鈍い赤褐色	石英、長石、黒色粒子含む。繊維含む。	表面に条痕。
29	鵜ヶ島台？	1b	K16	7	0.8	鈍い褐色	石英、長石、黒色粒子含む。繊維含む。	刺突文。
30	鵜ヶ島台	1b	K12	22他		褐色	石英、長石、橙色・黒色粒子含む繊維含む。	隆線に竹管状工具による刺突。裏に条痕
31	条痕文系	1c	表採		0.9	赤褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	表裏に条痕。
32	条痕文系	1c	K15	2	0.9	褐色	石英、黒色粒子含む。	表裏に条痕。
33	条痕文系	1c	表採		0.9	明赤褐色	石英、黒色・白色粒子含む。繊維多量に含む。	表裏に条痕。
34	条痕文系	1c	K16	10	0.8	鈍い赤褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	表裏に条痕。
35	条痕文系	1c	撹乱		0.9	明赤褐色	石英、長石、黒色粒子含む。繊維含む。	表裏に条痕。
36	条痕文系	1c	K16	9	1.0	明赤褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	表裏に条痕。
37	条痕文系	1c	表採		0.9	鈍い赤褐色	石英、黒色粒子含む。	表面に条痕。
38	条痕文系	1c	L12	20	1.0	橙色	石英、褐色粒子含む。	表面に条痕。
39	条痕文系	1c	K16	3	0.8	明赤褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	表面に条痕。
40	条痕文系	1c	L11	6	1.0	鈍い橙色	石英、褐色粒子含む。	表面に条痕。
41	条痕文系	1c	L11	7	1.0	橙色	石英、褐色粒子含む。	表面に条痕。
42	条痕文系	1c	L11	5	1.0	橙色	石英、長石、黒色粒子含む。繊維含む。	表面に条痕。
43	条痕文系	1c	K16	1	0.8	暗褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	植物の茎による連続刺突と沈線。
44	入海1	2	表採		0.9	明褐色	石英、長石、橙色粒子含む。	隆帯上に斜め刻み。
45	入海1	2	K15	4	0.8	鈍い褐色	石英、黒色粒子含む。	隆帯上に斜め刻み。

No.	型式	分類	グリッド	遺物番号	器厚（cm）	色調	胎土	文様等
46	諸磯b	3a	撹乱		0.8	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	ＲＬの縄文に、半截竹管による平行沈線。
47	諸磯b	3a	撹乱		0.9	褐色	石英、黒色粒子含む。	ＲＬの縄文に、半截竹管による平行沈線。口唇部に半截竹管による連続刺突。
48	諸磯b	3a	撹乱		0.9	鈍い褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	ＲＬの縄文に、半截竹管による平行沈線。
49	諸磯b	3a	撹乱		0.9	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	ＲＬの縄文に、半截竹管による平行沈線。
50	諸磯b	3a	撹乱		0.9	鈍い褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	ＲＬの縄文に、半截竹管による平行沈線。
51	諸磯b	3a	L11,12	1,1	0.8	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	ＲＬの縄文。
52	諸磯b	3a	表採		0.7	鈍い褐色	石英、褐色粒子含む。	ＲＬの縄文に、半截竹管による平行沈線。
53	諸磯b	3a	表採		0.8	暗赤褐色	石英、金雲母、橙色・黒色粒子含む。	半截竹管による平行沈線。
54	諸磯b	3a	K12	2	1.0	鈍い赤褐色	石英、橙色粒子含む。	半截竹管による平行沈線。
55	諸磯b	3a	表採		0.9	暗赤褐色	石英、黒色粒子含む。	半截竹管による平行沈線。
56	諸磯b	3a	撹乱		0.9	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	ＲＬを多方位に施文。
57	諸磯c	3b	撹乱		0.8	黒褐色	石英、橙色・黒色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土紐の貼り付け。
58	諸磯c	3b	M11	1	0.7	褐色	石英、金雲母、橙色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土紐の貼り付け。
59	諸磯c	3b	撹乱		0.7	明褐色	石英、黒色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土紐の貼り付け。
60	諸磯c	3b	表採		0.8	鈍い赤褐色	石英、金雲母、橙色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土紐の貼り付け。
61	諸磯c	3b	M12	10	1.2	褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土紐の貼り付け。
62	諸磯c	3b	L12	16	0.8	鈍い赤褐色	石英、黒色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土紐の貼り付け。
63	諸磯c	3b	L12	18	0.7	鈍い赤褐色	石英、黒色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土紐の貼り付け。
64	諸磯c	3b	M11	5	0.8	明褐色	石英、黒色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土紐の貼り付け。
65	諸磯c	3b	撹乱		0.7	褐色	石英、黒色・橙色粒子含む。繊維含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土紐の貼り付け。
66	諸磯c	3b	撹乱		0.8	褐色	石英、黒色・橙色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土紐の貼り付け。
67	諸磯c	3b	L12	5	1.0	明褐色	石英、黒色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土紐の貼り付け。
68	諸磯c	3b	M12	10	0.8	褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土紐の貼り付け。
69	諸磯c	3b	L12	19	0.8	鈍い赤褐色	石英、橙色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。
70	諸磯c	3b	表採		0.7	明褐色	石英、黒色粒子含む。	半截竹管による平行沈線と刺突。
71	諸磯	3c	L12	11	0.7	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	ＬＲの縄文。
72	諸磯	3c	K12	25	0.7	明褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	ＬＲの縄文。
73	諸磯	3c	M11	6	0.8	鈍い褐色	石英、黒色粒子含む。	ＬＲの縄文。
74	諸磯	3c	K12	3	0.7	鈍い赤褐色	石英、黒色粒子含む。	ＲＬの縄文。
75	諸磯	3c	表採		1.0	暗褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	無文。
76	諸磯	3c	L11	2	0.7	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	ＬＲの横位の施文。一部回転方向を変えているか。
77	諸磯	3c	L11	3	0.7	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	ＲＬを縦位、横位に施す。
78	勝坂２	4	K12	5	1.2	鈍い赤褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	キャタピラ文。
79	勝坂２	4	K11	1	1.1	明褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	キャタピラ文。
80	勝坂２	4	L11	9	1.1	鈍い赤褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	キャタピラ文。
81	型式不明	5	L12	12	0.9	鈍い橙色	石英、黒色・褐色粒子含む。	縄文を施す。
82	型式不明	5	L16	2	0.8	橙色	石英、黒色粒子含む。	集合沈線を施す。
83	型式不明	5	表採		1.0	明黄褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	隆帯を施す。
84	型式不明	5	M12	6	0.9	橙色	石英、黒色・褐色粒子含む。	ＬＲの縄文。棒状施文具による押し引きの山形の沈線。
85	型式不明	5	M11	2	1.0	明褐色	石英、黒色粒子含む。	ＬＲの縄文。棒状施文具による押し引きの山形の沈線。
86	型式不明	5	L12	6	0.9	鈍い橙色	石英、金雲母、橙色・黒色粒子含む。繊維含む。	沈線文と刺突文。曽利５式？
87	型式不明	5	M12	3	0.9	鈍い橙色	石英、黒色粒子含む。繊維含む。	二本の沈線による平行押し引き文。
88	型式不明	5	L12	3		橙色	石英、長石、黒色粒子含む。	無文。
89	型式不明	5	L16	5		明褐色	石英、黒色粒子含む。	無文。

第２節　休場層上層の遺構と遺物

１　概　要

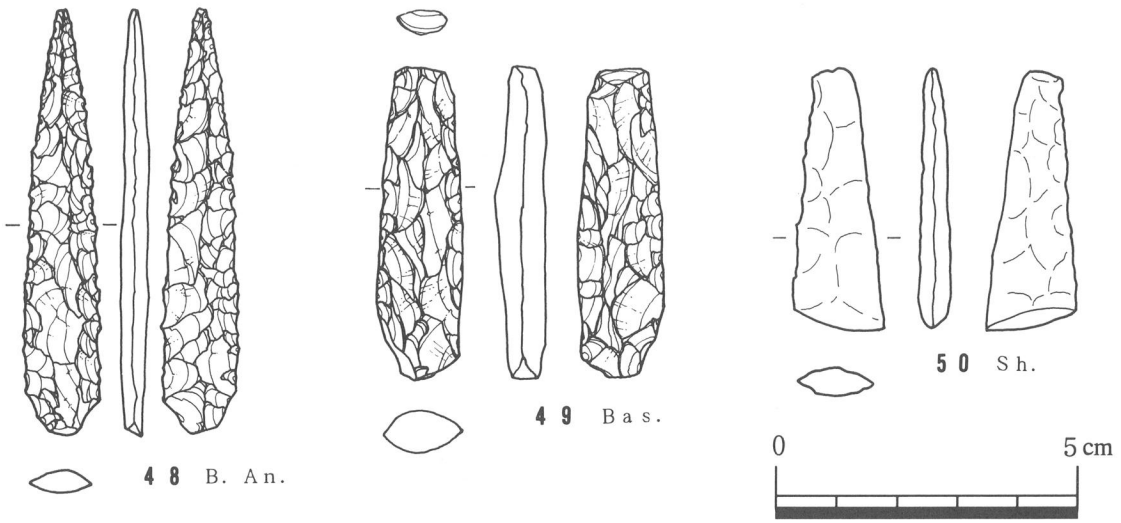
YL 層上層からの遺構の検出はなかったが、有舌尖頭器６点、石鏃２点、石槍１点が出土している。

２　石　器〈第22、24図〉

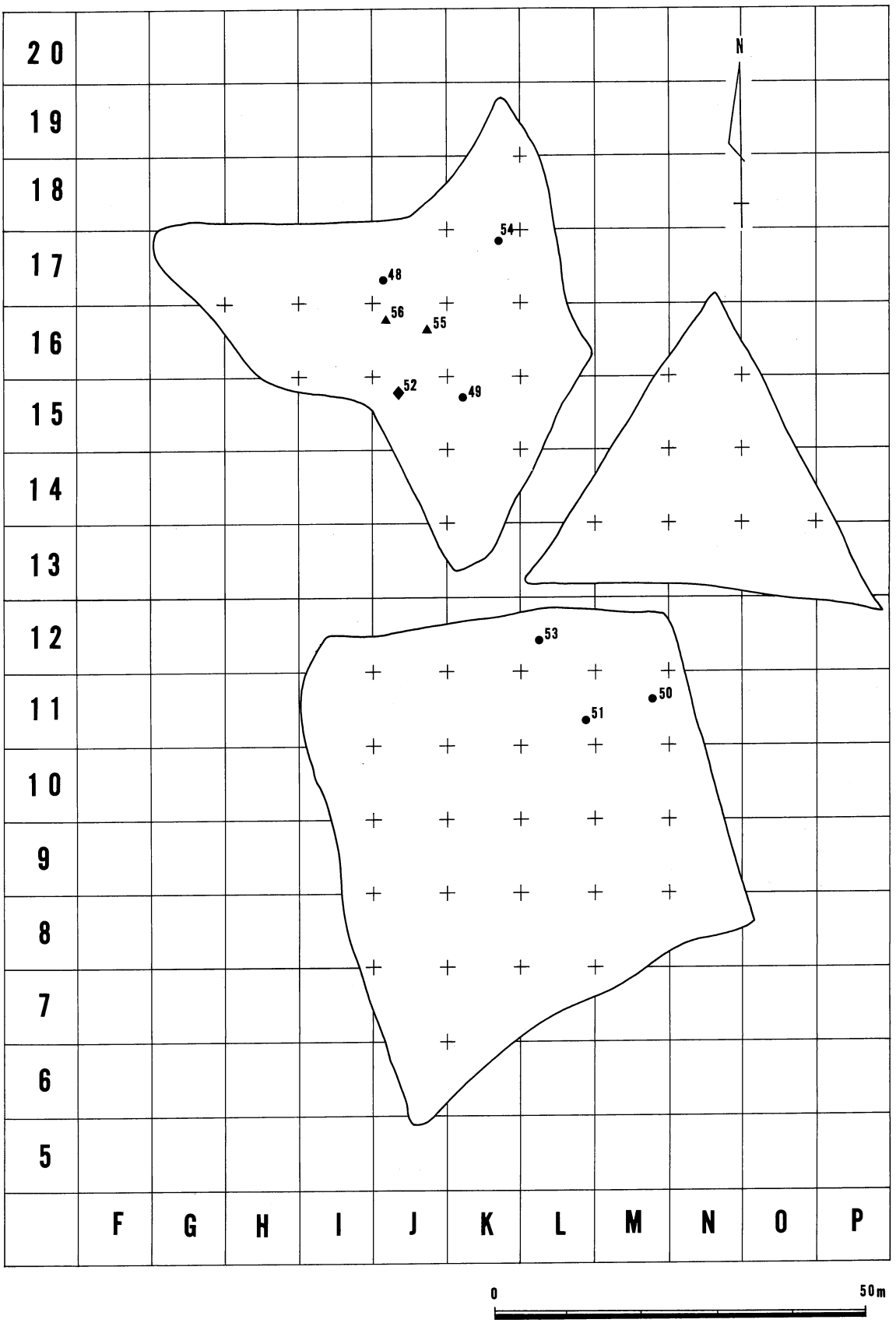
48は、小瀬ヶ沢タイプによく見られる黒色緻密安山岩製の有舌尖頭器である。長身で側縁に鋸歯状の調整が加えられている。49は、両端を切断しているが、これが人為的切断であれば植刃、自然的切断であれば有舌尖頭器もしくは錐の可能性がある。石材は玄武岩である。50、51は頁岩製の有舌尖頭器である。風化が著しいため、稜線やリングは不明瞭である。52は、長者久保・神子柴タイプに見られる柳葉形の石槍で、縁辺部に細かな調整が施されている。凝灰質頁岩製である。54は有舌尖頭器の未製品で胴部と考えられる。石材は黒色緻密安山岩である。55は和田峠産の黒耀石製で、凹基無茎石鏃、56は霧ヶ峰産の黒耀石製で、鍬型石鏃の脚部である。共に出土層位が YL 層上層であったため、草創期の石器として掲載した。

表５　ＹＬＵ層石器計測表

器種	ＮＯ	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長㎜	最大横長㎜	最大厚㎜	重量ｇ
有舌尖頭器	48	Ｊ17	6	黒色緻密安山岩		70.5	13.0	4.5	3.7
有舌尖頭器	49	Ｋ15	4	玄武岩		52.0	14.5	9.0	5.7
有舌尖頭器	50	Ｍ11	1	頁岩		43.0	15.5	5.5	2.9
有舌尖頭器	51	Ｌ11	9	頁岩		30.0	14.5	5.0	1.8
石槍	52	Ｊ15	2	凝灰質頁岩		136.5	38.0	14.0	53.9
有舌尖頭器	53	Ｌ12	9	黒色緻密安山岩		48.0	20.5	8.0	6.3
有舌尖頭器	54	Ｋ17	3	黒色緻密安山岩		28.0	21.0	11.0	7.0
石鏃	55	Ｊ16	1	黒耀石	ＷＤＴ－４	20.0	16.0	5.5	1.0
石鏃	56	Ｊ16	14	黒耀石	ＫＲＭ－４	(12)	(9)	(2.5)	(0.1)

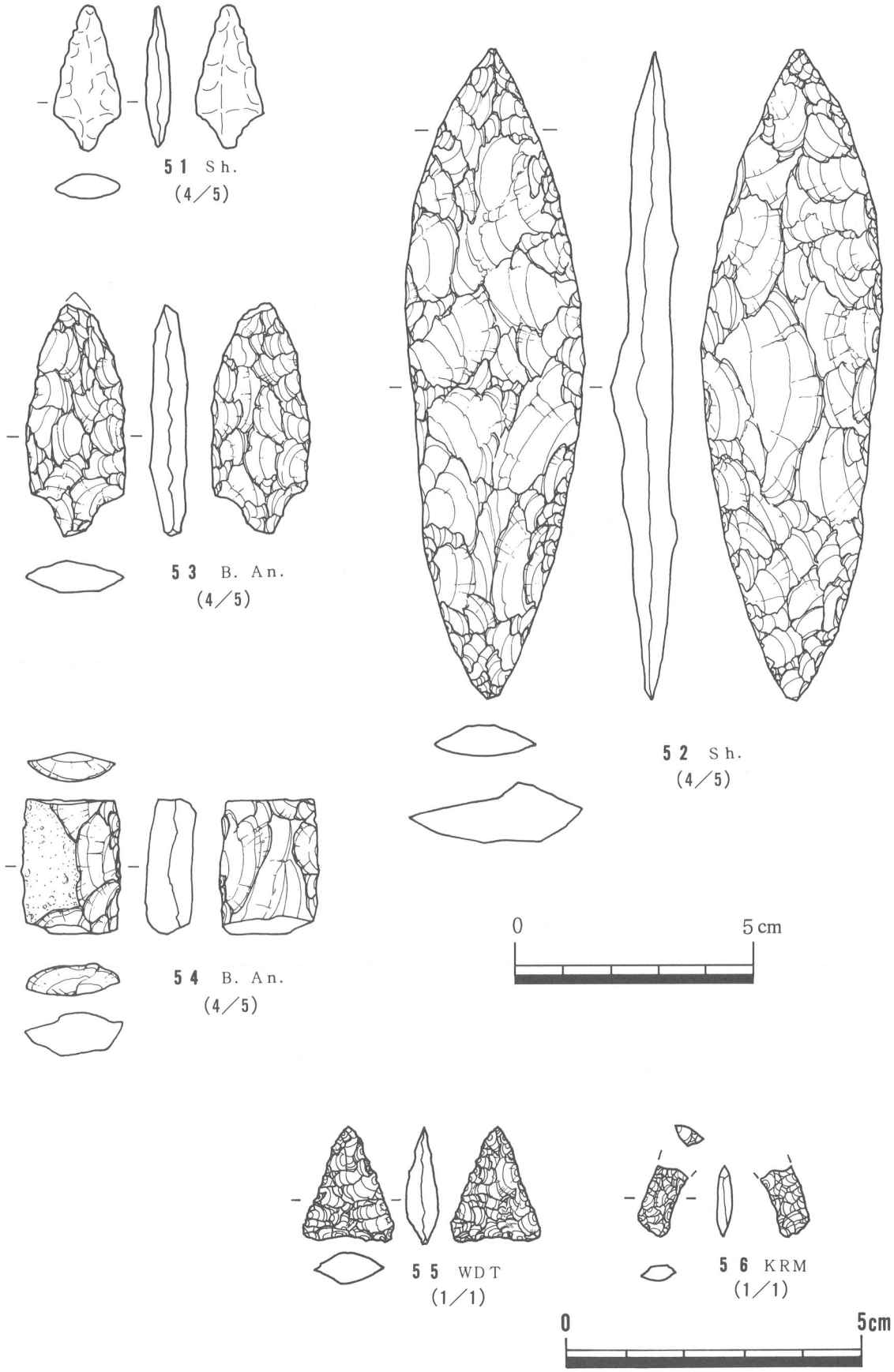


第22図　ＹＬＵ層石器実測図１（4/5）



◆ 石　槍
● 有舌尖頭器
▲ 石　鏃

第23図　縄文時代草創期石器分布図（1/800）



第24図　ＹＬＵ層石器実測図２

第Ⅳ章　旧石器時代の遺構と遺物

第１節　休場層中層内の遺構と遺物

１　概　要

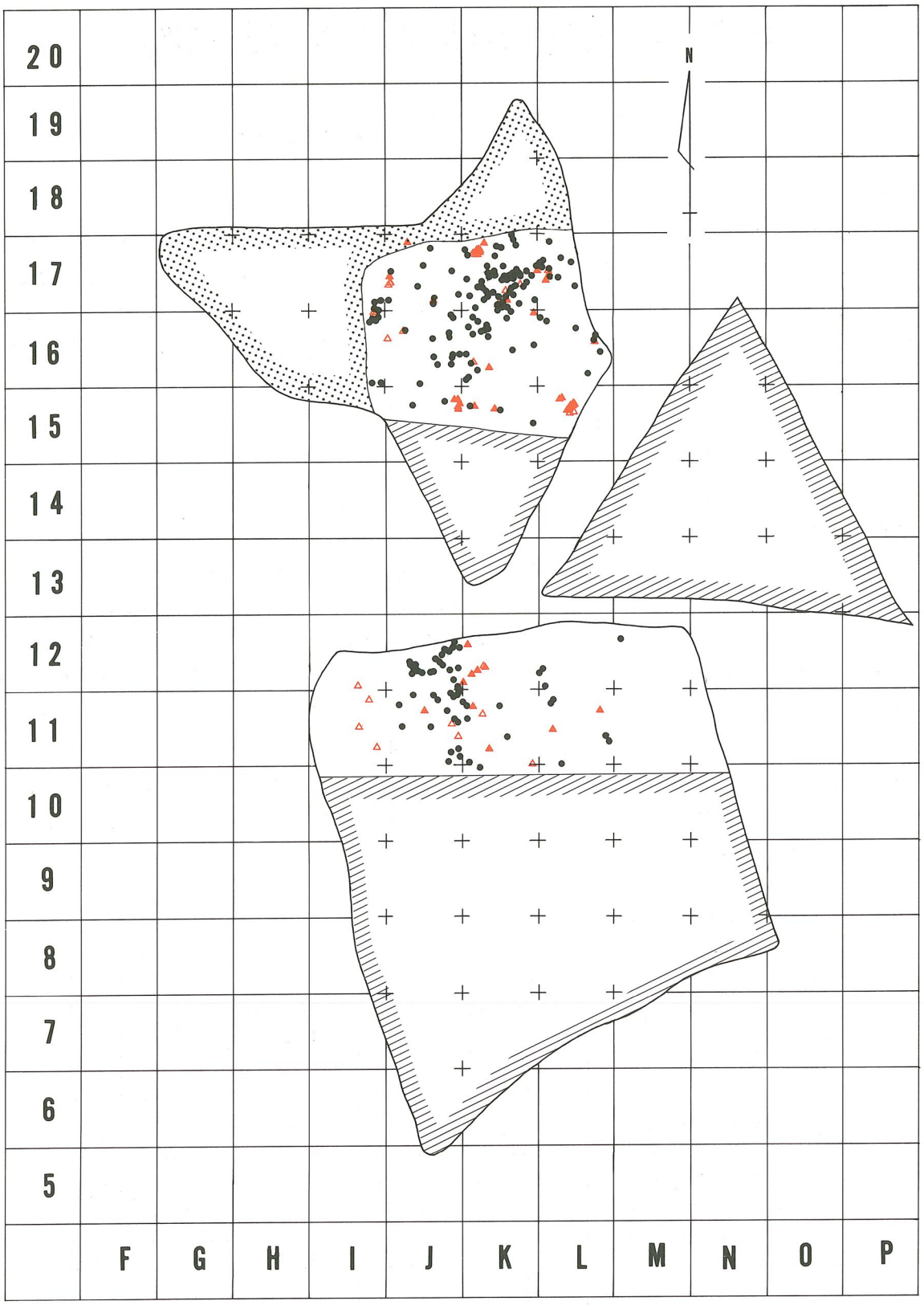
１区では、南東部の一角を除けば、ほぼ全域から遺物の出土があったが、調査区中央部からやや北寄りに密集した在り方を示し、YLU 層中位から YLM 層中位にかけて分布のピークが見られる。３基の礫ブロックも検出している。３区は YLU 層のみの調査であるが、調査区西側に遺物は集中し、東側は極めて薄い状況であった。分布のピークは、YLU 層上位から YLU 層中位にかけてである。両調査区とも、石器に関してはブロック分けを行わなかったが、あえて言うならば、３区からは黒耀石製の石器が１点も出土していないことと、石核や敲石類が多いことなどから、１区と３区をそれぞれ１ブロックとして捉えることは可能だと思われる。

２　遺物の遺存状態

本層位から出土した石器は、総点数183点を数え、３基の礫ブロックを伴う。石材の比率は、黒耀石44%、頁岩23%、安山岩10%、黒色緻密安山岩９％という内訳であるが、黒耀石が１点も出土していない３区では、安山岩系のものと頁岩が主体となる。両調査区からの製品の出土は10%弱と少ないが大半を黒耀石が占める。接合関係は二例認められた。また、加工具の出土が多く、敲石や磨石などが全体の約18%を占める。３区では、石核の出土が17点と多く、１区の３点と比較して際立っており、このうち10点を頁岩が占めている。頁岩については、３区からの剥片の出土が４点と少ないため、推定の域を出ないが、石核を調査区外の作業空間に持ち出し剥片剥離作業を行った後、居住空間である調査区内に再び持ち帰ったと考えられる。この他、石器の素材となる黒色緻密安山岩の原石が５点出土しているが、いずれも剥片を剥離した痕跡は確認されない。

表６　ＹＬ層石材別器種組成表

	黒耀石								頁岩	黒緻安山岩	安山岩	チャート	その他	合計
	ＫＳＷ	ＫＭＴ	ＨＴＪ	ＴＴＳ	ＫＲＭ	ＷＤＴ	ＫＯＺ	測定不能						
ナイフ			1	1		1								3
掻器			3											3
削器			2			1					1	1		5
U剥片					2	1			3					6
石刃									1					1
石核									10	2	1	1	6	20
敲石											4		5	9
凹石													1	1
敲石・凹石													4	4
磨石											10		4	14
敲石・磨石											3		1	4
剥片		1	43		2	4	1		26	9		1	2	89
砕片	1		14		1			1	2					19
原石										5				5
合計	1	1	63	1	5	7	1	1	42	16	19	3	23	183



● 石　器

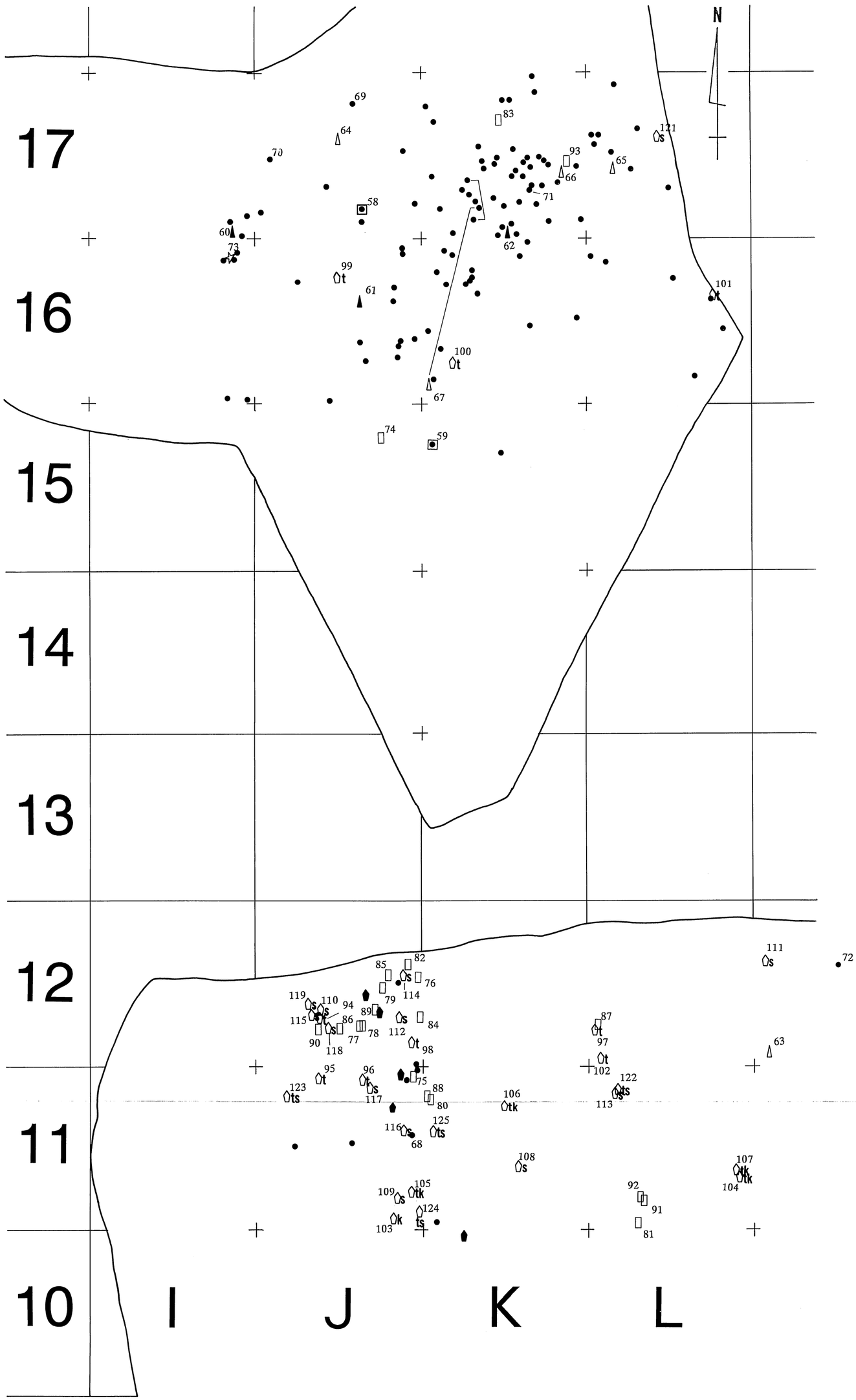
△ 礫

▲ 礫（赤化）

休場層未調査範囲

休場層が削平されていた範囲

第25図　ＹＬ層遺物出土状況図



ナイフ　削器　剥片・砕片
石刃　磨石　原石
石核　敲石
掻器　凹石

0　10m

第26図　YL層石器器種別分布図（1/200）

3　礫　群

(1)　1号礫群〈第27図〉

K－17グリッドに位置し、0.9m×0.6mの規模で分布し、垂直分布は約8㎝を測る。10個の礫によって構成され、最大礫は1,256g、最小礫は70g、総重量は3,705gである。このうち赤化礫は8個である。石材は輝石安山岩を主体にしている。接合関係は見られない。

(2)　2号礫群〈第27図〉

J－15グリッドに位置し、礫群と呼べるか疑問であるが、1.1m×0.7mの規模で、垂直分布は8㎝を測る。5個の礫によって構成されるが、散漫な在り方を示す。最大礫770g、最小礫50g、総重量1,780gである。このうち赤化礫は4個である。接合関係は、赤化礫と非赤化礫との間に一例認められる。石材は玄武岩と輝石安山岩である。

(3)　3号礫群〈第27図〉

L－15グリッドに位置し、2.2m×2.0m規模で散漫な分布状況を示し、10個の礫から構成される。垂直分布は約50㎝を測り、西に傾斜する。最大礫790g、最小礫130g、総重量2,260gで、このうち赤化礫は6個である。接合関係は非赤化礫の間に一例認められる。石材は玄武岩と輝石安山岩である。

4　石　器

(1)　ナイフ形石器〈第28図57～59〉

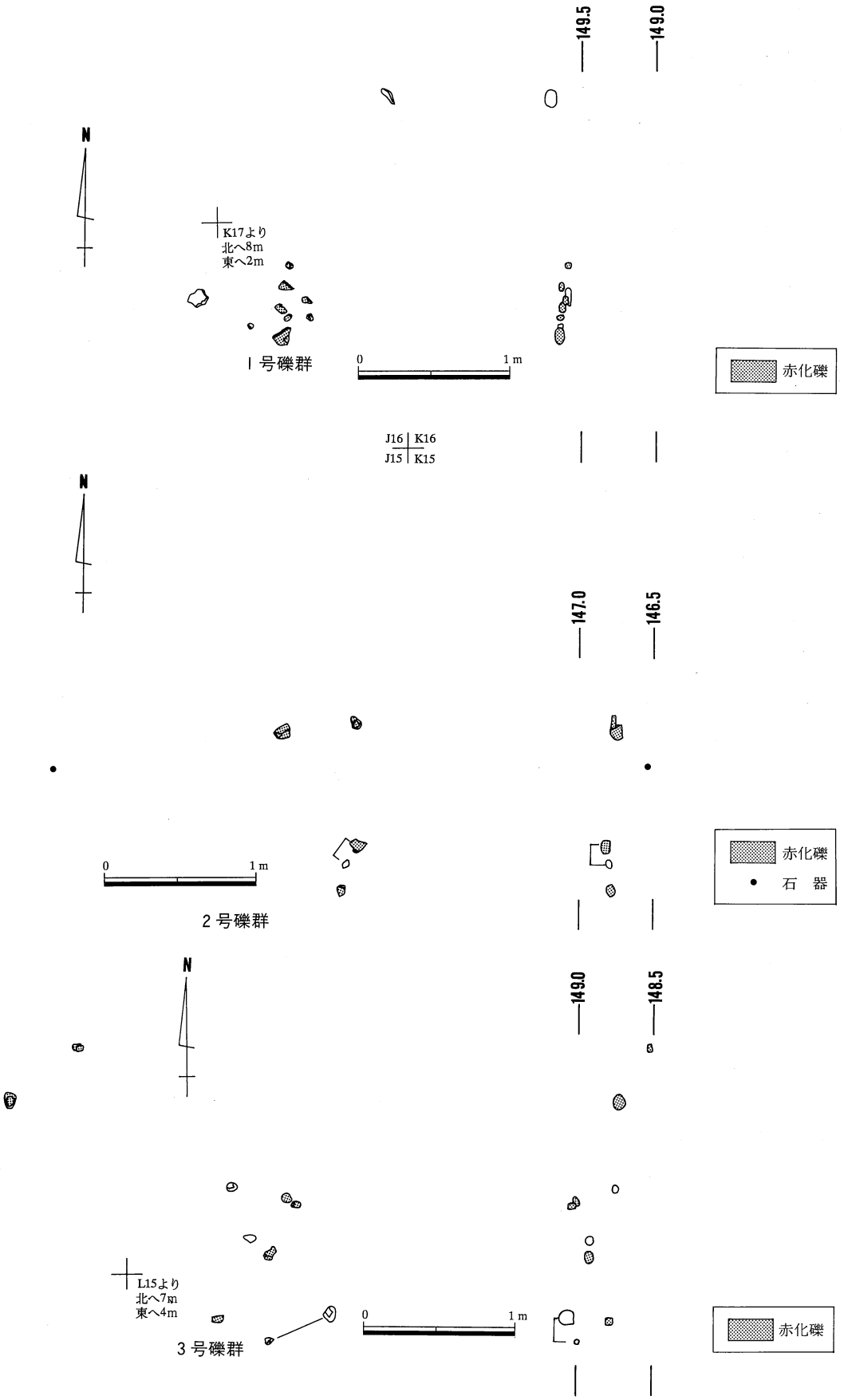
3点が出土している。石材はいずれも黒耀石製である。57は畑宿産で、縦長剥片素材の二側縁に調整を施し、剥片の打点を基部としている。先端部は欠損している。58は蓼科産の縦長剥片を素材として用い、二側縁に調整を施し、打面と打溜を取り去っている。59は剥片の一側縁にブランティングが施してあることから、刃部欠損のナイフ形石器であると考えられる。和田峠産である。

(2)　掻器〈第28図60～62〉

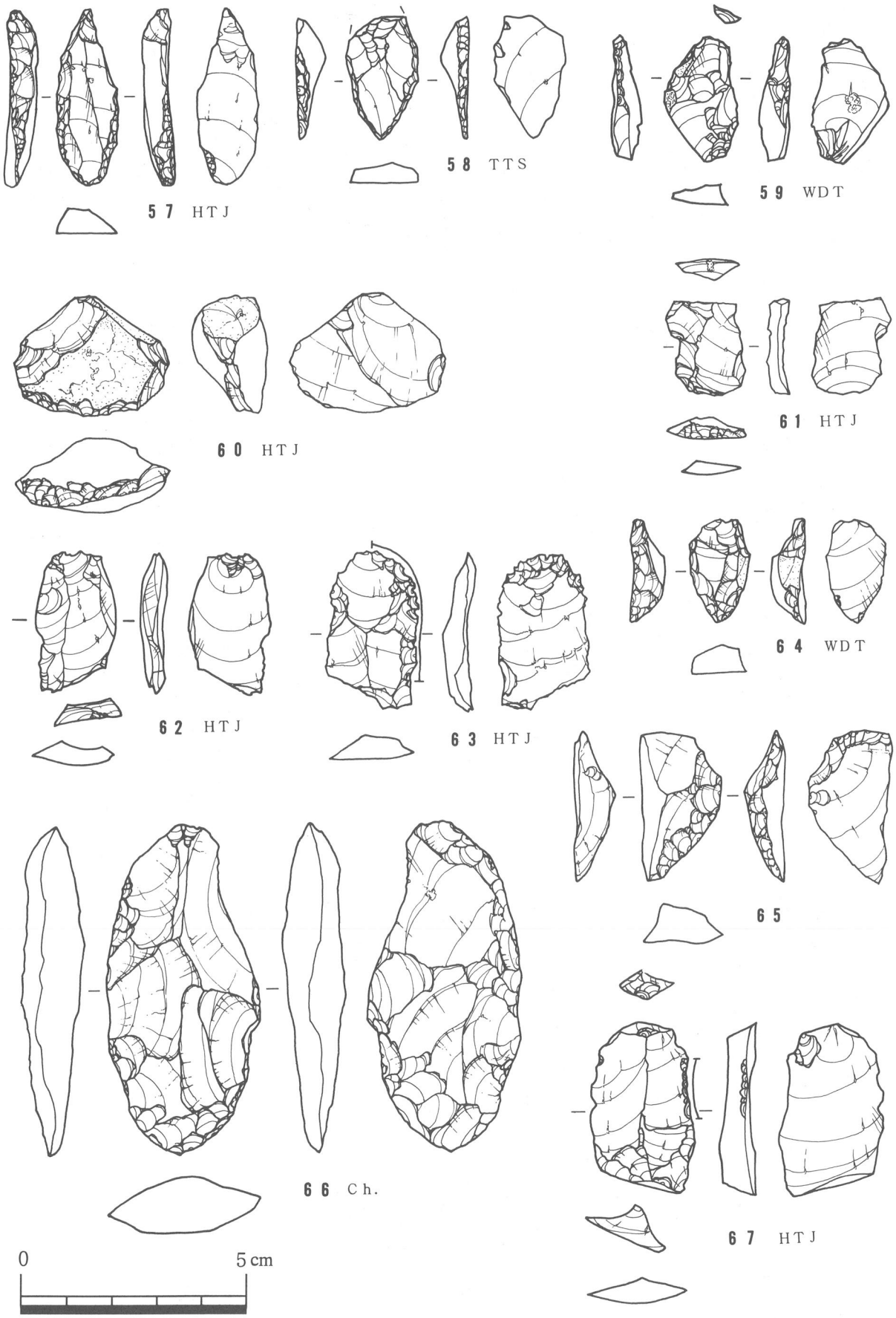
3点が出土している。いずれも畑宿産の黒耀石を石材としている。60は分厚い剥片を素材としたもので、礫面を残し、剥片の末端に調整を加える。61は剥片の打点部側に刃部を削出する。62はヒンジフラクチャーをおこした剥片の末端にスクレイパーエッジを削出している。

(3)　削器〈第28図63～67〉

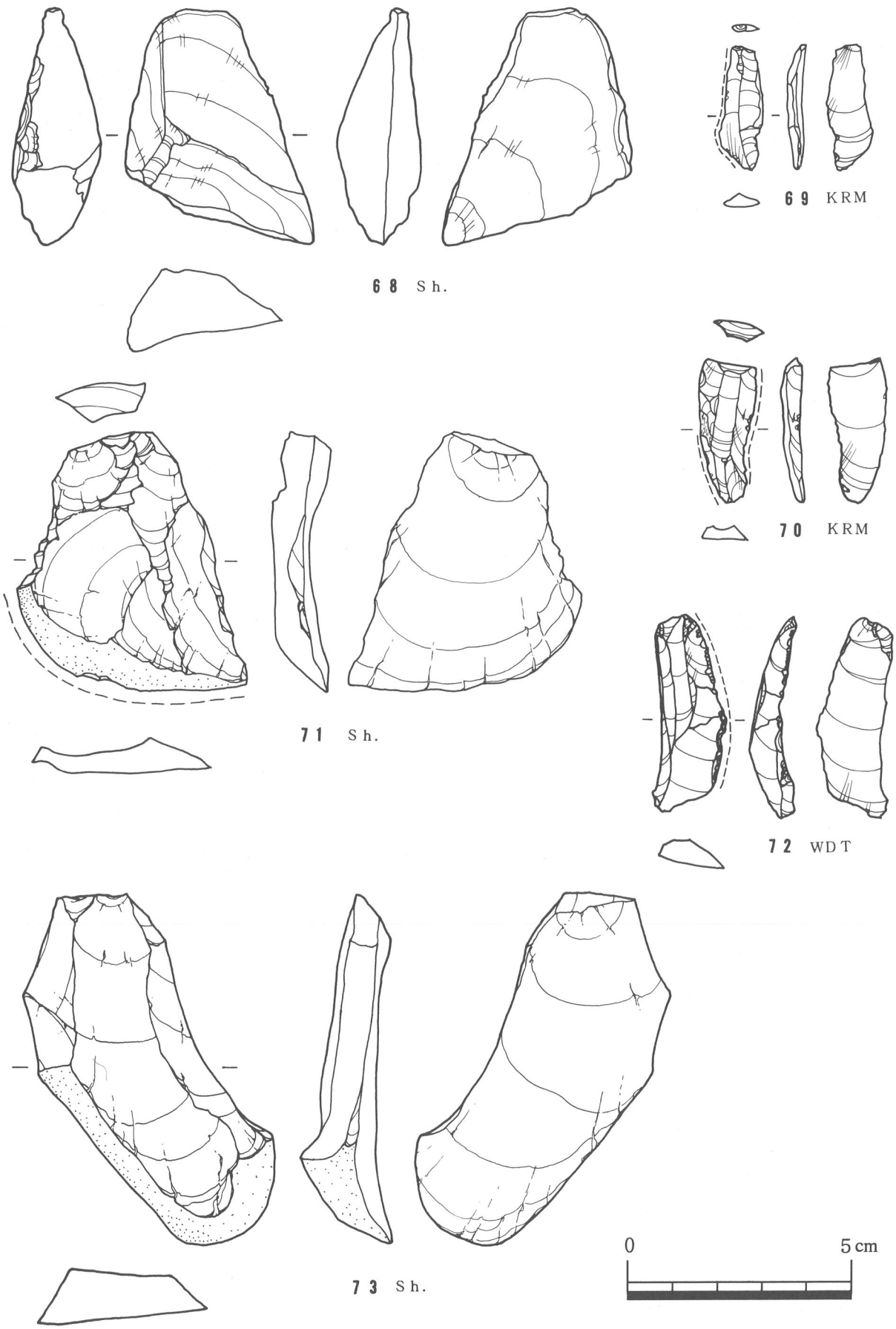
5点出土している。63は畑宿産の黒耀石製で、剥片の一側縁に刃部を設けている。刃部は鋸歯状を呈する。また、打点側の裏面にも鋸歯状加工が見られる。65は剥片の打点部側に表裏両面より加工を加えている。刃部の角度より掻器の一種とも考えられる。66はヘラ状を呈する両面加工石器で、削器の一種と考えられる。67は畑宿産の黒耀石製で、一側縁にノッチ状の加工を施している。



第27図　YL層礫群平面・垂直分布図



第28図　YL層石器実測図1（4/5）



第29図　YL層石器実測図2（4/5）

⑷ 使用痕のある剥片（U剥片）〈第29図68～72〉

５点が出土している。70は霧ヶ峰産の黒耀石で、両側縁に使用痕と考えられる細かい剥離が見られる。71は礫面を残す湾曲した剥片の末端部から左側縁下部にかけて細かい剥離が見られる。凝灰質頁岩製。

⑸ 石刃〈第29図73〉

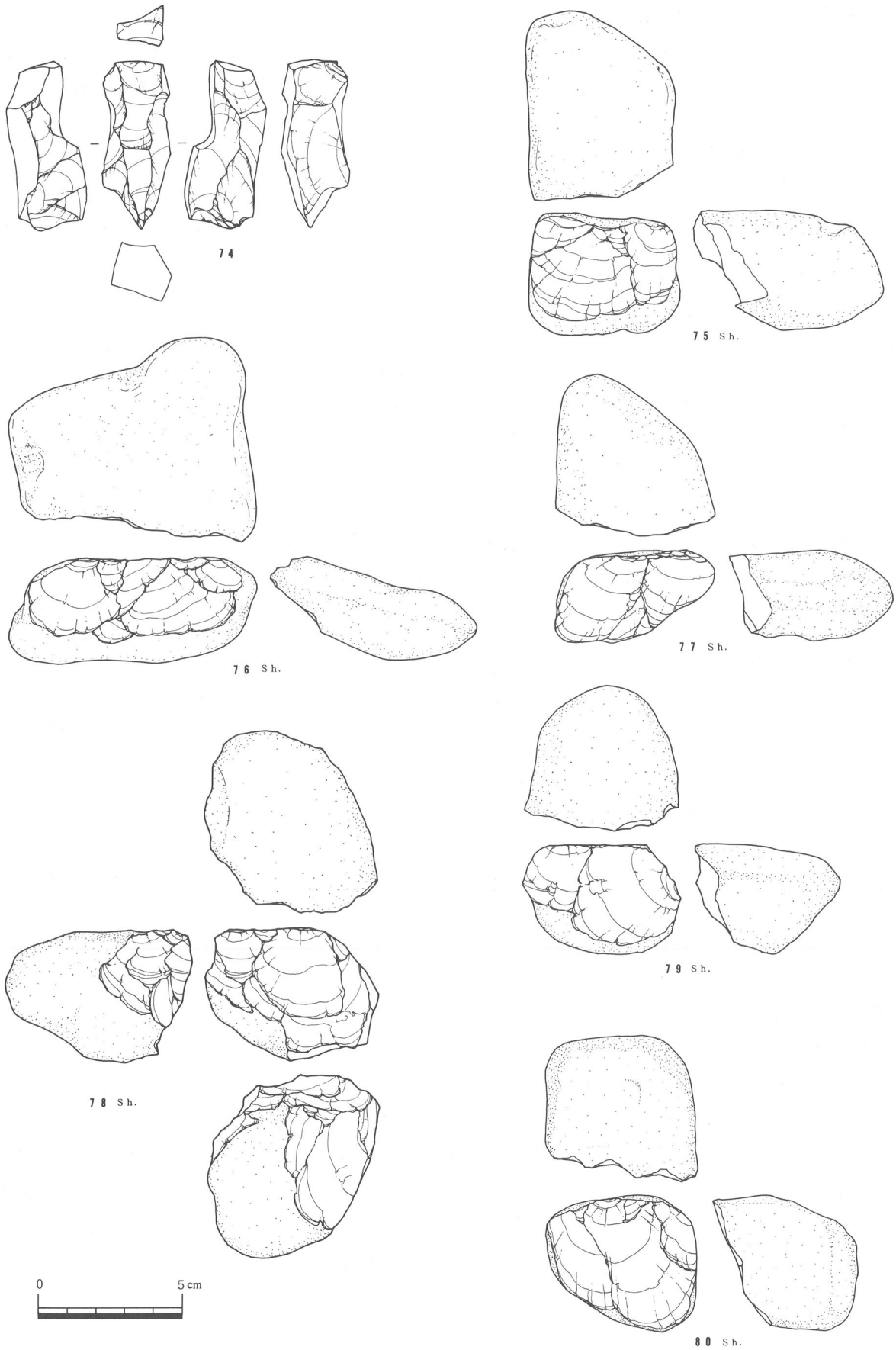
１点出土している。礫面を大きく残し、稜線が剥片縁辺と平行でないことから、石刃技法的な剥片剥離によって作出されているが、この剥片のもととなる石核からは、規格的な石刃は作出されていなかったと考えられる。

表７　ＹＬ層ナイフ形石器・掻器・削器等計測表

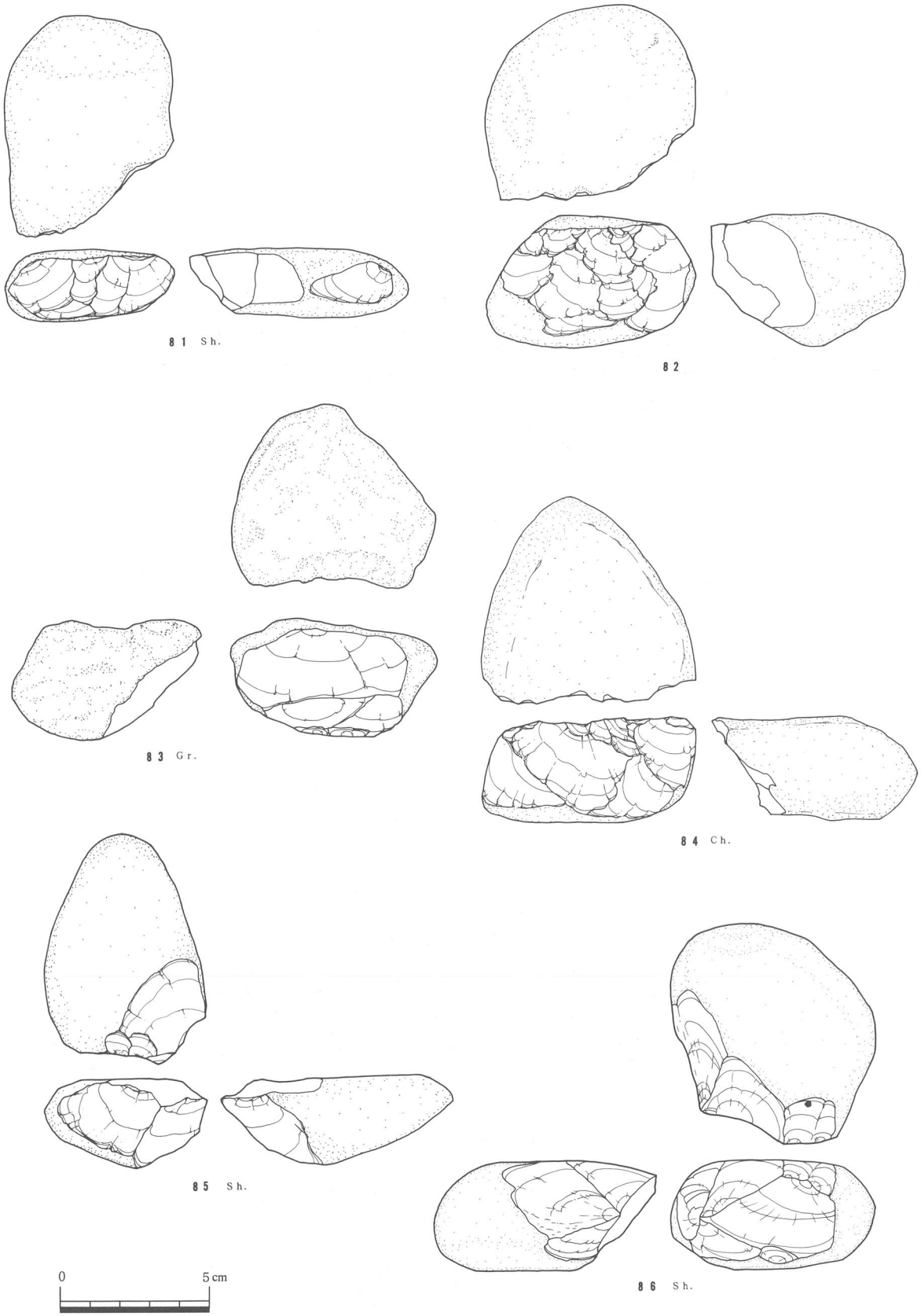
器種	ＮＯ．	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長㎜	最大横長㎜	最大厚㎜	重量ｇ
ナイフ	57	表採		黒耀石	ＨＴＪ－３	39.0	14.0	7.0	2.6
ナイフ	58	Ｊ17	1	黒耀石	ＴＴＳ－１	27.0	16.5	5.5	2.2
ナイフ？	59	Ｋ15	3	黒耀石	ＷＤＴ－４	28.0	17.0	7.0	2.4
掻器	60	Ｉ17	6	黒耀石	ＨＴＪ－３	27.0	34.5	17.0	10.9
掻器	61	Ｊ16	13	黒耀石	ＨＴＪ－７	21.0	18.0	5.0	1.2
掻器	62	Ｋ17	39	黒耀石	ＨＴＪ－５	31.0	18.0	6.0	2.6
鋸歯縁削器	63	Ｍ12	24	黒耀石	ＨＴＪ－１	35.0	20.5	7.0	3.7
尖頭削器	64	Ｊ17	5	黒耀石	ＷＤＴ－２	23.0	13.5	8.0	1.8
削器	65	Ｌ17	9	硬質緻密安山岩		73.5	34.0	14.0	29.3
削器	66	Ｋ17	6	頁岩質チャート		33.0	18.0	9.0	4.9
削器	67	Ｋ16	12	黒耀石	ＨＴＪ－３	38.5	23.0	8.0	6.0
Ｕ剥片	68	Ｊ11	3	頁岩		52.0	42.0	19.5	30.9
Ｕ剥片	69	Ｊ17	4	黒耀石	ＫＲＭ－３	28.0	10.0	4.0	0.6
Ｕ剥片	70	Ｊ17	7	黒耀石	ＫＲＭ－３	32.0	13.0	5.0	1.1
Ｕ剥片	71	Ｋ17	41	凝灰質頁岩		57.5	52.0	13.0	27.1
Ｕ剥片	72	Ｍ12	7	黒耀石	ＷＤＴ－３	44.0	16.0	10.0	3.1
石刃	73	Ｉ16	4	頁岩		78.5	56.5	20.5	63.2

⑹ 石核〈第30～34図〉

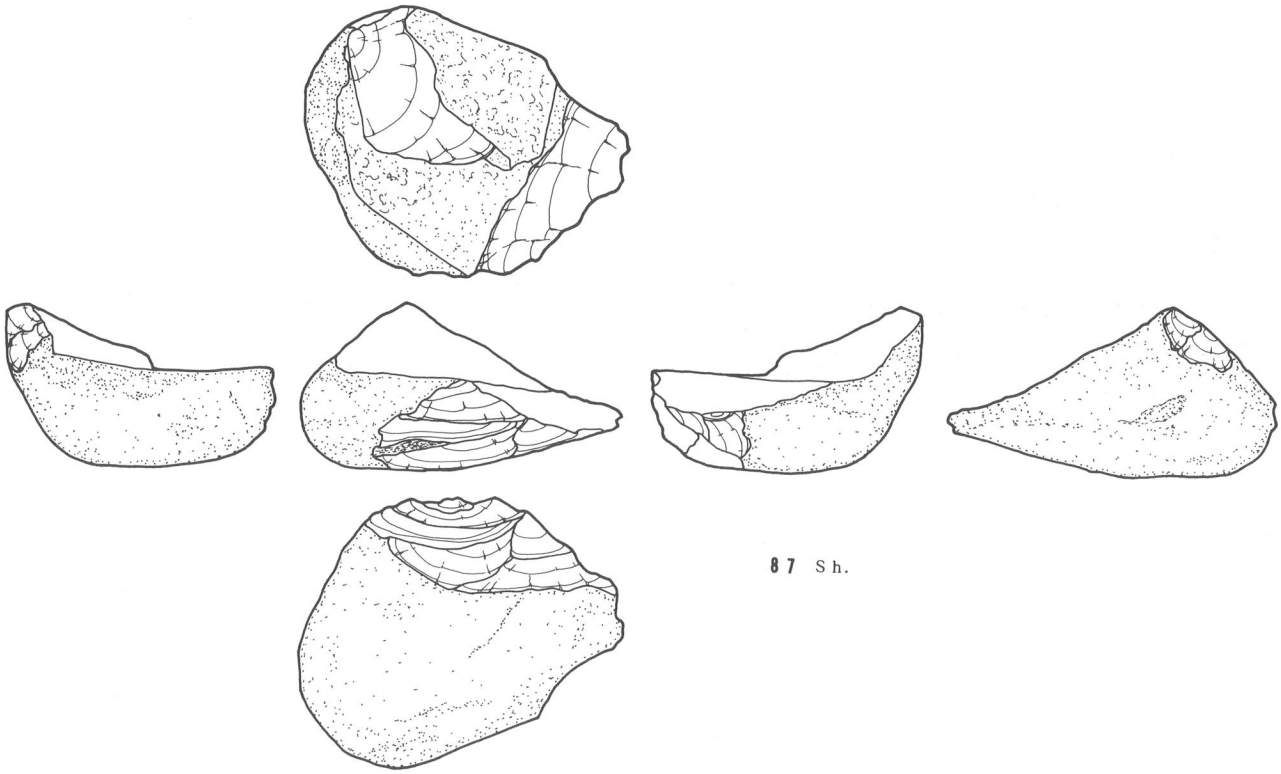
20点が出土している。これらの石核は、単設打面石核（第１形態）、両設打面石核（第２形態）、複設打面石核（第３形態）、素材となる礫の縁辺部より求心的に剥片剥離を行うもの（第４形態）に分類される。このうち第１形態は、礫面を打面とし、寸詰まりの剥片を連続して剥離し、作業面の角度が鋭角になったところで作業を中止しているもの（75～84）、数回の打面調整を行い打面を作り出しているもの（85～87）、礫面を打面としたもの（88）の３種類に分類できる。第２形態は、上下に打面を設定し、縦長の剥片を主として剥離したもの（74）である。第３形態は、打面を90度ずつ展開することで、最終的にサイコロ状の石核になるが、剥離した剥片数はそれほど多くないと考えられるもので、（89～92）が該当する。第４形態は、貝殻状の剥片を剥離したもの（93）である。

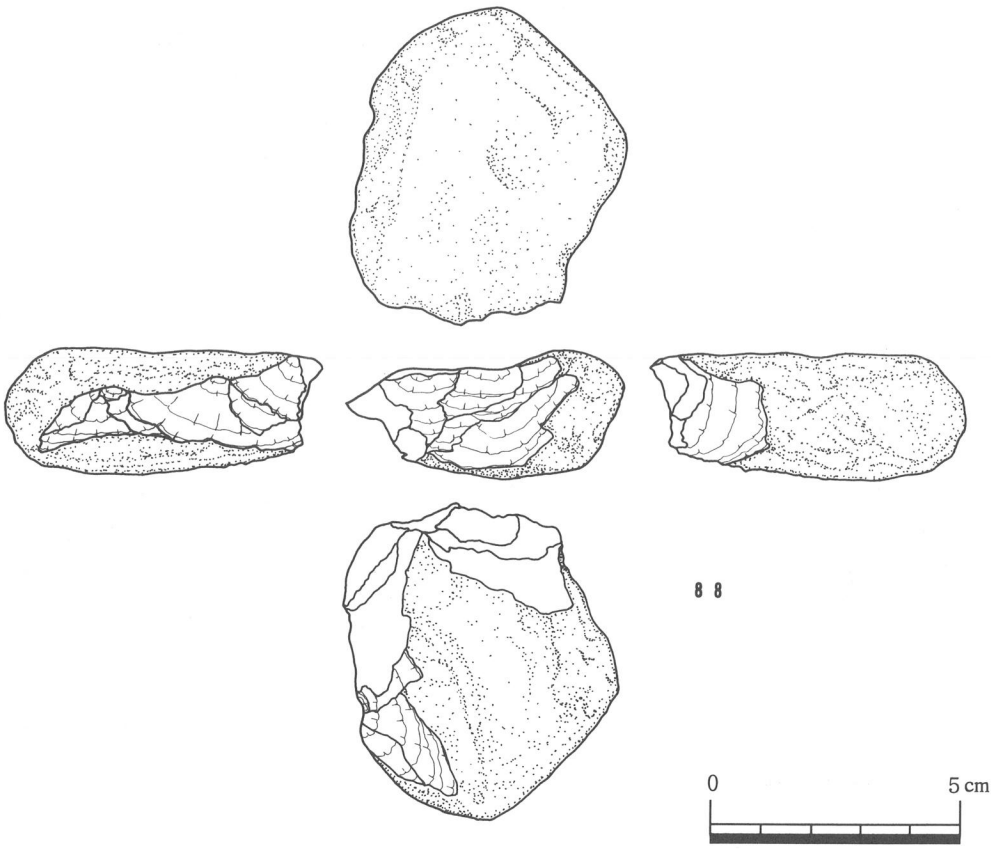


第30図　ＹＬ層石核実測図１（1/2）

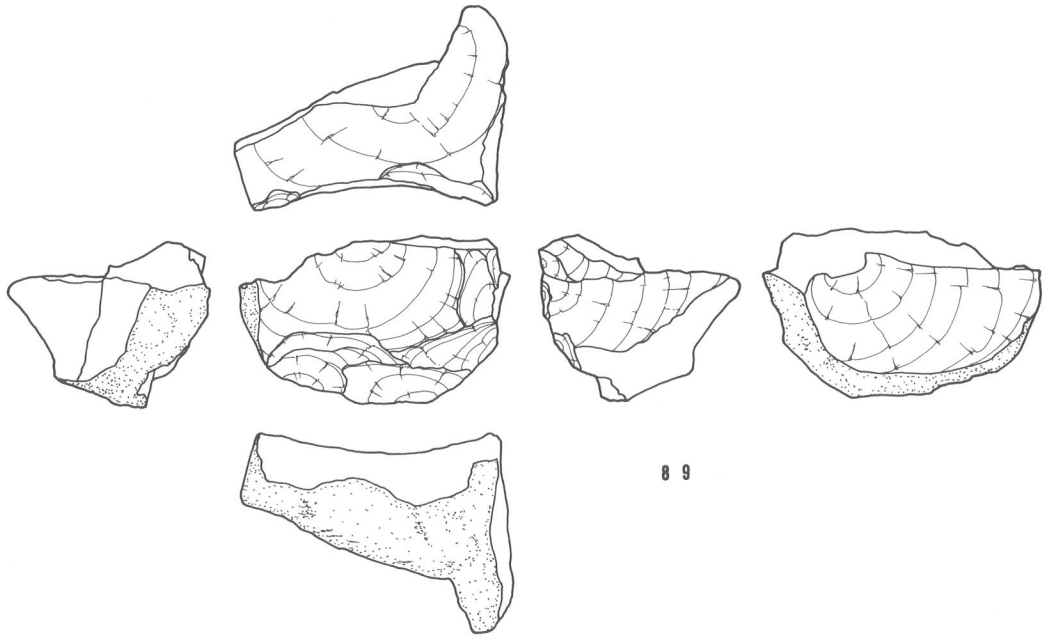


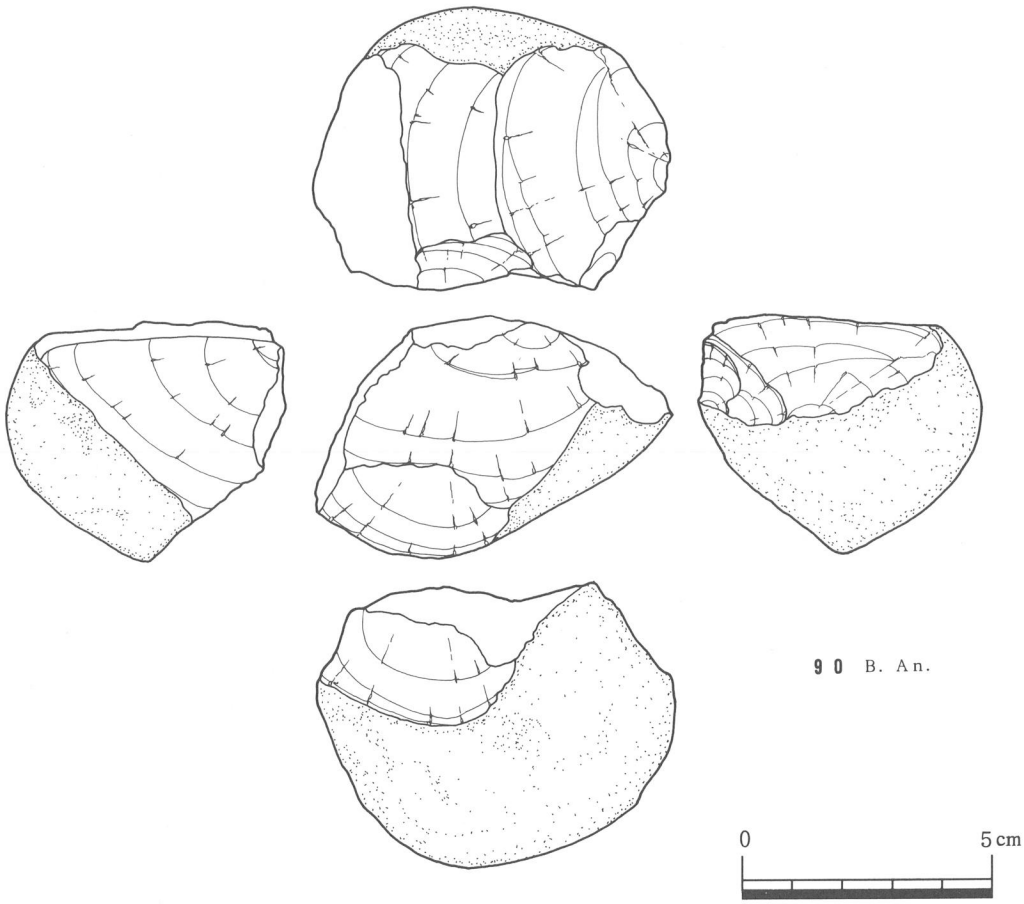
第31図　ＹＬ層石核実測図２（1/2）



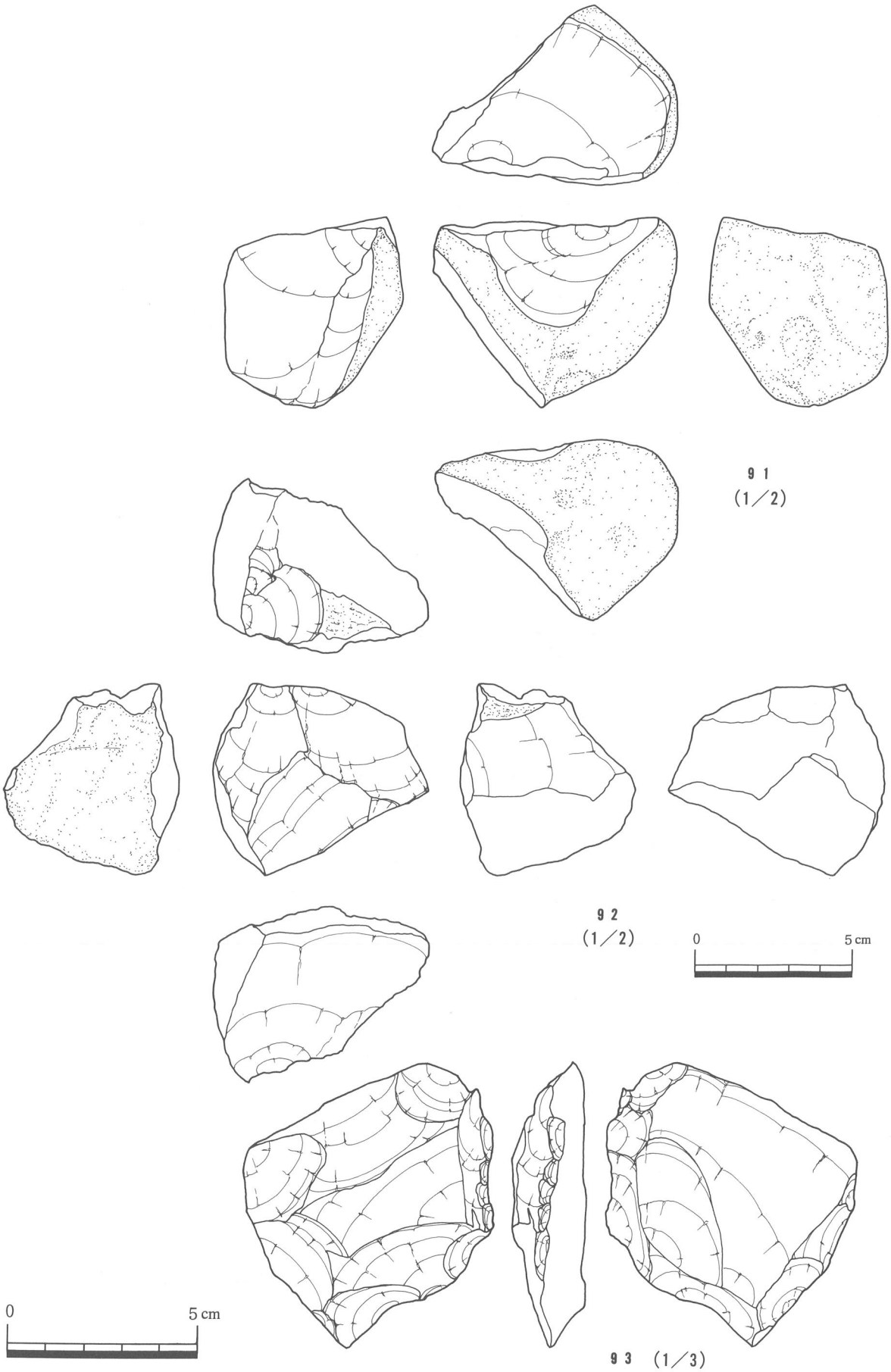


第32図　ＹＬ層石核実測図３（1/3）





第33図　YL層石核実測図4（1/3）



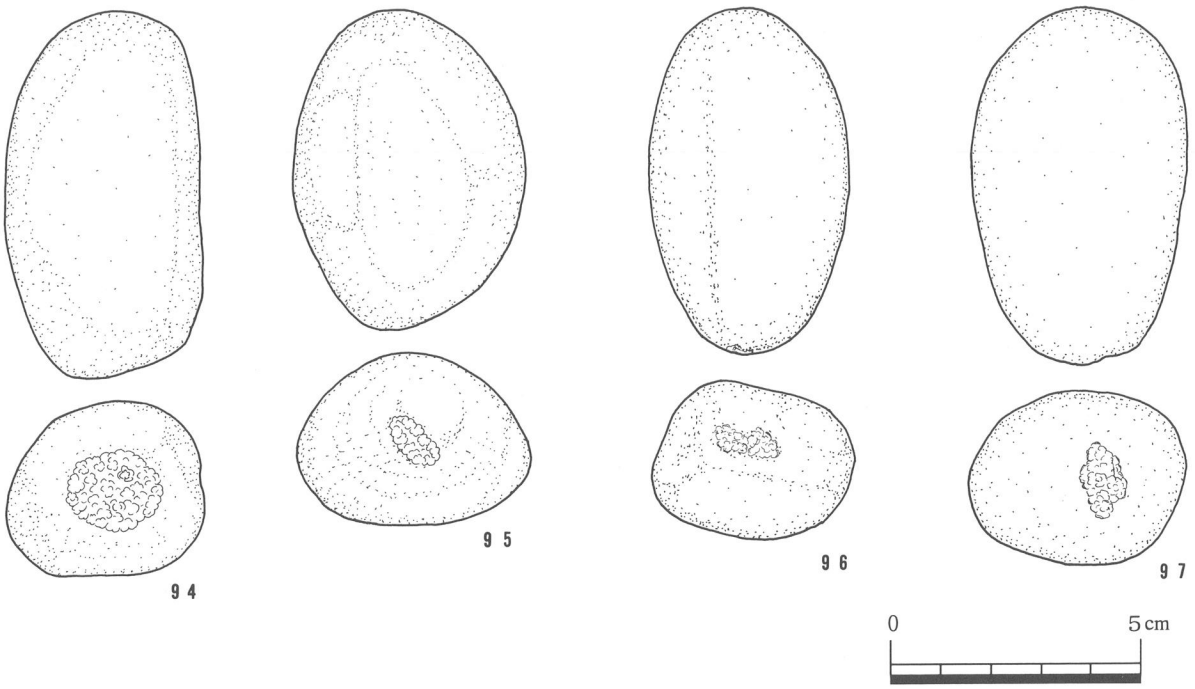
第34図　ＹＬ層石核実測図５

表８　ＹＬ層石核計測表

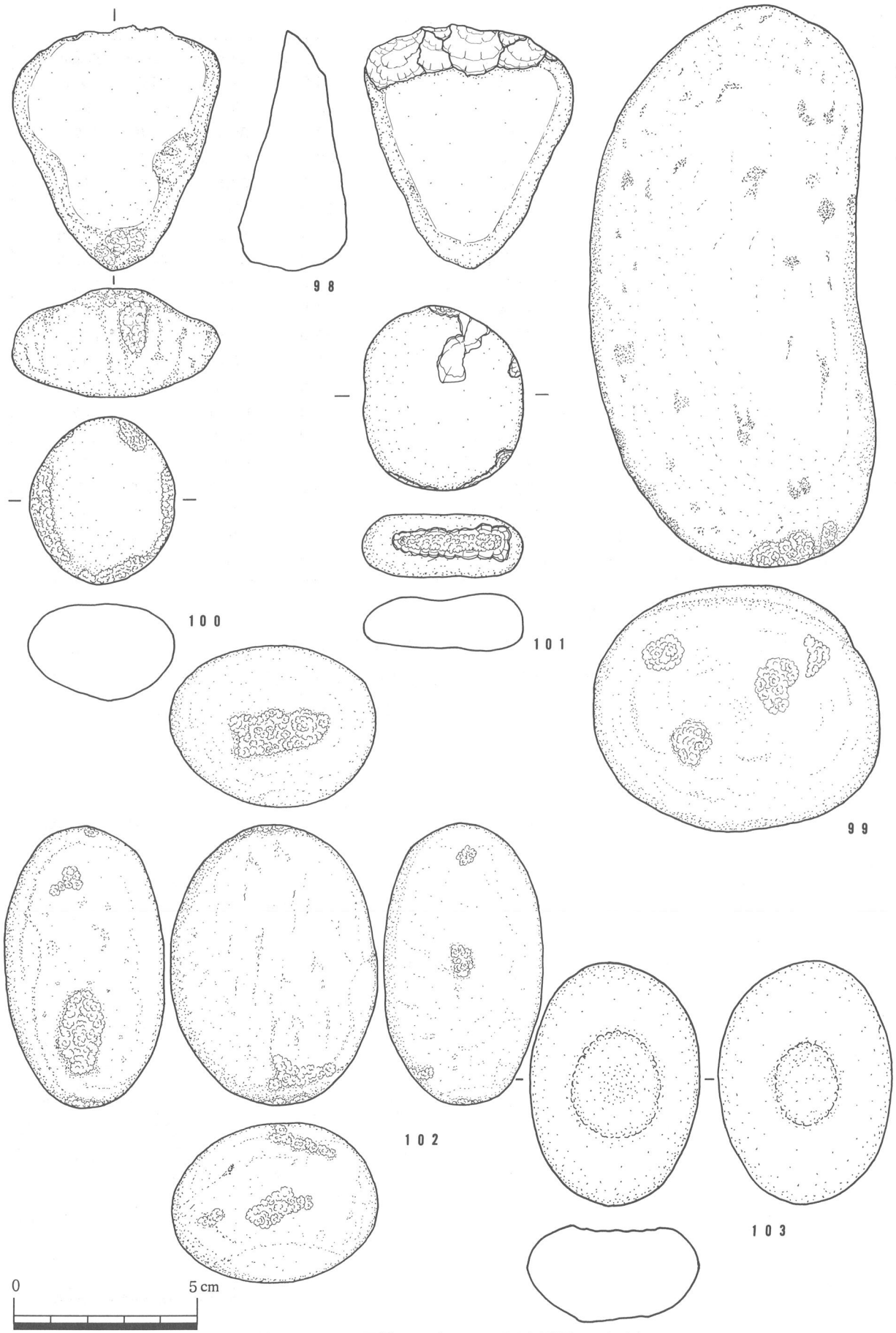
器種	ＮＯ．	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長㎜	最大横長㎜	最大厚㎜	重量ｇ
石核	74	Ｊ15	1	流紋岩		58.5	24.0	28.0	27.7
石核	75	Ｊ11	1	頁岩		42.0	53.0	66.0	193.1
石核	76	Ｊ12	23	頁岩		32.0	86.5	72.0	215.5
石核	77	Ｊ12	6	頁岩		32.0	56.0	57.0	130.6
石核	78	Ｊ12	2	頁岩		46.0	60.5	65.0	212.4
石核	79	Ｊ12	1	頁岩		38.0	55.0	51.0	120.1
石核	80	Ｋ11	8	頁岩		47.5	53.0	50.0	187.5
石核	81	Ｌ11	3	頁岩		24.0	57.5	74.5	145.0
石核	82	Ｊ12	4	頁岩質ホルンフェルス		45.0	72.0	66.0	275.1
石核	83	Ｋ17	50	溶結凝灰岩		40.0	69.5	63.0	183.0
石核	84	Ｊ12	22	角岩質チャート		35.0	73.0	56.9	225.7
石核	85	Ｊ12	5	頁岩		30.0	55.0	78.0	145.8
石核	86	Ｊ12	3	頁岩		32.0	69.0	75.0	257.5
石核	87	Ｌ12	2	頁岩		68.0	131.0	70.0	752.4
石核	88	Ｋ11	7	溶結火砕岩		51.0	112.0	128.0	828.0
石核	89	Ｊ12	12	輝石安山岩		68.0	110.0	67.0	474.0
石核	90	Ｊ12	15	黒色緻密安山岩		98.0	145.0	113.0	1952.0
石核	91	Ｌ11	13	溶結火砕岩		58.0	78.0	61.0	263.9
石核	92	Ｌ11	12	溶結火砕岩		55.5	69.5	56.0	182.6
石核	93	Ｋ17	51	黒色緻密安山岩		39.0	151.0	135.0	865.0

⑺　敲石・磨石・凹石〈第35～39図〉

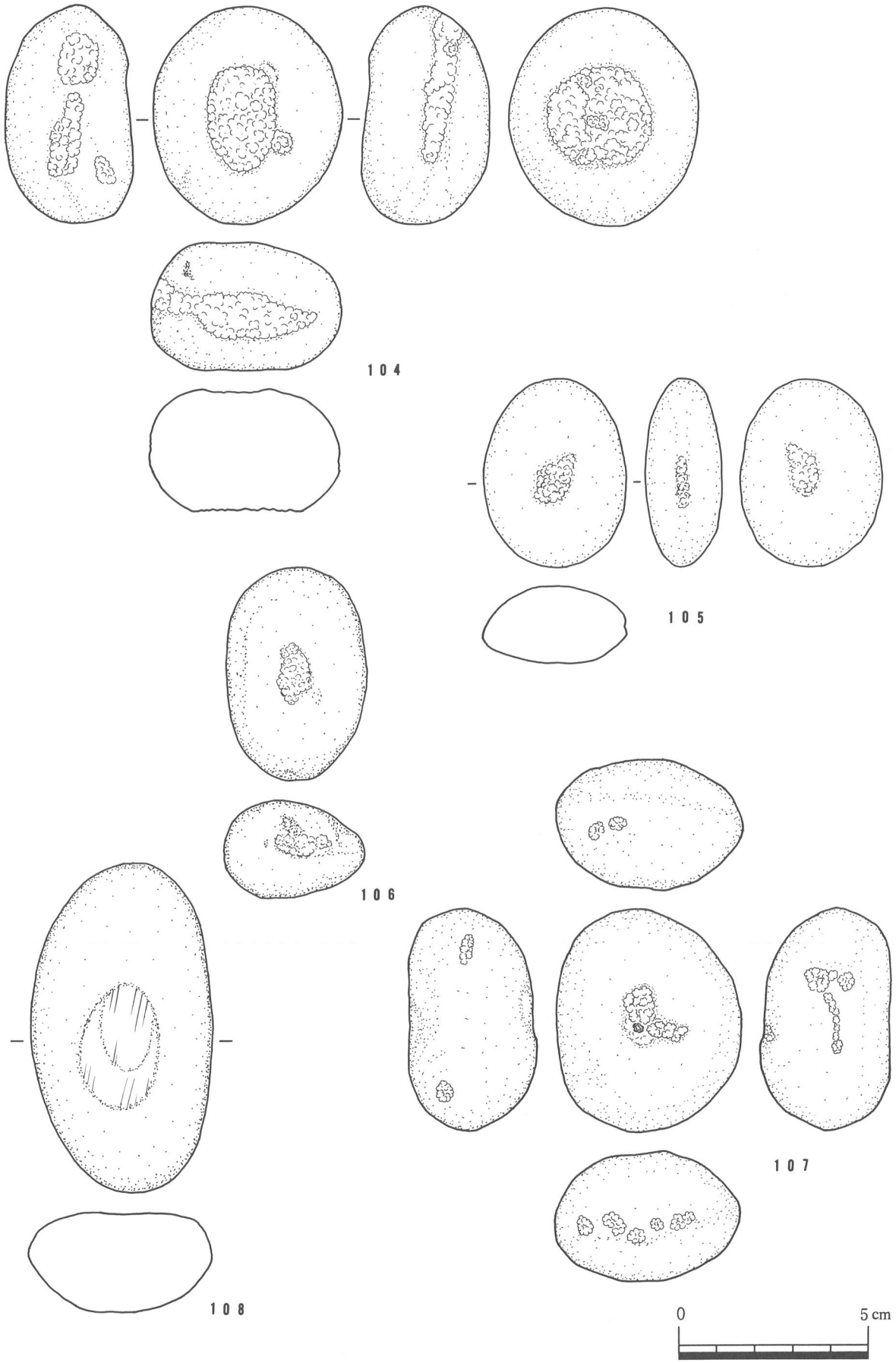
玄武岩と安山岩を石材として選択している。敲石９点（94～102）、磨石14点（108～121）、凹石１点（103）、敲石・凹石の複合石器４点（104～107）、敲石・磨石の複合石器４点（122～125）である。このうち敲石は、礫の先端に敲打痕が観察されるもの（94～99）と、敲打痕が礫の縁辺部に及ぶもの（100～102）と２種類に分類できる。



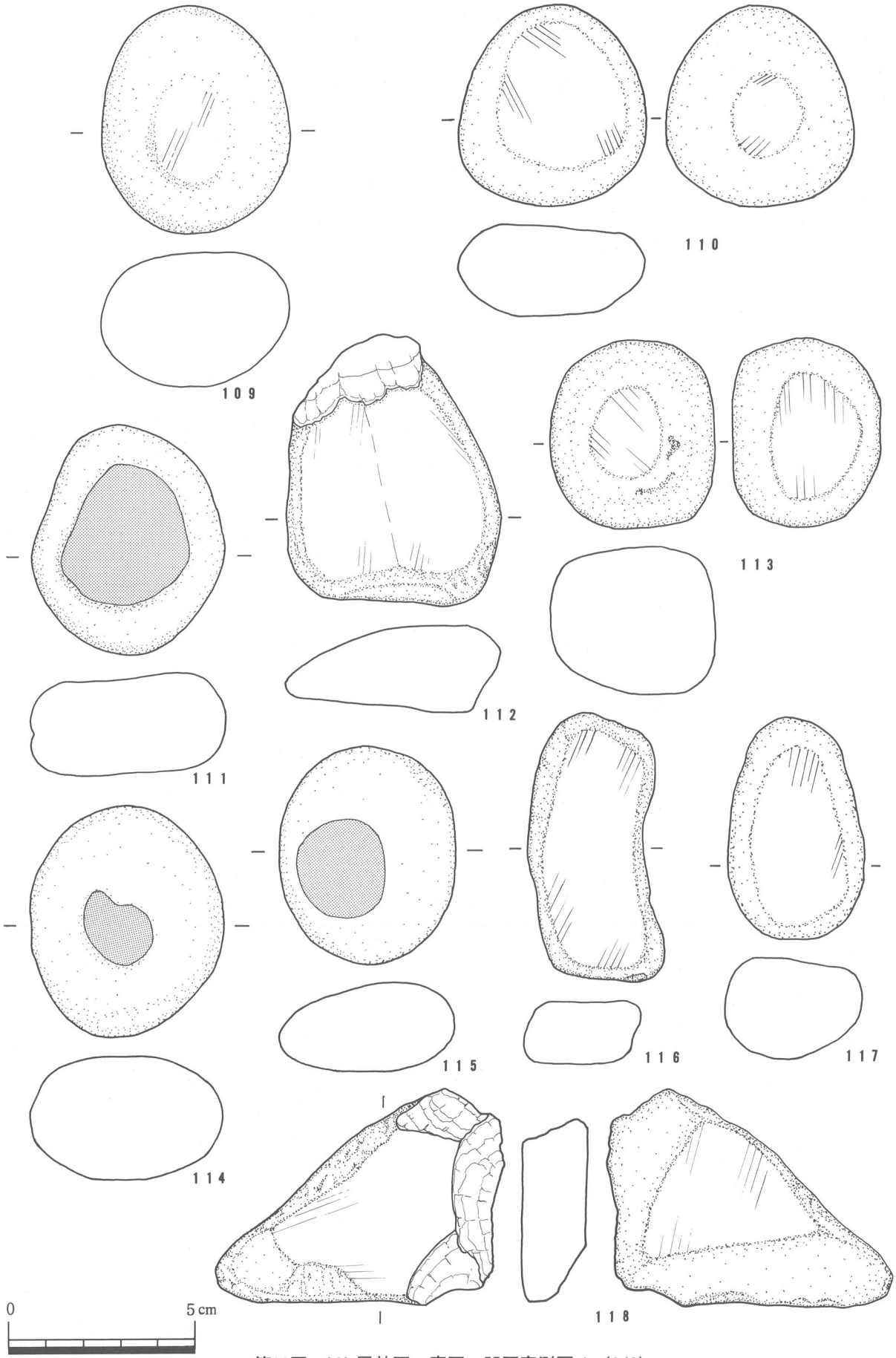
第35図　ＹＬ層敲石・磨石・凹石実測図１（1/3）



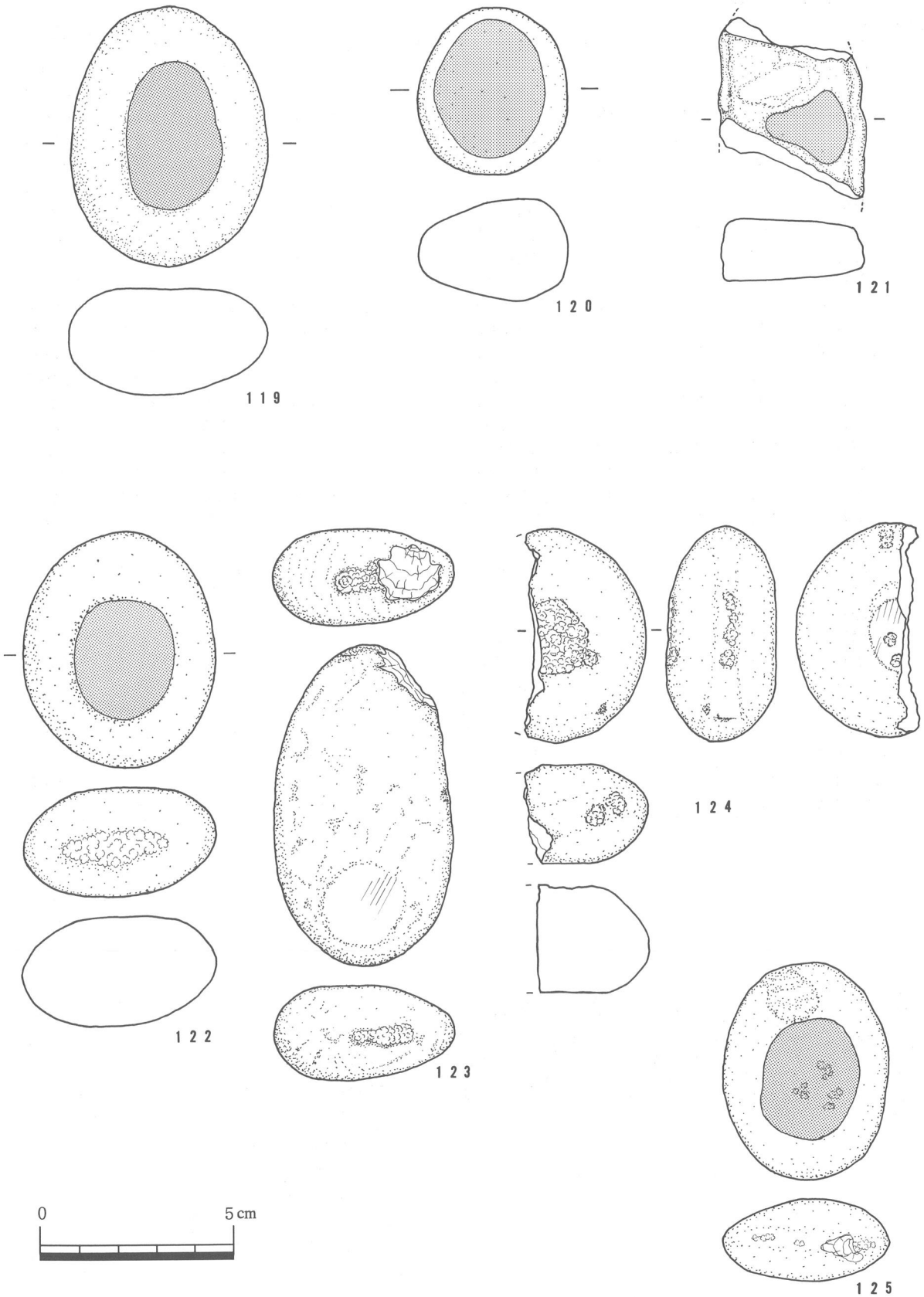
第36図　ＹＬ層敲石・磨石・凹石実測図２（1/3）



第37図　ＹＬ層敲石・磨石・凹石実測図３（1/3）



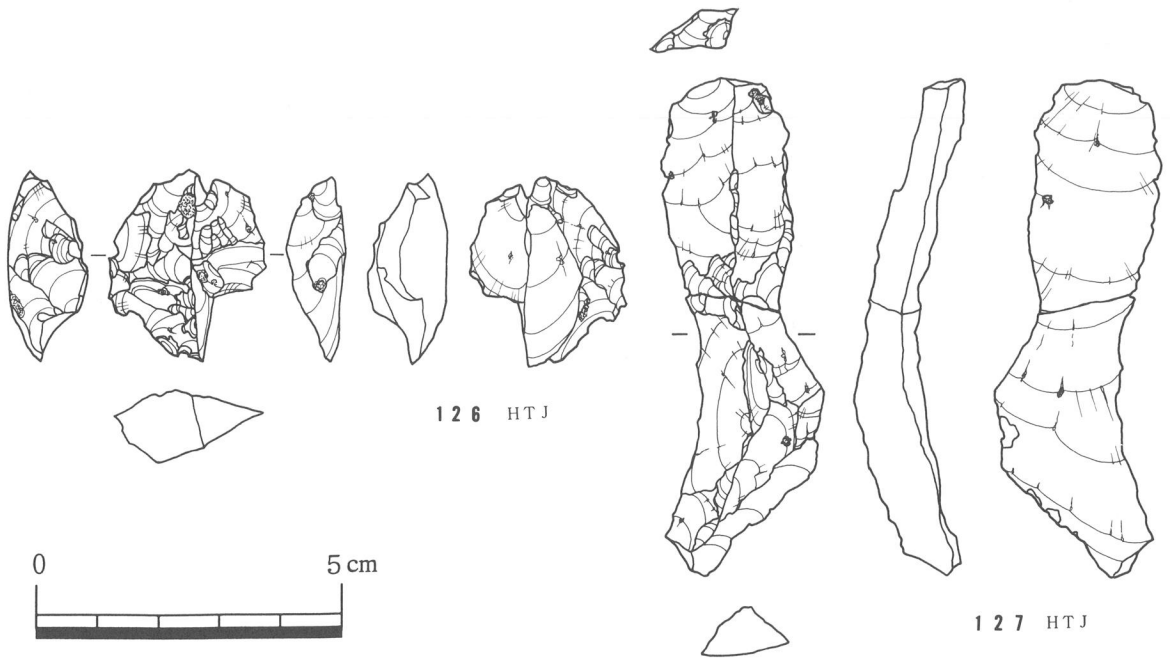
第38図　ＹＬ層敲石・磨石・凹石実測図４（1/3）



第39図　ＹＬ層敲石・磨石・凹石実測図５（1/3）

表９　ＹＬ層敲石・磨石・凹石計測表

器種	ＮＯ.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長㎜	最大横長㎜	最大厚㎜	重量ｇ
敲石	94	Ｊ12	21	玄武岩		146.0	79.0	70.0	1373.0
敲石	95	Ｊ11	13	玄武岩		127.0	94.5	69.0	1240.0
敲石	96	Ｊ11	16	玄武岩		139.0	82.0	64.0	1066.0
敲石	97	Ｌ12	3	輝石安山岩		144.0	88.5	70.0	1320.0
敲石	98	Ｊ12	10	輝石安山岩		134.5	115.0	60.0	960.0
敲石	99	Ｊ16	16	玄武岩		310.0	157.0	135.0	9500.0
敲石	100	Ｋ16	2	輝石安山岩		91.5	79.5	53.0	530.0
敲石	101	Ｌ16	6	玄武岩質溶岩		101.5	98.5	35.0	265.5
敲石	102	Ｌ12	1	輝石安山岩		153.5	113.0	87.0	2200.0
凹石	103	Ｊ11	19	玄武岩		133.5	95.0	53.0	935.0
敲石・凹石	104	Ｌ11	10	玄武岩		111.0	101.0	78.0	1069.4
敲石・凹石	105	Ｊ11	5	花崗閃緑岩		99.0	76.0	41.0	399.5
敲石・凹石	106	Ｋ11	3	玄武岩		113.5	74.5	52.0	609.0
敲石・凹石	107	Ｌ11	11	玄武岩		118.5	109.0	69.0	1240.0
磨石	108	Ｋ11	5	玄武岩		174.0	96.0	54.0	1300.0
磨石	109	Ｊ11	11	玄武岩		123.0	102.0	73.0	1365.0
磨石	110	Ｊ12	20	輝石安山岩		109.0	102.5	50.0	817.8
磨石	111	Ｍ12	3	輝石安山岩		124.0	105.5	56.0	1005.0
磨石	112	Ｊ12	8	角閃石輝石安山岩		116.5	97.5	49.0	1122.0
磨石	113	Ｌ11	1	輝石安山岩		102.0	90.0	80.0	1034.0
磨石	114	Ｊ12	18	玄武岩		125.0	106.5	67.0	1265.0
磨石	115	Ｊ12	17	石英安山岩		118.0	97.0	48.0	743.8
磨石	116	Ｊ11	7	輝石安山岩		146.0	75.0	34.0	620.0
磨石	117	Ｊ11	12	玄武岩		119.5	74.0	55.0	734.0
磨石	118	Ｊ12	9	輝石安山岩		117.0	157.0	42.0	850.0
磨石	119	Ｊ12	19	輝石安山岩		135.0	103.0	56.0	1100.0
磨石	120	Ｉ18	3	輝石安山岩		87.5	80.0	53.0	500.3
磨石	121	Ｌ17	2	輝石安山岩		93.5	87.5	32.0	300.0
敲石・磨石	122	Ｌ11	2	輝石安山岩		122.5	100.5	57.0	780.0
敲石・磨石	123	Ｊ11	15	輝石安山岩		167.0	84.0	50.0	1090.0
敲石・磨石	124	Ｊ11	17	輝石安山岩		111.0	65.0	58.0	535.5
敲石・磨石	125	Ｋ11	9	緑色砂岩		123.0	87.0	43.0	607.7

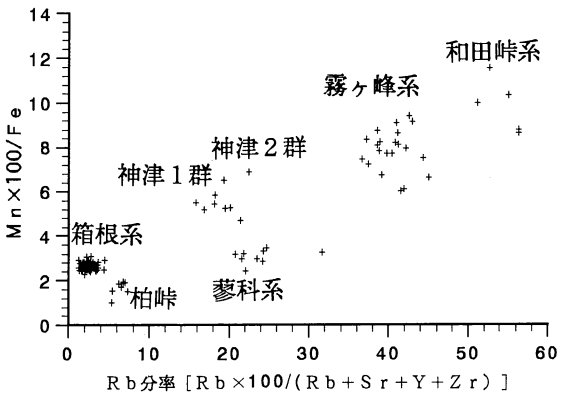


第40図　ＹＬ層石器接合資料（4/5）

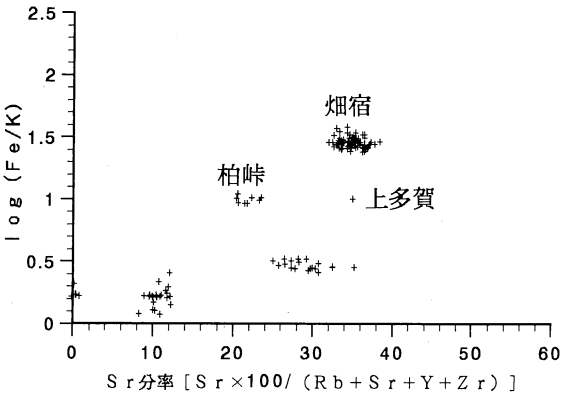
5　個体別資料分類

(1)　蛍光X線分析

沼津工業高等専門学校の望月らにより、中部地方の遺跡に搬入されている可能性のある黒耀石を、各原産地から採集し、エネルギー分散蛍光X線分析装置により、原産地試料の測定・分析が行われている。測定の結果、試料から検出されたアルミニウム（Al）、ケイ素（Si）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）、マンガン（Mn）、鉄（Fe）、ルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）、イットリウム（Y）、ジルコニウム（Zr）の11元素の蛍光X線強度に基づいて、原産地の判別を行っている。各原産地の判別方法は、Rb分率＝$\frac{\text{Rb 強度}\times 100}{\text{Rb 強度}+\text{Sr 強度}+\text{Y 強度}+\text{Zr 強度}}$をX軸に、Mn／Fe＝Mn強度×100/FeをY軸にとり、各原産地の分析資料をドットでおとし、原産地群を確定していくというものである。この結果、各原産地は、和田峠系、霧ヶ峰系、男女倉系、蓼科系、天城系、箱根系、神津島系の７つの系統に分類され、さらに男女倉系は３群に、神津島系は２群に分類できるというデータを得ている。また、箱根系については、Sr分率＝$\frac{\text{Sr 強度}\times 100}{\text{Rb 強度}+\text{Sr 強度}+\text{Y 強度}+\text{Zr 強度}}$をX軸に、log（Fe／K）をY軸にとる図化作業を行い、畑宿、鍛冶屋、芦ノ湯、上多賀に細分類している。本遺跡出土の黒耀石についても、上記の分析方法に則り、各層位ごとの原産地推定を行った。この結果、男女倉系を除く６系統の原産地からの搬入があり、畑宿産の黒耀石が大半を占めることが判った。なお、直径３㎜以下の資料と非常に薄い資料については測定値が不安定なため、分析の対象からは除いてある。分析・判別方法等の詳細については『下原遺跡Ⅱ』で、望月の考察を掲載する予定である。



第41図　遺跡内出土黒耀石の原産地判別



第42図　箱根系原産地判別

〈参考文献〉

望月明彦・池谷信之他「遺跡内における黒曜石製石器の原産地別分布について」『静岡県考古学研究』26　1994

(2)　個体別資料分類

上記の蛍光X線分析による黒耀石の原産地分析結果をもとに、肉眼により、次の表に示す各項目について観察し、個体別資料分類を行った。なお、頁岩や黒色緻密安山岩については、資料分類が困難なため分類作業は行っていない。

表10　個体別資料分類表

	個体別番号	色調	含有物・その他	光沢	自然面
1	ＫＳＷ１	灰黒色不透明	灰黒色の流理が全体に見られる	ガラス光沢に富む	不明
2	ＫＳＷ２	灰黒色不透明	灰色の流理や微細な気泡が全体に見られる	ガラス光沢に富む	不明
3	ＫＳＷ３	黒色不透明～半透明	１㎜程度の球顆を全体に少々含む。灰色の微細な縞が僅かに見られる	ガラス光沢に富む	不明
4	ＫＭＴ１	黒色不透明	灰黒～黒色の流理が見られ、１㎜程度の球顆を僅かに含む	ガラス光沢は鈍い	不明
5	ＫＭＴ２	漆黒色不透明	微細な白斑が僅かに見られる	ガラス光沢は鈍い	不明
6	ＨＴＪ１	黒色不透明	灰色の微細な気泡状の縞が全体に見られ、１㎜程度の球顆を少々含む。細かい裂開が多く見られる	ガラス光沢に富む	不明
7	ＨＴＪ２	漆黒色不透明	黒色の微細な流理が見られ、１㎜程度の気泡や白斑を僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明
8	ＨＴＪ３	漆黒色不透明	黒色の微細な流理が見られ、１㎜程度の気泡や白斑を僅かに含む	ガラス光沢に富む	なめらか
9	ＨＴＪ４	漆黒色不透明	黒色の微細な流理が見られ、１㎜程度の球顆を全体に含む	ガラス光沢に富む	なめらか
１０	ＨＴＪ５	漆黒色不透明	灰黒色の微細な流理が見られ、１㎜程度の球顆や気泡を全体に含む。細かい裂開が多く見られる	ガラス光沢に富む	なめらか
１１	ＨＴＪ６	漆黒色不透明	１㎜程度の球顆や気泡を全体に含み、細かい裂開が多く見られる	ガラス光沢に富む	不明
１２	ＨＴＪ７	黒色半透明	灰色～灰黒色の縞が一部に見られ、１㎜程度の球顆や細かい裂開が全体に見られる	ガラス光沢に富む	なめらか
１３	ＨＴＪ８	黒色半透明～不透明	灰色～灰黒色の流理が全体に見られ、１㎜程度の白斑や細かい裂開が全体に見られる。	ガラス光沢に富む	なめらか
１４	ＴＴＳ１	黒色半透明	黒色微粒子や0.5～１㎜程度の球顆が全体に多く散在する	ガラス光沢に富む	不明
１５	ＴＴＳ２	赤褐色半透明	茶色の微粒子が全体に多く散在し、微細な縞も見られる	ガラス光沢に富む	不明
１６	ＴＴＳ３	暗赤褐色不透明	暗茶色～黒色の流理が全体に見られ、0.5～１㎜程度の白斑が少し散在する	ガラス光沢に富む	なめらか
１７	ＴＴＳ４	黒色透明	黒色の縞が全体に見られ、１㎜程度の球顆が少々散在する	ガラス光沢は鋭い	不明
１８	ＴＴＳ５	薄煙色透明	薄茶色の縞が少々見られる。黒色微粒子を僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明

	個体別番号	色調	含有物・その他	光沢	自然面
１９	ＴＴＳ６	黒色透明	黒色粒子や１㎜程度の球顆が全体に散在する	ガラス光沢は鋭い	不明
２０	ＫＲＭ１	薄煙色透明	黒色の微細な粒子状の縞や、縞に沿って黒色粒子が散在する。一部に微細な球顆を含む	ガラス光沢は鋭い	不明
２１	ＫＲＭ２	薄煙色透明	黒色の微細な粒子状の縞や微細な気泡が散在する	ガラス光沢に富む	不明
２２	ＫＲＭ３	薄煙色透明	白色の微細な粒子状の縞や、１㎜程度の球顆が一部に見られる	ガラス光沢に富む	不明
２３	ＫＲＭ４	黒色半透明	黒色微粒子が全体に多く散在する。１㎜程度の白色粒子を僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明
２４	ＫＲＭ５	黒色半透明	黒色微粒子の微細な縞が無数に見られる	ガラス光沢に富む	不明
２５	ＷＤＴ１	黒色不透明～半透明	黒～こげ茶の微粒子が全体に多く散在し、細やかな縞を作る	ガラス光沢に富む	不明
２６	ＷＤＴ２	薄黒色透明	黒色の微粒子や細やかな縞が全体に見られる	ガラス光沢は鋭い	スリガラス状で、一部発泡する
２７	ＷＤＴ３	煙色透明	灰色～灰黒色の細やかな縞が全体に見られる	ガラス光沢は鋭い	スリガラス状
２８	ＷＤＴ４	薄煙色透明	灰黒色の微粒子が全体に散在し、３㎜程度の球顆を一部に含む	ガラス光沢に富む	不明
２９	ＫＯＺ１－１	黒色半透明	黒灰色微粒子の微細な縞が無数に見られる	ガラス光沢に富む	不明
３０	ＫＯＺ１－２	黒色半透明	黒色粒子の微細な縞が無数に見られる	ガラス光沢は鋭い	不明
３１	ＫＯＺ１－３	黒色半透明～不透明	黒色粒子の縞が無数に見られる。１㎜程度の白斑を僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明
３２	ＫＯＺ１－４	黒色半透明	黒色微粒子が全体に多く散在する	ガラス光沢は鈍い	不明
３３	ＫＯＺ１－５	黒色透明	黒色粒子の微細な縞が無数に見られる。１㎜程度の球顆を僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明
３４	ＫＯＺ２－１	黒色透明	黒色粒子の微細な縞が無数に見られる	ガラス光沢に富む	不明

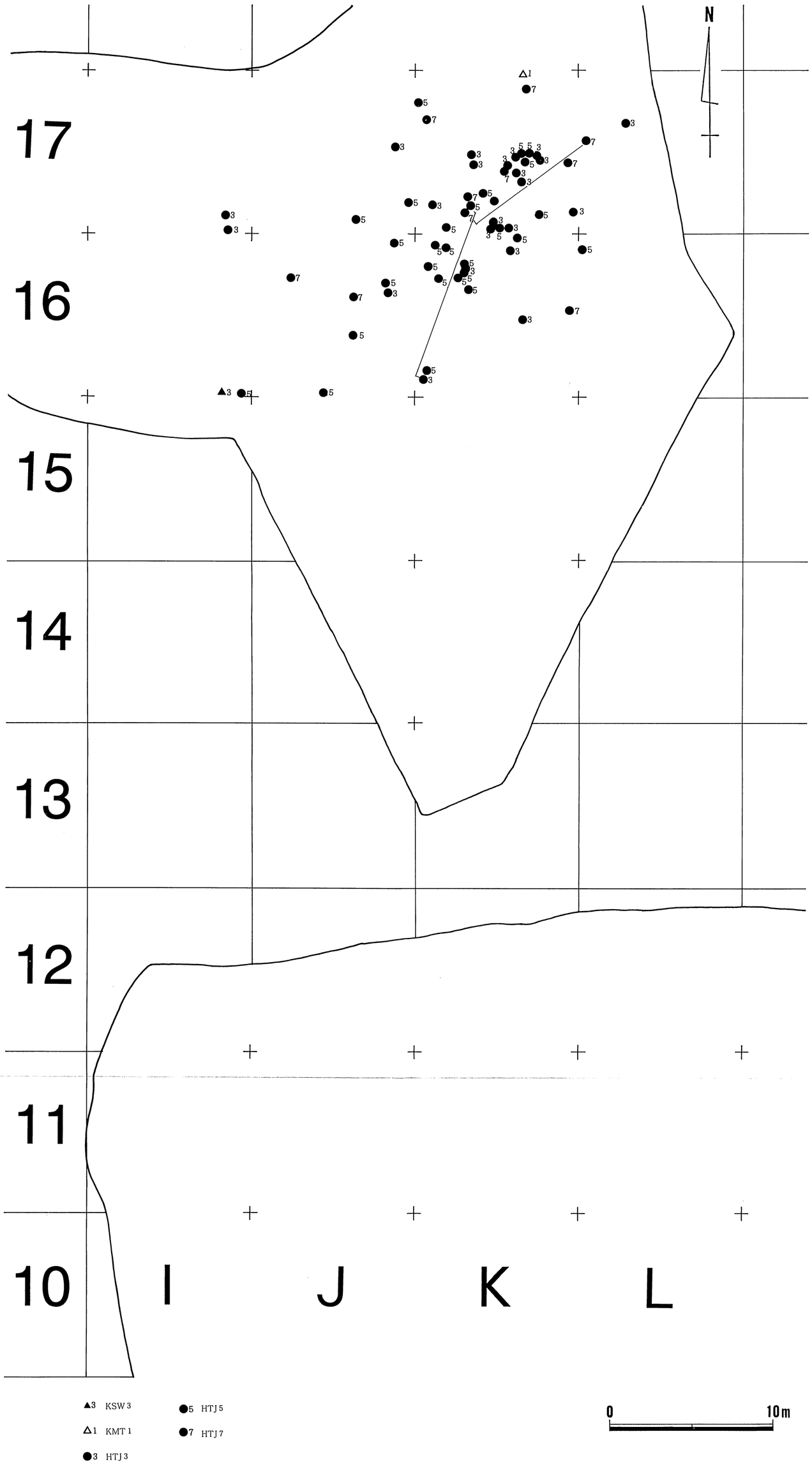
ＫＳＷ－柏峠（天城系）　ＫＭＴ－上多賀（箱根系）　ＨＴＪ－畑宿（箱根系）　ＴＴＳ－蓼科系
ＫＲＭ－霧ヶ峰系　ＷＤＴ－和田峠系　ＫＯＺ１－神津１群（恩馳島・沢尻湾・長浜）　ＫＯＺ２－神津２群（砂糠崎・長浜）

6　個体別資料の分布〈第43～45図〉

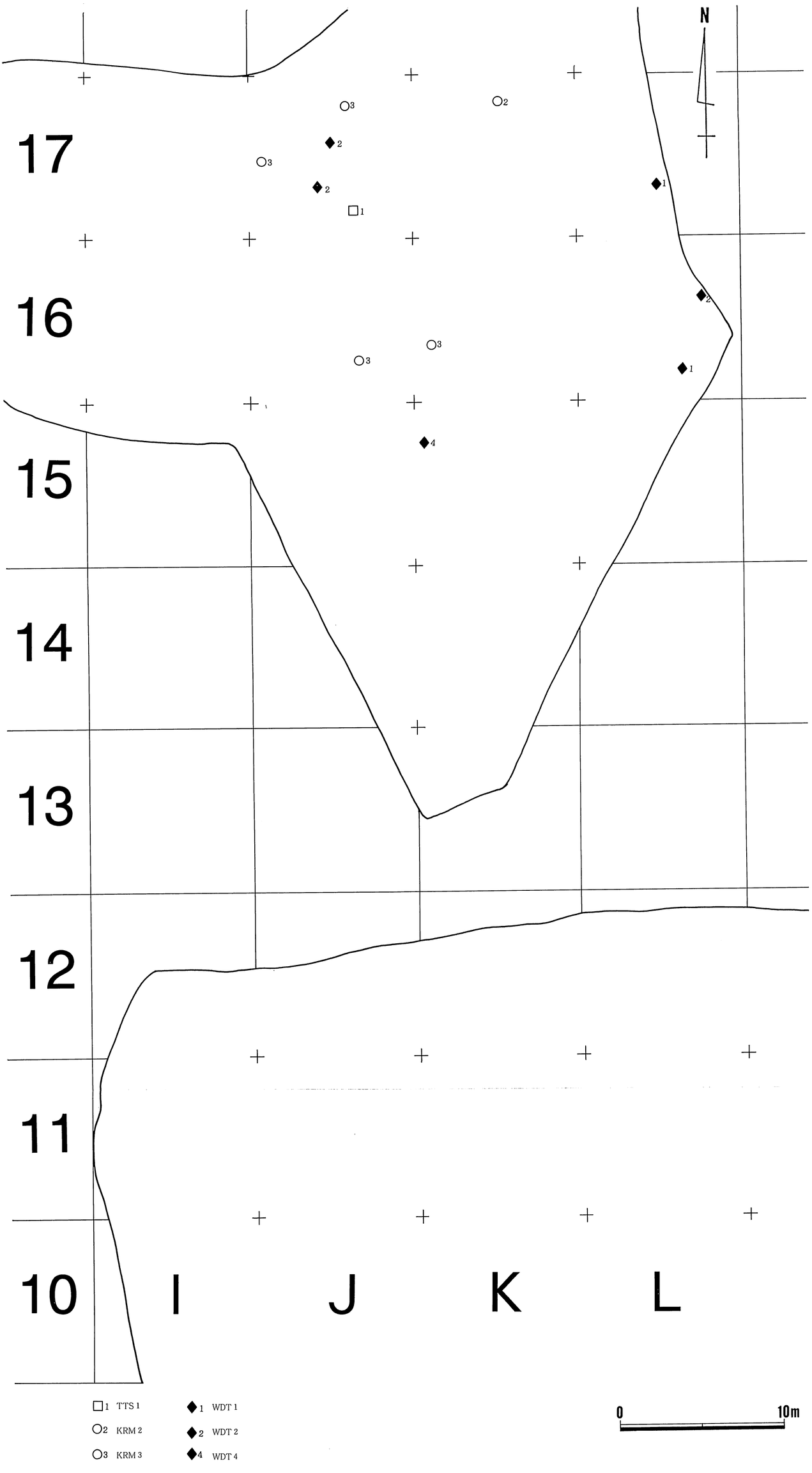
信州系、箱根系、天城系、神津島系の４系統の黒耀石が搬入されているが、主体となるのは箱根系の黒耀石で、畑宿産が全体の約80％を占めており、他に上多賀産が１点含まれる。なお、畑宿産の風化が進んだ黒耀石は、上多賀産のものと同様な測定値を示すことがある。遺跡内の出土資料は、新鮮面を出して測定を行っていないことから、上多賀産の１点については、畑宿産の可能性もある。信州系の黒耀石は、蓼科産１点、霧ヶ峰産５点、和田峠産７点と少なく、天城系の柏峠産と神津島系のものも１点ずつであることから、１つの原産地に依存しているという状況が窺える。畑宿産は、調査区中央やや北寄りの、Ｊ－16グリッドからＫ－17グリッドにかけて約18m×12mの範囲で、楕円状に比較的集中したかたちで分布し、畑宿産のものだけで構成される。Ｋ－16グリッド北部からＫ－17グリッド中央部にかけて石器が最も集中し、この地点で剥片剥離が行われたと考えられる。接合関係も２例認められる。個体別の分布状況は、HTJ 3が集中箇所の北東部に中心を持ち、HTJ 5が集中箇所の南西部に中心を持つ。HTJ 7は集中箇所の周辺部に分布するという状況である。製品は、ナイフ形石器１点（表採）、掻器３点、削器２点が出土している。掻器３点のうちHTJ 5は、石器が最も集中する地点から出土している。なお、削器のHTJ 1とU剥片のWDT 3の出土層位はFB層であるが、形態からYL層の石器として扱った。M－12グリッドから出土している。Ｋ－16グリッドから出土したHTJ 3の削器は、Ｋ－17グリッドの剥片と接合する。畑宿産以外のものは、集中部周辺を環状に取り囲むようなかたちで、散漫に分布している状況である。これら信州系を中心とした畑宿産以外の石器は、調査区内で剥片剥離が行われた痕跡は認められず、製品・剥片として単独で調査区外から持ち込まれたと考えられる。TTS 1とWDT 4の各１点は、いずれもナイフ形石器で、それぞれ単独で出土している。霧ヶ峰産は、使用痕のある剥片が２点、Ｊ－17グリッドで出土している。また、全ての原産地をとおして黒耀石製の石核は１点も出土していない。

表11　個体別資料別石器器種組成表

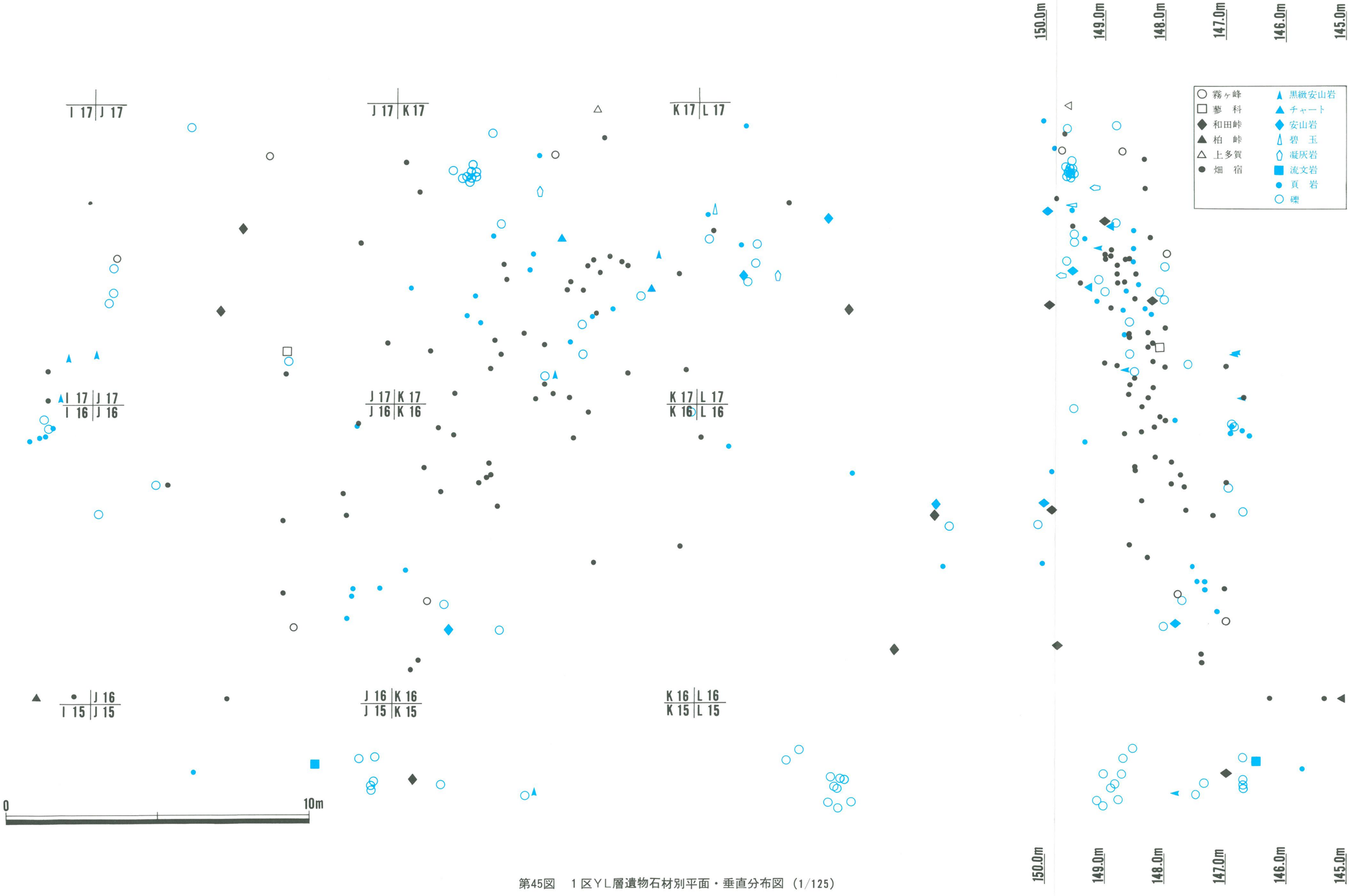
	KSW3	KMT1	HTJ1	HTJ3	HTJ5	HTJ7	TTS1	KRM2	KRM3	WDT1	WDT2	WDT3	WDT4	KOZ1－4	測定不能品
ナイフ				1			1						1		
掻　器				1	1	1									
削　器			1	1							1				
U剥片									2			1			
石　刃															
石　核															
剥　片		1		13	20	9		1	1	2	2			1	1
砕　片	1			7	7				1						1
合　計	1	1	1	23	28	10	1	1	4	2	3	1	1	1	2



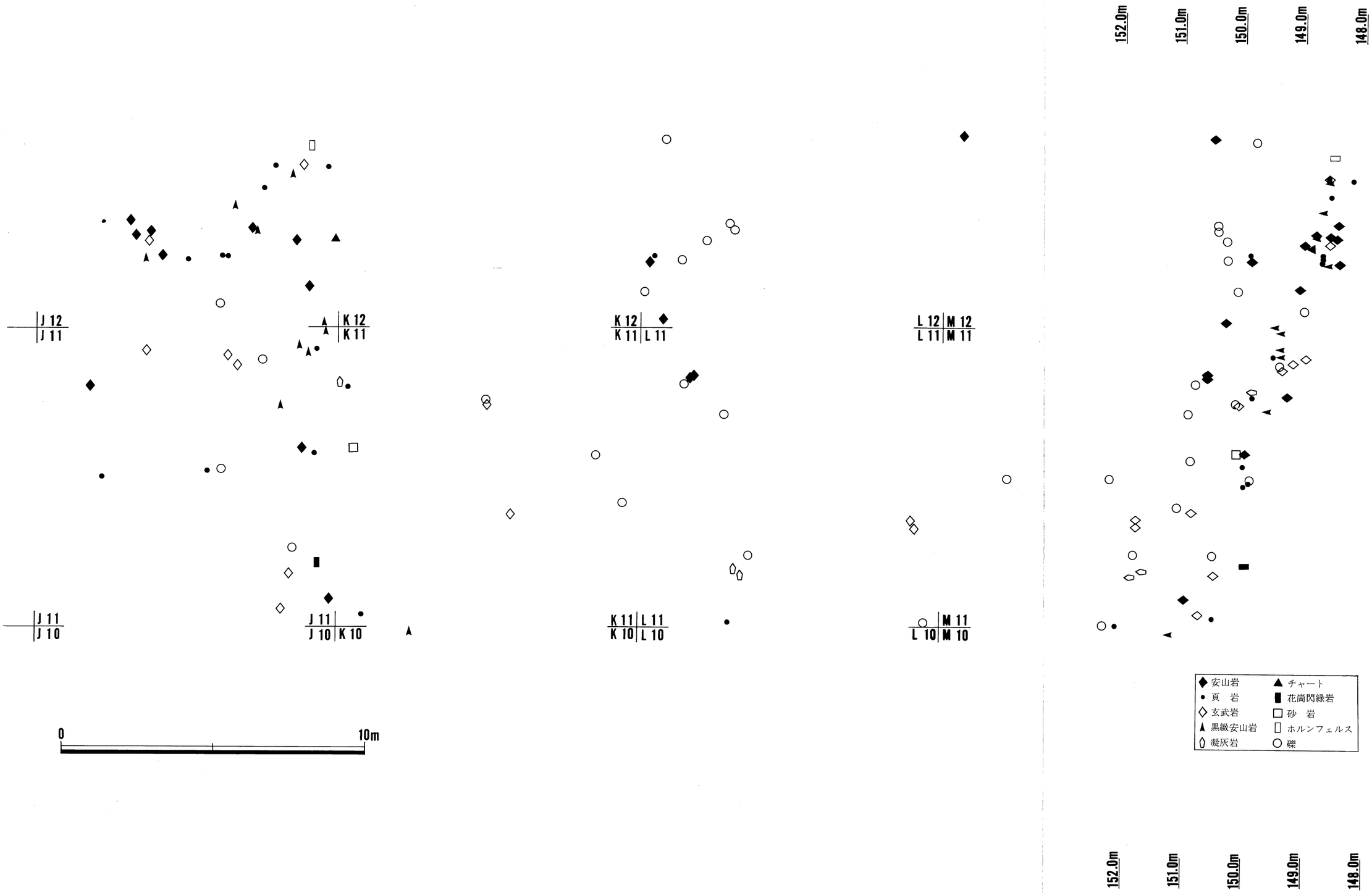
第43図　個体別資料分布図１　柏峠・上多賀・畑宿（1/200）



第44図　個体別資料分布図２　蓼科・霧ヶ峰・和田峠（1/200）



第45図　1区YL層遺物石材別平面・垂直分布図（1/125）



第46図　3区YL層遺物石材別平面・垂直分布図（1/125）

7　主要石材の分布〈第45、46図〉

本遺跡で出土している黒耀石以外の石材は、頁岩が41％と半数近くを占め、以下安山岩18％、黒色緻密安山岩16％、玄武岩12％の割合で続く。頁岩の分布は、器種により大きな偏りが見られる。石器の素材となる石核は、全て３区から出土し、Ｊ－12グリッド付近に大半が集中する。剥片の点数は４点と少ない。一方、１区からの石核の出土はなく、剥片・砕片の他に石刃が１点出土している。分布状況は、一部畑宿産の黒耀石が集中する箇所に重複するものも見られるが、全体に散漫であり、剥片剥離が行われた痕跡は見られない。前述したように、石核は、いったん調査区外に持ち出し、剥片剥離作業を行った後、再び持ち込まれた可能性がある。黒色緻密安山岩は、石核が２点出土しているが、剥片数は９点と少なく、分布も散漫な状況である。頁岩同様、調査区内では剥片剥離が行われていないと考えられる。また、原石が５点持ち込まれており、Ｊ－11グリッドからＪ－12グリッドにかけて単独で出土している。大きさは、拳大からそれより一回り大きい程度のものである。安山岩と玄武岩は、敲石や磨石の類の出土が多く、玄武岩は全て加工具である。３区に拡散的に分布し、安山岩はＪ－12グリッドに比較的集中して分布する。同グリッドから石核も１点出土している。この他、チャート、溶結火砕岩、ホルンフェルス、流紋岩を石材とする石核が、いずれも単独で出土し、凝灰岩の一種である溶結火砕岩は４点の出土を見た。それぞれ剥片の出土は見られない。

表12　主要石材別石器器種組成表

	頁岩	黒色緻密安山岩	安山岩	玄武岩	チャート	溶結火砕岩	ホルンフェルス	流紋岩	緑色砂岩	碧玉	その他
削器			1		1						
U剥片	3										
石刃	1										
石核	10	2	1		1	4	1	1			
敲石			4	5							2
凹石				1							
敲石・凹石											
磨石			10	5							
敲石・磨石			3	1					1		
剥片	26	9			1					1	1
砕片	2										
原石		5									
合計	42	16	19	12	3	4	1	1	1	1	3

第２節　休場層直下黒色帯の遺構と遺物

１　概　要

石刃２点、使用痕のある剥片１点、剥片８点、砕片１点、計12点が出土している。２箇所の石器ブロックが検出されているが、いずれも密集した在り方を示していない。石材の内訳は、畑宿産の黒耀石４点、霧ヶ峰産の黒耀石１点、頁岩５点、黒色緻密安山岩２点である。

２　石　器〈第50図〉

128は、単設打面の石核から剥離された頁岩製の石刃である。

129は、単設打面の石核から剥離された石刃であるが、礫面を多く残していることから、剥片剥離の初期の段階のものと考えられる。頁岩製。

130は、両端が切断（折断）されている。左側縁に細かい調整が施されていることから、スクレイパー的に使用されたものと考えられる。畑宿産の黒耀石製である。

３　石器ブロック

⑴　Ａブロック〈第48、49図〉

Ｊ－17グリッド西部に１ｍ×0.8mの範囲で分布し、石刃１点、剥片３点で構成され、黒耀石は含まれない。垂直分布は約26cmを測る。接合関係は見られない。

⑵　Ｂブロック〈第51、52図〉

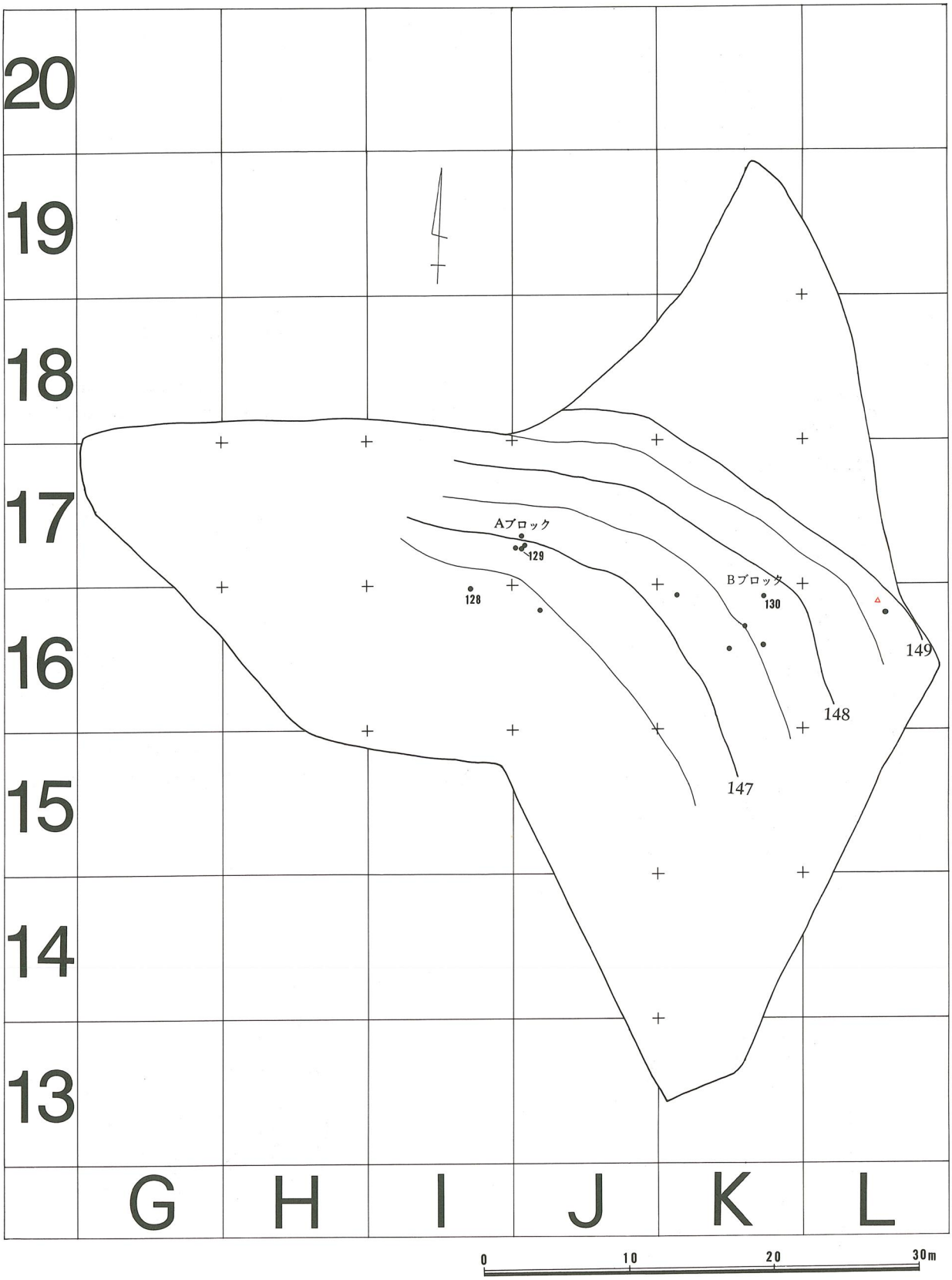
Ｋ－17グリッドの北部に位置し、黒耀石製の剥片４点で構成され、3.6m×2.4mの範囲に散漫に分布する。ブロックとして捉えることが妥当か判断しがたいが、４点中３点をHTJ 6が占めていることから、ブロックとして扱った。接合関係は認められない。

表13　ＢＢ０層石器器種組成表

	ＨＴＪ６	ＫＲＭ３	頁岩	黒緻安山岩
石刃			2	
U剥片	1			
剥片	2	1	3	2
砕片	1			
合計	4	1	5	2

表14　ＢＢ０層石器計測表

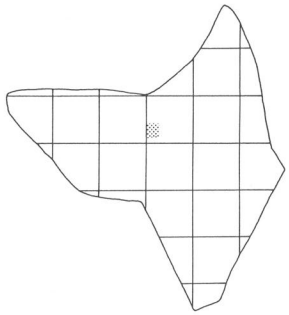
器種	ＮＯ.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長㎜	最大横長㎜	最大厚㎜	重量ｇ
石刃	128	Ｉ16	1	頁岩		87.0	15.0	12.5	14.7
石刃	129	Ｊ17	1	頁岩		63.0	27.0	13.5	20.6
U剥片	130	Ｋ16	3	黒耀石	ＨＴＪ－６	27.0	13.5	4.5	1.3

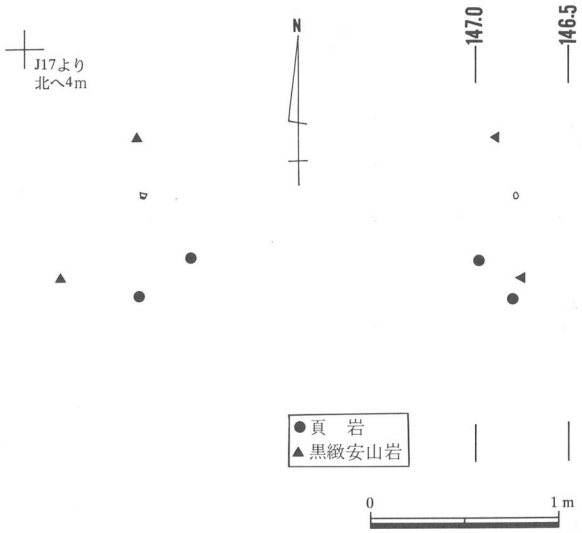


● 石器

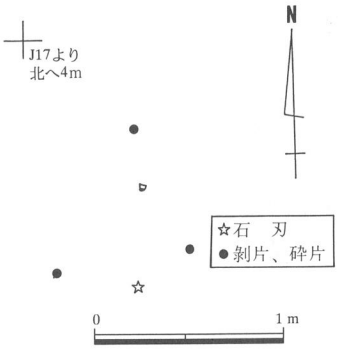
△ 礫

第47図　BB０層遺物出土状況図（1/400）

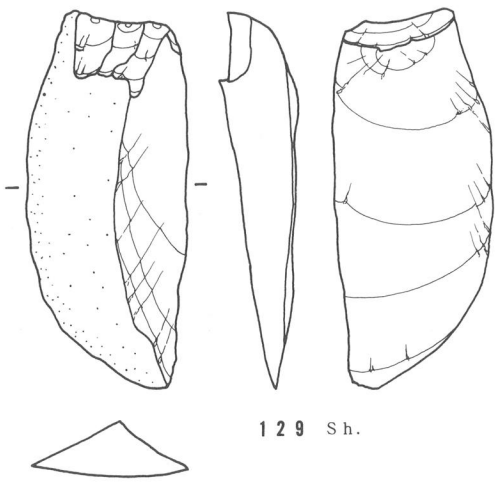


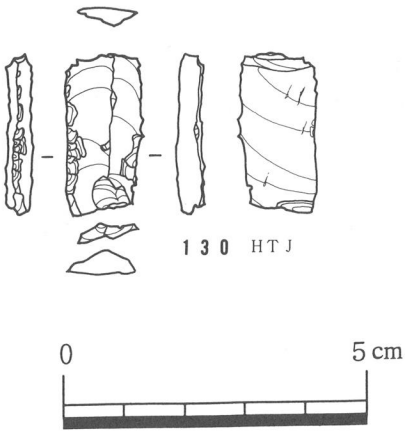


第48図　ＢＢ０層Ａブロック平面・垂直分布図（1/40）

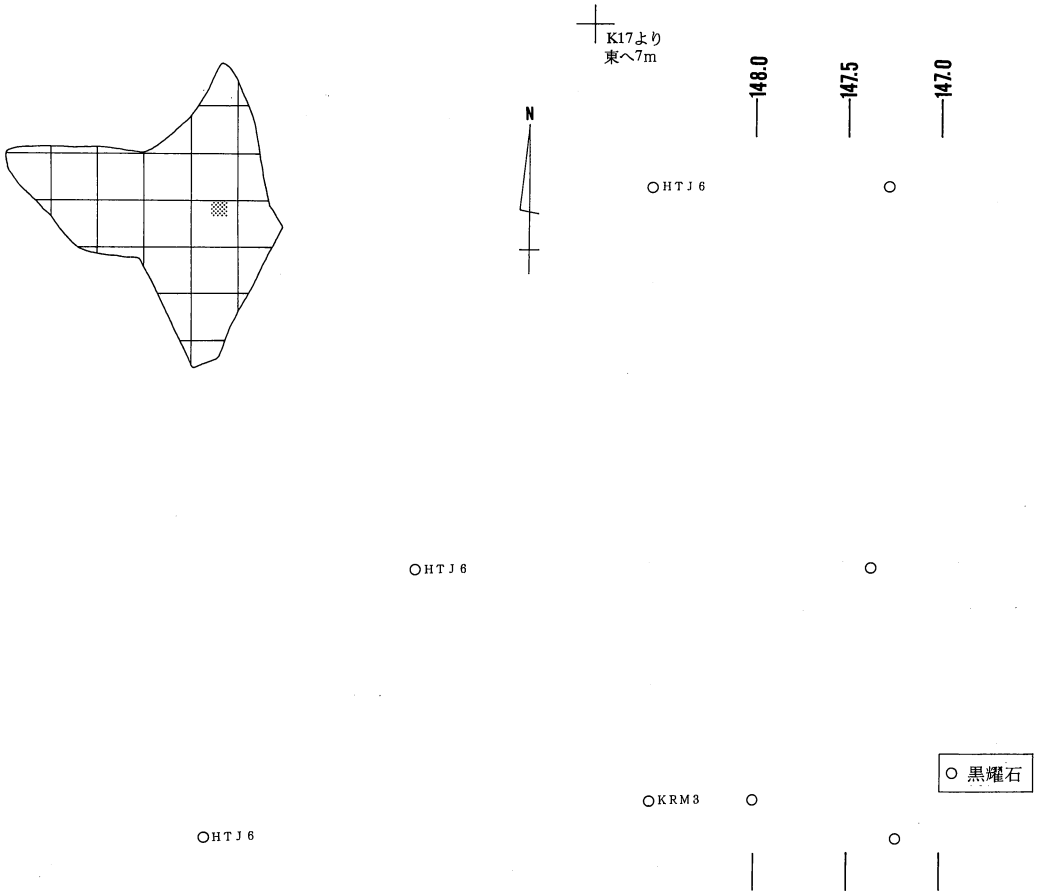


第49図　ＢＢ０層Ａブロック石器器種別分布図（1/40）

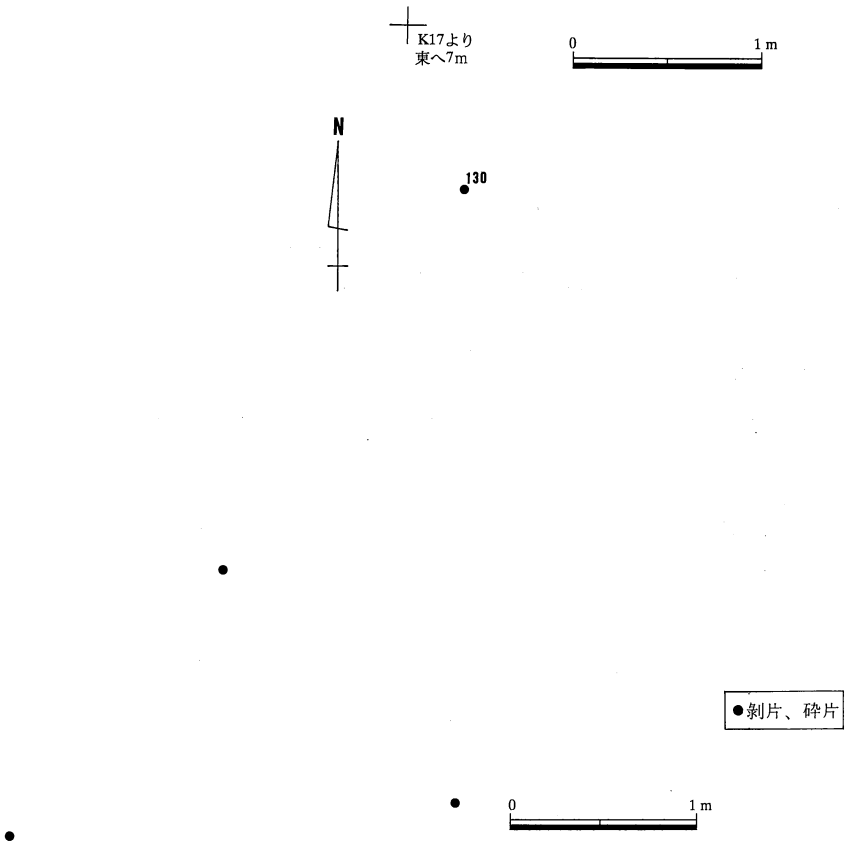




第50図　ＢＢ０層石器実測図（4/5）



第51図　BB０層Bブロック平面・垂直分布図（1/40）



第52図　BB０層Bブロック石器器種別分布図（1/40）

第３節　第Ⅰ黒色帯の遺構と遺物

１　概　要

総数21点が出土しており、器種構成はナイフ形石器１点、掻器４点、削器１点、使用痕のある剥片２点、剥片８点、砕片５点である。石器ブロックが調査区中央からやや南西寄りに１基検出されている。また、礫ブロックが石器ブロックに重複して１基検出された。なお、剥片には上多賀産のものが１点含まれるが、Ｐ.60の「個体別資料の分布」の中で触れたように、畑宿産の可能性もある。

２　石　器〈第57、58図〉

131は、頁岩製の大型のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、全体を尖頭状に仕上げたものである。縁辺部に施された調整は、平斜な鋸歯状を呈する。

132は、畑宿産の黒耀石製で、礫面の残るサイコロ状の分厚い剥片を素材とした掻器である。剥片の末端部に調整を施してある。

133は、分厚い剥片を素材とした掻器である。剥片の末端部を折断し、円形に加工されている。畑宿産の黒耀石製である。

134は、霧ヶ峰産の黒耀石製で、石刃状の剥片を用いた母指状掻器である。

135は、畑宿産の黒耀石製の掻器で、剥片の末端部に調整を施してある。

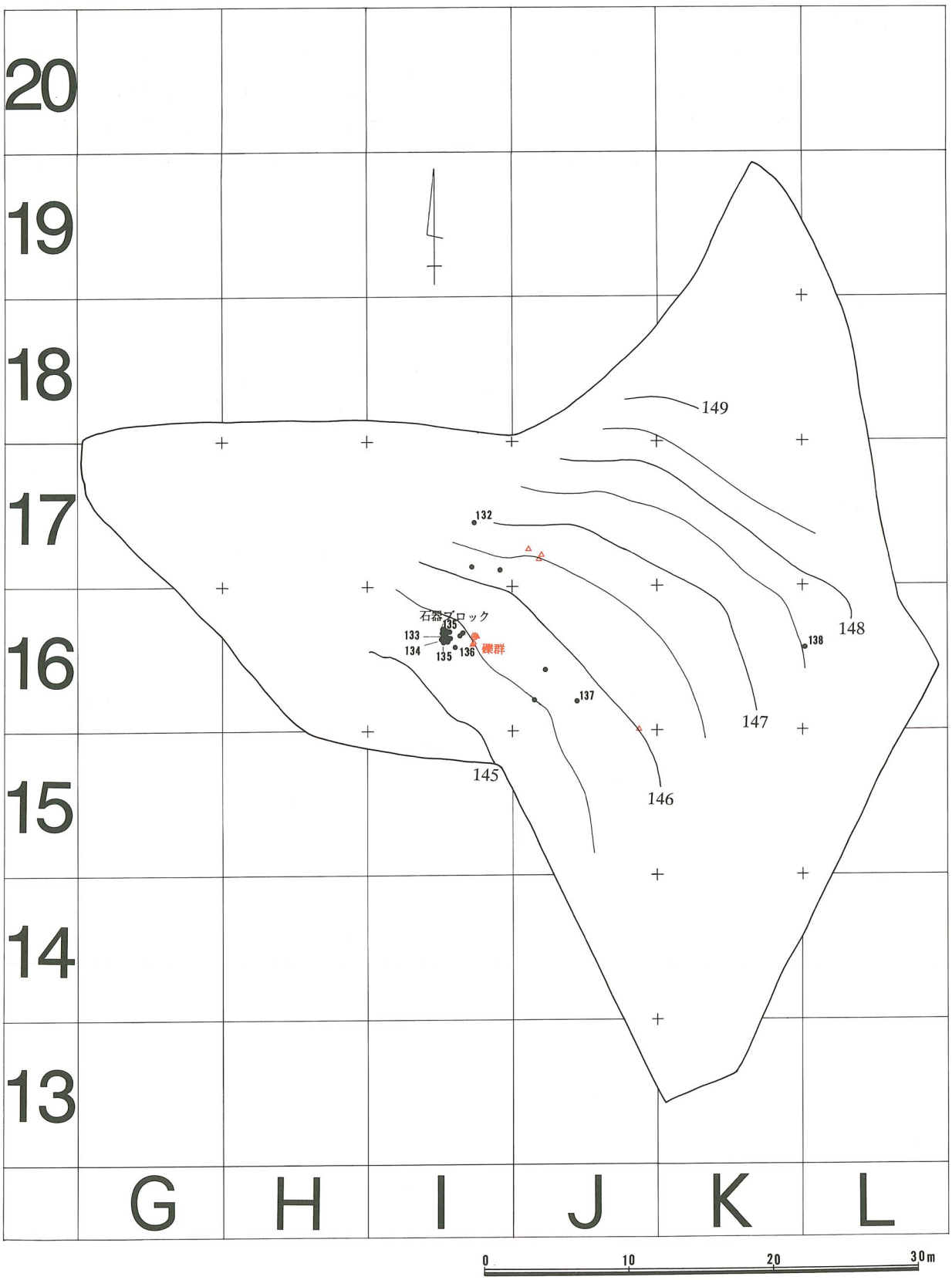
136は、分厚い縦長剥片素材の削器である。折断された末端部にも加工が施されているのが観察される。掻器の可能性もある。畑宿産の黒耀石製。

137は、端部が折断された石刃の可能性もある石器で、右側縁部に使用痕が認められる。畑宿産の黒耀石製である。

138は、裏面から折れた剥片の左側縁部に、スクレイパーエッジ状の粗い加工が施されたもので、右側縁部に使用痕が認められる。畑宿産の黒耀石製である。

表15　ＢＢⅠ層石器器種組成表

	ＫＭＴ２	ＨＴＪ４	ＨＴＪ８	ＴＴＳ２	ＫＲＭ３	測定不能	頁岩	黒色緻密安山岩
ナイフ							1	
掻器		3			1			
削器			1					
U剥片			2					
剥片	1	3		1			1	2
砕片		1			2	2		
合計	1	7	3	1	3	2	2	2



● 石器
△ 礫
▲ 礫（赤化）

第53図　BBⅠ層遺物出土状況図（1/400）

3　石器ブロック〈第54、55図〉

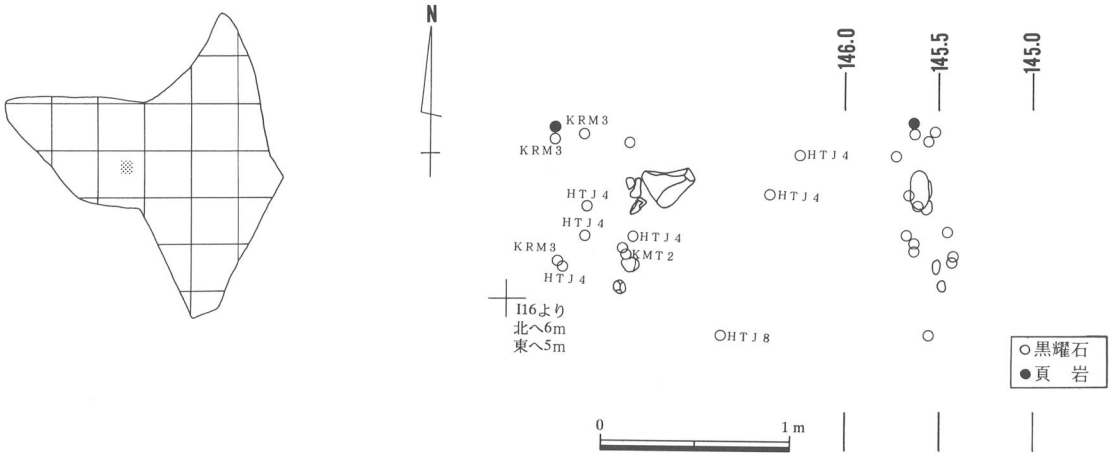
調査区南西部のＩ－16グリッド中央部付近の、標高約145.5mから検出された。ブロックは14点の石器で構成され、1.5m×1.1mの規模で分布し、ブロック内からは、６点の礫で構成される礫群が１基検出されている。石器14点の内訳は、ナイフ形石器１点、掻器３点、削器１点、剥片４点、砕片１点で、そのうち13点が黒耀石、１点が頁岩である。黒耀石は４個体が確認できるが、箱根系の割合が高く、HTJ４・HTJ８・KMT２で73%を占める。信州系はKRM３のみが認められる。接合関係は認められず、剥片剥離を行った痕跡も確認されない。

4　礫　群〈第56図〉

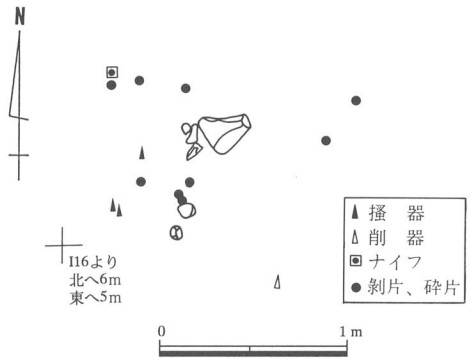
Ｉ－16グリッドの石器ブロックに重複して検出された。0.7m×0.4mの規模で分布し、垂直分布は約10cmを測り、南にやや傾斜する。６個の礫によって構成されるが、密集した在り方は示していない。最大礫4,100ｇ、最小礫100ｇ、総重量6,040ｇで、２個の赤化礫を含む。石材は、安山岩と玄武岩を主体としている。接合関係は見られない。

表16　BBＩ層石器計測表

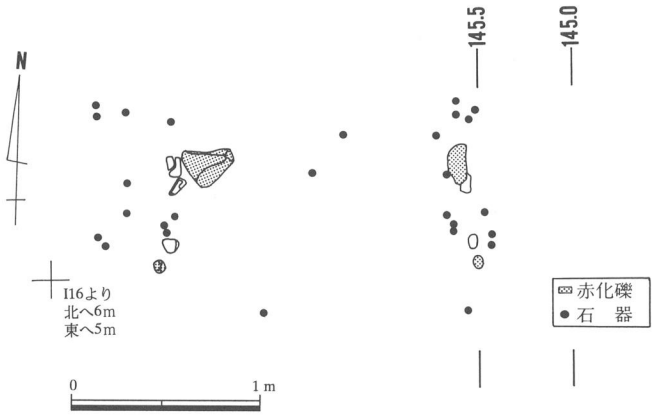
器種	NO.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量ｇ
ナイフ	131	Ｉ16	14	頁岩		66	33	15	32.7
掻器	132	Ｉ17	1	黒耀石	ＨＴＪ－4	24	28.5	18	12.6
掻器	133	Ｉ16	6	黒耀石	ＨＴＪ－4	34	40.5	19	19.1
掻器	134	Ｉ16	1	黒耀石	ＫＲＭ－3	26	19	7	3.2
掻器	135	Ｉ16	5	黒耀石	ＨＴＪ－4	26	27	7.5	3.9
削器	136	Ｉ16	15	黒耀石	ＨＴＪ－8	57	36.5	13.5	27.1
U剥片	137	Ｊ16	2	黒耀石	ＨＴＪ－8	34	29.5	6	5.1
U剥片	138	Ｌ16	1	黒耀石	ＨＴＪ－8	49	39	11	21.2



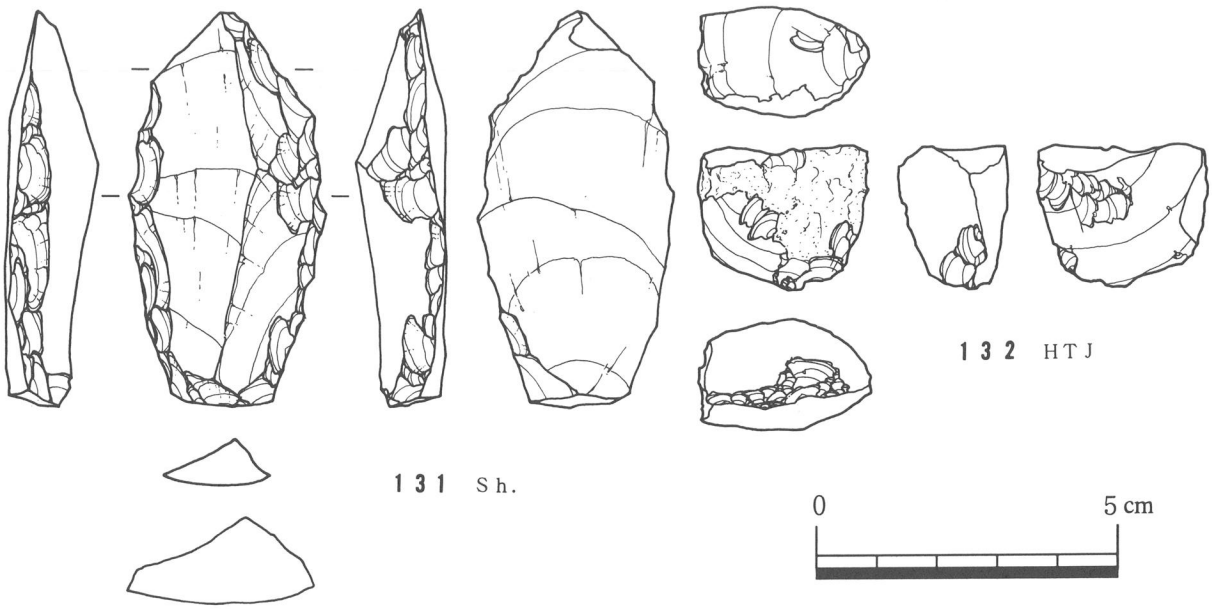
第54図　BBⅠ層石器ブロック平面・垂直分布図（1/40）



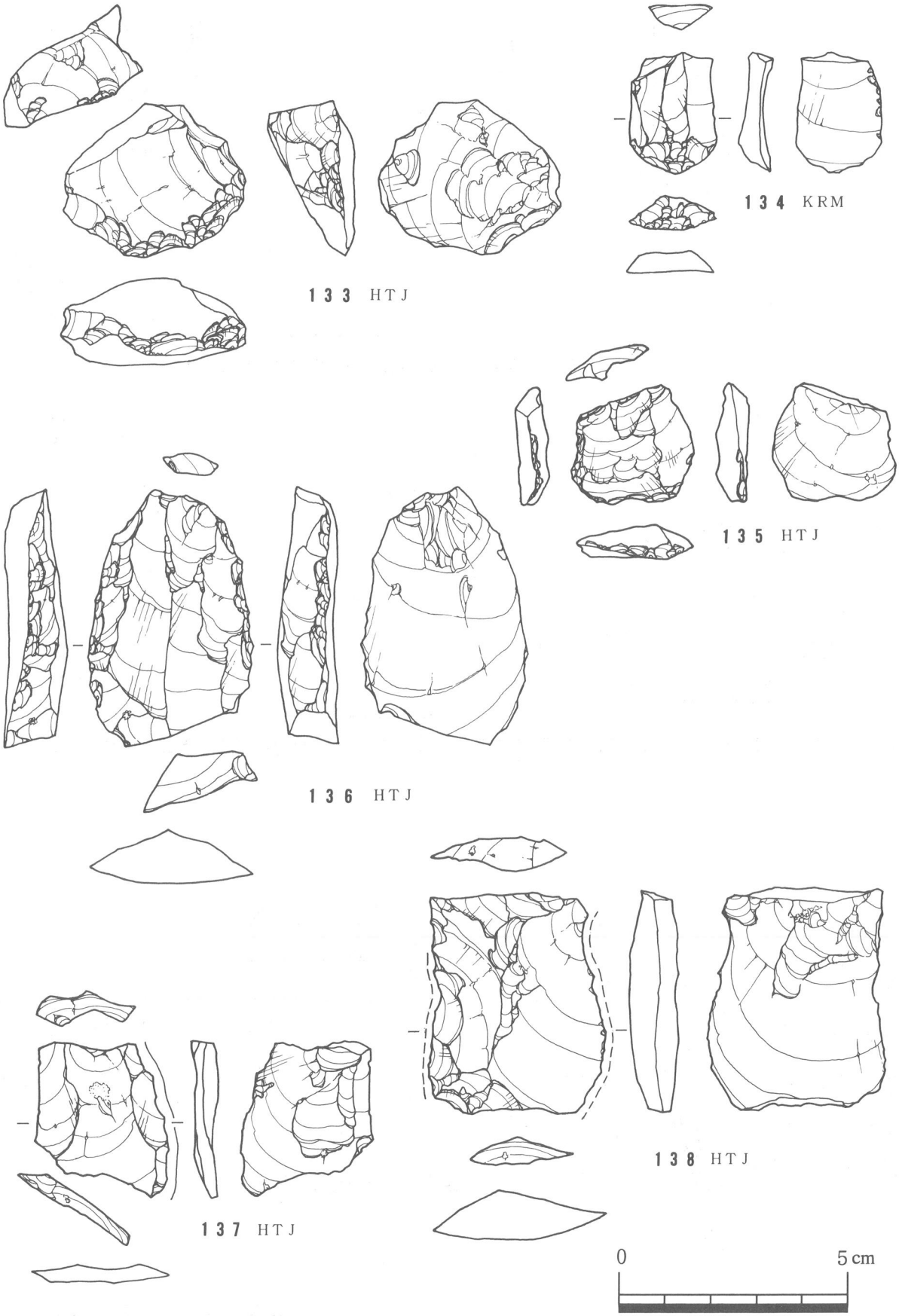
第55図　BBⅠ層石器ブロック器種別分布図（1/40）



第56図　BBⅠ層礫群平面・垂直分布図（1/40）



第57図　BBⅠ層石器実測図1（4/5）



第58図　BBⅠ層石器実測図２（4/5）

第４節　第Ⅱ黒色帯の遺構と遺物

１　概　要

本遺跡で確認できる黒色帯の中では最も遺物の出土量が多かった。石器は、削器２点、錐形石器１点、石刃１点、二次加工のある剥片１点、残核１点、磨石１点、台石２点、剥片27点、砕片１点の計36点が出土している。石器ブロックは、調査区南西部から３基、東部から１基検出され、このうちＡブロックは礫群を１基内包する。

２　石　器〈第69、70図〉

139は、黒耀石製の削器で、右側縁に細かい調整を施し、スクレイパーエッジとしている。蓼科産。

140は、左側縁にノッチ状の加工を施した蓼科産の黒耀石製の削器である。一部に刃器としての使用痕を残している。

141は、両設打面石核から剥離された珪質頁岩製の石刃で、礫面を残していることから、剥片剥離の初期の段階のものであると考えられる。

142は、貝殻状の剥片の側縁部にドリル状の加工を施した錐形石器である。蓼科産の黒耀石製。

143は、黒色緻密安山岩製の二次加工のある剥片（Ｒ剥片）で、端部に加工痕が観察される。サイドスクレイパーとして使用されていた可能性がある。

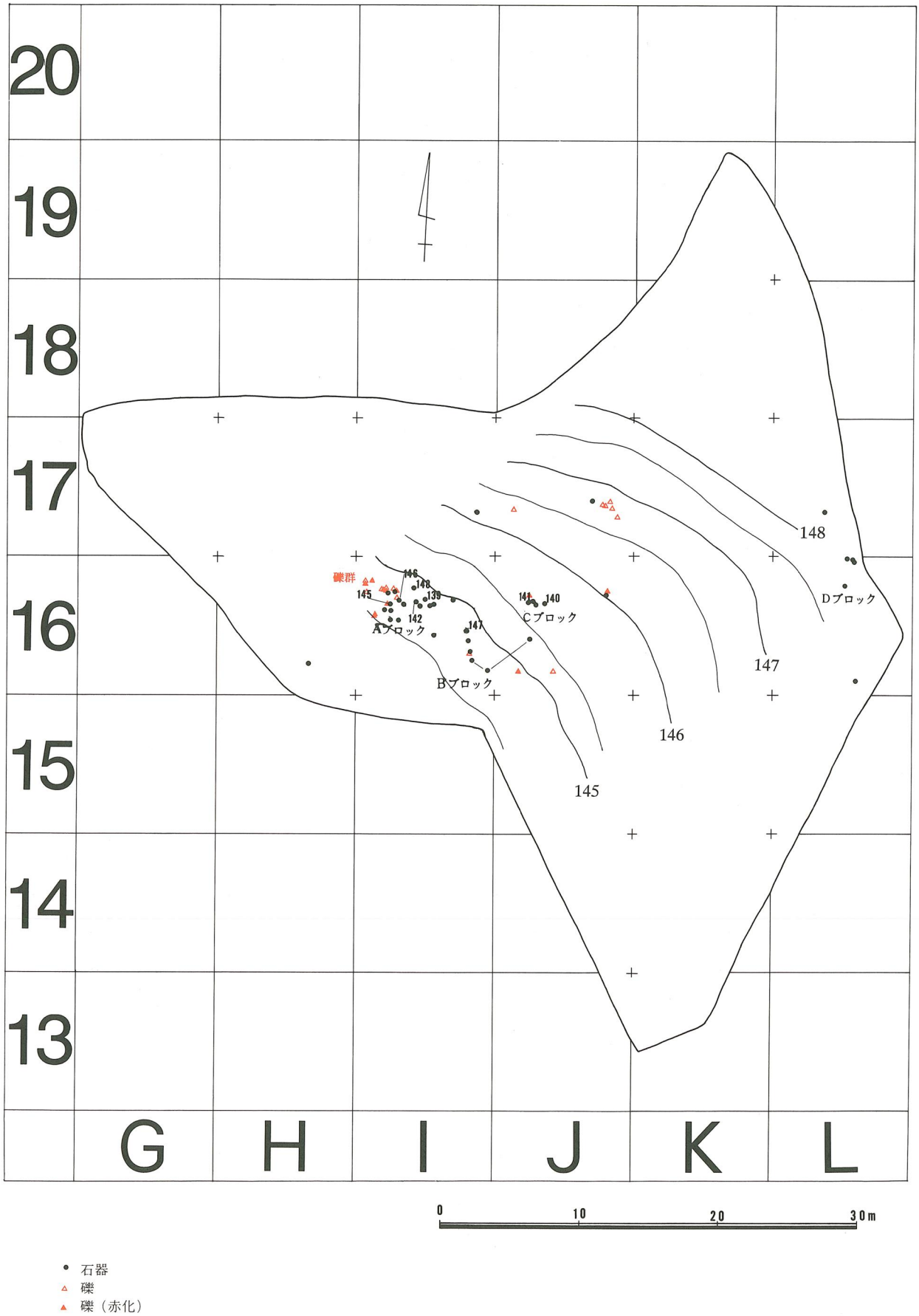
145は、打面を転移させながら剥片を剥離した複設打面石核の残核である。柏峠産の黒耀石製。

146は、礫の上面に擦痕が認められることから、石皿的に使用されたものと考えられる。玄武岩製で、重量1,660ｇを測る。

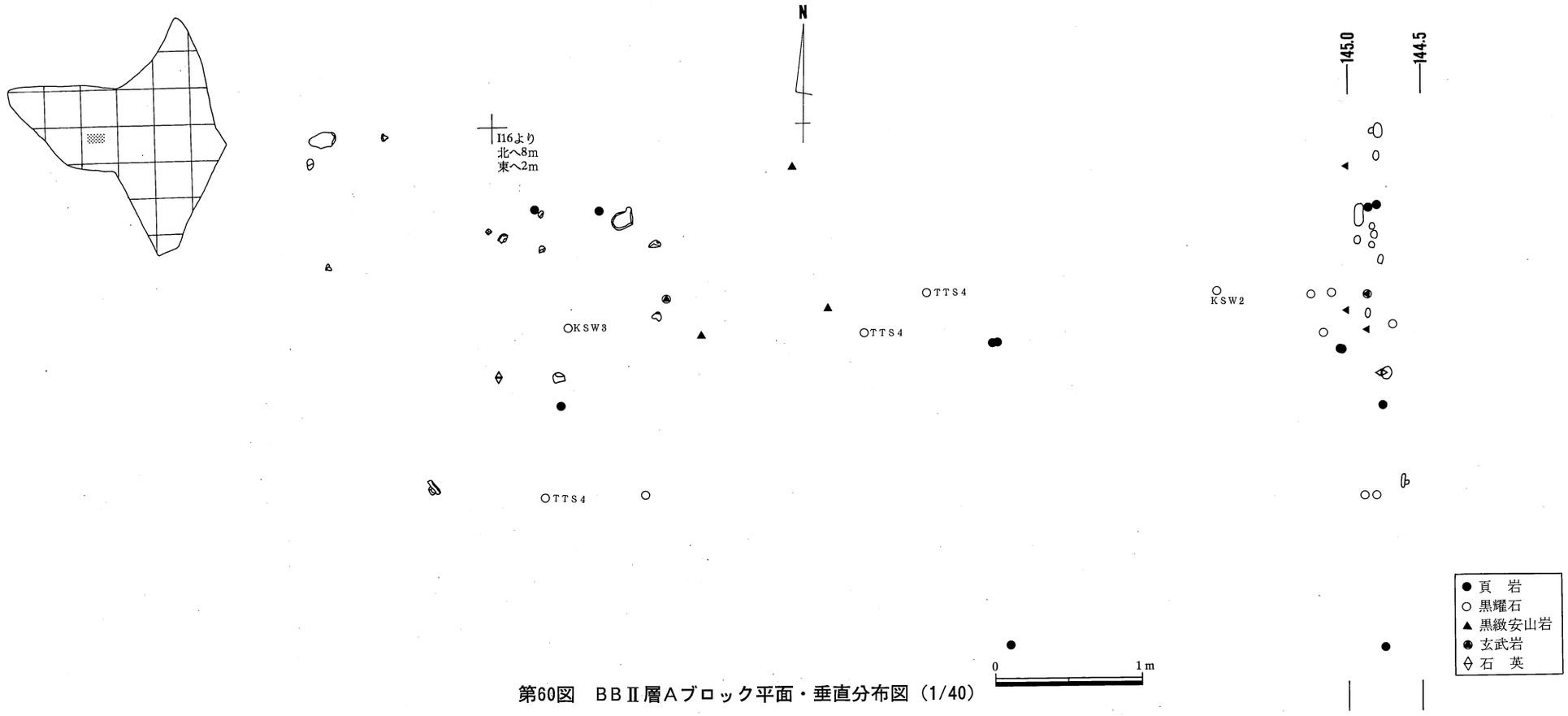
147は、礫の上面に擦痕と複数の敲打痕が認められる。輝石安山岩製で、重量2,245ｇを測る。

表17　ＢＢⅡ層石器器種組成表

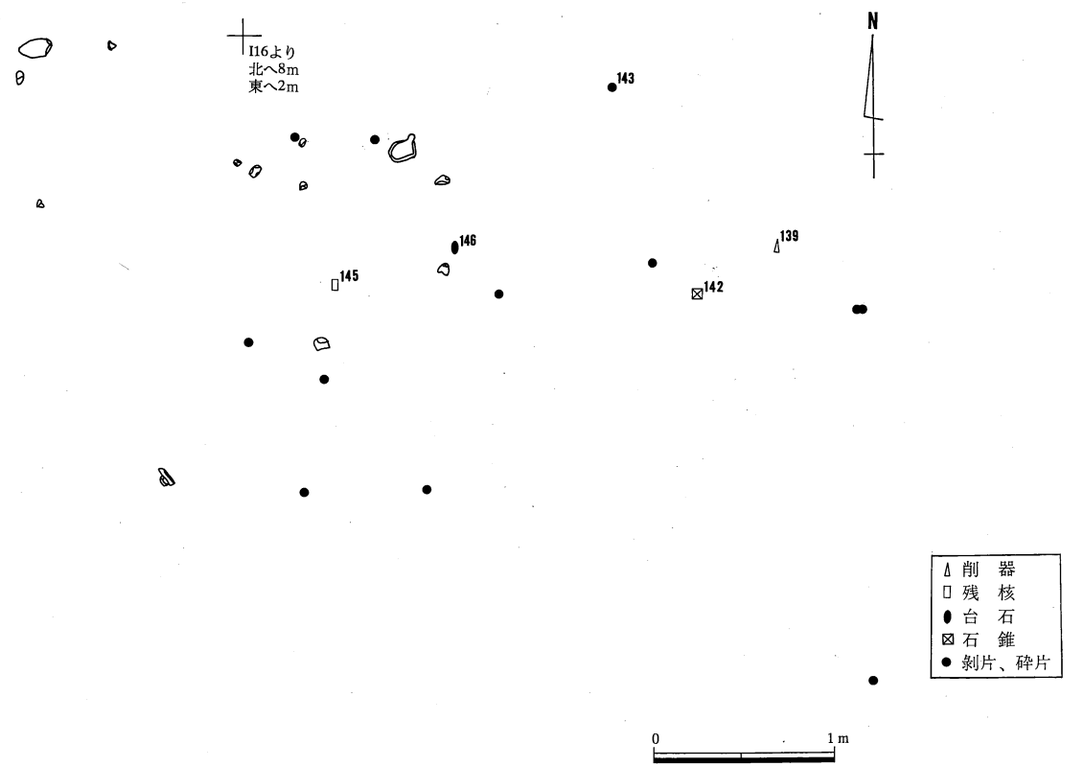
	ＫＳＷ２	ＫＳＷ３	ＴＴＳ３	ＴＴＳ４	頁岩	黒色緻密安山岩	安山岩	玄武岩	その他
削器			1	1					
錐形石器				1					
石刃					1				
磨石							1		
台石							1	1	
残核		1							
Ｒ剥片						1			
剥片	1	3		1	14	6			2
砕片		1							
合計	1	5	1	3	15	7	2	1	2



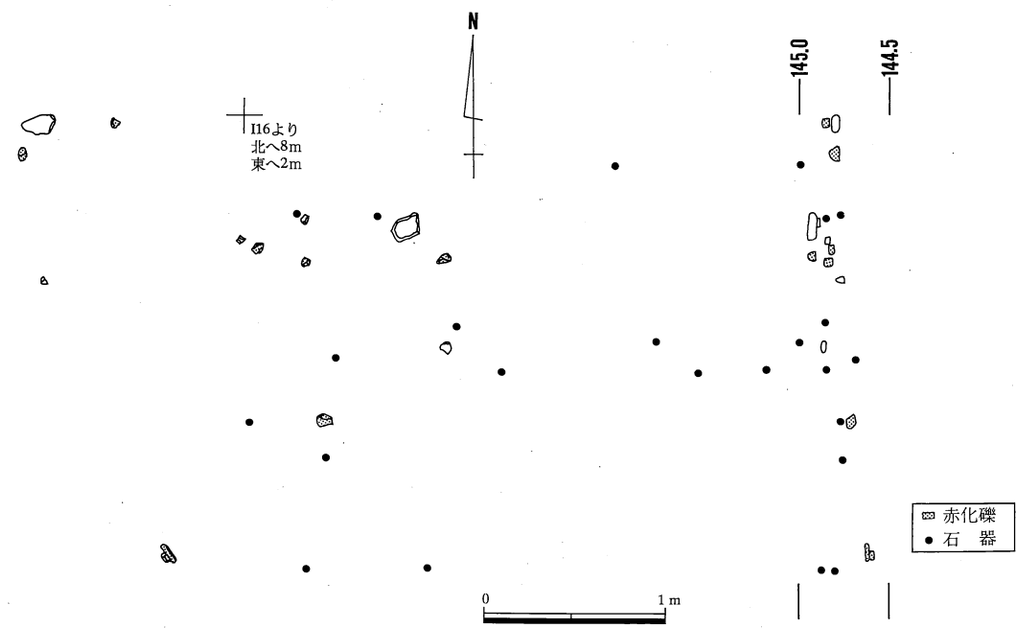
第59図　BBⅡ層遺物出土状況図（1/400）



第60図　BBⅡ層Aブロック平面・垂直分布図（1/40）



第61図　BBⅡ層Aブロック器種別分布図（1/40）



第62図　BBⅡ層礫群平面・垂直分布図（1/40）

3　石器ブロック

(1)　Aブロック〈第60、61図〉

Ｉ－16グリッドの標高約145.5mに分布する。ブロックは17点の石器で構成され、内訳は削器１点、錐形石器１点、残核１点、台石２点、剥片・砕片12点である。石器は、5.0m×3.2mの規模で散漫に分布し、礫群が重複して分布する。比較的石器がまとまるのはブロック西側で、台石や残核を伴う。垂直分布は約60cmを測る。石材は、蓼科産と柏峠産の黒耀石と頁岩が主体である。

(2)　Bブロック〈第63、64図〉

Ｉ－16グリッド東部の標高約145.0mに、５点の石器が分布し、台石１点と剥片４点から構成される。垂直分布は約８cmを測る。石材は３点の黒耀石と、輝石安山岩・黒色緻密安山岩が使用されている。黒耀石はいずれもKSW 3で、その内の２点と、Ｃブロックに含まれる１点が接合する。

(3)　Cブロック〈第65、66図〉

Ｊ－16グリッド中央部やや西寄りの標高約145.5mに位置し、散漫な分布状況を呈する。削器・石刃・磨石各１点と、剥片２点で構成される。KSW 3の１点は、ブロック南西に位置するＢブロックの２点と接合する。垂直分布は約５cmを測る。

(4)　Dブロック〈第67、68図〉

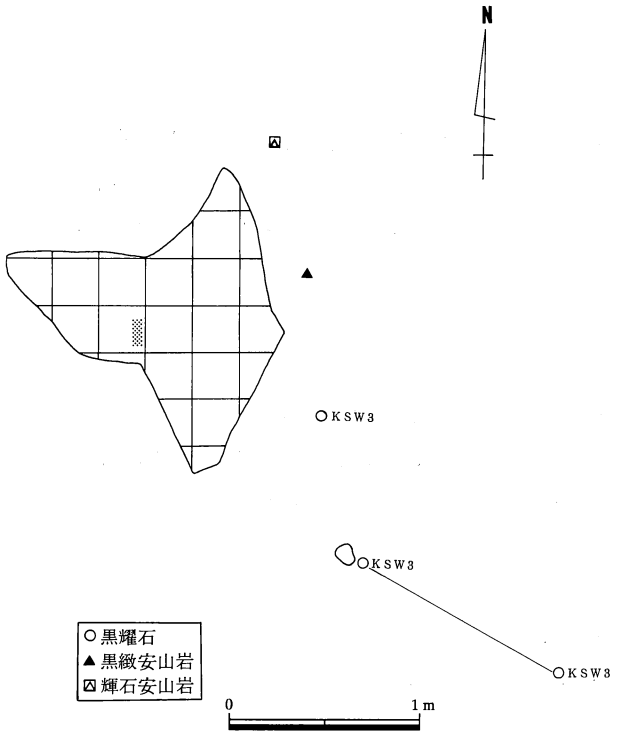
Ｌ－16グリッド北部の標高147.9mに分布し、頁岩・珪質頁岩の剥片から構成される。散漫な分布状況を呈し、垂直分布は約15cmを測る。

4　礫　群〈第62図〉

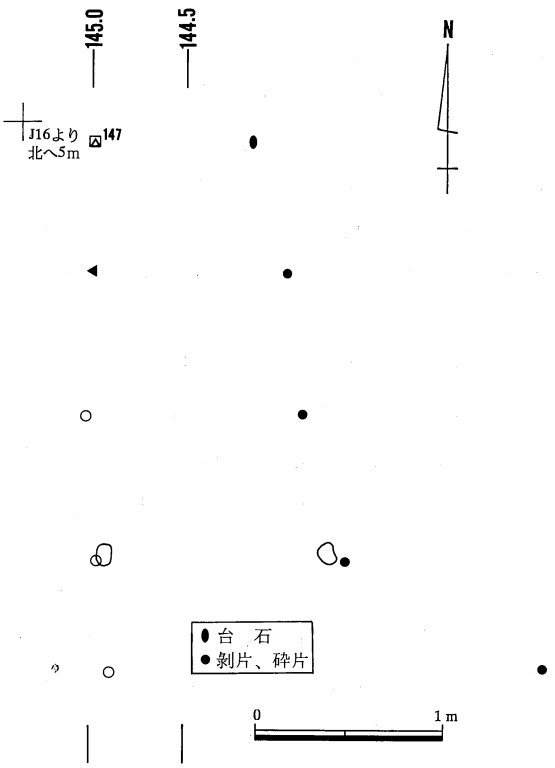
Ｉ－16グリッドから検出された石器群のＡブロックに重複して検出された。2.4m×2.4mの規模で、14個の礫によって構成され、垂直分布は約32cmを測る。拳大の礫が大半で、幼児頭大の礫が２点含まれる。このうち赤化礫は８点である。最大礫2,370ｇ、最小礫70ｇ、総重量7,650ｇを測る。接合関係は見られない。

表18　BBⅡ層石器計測表

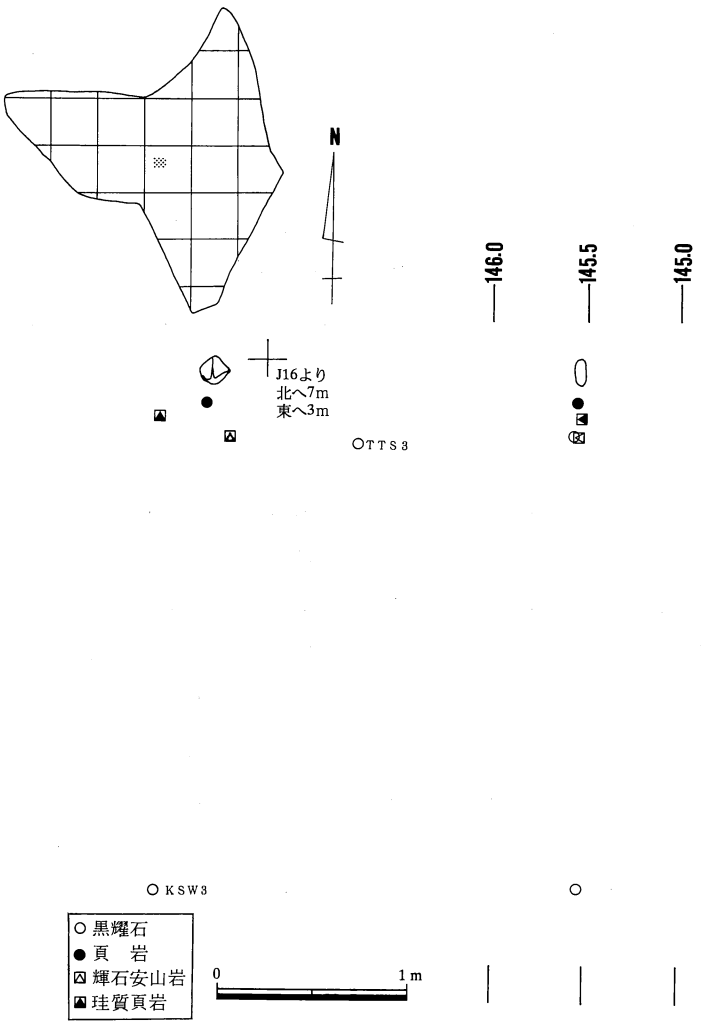
器種	NO.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g
削器	139	I 16	16	黒耀石	ＴＴＳ－４	27.5	31.0	12.0	9.0
削器	140	J 16	1	黒耀石	ＴＴＳ－３	62.0	22.0	11.0	13.1
石刃	141	J 16	3	珪質頁岩		76.0	32.0	18.0	29.9
錐形石器	142	I 16	12	黒耀石	ＴＴＳ－４	36.5	20.5	9.0	10.9
R剥片	143	I 16	19	黒色緻密安山岩		45.0	39.5	13.5	23.6
残核	145	I 16	6	黒耀石	ＫＳＷ－３	35.0	24.0	16.5	8.8
台石	146	I 16	4	玄武岩		152.5	124.0	75.0	1660.0
台石	147	I 16	25	輝石安山岩		179.0	173.5	55.0	2245.0



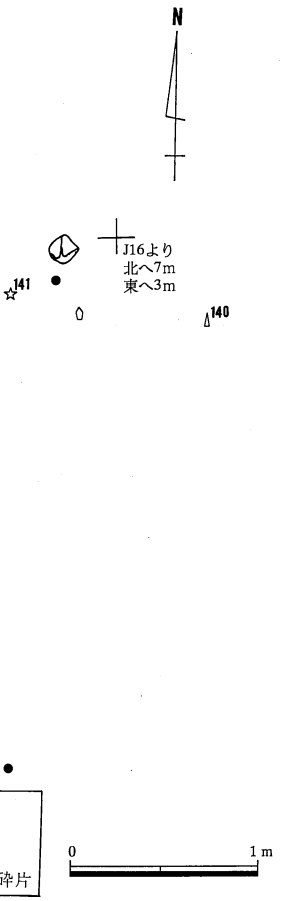
第63図　BBⅡ層Bブロック平面・垂直分布図（1/40）



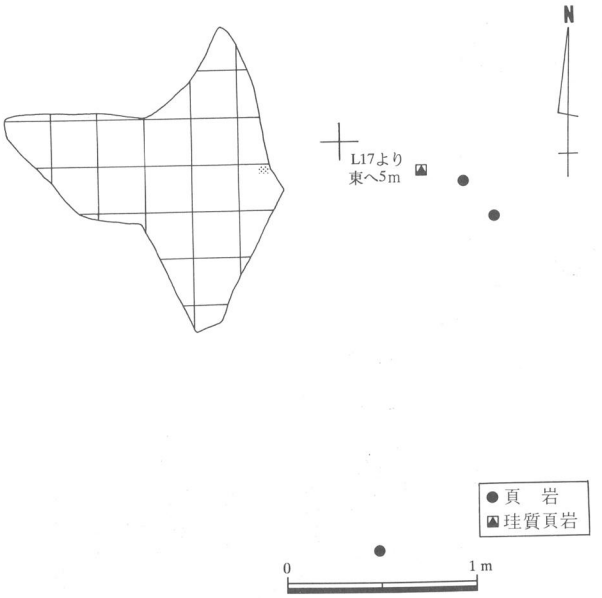
第64図　BBⅡ層Bブロック
器種別分布図（1/40）



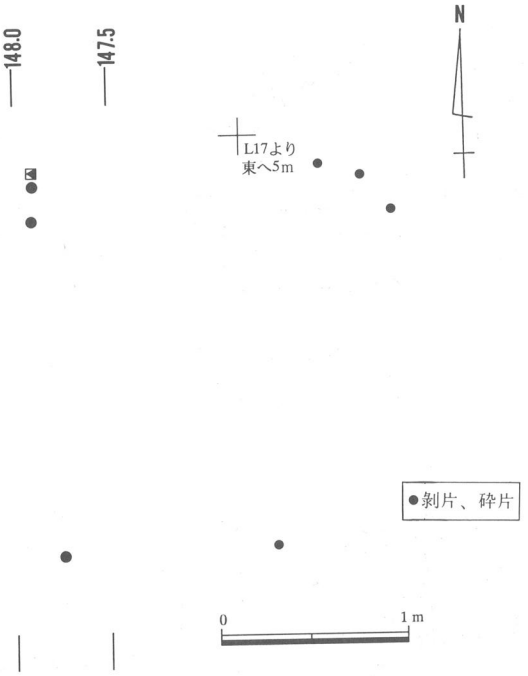
第65図　BBⅡ層Cブロック平面・垂直分布図（1/40）



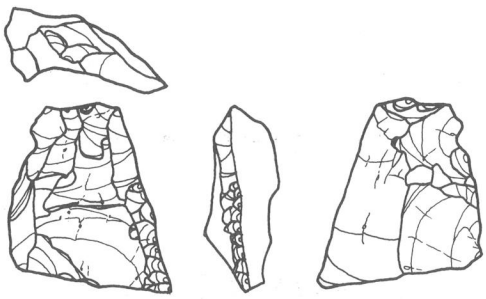
第66図　BBⅡ層Cブロック器種別分布図（1/40）



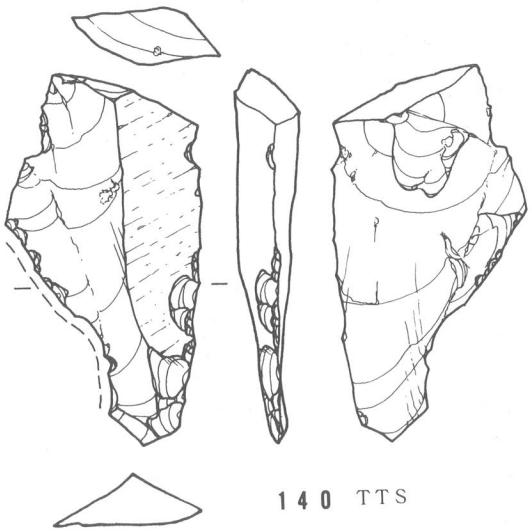
第67図　BBⅡ層Dブロック平面・垂直分布図（1/40）



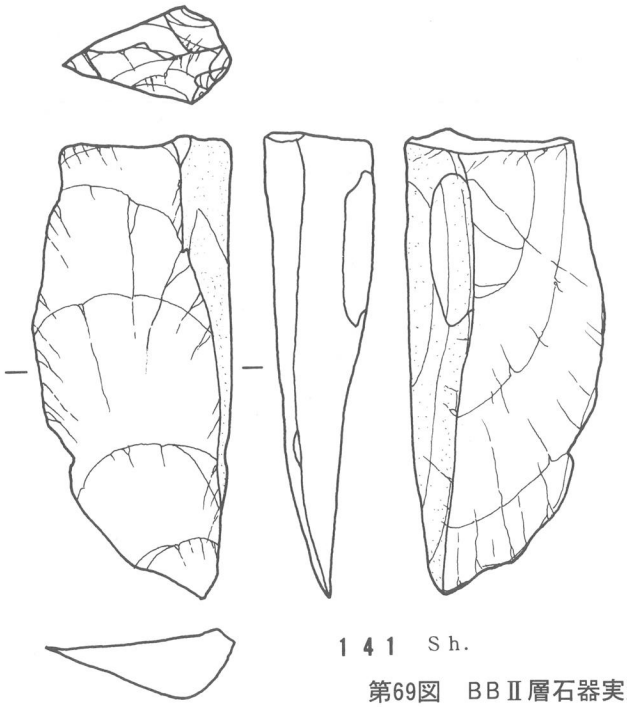
第68図　BBⅡ層Dブロック
器種別分布図（1/40）



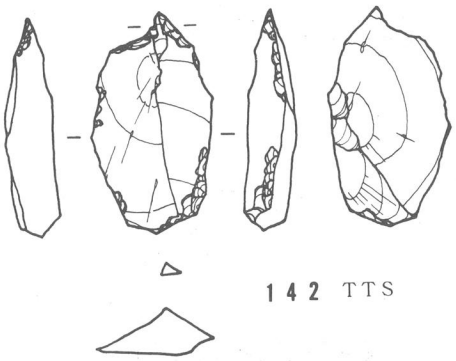
139　TTS



140　TTS



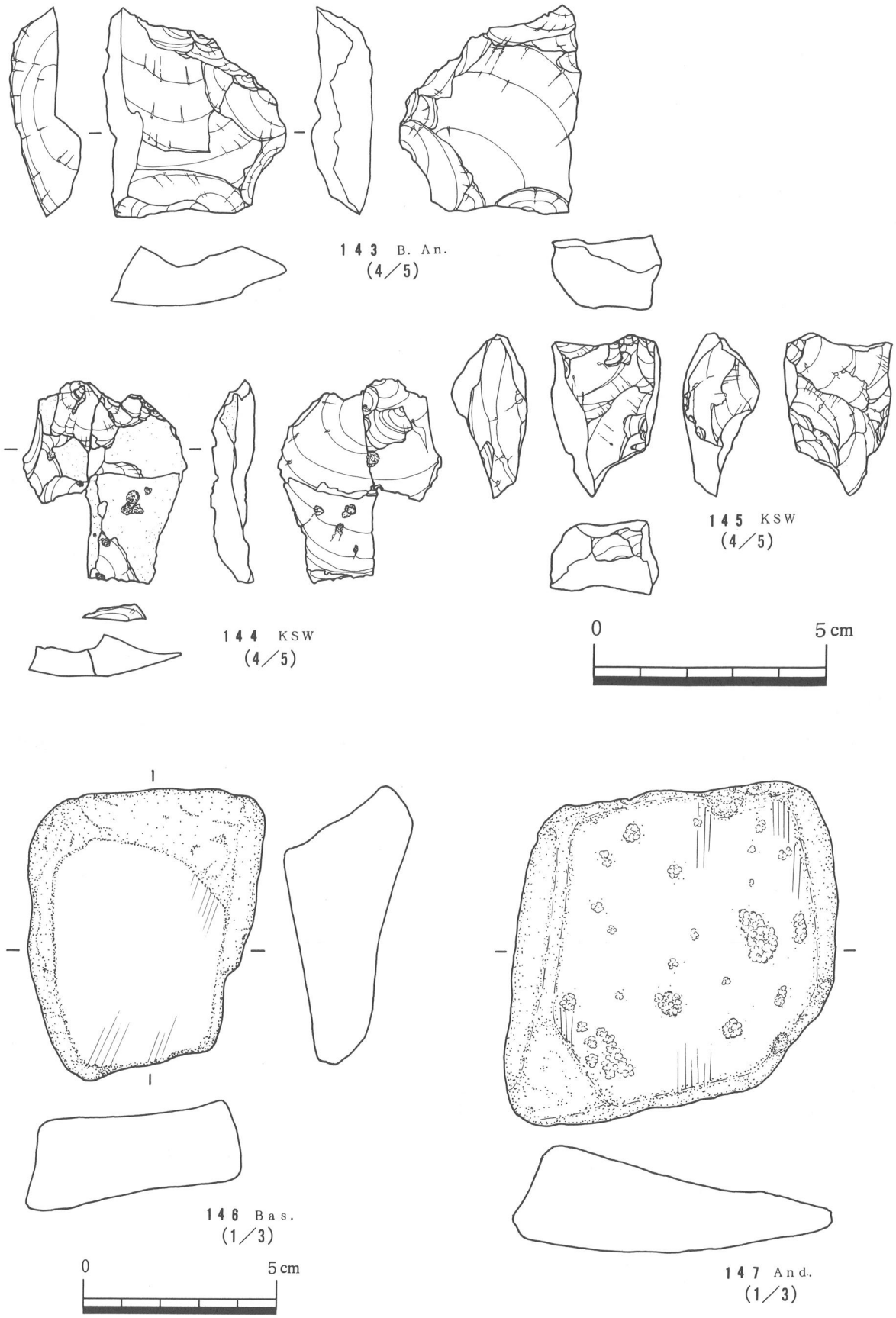
141　Sh.



142　TTS

0　5cm

第69図　BBⅡ層石器実測図1（4/5）



第70図　BBⅡ層石器実測図２

第５節　第Ⅲ黒色帯の遺構と遺物

１　概　要

出土した石器の総点数は18点で、器種構成はナイフ形石器１点、削器２点、石刃１点、石核１点、打面再生剥片１点、剥片12点である。石材は、頁岩が８点と最も多く、黒耀石は、信州系の蓼科産と霧ヶ峰産が４点出土している。遺構は、石器ブロックが調査区西部から１基検出されたほか、本層位に掘り込み面を持つと考えられる土坑が17基検出されている。

２　石　器〈第74、75図〉

148は、蓼科産の黒耀石製で、切り出し状のナイフ形石器である。剥片の基部を切断（折断）技法により除去している。149は、縦長剥片の縁辺部にスクレイパーエッジを削出した削器である。蓼科産の黒耀石製。150は、縦長剥片の縁辺部に細かい調整を施したサイドスクレイパーで、末端部を折り取った後にエンドスクレイパーに加工されている。霧ヶ峰産の黒耀石製。151は、頁岩製の幅広の石刃で、打面は複剥離打面である。風化が著しく、使用痕は観察されないが、刃器として使用されたものと考える。152は、頁岩質チャート製の打面再生剥片で、左側縁に頭部調整痕が認められる。右側縁部に使用痕が認められ、刃器として使用されていたと考えられる。153は、上面の剥離面を打面とした単設打面石核で、寸詰まりの幅広の剥片を剥離したものである。黒色緻密安山岩製。

３　石器ブロック〈第72、73図〉

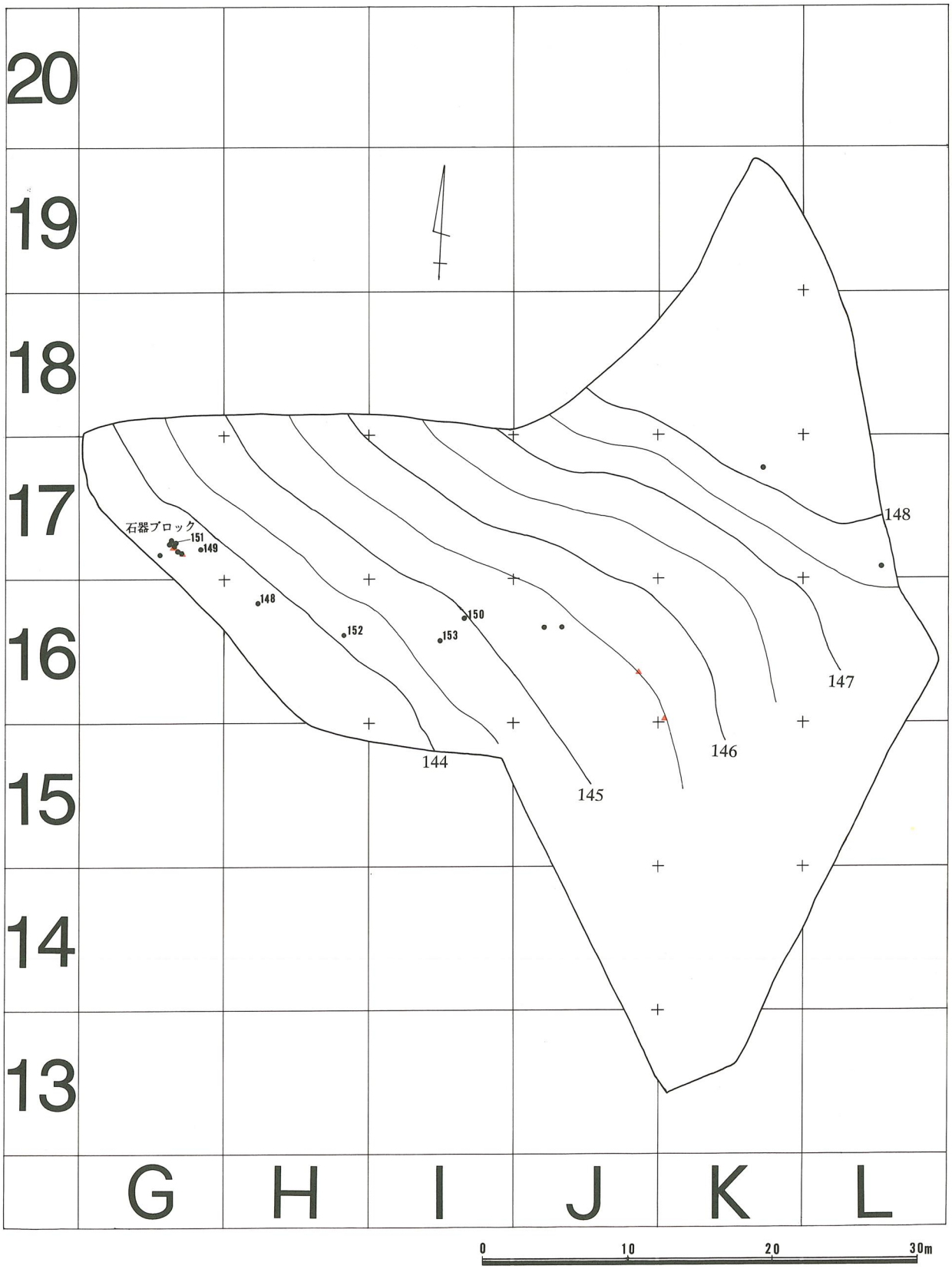
Ｇ－17グリッド南東部の、西傾斜面が谷に向かって傾斜を強めはじめる変換点に位置し、標高約143.6m辺りに比較的まとまって分布している。石器は、2.9m×0.9mの範囲から削器１点、石刃１点、打面再生剥片１点、剥片５点の計８点が出土している。このうち頁岩が５点をしめる。接合関係は見られない。

表19　ＢＢⅢ層石器器種組成表

	ＴＴＳ６	ＫＲＭ４	頁岩	頁岩質チャート	黒色緻密安山岩	輝石安山岩	珪質砂岩	その他
ナイフ	1							
削器	1	1						
石刃			1					
石核		1						
打面再生剥片				1				
剥片			7	1	1	1	1	1
合計	2	2	8	2	1	1	1	1

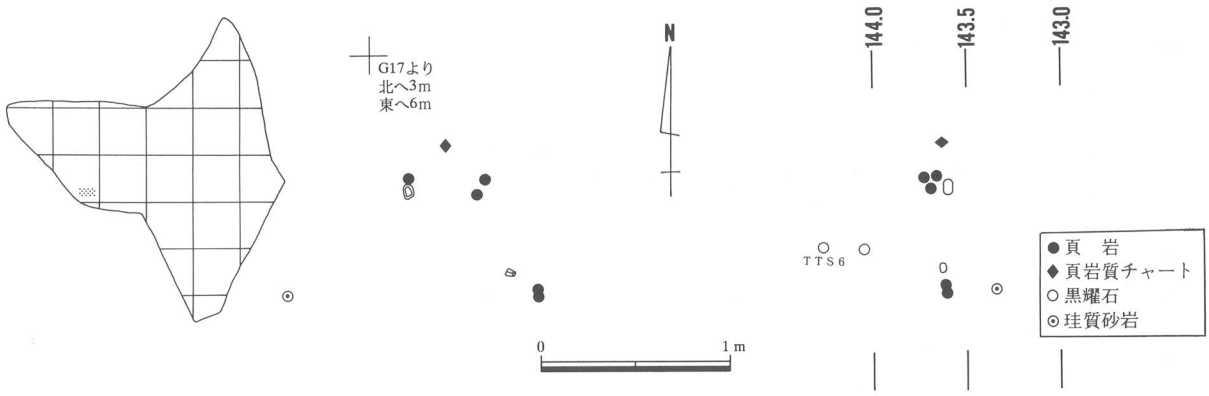
表20　ＢＢⅢ層石器計測表

器種	ＮＯ.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長㎜	最大横長㎜	最大厚㎜	重量ｇ
ナイフ	148	H16	2	黒耀石	ＴＴＳ－６	24.5	11.5	6.0	1.0
削器	149	G17	1	黒耀石	ＴＴＳ－６	37.0	26.5	15.0	11.0
削器	150	I16	2	黒耀石	ＫＲＭ－４	42.5	28.5	11.0	10.5
石刃	151	G17	4	頁岩		82.0	46.5	16.0	52.4
打面再生剥片	152	H16	4	頁岩質チャート		51.0	30.0	17.0	22.0
石核	153	I16	17	黒色緻密安山岩		50.0	78.5	34.0	99.4

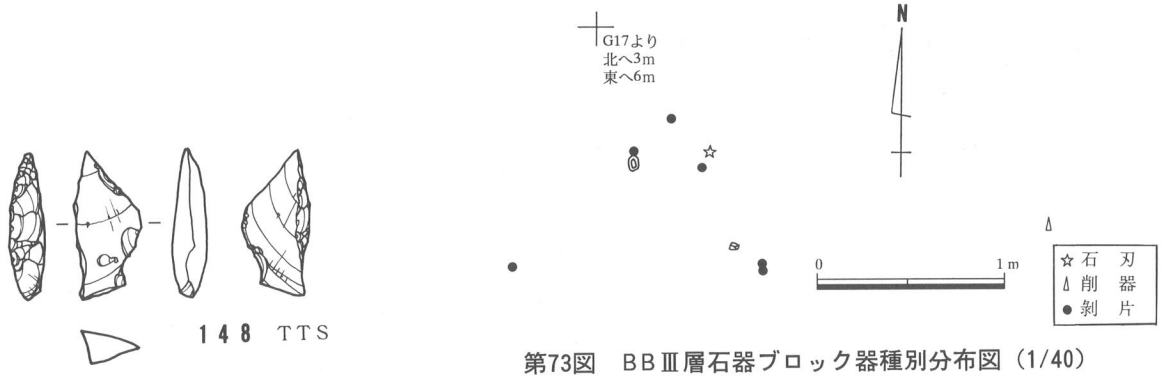


● 石器
△ 礫
▲ 礫（赤化）

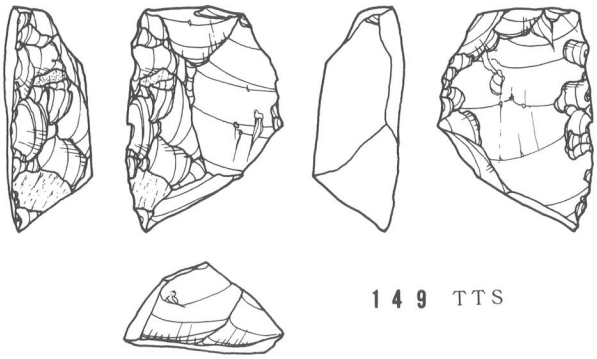
第71図　BBⅢ層遺物出土状況図（1/400）

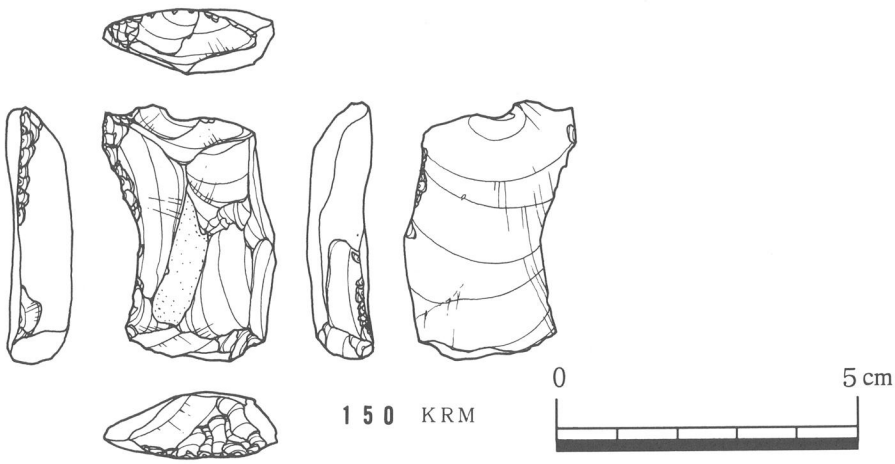


第72図　BBⅢ層石器ブロック平面・垂直分布図（1/40）

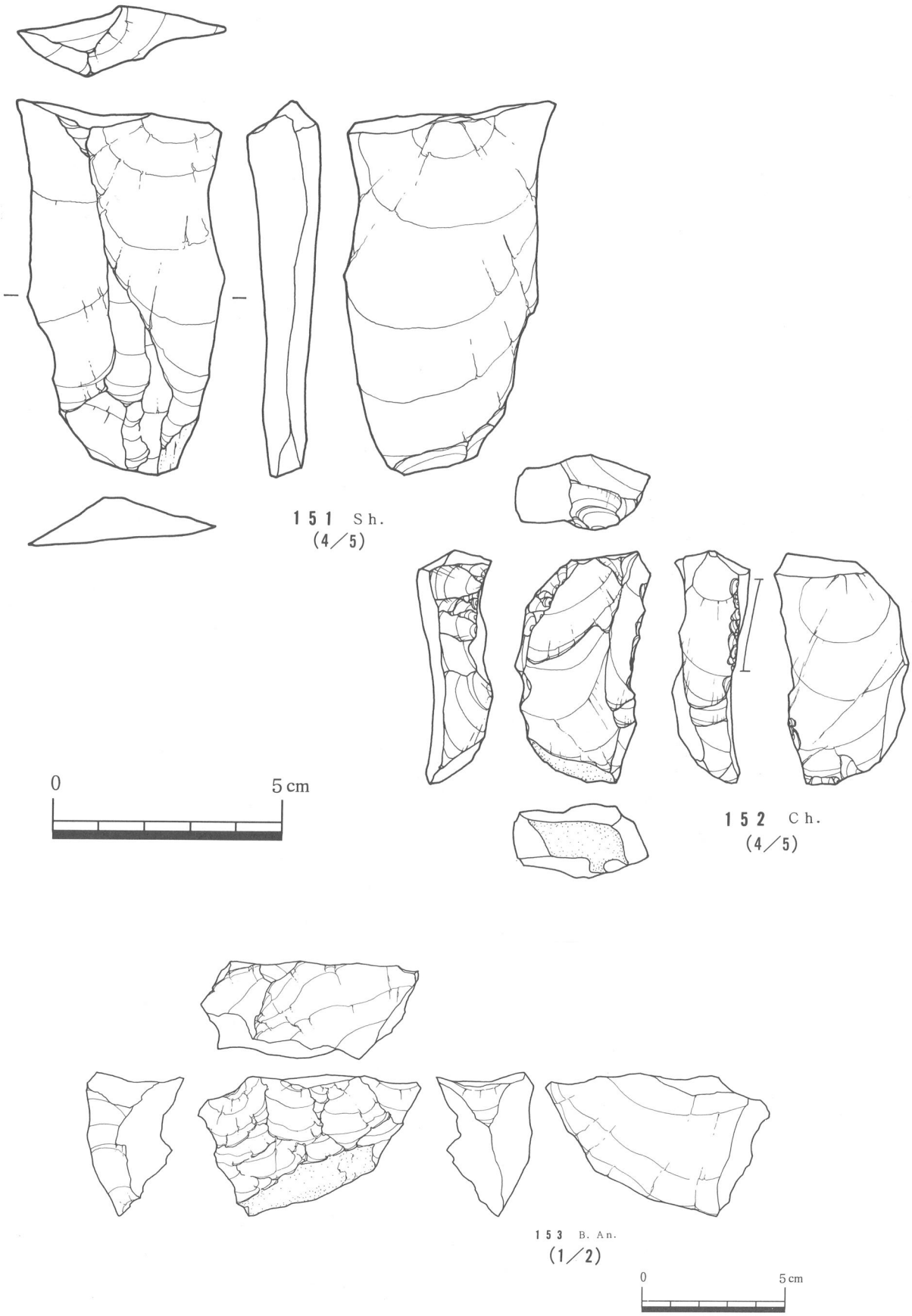


第73図　BBⅢ層石器ブロック器種別分布図（1/40）





第74図　BBⅢ層石器実測図1（4/5）

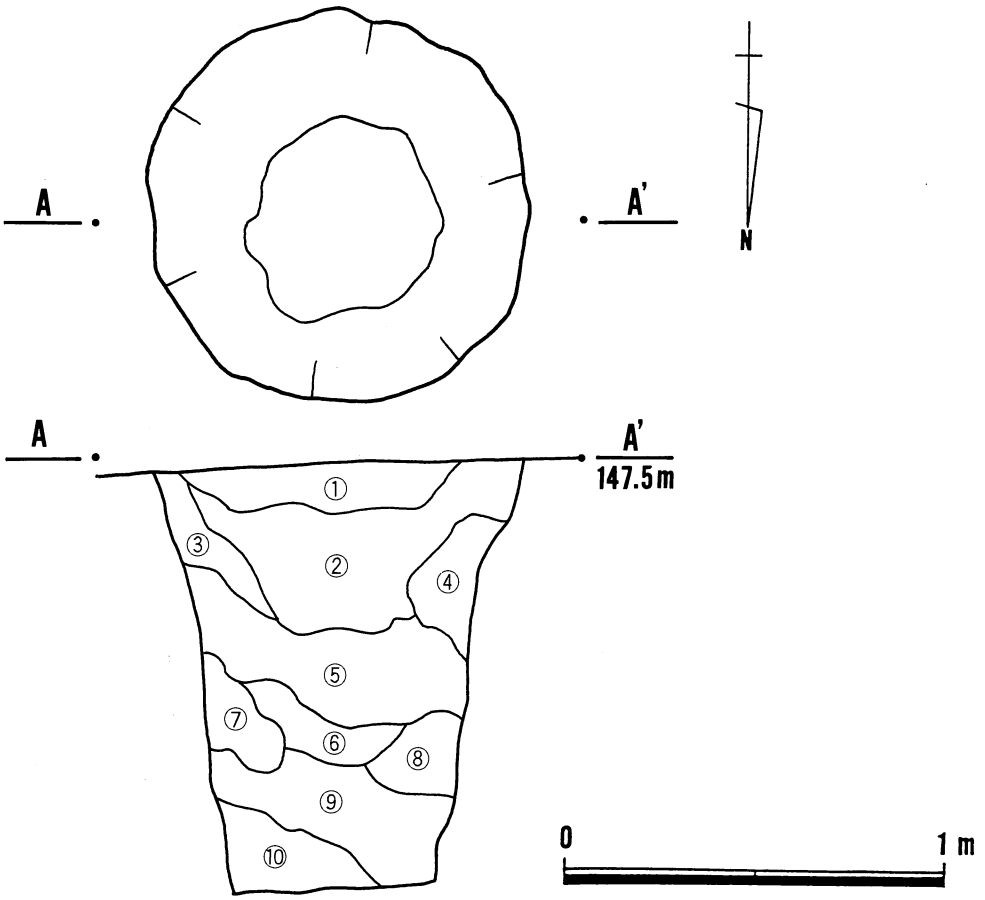


第75図　BBⅢ層石器実測図2

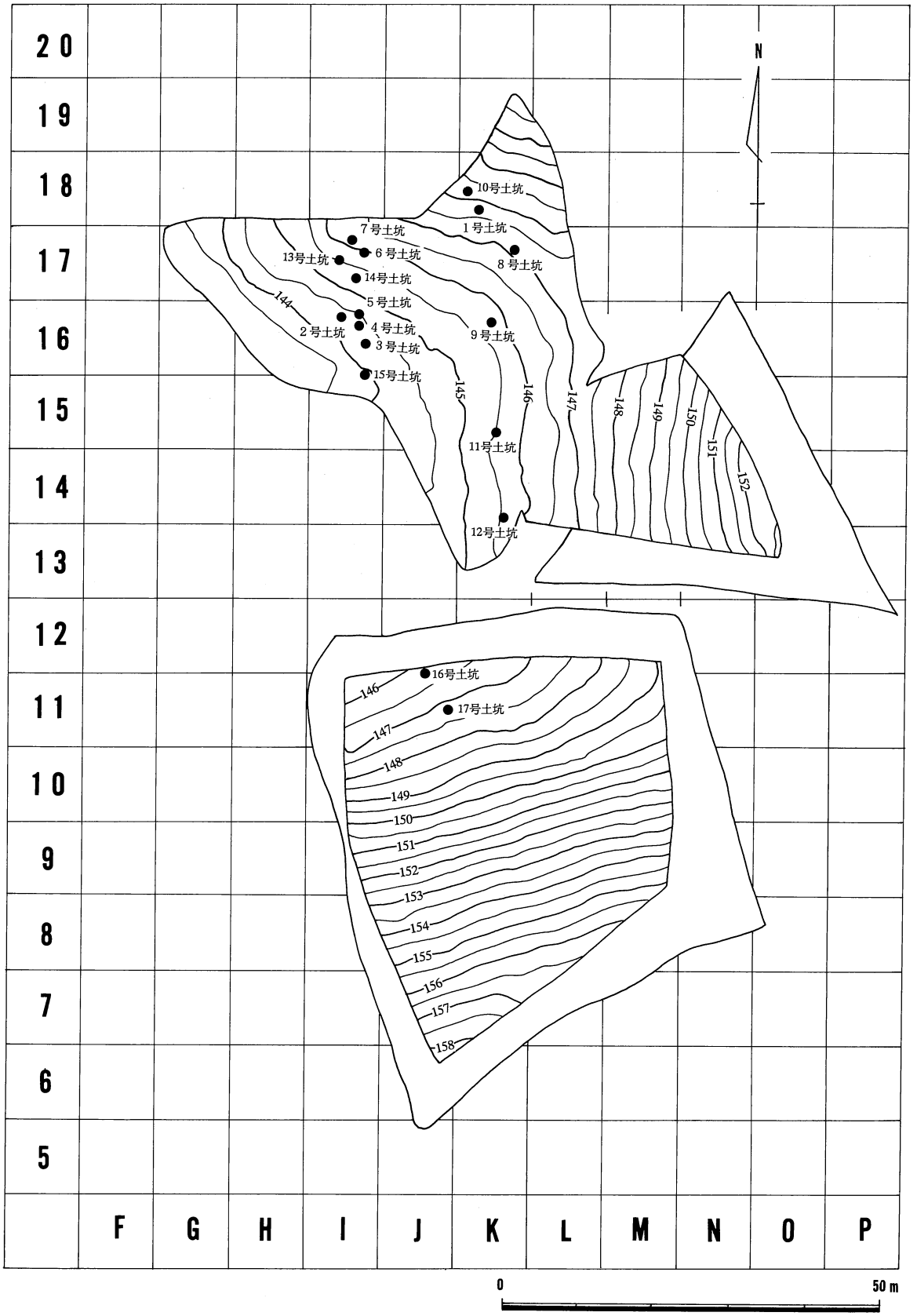
4　土　坑

SC Ⅲ b 1直下からSC Ⅲ s 4上面にかけて17基の土坑を検出している。１区で検出された土坑は、南北方向に２列並行するかたちで配置されており、谷が迫る西側の列は、Ｉ－15グリッドからＩ－17グリッドにかけて９基密に構築され、それぞれ最大3.5m、最小0.5mの間隔で配置されていた。東側は、Ｋ－14グリッドからＫ－18グリッドにかけて、８号土坑を除くとほぼ一直線に、最大14.2m、最小2.0mの間隔で配置されていることが確認された。また、３区から検出された２基は、Ｊ－11グリッドからＫ－11グリッドにかけて4.5mの間隔で配置されており、１区の土坑列に連続するものと思われるが、東西どちらの列に属するかは判然としない。平面形は、開口部・底部ともに正円に近い形状を呈している。断面形は、開口部が朝顔状に開くものが大半であるが、一部ほぼ垂直に立ち上がるものもある。また、テストピットの土層壁やセクションベルトにかかった土坑が８基あったため、土層観察を行った結果、各土坑の覆土は全てSC Ⅱ層により被覆されていることが確認でき、覆土上層にBB Ⅲ層に相当すると考えられる黒褐色スコリア質土が認められた。このことから、土坑の掘り込み面はBB Ⅲ層中にあると考えられるが、BB Ⅲ層と覆土上層のBB Ⅲ層相当の土壌とが明確に分離できないため、掘り込み面は確定できていない。なお、土坑の覆土は全て水洗を行い、炭化物やチップの検出に努めたが、分析に耐えない極微量の炭化物を除けば、遺物は検出されなかった。

以下、各土坑について記すが、節の最後に掲載した表21の推定深度は、BB Ⅲ層中位を掘り込み面と仮定し、検出面からの層厚を加えたものである。また、土層壁等にかからなかった土坑については、SC Ⅲ b 1直下で検出されたものには30cm、SC Ⅲ s 4上面で検出されたものは40cmを標準土層をもとに、それぞれ加えている。



第76図　１号土坑図（1/20）



第77図　BBⅢ層土坑分布図（1/800）

1号土坑〈第76図〉

遺跡の北側K－18グリッド南西部から、平成5年度の第1次調査時に検出されたものである。検出面はSCⅢs4上面で、長径105cm、短径99cm、深さ113cmを測る。平面形はほぼ正円で、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

〈覆土〉① 暗黒褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの橙・赤色スコリアを含み、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。BBⅢ層相当。

② 黒褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの橙・赤色スコリア、0.3～0.5cmの黒色スコリアを含み、0.1～0.2cmの灰色スコリアを若干含む。①に類似する。

③ 暗褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの橙・赤色スコリアを含み、0.2～0.3cmの黒色スコリアを含む。硬質である。

④ 暗褐色スコリア質土　③に類似するが、黒色スコリアの径がやや大きくなり、硬さもやや軟性を帯びてくる。

⑤ 暗茶褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色スコリア、0.3～0.7cmの黒色スコリアを含む。赤色スコリアの割合が若干高い。

⑥ 暗褐色ローム質土　0.2～0.3cmの赤色・黒色スコリアを含む。ややもろい。

⑦ 黄褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの黒色スコリアを含み、0.2～0.4cmの赤色スコリアを少量含む。SCⅢs4下の黄褐色スコリア質土（第18層）に相当すると考えられる。

⑧ 黄褐色スコリア質土　0.2～0.5cmの黒色スコリアを含み、0.1～0.3cmの赤色スコリアを少量含む。硬質でSCⅢs4かその上層のスコリア層（第16層）に相当すると考えられる。

⑨ 暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色・橙色スコリアを少量含み、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。やや脆弱である。

⑩ 褐色ローム質土　0.2～0.3cmの赤色・黒色スコリアを含む。⑥に似るが色調がやや明るく、スコリアの含有量が多くなる。

2号土坑〈第78図〉

遺跡の南西I－16グリッド北部から検出された。検出面はSCⅢb1直下で、長径97cm、短径89cm、深さ102cmを測る。平面形はほぼ正円である。断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

〈覆土〉① 黒褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色・黒色スコリアを含み、0.2～0.8cmの橙色スコリアを少量含む。白色パミスが広範にわたって散在する。

② 黒褐色スコリア質土　①に類似するが、白色パミスの頻度は低くなり、締まりが悪くなる。黒色の発色が増す。

③ 暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.5cmの赤色・黒色スコリアを多く含む。炭化物を若干量含む。

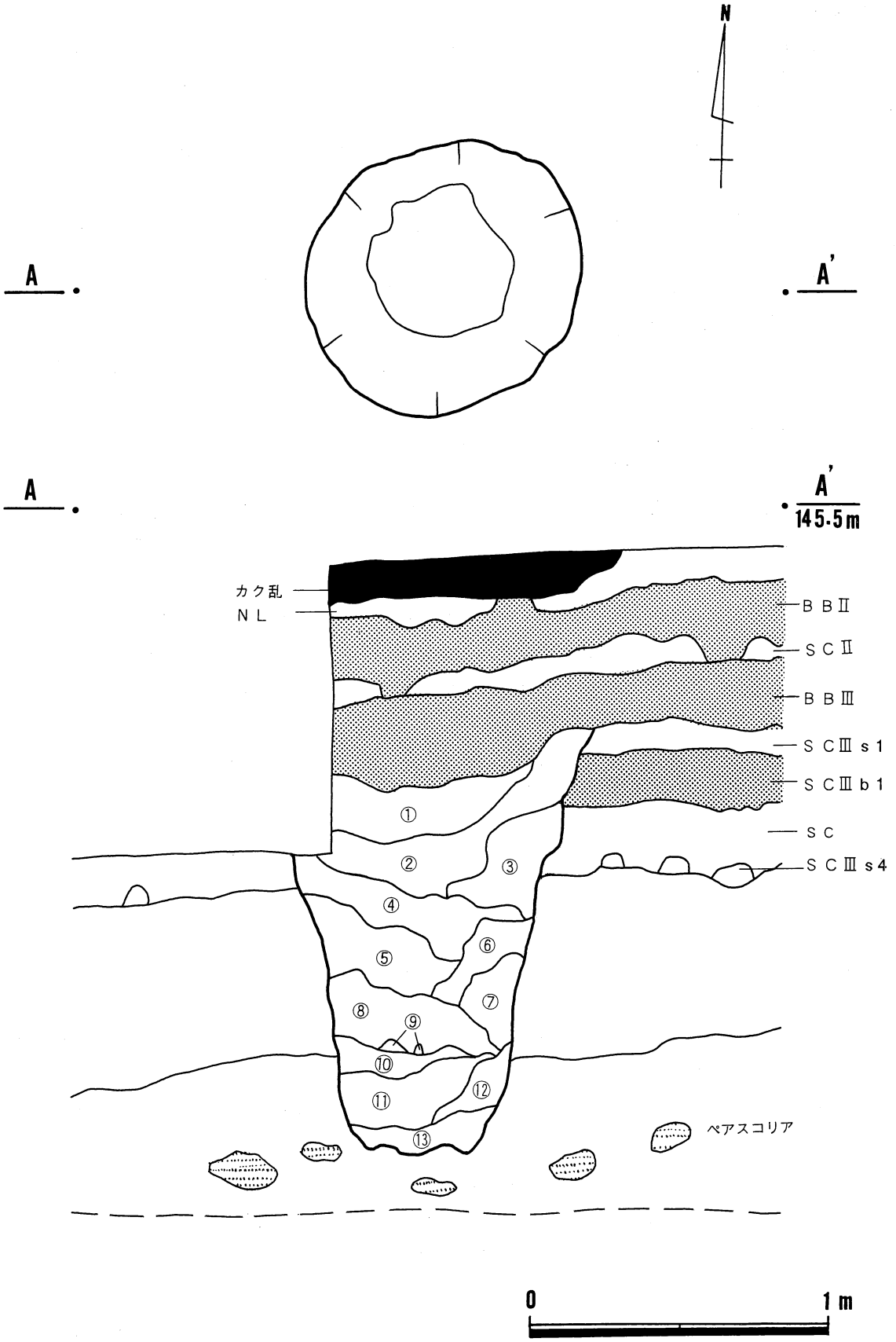
④ 黒褐色ローム質土　0.2～0.5cmの赤色・黒色スコリアを含む。

⑤ 暗褐色ローム質土　0.2～0.3cmの黒色スコリア、0.2～0.5cmの赤色スコリアを含み、発泡の悪い0.2～0.5cmの茶色スコリアを若干含む。

⑥ ⑤と⑦の混土。⑦をベースに⑤がブロック状に入る。

⑦ 黄褐色スコリア質土　0.2～0.5cmの発泡の悪い黒色スコリア、0.2～0.3cmの赤色スコリアを多く含む。

⑧ 茶褐色スコリア質土　0.2～0.7cmの黒色スコリア、0.2～0.4cmの赤色スコリアを含み、0.2～0.3cmの黄色スコリアを若干含む。



第78図　2号土坑図（1/20）

⑨　黄褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの黒色スコリア、0.2～0.3cmの赤色スコリアを少量含む。SC Ⅲ s 4直下のスコリア層（第18層）に類似する。

⑩　⑥に類似する。

⑪　暗褐色ローム質土　⑤に類似するが、締まりは良く、色調も若干明るい。

⑫　暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色・黒色スコリアを含む。

⑬　茶褐色ローム質土　0.2～0.5cmの赤色スコリアを含み、0.1～0.2cmの黒色スコリアを若干含む。

3号土坑〈第79図〉

遺跡の南西Ⅰ－16グリッド東部で検出された。検出面はSC Ⅲ b 1直下で、長径107cm、短径90cm、深さ109cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形は開口部付近がほぼ垂直に立ち上がる。

〈覆土〉①　暗黒褐色スコリア質土　0.2～0.5cmの橙色スコリアを含み、0.2～0.5cmの黒色スコリアを少量含む。BB Ⅲ層に類似するが橙色スコリアの密度が高く、黒色の発色が若干劣る。

②　茶褐色ローム質土　0.2～0.4cmの橙色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを少量含む。脆弱である。

③　黒褐色スコリア質土　①に類似するが、黒色の発色が弱い。0.2～0.4cmの橙色スコリアを含み、0.1～0.5cmの黒色スコリアを少量含む。

④　黄褐色スコリア質土　第18層に相当すると思われるスコリア塊である。硬質で0.2～0.5cmの黒色スコリア、0.1～0.2cmの赤色スコリアを含む。

⑤　暗茶褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの橙色スコリア、黒色スコリアを含む。0.2cmの青灰色スコリアを若干含む。

⑥　茶褐色スコリア質土　⑤に類似するが、やや橙色スコリアの頻度が増す。色調も若干明るくなる。

⑦　暗褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの橙色スコリア、0.2～0.7cmの黒色スコリアを含む。0.2～0.4cmの赤色スコリアを少量含む。

⑧　褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの橙色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。0.2cmの黄色スコリアを少量含む。

⑨　黄茶褐色スコリア質土　⑦に類似するが若干色調が明るくなり、黒色スコリアの頻度がやや増す。

⑩　暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.5cmの黒色スコリアを多く含み、0.2～0.4cmの橙色、赤色スコリアを含む。SC Ⅲ s 4直下のスコリア層（第18層）に類似する。

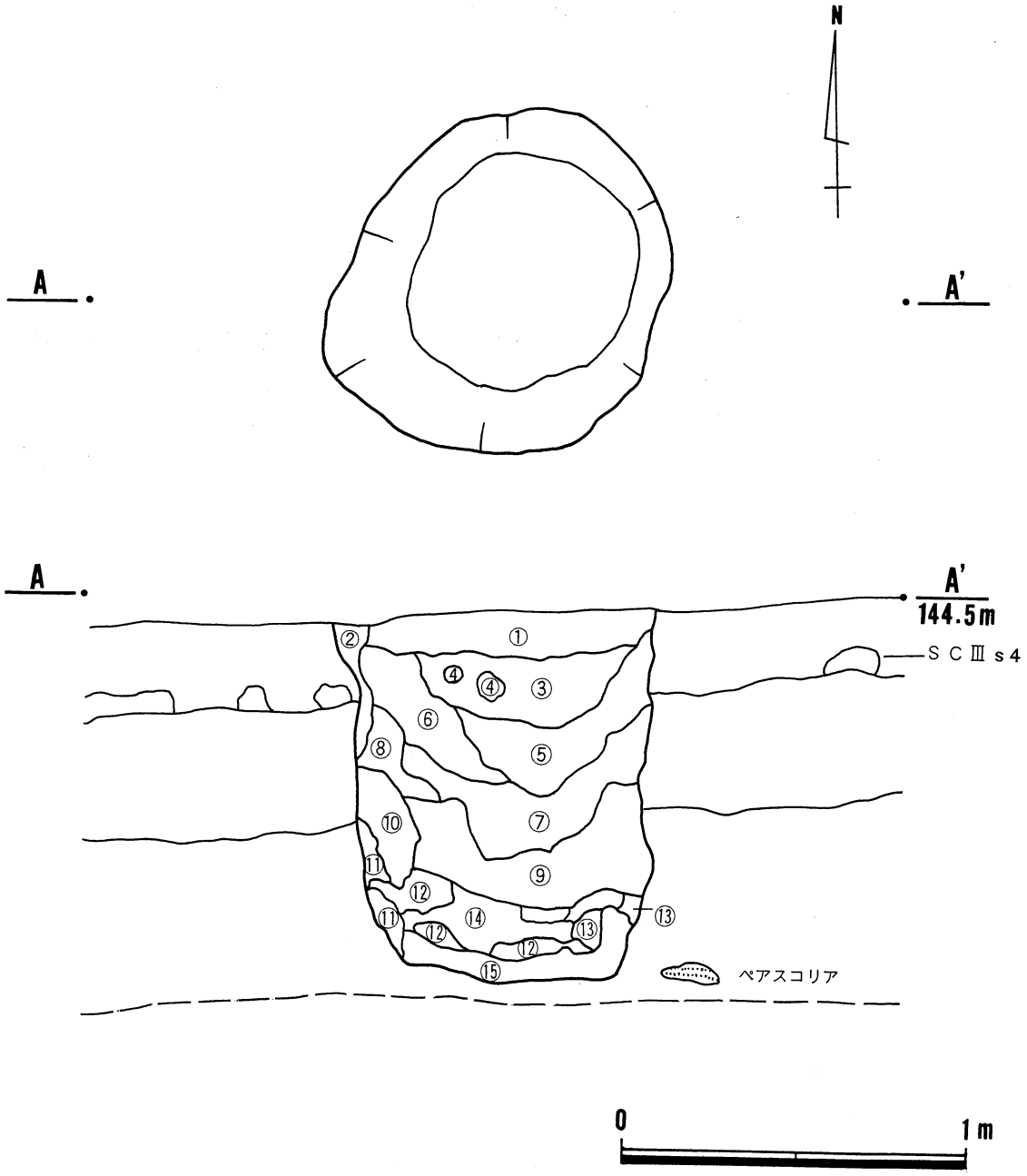
⑪　明褐色ローム質土　中部ローム層中に特徴的に見られる0.1～0.3cmの赤色スコリア（ペアスコリア）を多く含み、0.1～0.2cmの黒色スコリアを若干含む。

⑫　暗褐色ローム質土　0.2～0.4cmの橙色、黒色スコリアを含む。黒色の粘性土がラミナ状に入る。

⑬　暗黄褐色ローム質土　⑫に似るがスコリアの割合が低下し、軟らかい。黒色粘性土もほとんど見られなくなる。

⑭　暗茶褐色ローム質土　土質は⑫に似るが粘性土は見られない。

⑮　暗褐色ローム質土　0.2～0.4cmの黒色スコリアを含み、橙色スコリアを少量含む。



第79図　3号土坑図（1/20）

4号土坑〈第80図〉

遺跡の南西Ⅰ－16グリッド北部で検出された。検出面はSCⅢb1直下で、長径101cm、短径86cm、深さ97cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。5号土坑の直近、約50cmのところに構築されている。

〈覆土〉①　暗茶褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの橙色、赤色スコリアを含み、0.2～0.8cmの黒色スコリアを含む。

② 黒褐色ローム質土　0.2～0.4cmの橙色、赤色スコリアを含み、0.2～0.4cmの黒色スコリアを若干含む。締まりが悪く崩壊し易い。BB Ⅲ層に相当。

③ 黒褐色スコリア質土　①に類似するが橙色、赤色スコリアが多くなり、黒色スコリアの径が小さくなる。黒色も強くなり、BB Ⅲ層に相当すると考えられる。

④ 暗褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの橙色、赤色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。

⑤ 褐色スコリア質土　0.2～0.5cmの橙色、赤色スコリアを含み、0.3～0.8cmの黒色スコリアを含む。SC Ⅲ層に相当すると考えられるスコリア層が混在する。

⑥ 暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの橙色、赤色スコリアを含み、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。⑦に類似するが締まりは良くない。

⑦ 暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの橙色、赤色スコリアを含み、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。第18層の黄褐色スコリア質土に相当すると思われる。

⑧ 黄褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、黒色、橙色スコリアを含む。SC Ⅲ s 4に相当。

⑨ 暗黄褐色スコリア質土　⑦に類似するが色調は若干暗く、硬度が落ちる。

5号土坑〈第80図〉

Ⅰ－16グリッド北部に位置し、4号土坑の直近で検出された。検出面はSC Ⅲ s 4上面で、長径102cm、短径94cm、深さ101cmを測る。平面形は正円に近く、断面形は、開口部付近が朝顔状に開く。

〈覆土〉① 黒褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.3～1.0cmの黒色スコリアを含む。BB Ⅲ層相当。

② 暗褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.3～0.6cmの黒色スコリアを含む。黒色の発色は弱いが、BB Ⅲ層に相当すると考えられる。

③ 褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。

④ 暗黄褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。硬質でSC Ⅲ層に相当すると思われる。

⑤ 黒褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。

⑥ ②と③の混土。やや締まりに欠ける。

⑦ 暗黄褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層のスコリア質土に類似する。

⑧ 暗褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.3cmの黒色スコリアを含む。

⑨ 褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。

⑩ 暗褐色スコリア質土　0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。SC Ⅲ層相当の土が混在する。

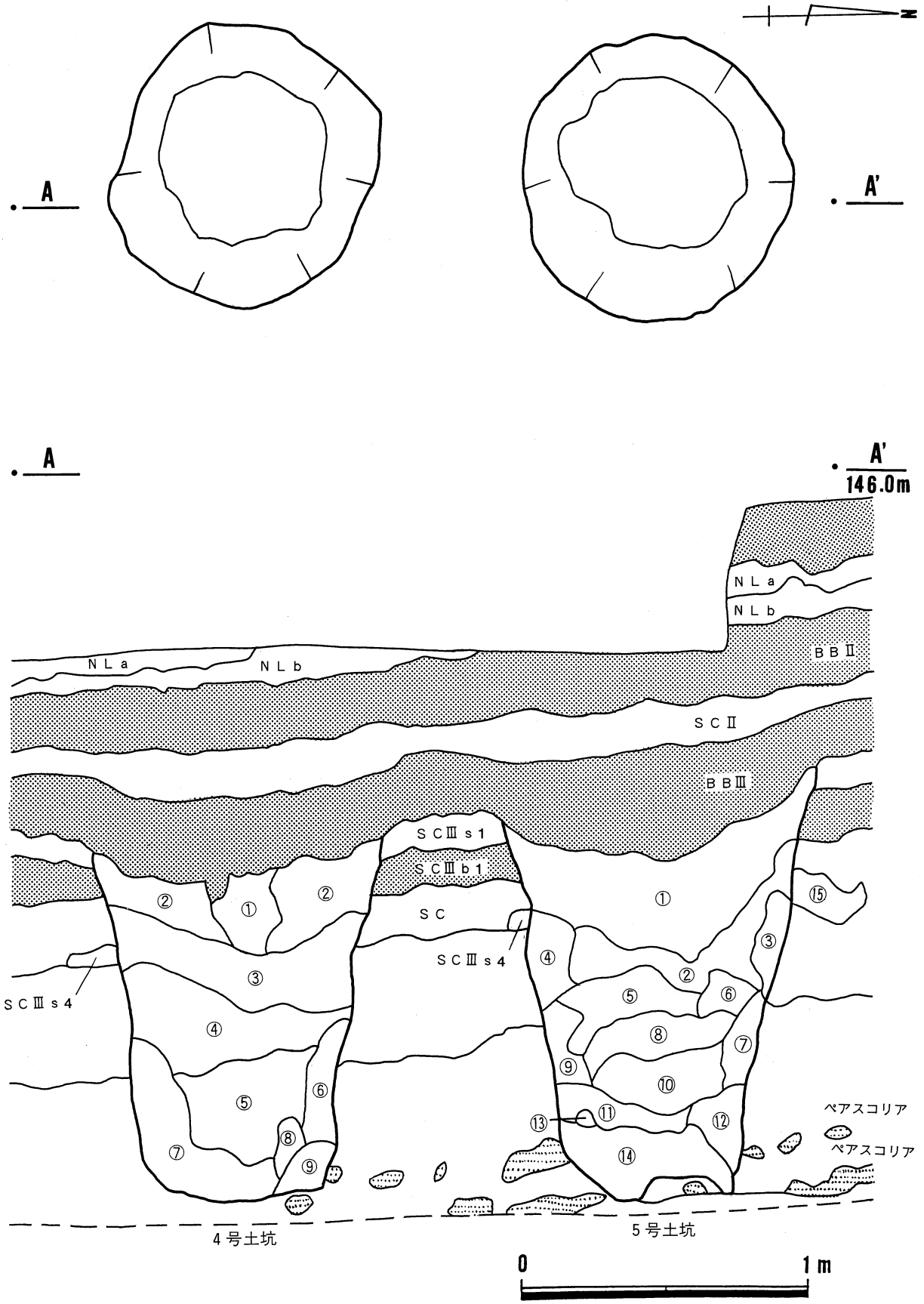
⑪ 暗黄褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色スコリア、0.1～0.4cmの黒色スコリアを含む。SC Ⅲ層相当の土がベースになる。

⑫ 褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。

⑬ 黄褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色、黒色スコリアを含む。

⑭ 褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。

⑮ 暗褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリアを含む。SC Ⅲ層相当の土だが脆い。スコリアの小塊が混在する。



第80図　4号・5号土坑図（1/20）

6号土坑〈第81図〉

遺跡の北西Ⅰ－17グリッド東部から検出された。検出面はSCⅢb1直下で、長径97cm、短径91cm、深さ100cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形は開口部付近が緩やかに外に開く。

〈覆土〉① 暗褐色ローム質土　0.1～0.3cmの赤色、橙色スコリアと0.2～0.3cmの黒色スコリアを含む。

② 黒褐色スコリア質土　0.2～0.5cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.3～0.7cmの黒色スコリアを含む。黒色の発色が弱く、締まりもあまり良くないがBBⅢ層に相当すると思われる。

③ 暗茶褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色、黒色スコリアを含む。

④ 黒褐色スコリア質土　②に類似するが締まりがあり、色調は若干明るい。

⑤ 暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.5cmの赤色、黒色スコリアを含む。SCⅢ層相当の土がベースとなる。

⑥ 黒褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。硬質でSCⅢ層に相当するスコリアのブロックが混在する。

⑦ 暗黄褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.4cmの黒色スコリアを含む。SCⅢ層に相当。

⑧ 黄褐色スコリア質土　⑦に類似するが、色調はやや明るく、黒色スコリアの径がやや小さくなる。

⑨ 黄褐色ローム質土　0.2～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。第18層のスコリア質土上位の土に相当すると思われる。

⑩ 褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.3cmの黒色スコリアを含む。

7号土坑〈第82図〉

調査区北西Ⅰ－17グリッドの北部で検出された。検出面はSCⅢb1直下で、長径105cm、短径92cm、深さ127cmを測る。平面形は円形に近く、断面形は開口部付近が若干外に開くが、ほぼ垂直に立ち上がる。半裁の段階で、土坑底部以下にある緑灰色粘性土の下部を底面と考えたが、断面観察の結果、底面は⑬層下部であることが判った。したがって、底面東側は正確に実測できていない。

〈覆土〉① 黒褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2～0.6cmの黒色スコリアを含む。やや黒色の発色が悪いが、BBⅢ層に相当すると考えられる。

② 暗褐色スコリア質土　0.2～0.7cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。BBⅢ層に相当すると思われるが、やや硬質である。

③ ②をベースに④が混在する。

④ 暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色、黒色スコリアを含む。第18層に相当するスコリア質土であると考えられる。

⑤ 暗褐色スコリア質土　②に類似するが、黒色が強く、脆弱である。

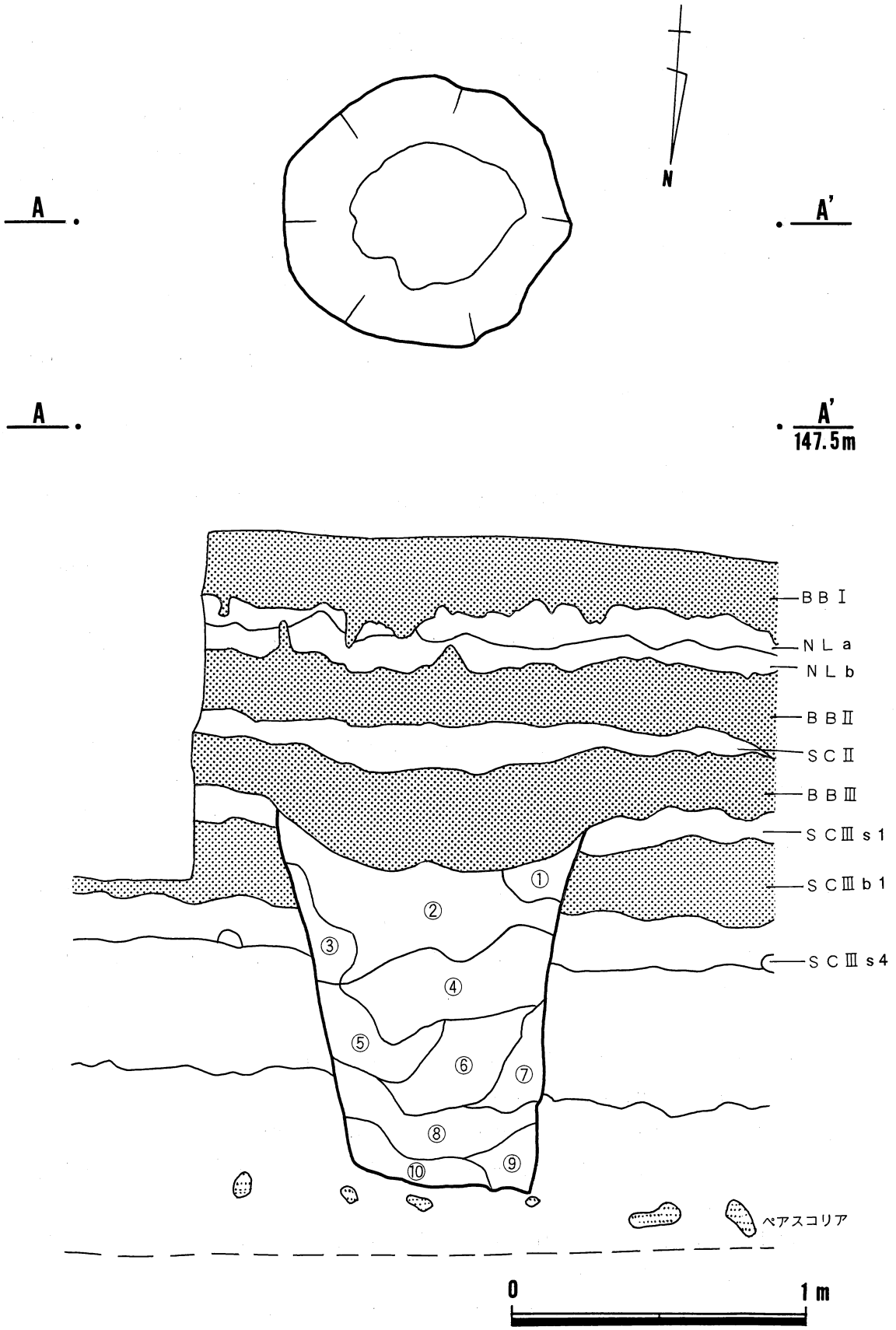
⑥ 暗褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。硬質である。

⑦ 暗黄褐色スコリア質土　一部に⑥を含むが、SCⅢ層相当のスコリア質土がベースである。0.2～0.3cmの黒色、赤色スコリアを含む。

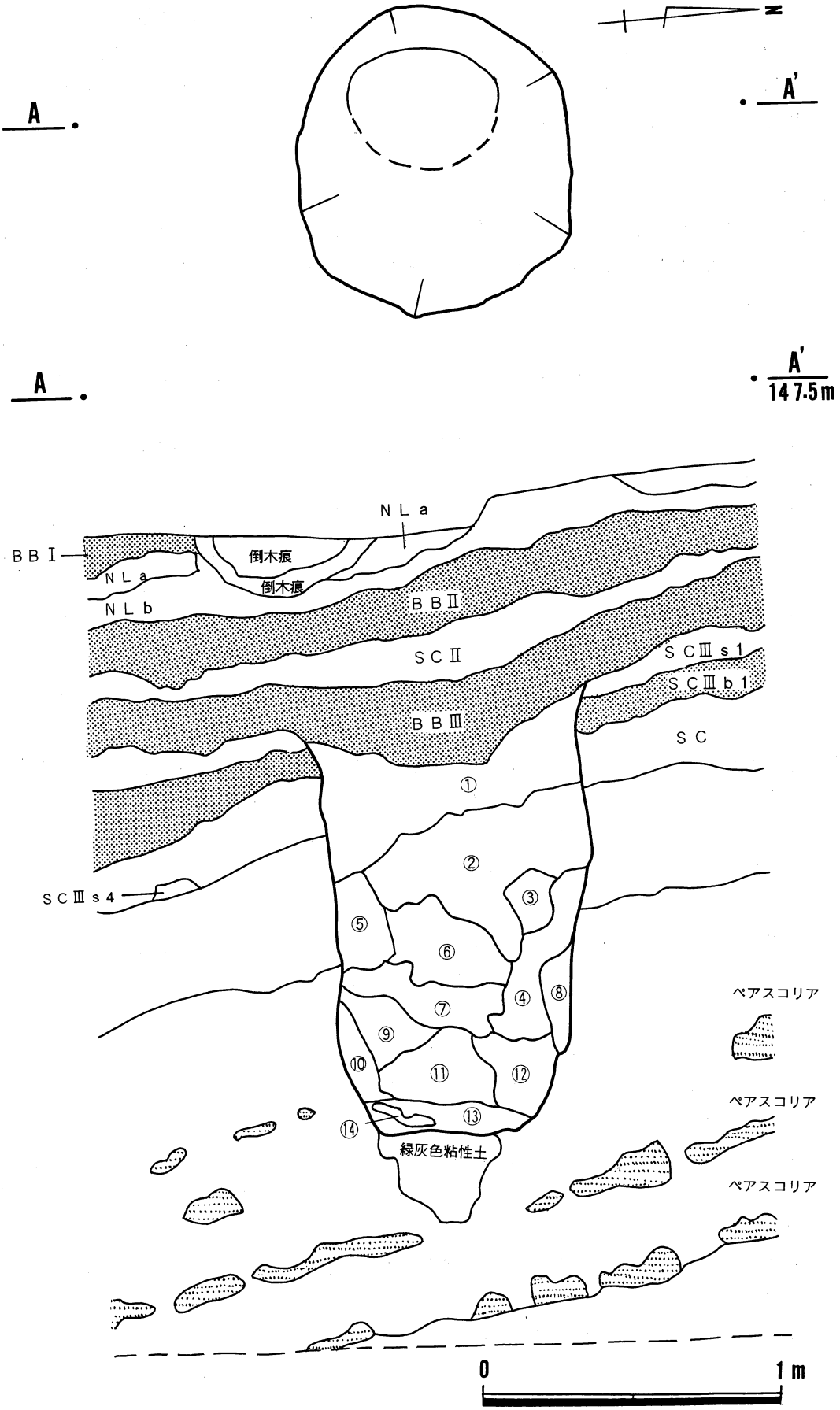
⑧ 茶褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層の下位に相当すると思われる。

⑨ 暗黄褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.3cmの黒色スコリアを含む。

⑩ 茶褐色ローム質土　⑧に類似するが、黒色スコリアの径が小さくなる。



第81図　6号土坑図（1/20）



第82図　7号土坑図（1/20）

⑪　暗褐色ローム質土　0.1～0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。下部は脆い。

⑫　褐色ローム質土　0.1～0.3cmの黒色、赤色スコリアを含む。土質は⑪に似る。

⑬　暗褐色ローム質土　⑪に類似したローム質土をベースに、灰白色粘性土を中に含む。

⑭　黒色粘性土　0.2～0.3cmの赤色スコリアを少量含む。

8号土坑〈第83図〉

調査区東側K－17グリッド北東部で検出された。検出面はSC Ⅲ b 1直下で、長径124cm、短径111cm、深さ136cmを測り、検出された土坑の中では最大規模である。平面形はやや楕円状を呈し、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

〈覆土〉①　暗黒褐色スコリア質土　0.1～0.4cmの赤色、橙色スコリアを多く含み、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。0.1～0.2cmの白色パミスを少量含む。黒色の発色が強くBB Ⅲ層に相当する。

②　暗褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。SC Ⅲ層に相当すると思われる。

③　暗褐色スコリア質土　②に類似するが、赤色、橙色スコリアの含有量が多い。

④　黒褐色スコリア質土　0.2～0.8cmの橙色スコリア、0.1～0.3cmの赤色スコリアを含み、0.3～0.7cmの黒色スコリアを含む。BB Ⅲ層に相当すると思われるが、黒色がやや弱い。

⑤　暗褐色ローム質土　0.2～0.3cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2～0.4cmの黒色スコリアを若干含む。

⑥　暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.8cmの黒色スコリア、0.2～0.3cmの赤色、橙色スコリアを含む。SC Ⅲ層相当の土が混在する。

⑦　暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの黒色スコリア、0.2～0.4cmの赤色スコリアを含む。壁際は壁の崩落土と思われる第19層のローム質土が見られる。

⑧　⑤と⑥の混土。⑥がベース。

⑨　暗黄褐色スコリア質土　0.2～1.0cmの黒色スコリア、0.2～0.3cmの赤色スコリアを含む。黄白色のパミスの小塊が、板状に若干量含まれる。

⑩　暗茶褐色スコリア質土　0.2～0.7cmの黒色スコリア、0.1～0.3cmの赤色スコリアを含む。黄白色のパミスの小塊が、板状に若干量含まれる。

⑪　暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.7cmの黒色スコリア、0.1～0.3cmの赤色スコリアを含む。SC Ⅲ層に相当すると考えられる。

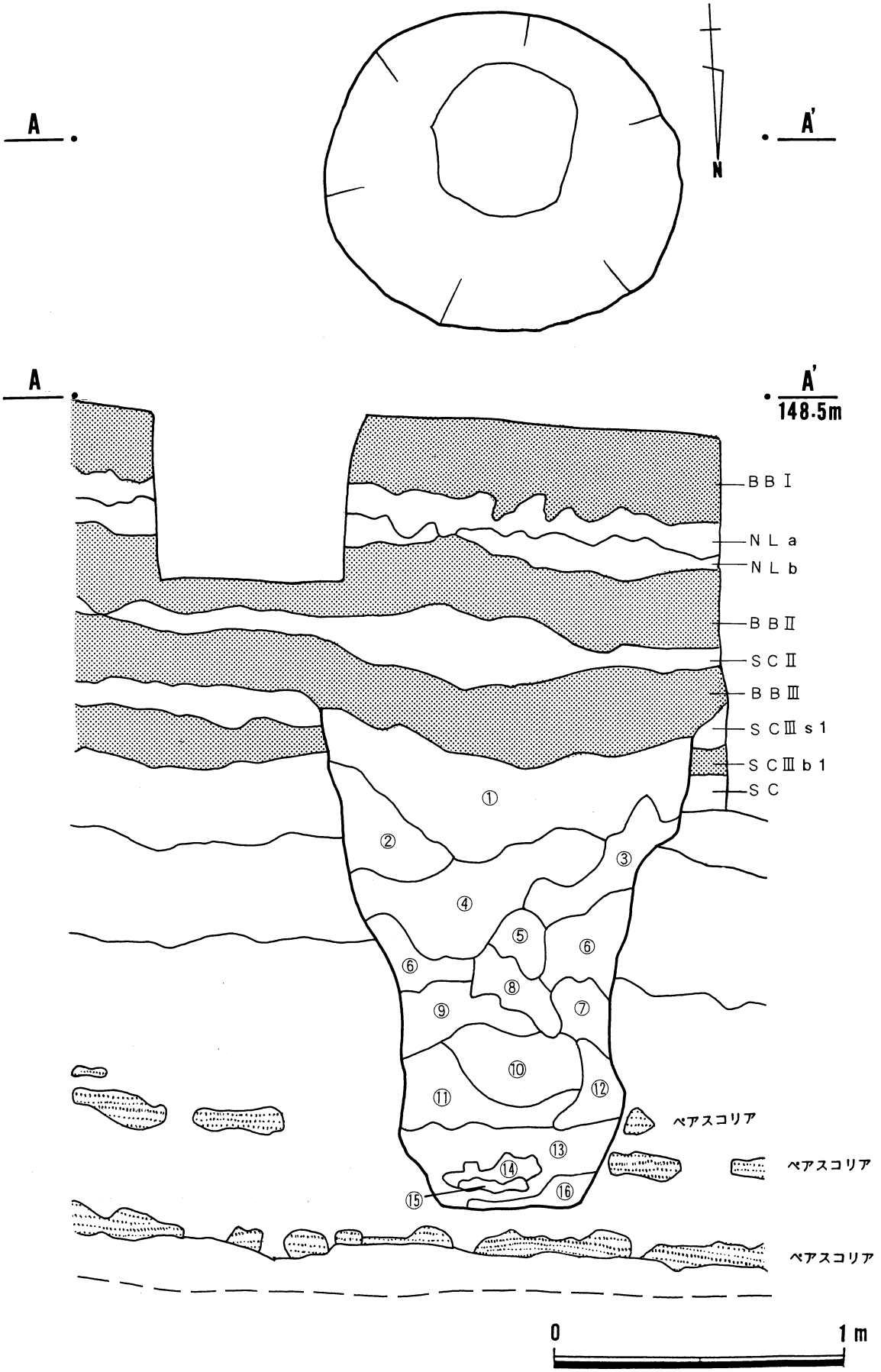
⑫　茶褐色ローム質土　0.2～0.3cmの黒色スコリア、0.2～0.4cmの赤色スコリアを含む。第19層に相当すると考えられる。

⑬　褐色粘性土　0.2～0.4cmの黒色スコリア、0.2～0.4cmの赤色スコリアを含む。土坑の埋積過程において一時溜水状態にあったことを示す鉄錆色の酸化鉄のラインが、土坑壁から底部にかけて走る。

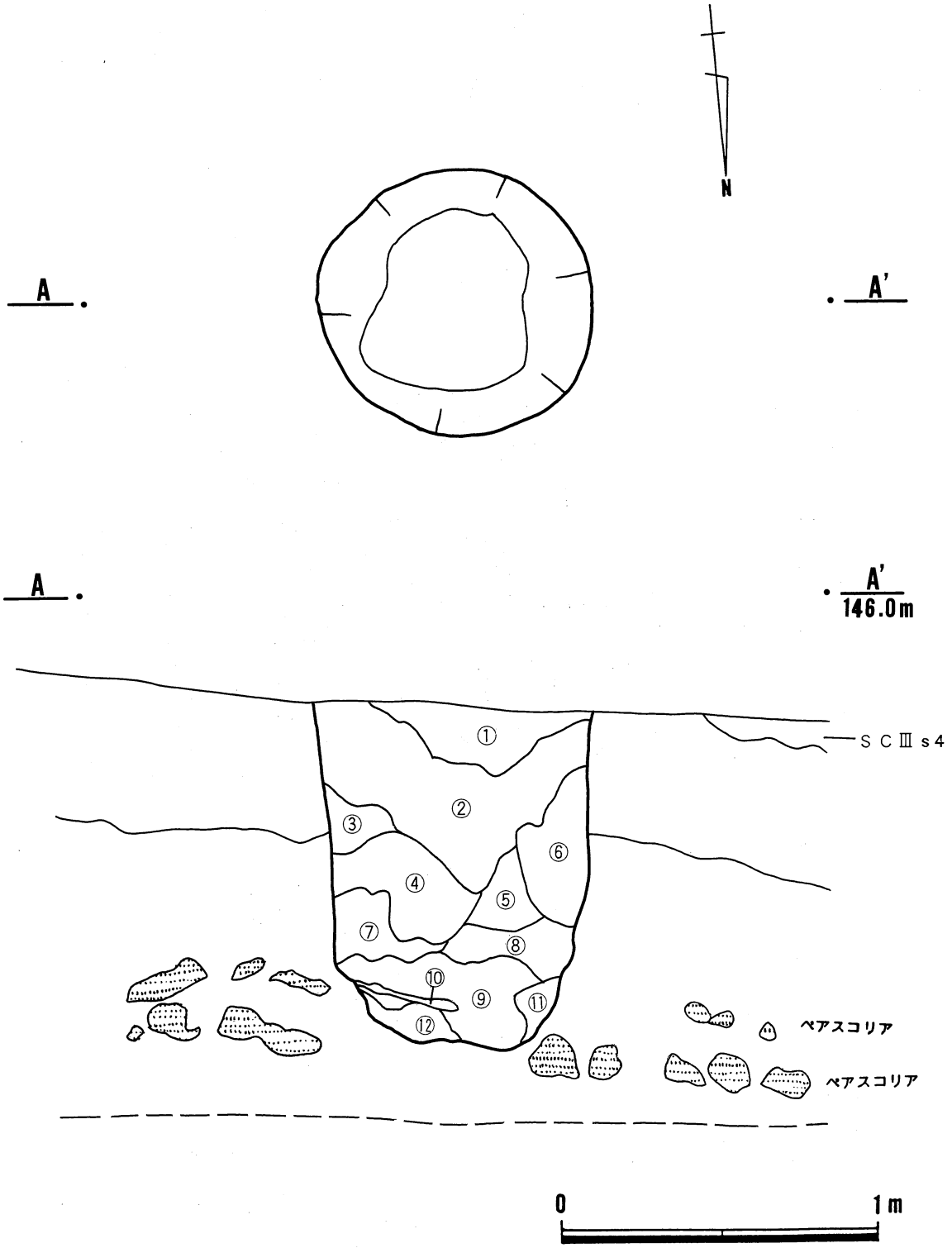
⑭　青灰色粘性土　粘性が強く、0.2cmほどの赤色、黒色スコリアを少量含む。一部茶色に変色している箇所もある。

⑮　黒色粘性土　0.2cmの黒色、赤色スコリアを若干含む。

⑯　黄褐色ローム質土　0.2～0.3cmの黒色スコリアを含み、0.2cmの赤色スコリアを若干含む。第18層下位の土に相当すると思われる。



第83図　8号土坑図（1/20）



第84図　9号土坑図（1/20）

9号土坑〈第84図〉

調査区東側K－16グリッドで検出された。検出面はSCⅢs4上面で、長径91cm、短径84cm、深さ107cmを測る。平面形はほぼ正円で、断面形はほとんど垂直に近く立ち上がる。

〈覆土〉① 暗黒褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色、橙色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含むが、黒色スコリアの割合が他の土坑に比較して低い。BBⅢ層に相当する。

② 黒褐色スコリア質土　①に類似するが、赤色、橙色スコリアの量が減少し、黒色スコリアの量が増す。BBⅢ層相当。

③ 暗黄褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。⑥に比べやや硬質である。SCⅢ層相当。

④ 暗褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含むが、赤色スコリアの頻度は高くない。

⑤ 褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。

⑥ 暗黄褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。③に類似する。

⑦ 暗黄褐色ローム質土　0.1～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。第18層下位に相当すると思われる。

⑧ 暗黄褐色ローム質土　⑦に類似するが色調が若干暗い。

⑨ 暗褐色粘性土　0.1～0.3cmの黒色、赤色スコリアを含む。青灰色や鉄錆色に変色している箇所が上層に見られる。

⑩ 黒色粘性土　0.2cmの黒色、赤色スコリアを若干含む。

⑪ 黄褐色ローム質土　0.2～0.6cmの黒色スコリアを含み、0.1～0.2cmの赤色スコリアを若干含む。SCⅢ層相当。

⑫ 黄褐色ローム質土　0.2cmの黒色スコリア、0.1～0.3cmの赤色スコリアを含む。第19層のローム質土に相当すると考えられる。

10号土坑〈第85図〉

調査区の北端K－18グリッド西部から検出された。検出面はSCⅢb1直下で、長径108cm、短径103cm、深さ139cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形は開口部付近が緩やかに外へ開く。

〈覆土〉① 暗黒褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色、橙色スコリアを多く含み、0.3～0.8cmの黒色スコリアを含む。0.1～0.2cmの白色パミスを少量含む。BBⅢ層に相当する。

② 暗茶褐色ローム質土　0.2～0.4cmの赤色、黒色、橙色スコリアを含む。

③ 黒褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色、橙色スコリアを多く含み、0.2～0.4cmの黒色スコリアを少量含む。

④ 暗茶褐色スコリア質土　②と③の混土と思われる。②より若干軟質で、スコリアの含有量がやや減る。

⑤ 暗黄褐色ローム質土　第18層下位の土に相当すると思われる。0.2～0.4cmの赤色、黒色スコリアを含む。やや粘性有り。

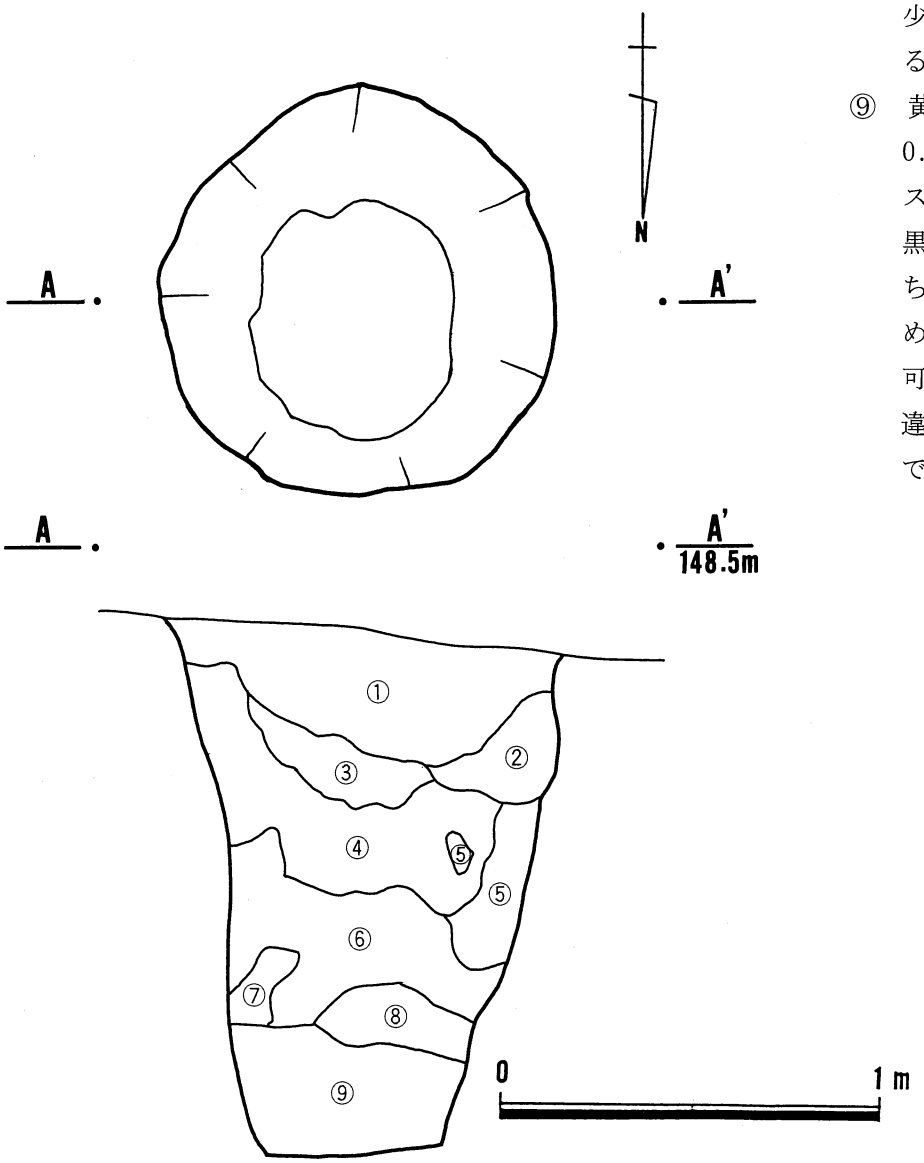
⑥ 褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色スコリア、0.3～0.5cmの黒色スコリアを含む。⑤に類似する黄褐色のローム塊が混在する。

⑦ 黄褐色ローム質土　⑤に類似するが、スコリアの含有量が少ない。土色も若干明るい。

⑧ 暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.6cmの黒色スコリアを含み、0.2～0.3cmの赤色スコリアを

少量含む。やや軟質である。

⑨　黄褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色、橙色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。断ち割りを行わなかったため、これ以上の分層は不可能であったが、土質の違いからもう一本線引きできたと思われる。



第85図　10号土坑図（1/20）

11号土坑〈第86図〉

調査区南側K－15グリッド南部から検出された。検出面はSC Ⅲ b 1直下で、長径111cm、短径98cm、深さ128cmを測る。平面形は円形に近く、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

〈覆土〉①　黒褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリアを多く含み、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。BB Ⅲ層相当。

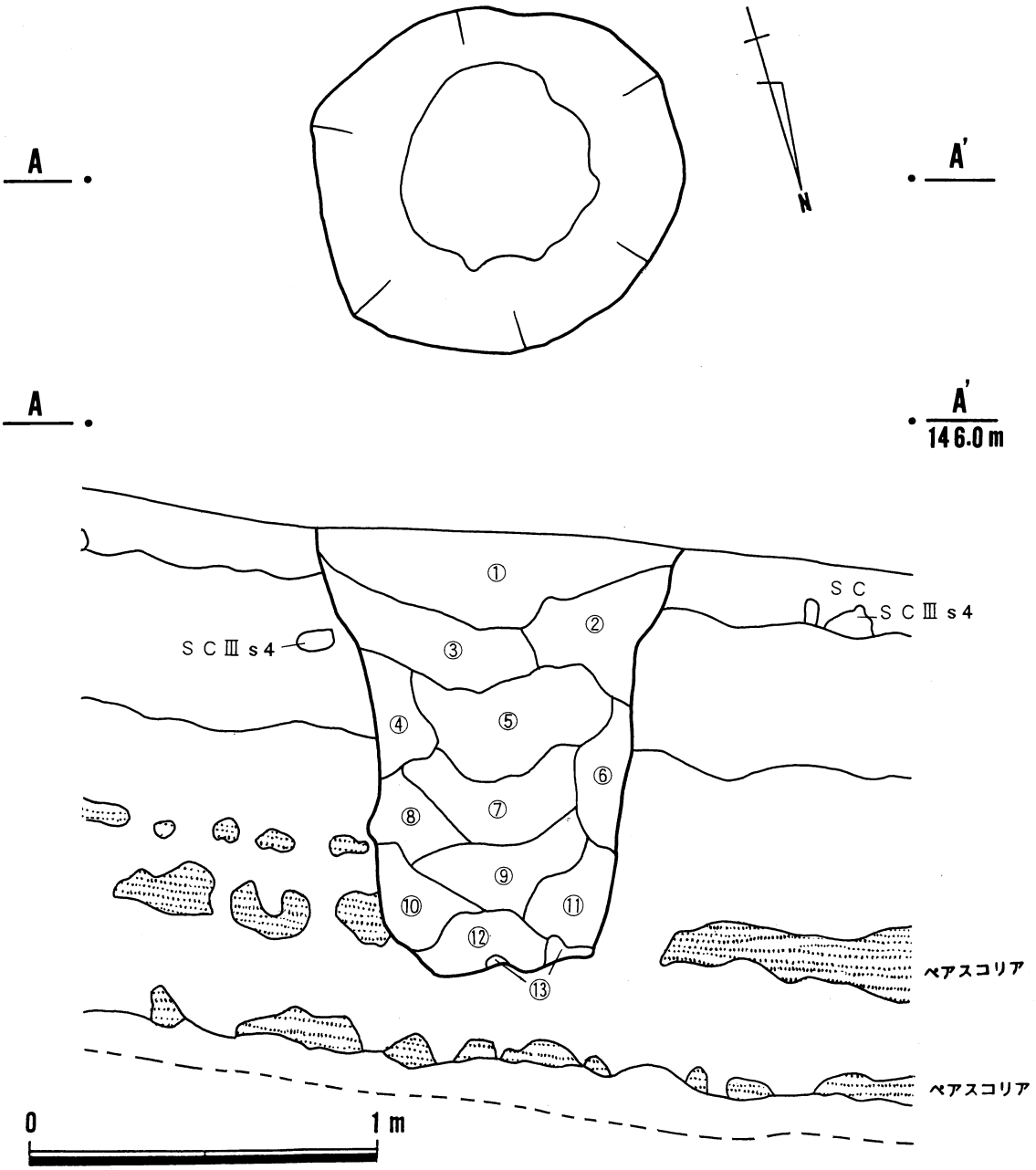
②　暗褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2～0.6cmの黒色スコリアを含む。

③　暗褐色スコリア質土　②に類似するが、やや硬質で色調は若干暗い。

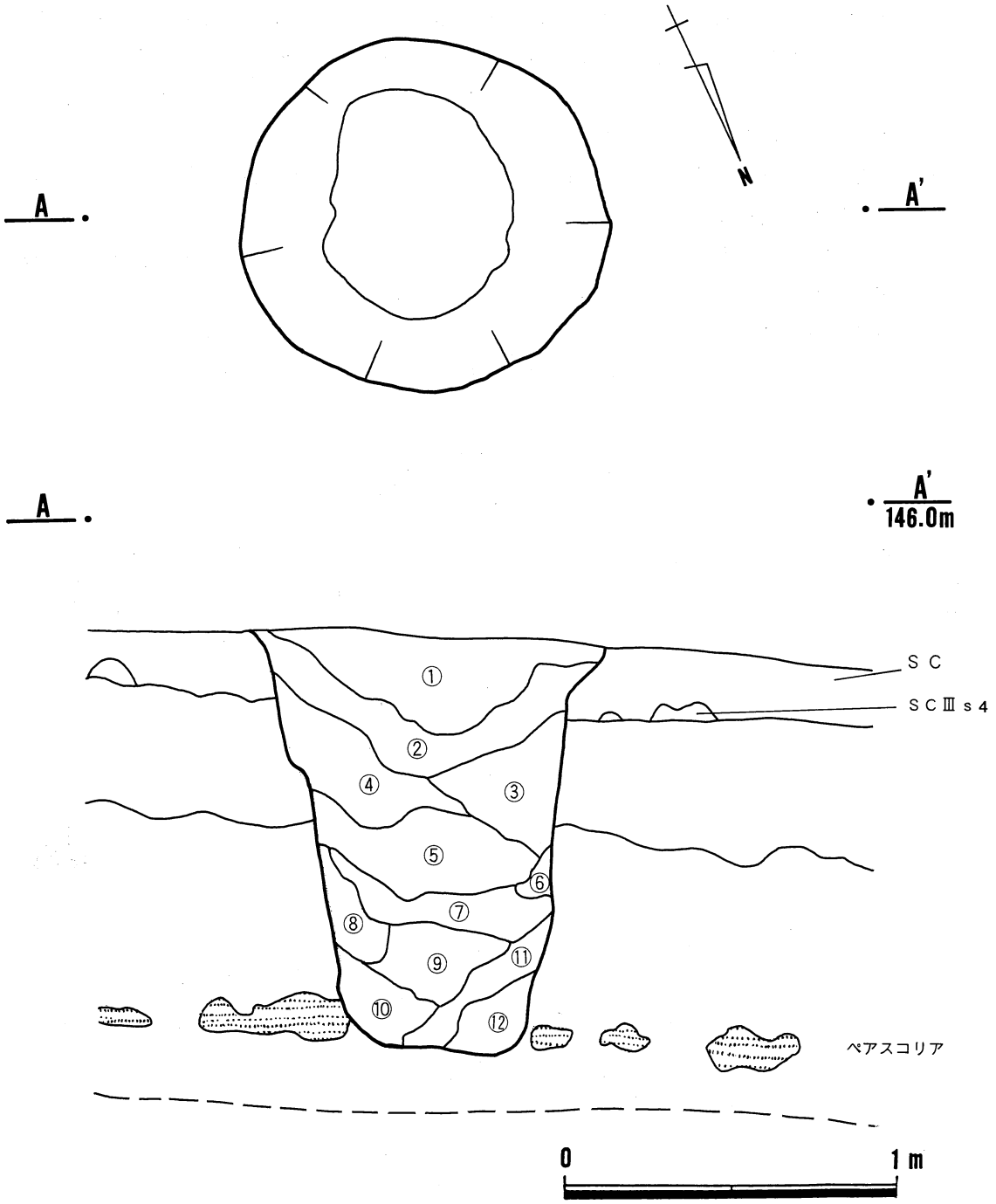
④　暗黄褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色スコリアを含み、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。SC Ⅲ層に相当すると思われる。硬質である。

⑤　暗褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。②に類似するが、赤色スコリアの量は減少する。

⑥　暗黄褐色ローム質土　0.2～0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。第18層下位の土に相当。
⑦　褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。
⑧　褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。一部⑦の土が入る硬質な部分もある。
⑨　暗褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。下部には⑪が混在する。
⑩　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層下位の土に相当。
⑪　黄褐色ローム質土　⑩に類似するが、土色は若干明るい。
⑫　褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。
⑬　黒色粘性土　0.1～0.2cmの赤色スコリアを若干含む。



第86図　11号土坑図（1/20）



第87図　12号土坑図（1/20）

12号土坑〈第87図〉

調査区南端K－14グリッド南部から検出された。検出面はSCⅢb1直下で、長径112cm、短径106cm、深さ125cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

〈覆土〉① 黒褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。BBⅢ層に相当する。

② 暗褐色ローム質土　0.2～0.4cmの赤色スコリアを少量含み、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。

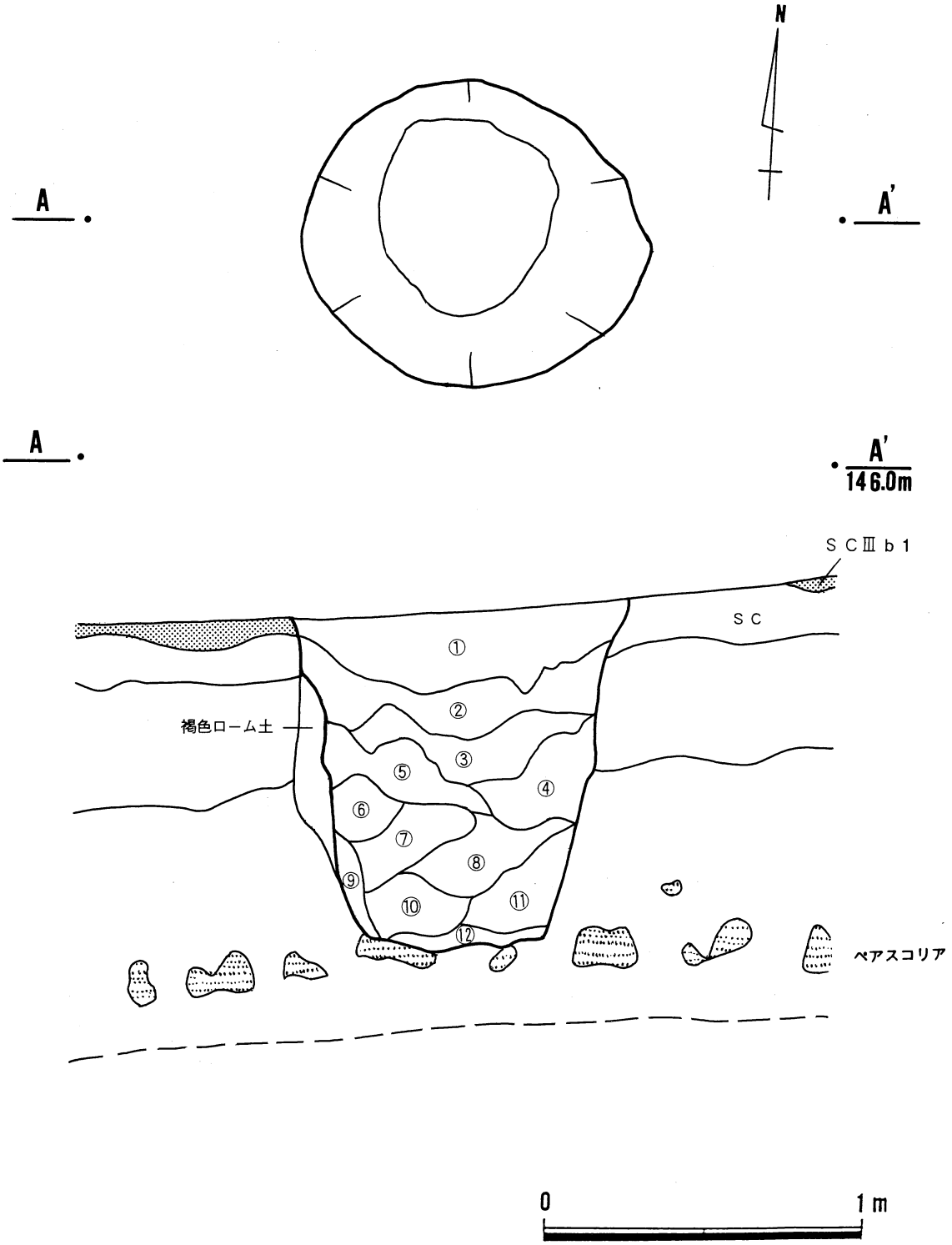
③ 褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色スコリアを含み、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。
④ 褐色ローム質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2～0.3cmの黒色スコリアを少量含む。
⑤ 暗茶褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。
⑥ 黄褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色スコリアを少量含み、0.2～0.3cmの黒色スコリアを含む。SC Ⅲ層に相当。
⑦ 暗褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。
⑧ 暗黄褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.3cmの黒色スコリアを含む。SC Ⅲ層に相当する黄褐色のスコリア塊が混じる。
⑨ 暗黄褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。SC Ⅲ層をベースに⑦が混じる。
⑩ 黄褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層下位の土に相当すると思われる。
⑪ 鈍い黄褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.3cmの黒色スコリアを含む。やや締まりに欠ける。
⑫ 暗黄褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.3cmの黒色スコリアを含む。底部に黒色粘性土を若干含む。

13号土坑〈第88図〉

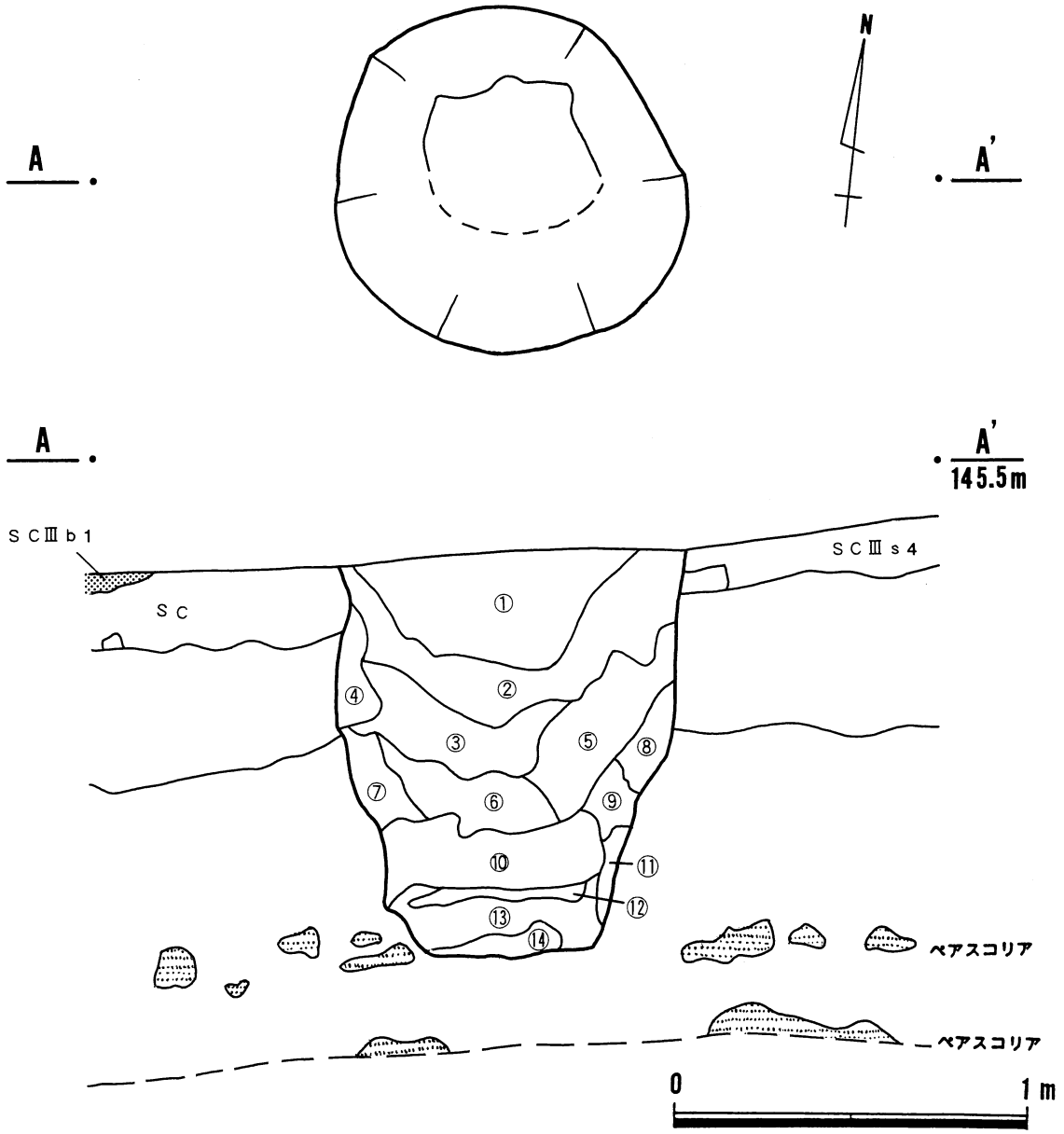
調査区北西Ⅰ－17グリッドの中央付近から検出された。検出面はSC Ⅲ b 1直下で、長径111cm、短径96cm、深さ106cmを測る。平面形はやや楕円状で、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

〈覆土〉① 暗黒褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの橙色、赤色スコリアを多く含み、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。BB Ⅲ層に相当する。
② 黒褐色スコリア質土　①に類似するが、赤色、橙色スコリアの量が減少し、黒色の発色が弱くなる。
③ 暗褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリアを含む。
④ 茶褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。SC Ⅲ層に相当する土が混在する。
⑤ 褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。
⑥ 暗褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.3cmの黒色スコリアを含む。
⑦ 暗褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。④に類似する。
⑧ 黒褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。やや締まりがない箇所もある。
⑨ 褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリアを含み、0.1～0.2cmの黒色スコリアを少量含む。
⑩ 暗褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリアを含み、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。下部に黒色土を少量含む。
⑪ 暗褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。

⑫　茶褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、黒色スコリアを含む。



第88図　13号土坑図（1/20）



第89図　14号土坑図（1/20）

14号土坑〈第89図〉

Ⅰ－17グリッド南よりから検出された。検出面はSCⅢb1直下で、長径106cm、短径94cm、深さ116cmを測る。平面形は円形に近く、断面形は開口部付近が緩やかに外に開く。底部付近の覆土が第19層に相当するローム土であり、地山と分離することが困難であったため、半截段階で掘り過ぎている。したがって、底面の南側は正確に実測できていない。

〈覆土〉① 黒褐色スコリア質土　0.2～0.5cmの赤色、橙色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含み、0.1cmの白色パミスを若干含む。BBⅢ層に相当する。

② 暗茶褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。やや軟質で、脆い箇所もある。

③ 暗褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリア、0.3～0.8cmの黒色スコリアを含む。硬質である。

④　暗黄褐色ローム質土　0.2～0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。第18層下位のローム土に相当すると思われる。

⑤　暗茶褐色スコリア質土　②に類似するが、赤色、橙色スコリアの量が少なく、土色が若干明るい。

⑥　暗黄茶褐色スコリア質土　⑤をベースに暗黄褐色スコリア質土が混じる。

⑦　暗黄褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層下位のロームに相当する。

⑧　暗茶褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.3cmの黒色スコリアを含む。

⑨　褐色ローム質土　0.2～0.4cmの黒色スコリアを含み、0.1cmの赤色スコリアを少量含む。

⑩　暗褐色スコリア質土　③に類似するが、色調がやや明るい。

⑪　暗褐色ローム質土　0.1～0.2cmの黒色スコリア、0.1～0.3cmの赤色スコリアを少量含む。

⑫　青灰色ローム質土　0.1～0.2cmの黒色、赤色スコリアを含む。一時期溜水状態にあったことを示す鉄錆色に変色した箇所が上部に見られる。土質は⑬に類似。

⑬　明褐色ローム質土　0.1～0.2cmの黒色、赤色スコリアを含む。第19層のロームに相当すると考えられる。

⑭　暗褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.1～0.3cmの黒色スコリアを含む。

15号土坑〈第90図〉

調査区南西端Ｉ－15～16グリッドにかけて検出された。検出面はSCⅢｂ1直下で、長径107cm、短径95cm、深さ95cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形はコップ状である。

〈覆土〉①　暗褐色ローム質土　0.2～0.4cmの赤色スコリアを含み、0.2～0.5cmの黒色スコリアを少量含む。締まりがなく崩壊し易い。BBⅢ層相当。

②　黒褐色ローム質土　①に類似するが、土色は若干明るい。多少締まりは出てくる。

③　④をベースに①が混じる。

④　暗茶褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。SCⅢ層相当。

⑤　暗黄褐色ローム質土　0.2～0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。締まりがなく崩壊しやすい。第19層に相当すると思われるローム土が下部に入る。

⑥　暗褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色スコリア、0.3～0.4cmの黒色スコリアを含む。0.2～0.3cmの黄色スコリアを極少量含む。

⑦　暗黄褐色ローム質土　⑤に類似するが、締まりはある。第18層に相当すると考えられる。

⑧　暗黄褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。SCⅢ層に相当すると思われる。

⑨　暗褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.3cmの黒色スコリアを含む。

⑩　褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.6cmの黒色スコリアを含む。SCⅢ層相当。

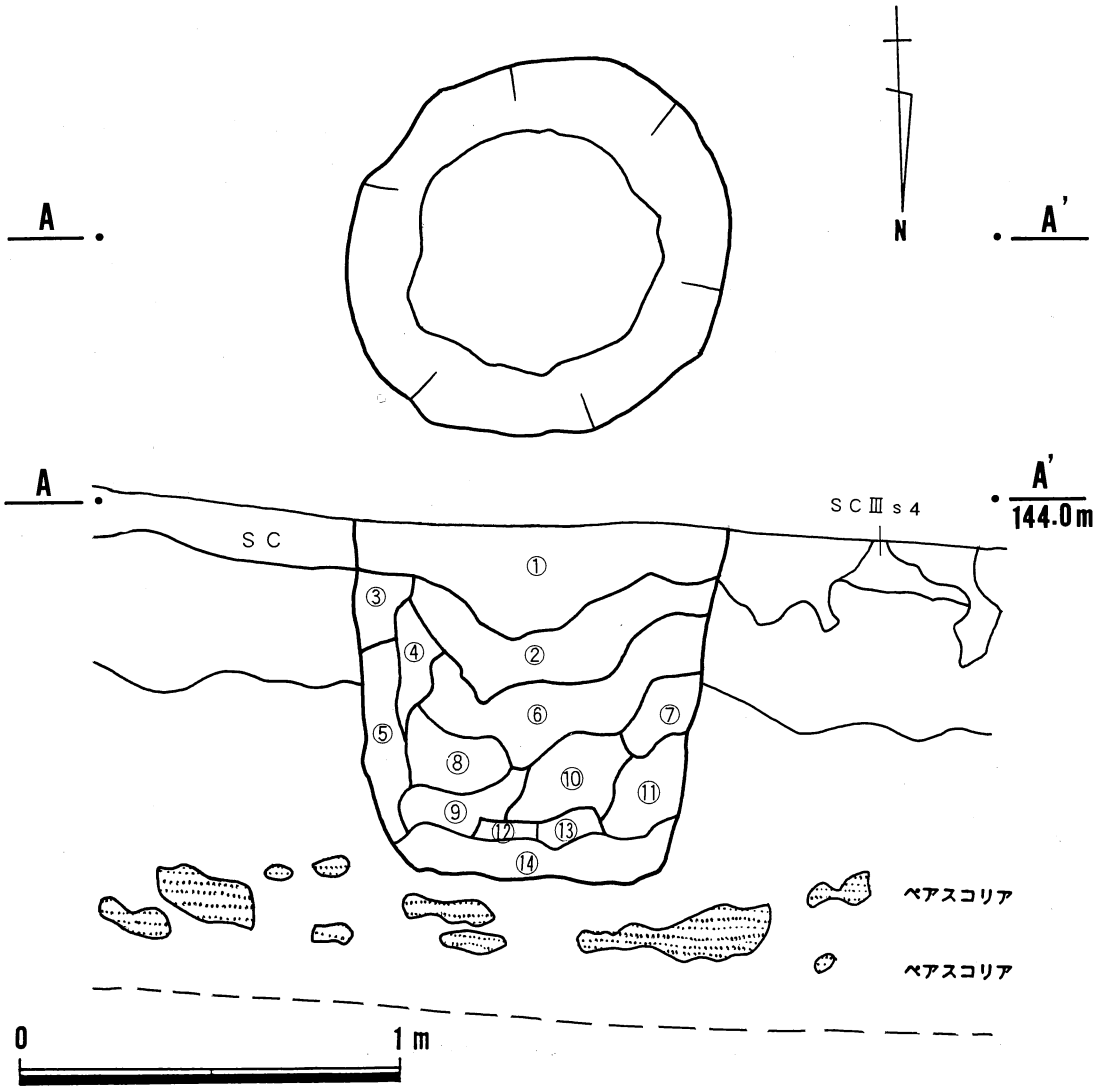
⑪　黄褐色ローム質土　0.1～0.3cmの赤色スコリア、0.1～0.4cmの黒色スコリアを含む。第19層に相当する。

⑫　黒色粘性土　0.2～0.3cmの黒色、赤色スコリアを含む。粘性は強くない。

⑬　褐色ローム質土　⑨に類似する。

⑭　暗褐色粘性土　0.2～0.5cmの黒色スコリア、0.1～0.3cmの赤色スコリアを含む。青灰色粘

性土を含み、上層に鉄錆色の変色箇所が見られる。



第90図　15号土坑図（1/20）

16号土坑〈第91図〉

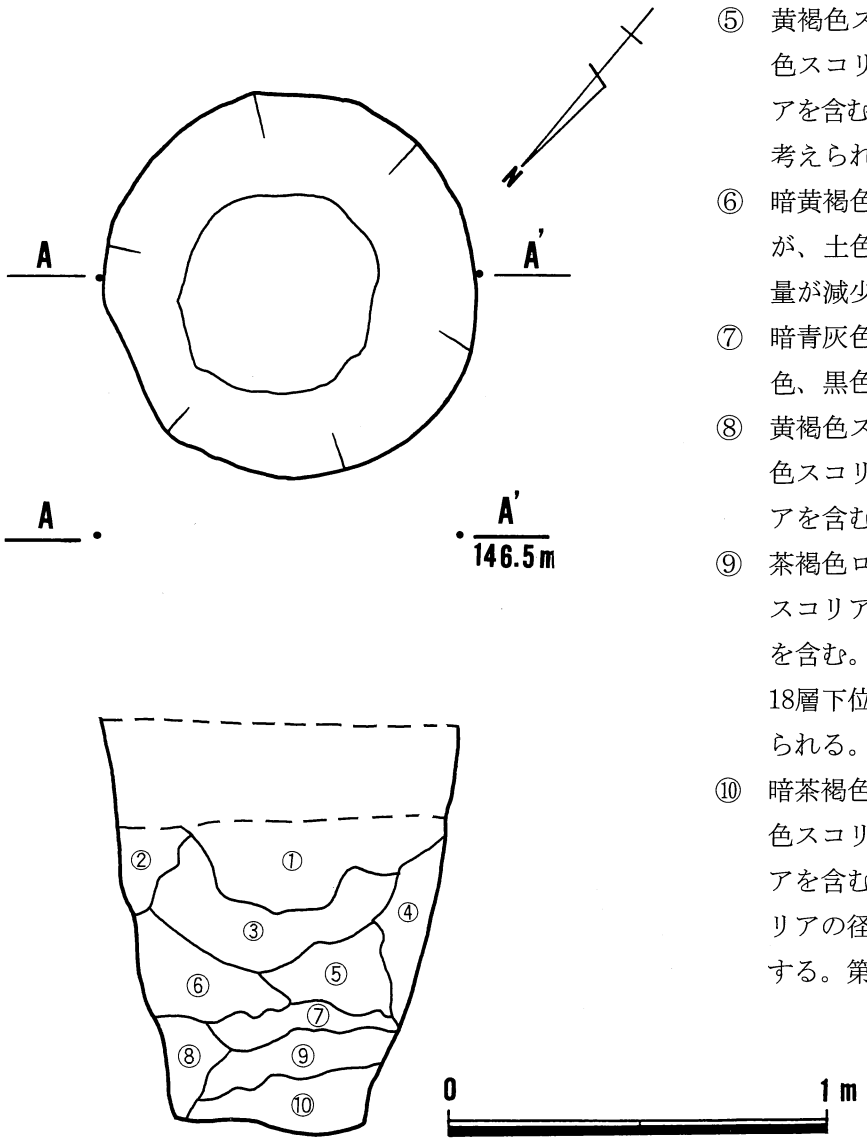
3区の北西J－11グリッド北部から検出された。検出面はSCⅢs4上面で、長径104cm、短径94cm、深さ109cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形はコップ状である。覆土上層約30cmは、調査上の時間的制約から、断面の観察を断念せざるをえなかったため実測はできていないが、掘削時の土質観察によりBBⅢ層に相当する土が堆積していたことを確認している。

〈覆土〉① 暗茶褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。BBⅢ層相当。

② 暗褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。BBⅢ層相当。

③ 暗褐色スコリア質土　①と②の混土。①をベースとする。

④ 褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層下位のローム土に相当すると考えられる。



⑤ 黄褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。硬質でSC Ⅲ層に相当すると考えられる。

⑥ 暗黄褐色スコリア質土　⑤に類似するが、土色はやや暗く、赤色スコリアの量が減少する。

⑦ 暗青灰色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色、黒色スコリアを含む。

⑧ 黄褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。SC Ⅲ層に相当する。

⑨ 茶褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。⑩に比べやや硬質である。第18層下位のローム土に相当すると考えられる。

⑩ 暗茶褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.3cmの黒色スコリアを含む。⑨に類似するが、黒色スコリアの径は小さくなり、含有量も減少する。第19層に相当すると思われる。

第91図　16号土坑図（1/20）

17号土坑〈第92図〉

3区北西のJ－11～K－11グリッドにかけて、セクションベルトにかかるかたちで検出された。検出面はSC Ⅲs4上面で、平面形はほぼ円形で、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

〈覆土〉① 暗黒褐色ローム質土　0.2～0.3cmの黒色スコリアを含み、0.2～0.3cmの赤色、橙色スコリアを多く含む。BB Ⅲ層に相当すると考えられる。

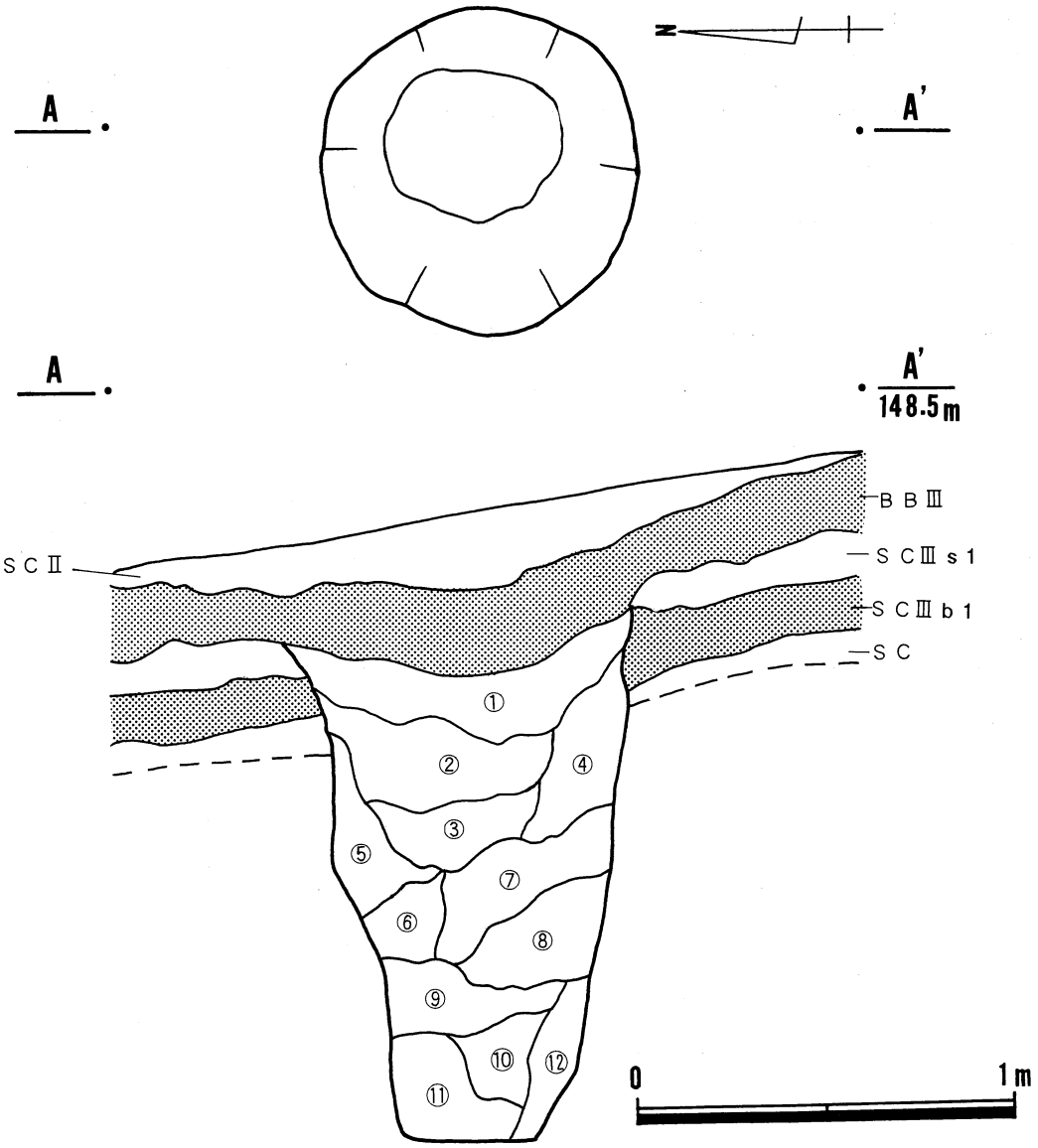
② 暗黒褐色スコリア質土　0.2～0.5cmの黒色スコリアを含み、0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリアを含む。BB Ⅲ層相当。

③ 暗黒褐色スコリア質土　②に類似するが、黒色スコリアの頻度は低下する。

④ 暗茶褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色、橙色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。

⑤ 茶褐色ローム質土　④に類似するが、色調はやや明るく、黒色スコリアの頻度は低下する。

⑥ 暗黄褐色スコリア質土　0.1～0.3cmの黒色スコリア、0.1～0.2cmの赤色スコリアを含む。



第92図　17号土坑図（1/20）

第18層に相当すると思われる。

⑦　褐色スコリア質土　0.1～0.5cmの黒色スコリア、0.1～0.2cmの赤色スコリアを含む。SCⅢ層相当の土が混在する。

⑧　黄褐色スコリア質土　0.2～0.4cmの黒色スコリアを多く含み、0.1～0.2cmの赤色スコリアを含む。第18層上部のスコリア質土に相当すると思われる。硬質である。

⑨　暗黄褐色スコリア質土　⑧に類似するが、色調はやや暗くなる。

⑩　暗褐色スコリア質土　0.2～0.3cmの黒色スコリア、0.1～0.2cmの赤色スコリアを含む。SCⅢ層相当の土が若干混じる。

⑪　黄褐色スコリア質土　0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層に相当すると考えられる。

⑫　褐色ローム質土　0.1～0.2cmの赤色、黒色スコリアを少量含む。第19層上部のローム土に類似する。

表21　BBⅢ層土坑計測表

土坑番号	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	推定（cm）
1	105	99	113	(153)
2	97	89	102	(145)
3	107	90	109	(130)
4	101	86	97	(128)
5	102	94	101	(140)
6	97	91	100	(126)
7	105	92	127	(137)
8	124	111	136	(168)
9	91	84	107	(147)
10	108	103	139	(169)
11	111	98	128	(158)
12	112	106	125	(155)
13	111	96	106	(136)
14	106	94	116	(146)
15	107	95	95	(125)
16	104	94	109	(149)
17	88	84	106	(138)

以上17基の土坑の覆土を中心に述べてきたが、覆土は、上層はBBⅢ層に相当する黒褐色スコリア質土、中層はSCⅢ層相当の黄褐色・褐色スコリア質土、もしくはSCⅢ層と第18層に相当するスコリア質ローム層との混土、下層は第18層、もしくはSCⅢ層と第18層との混土の３層に大別でき、この覆土上部をSCⅡ層が被覆しているという状況である。このことから、埋積過程における人為的な痕跡は認められず、土坑は壁の自然崩落によって埋没したと考えられる。詳細については、後に発刊される『下原遺跡Ⅱ』に掲載する予定である。

また、前述した初音ヶ原遺跡群では、土坑の掘り込み面であると考えられるBBⅢ層からの石器の出土は皆無に等しかったのに対し、本遺跡並びに下原遺跡からは石器ブロックがそれぞれ１基検出されている。土坑の用途については、生活域から土坑の構築場所が離れている例と、直近にある例と二つの異なった調査報告があるため、今後慎重に検討していく必要がある。

第Ⅴ章　調査の成果と課題

1　縄文時代

FB 層は、１区は大半が、３区は FBa 層が、それぞれ撹乱の影響を受け、消滅していた。遺物は、FBb 層が良好に残存していた３区を中心に出土している。土器は、型式分類が可能なものの中では、鵜ヶ島台式と諸磯式が多くを占める。復元できたのは、鵜ヶ島台式の１点にとどまる。石器は、磨石・敲石・石皿・台石が全体の36％を占める。このことから、住居跡が検出されていないことと合わせ、遺跡が植物加工の場であった可能性も指摘できる。

2　旧石器時代

休場層以下 BB ０層から BB Ⅲ層までの各黒色帯において遺構・遺物が検出されている。休場層の石器は、一部に集中する箇所はあるものの、散在的に遺存することからブロック単位の把握はしなかった。石器の石材のうち44％を占める黒耀石については、箱根系の畑宿産のものが最も多く、全体の80％を占め、剥片剥離作業が行われたと考えられる地点が１箇所確認されている。石核の出土は見られないため、遺跡外に持ち出されたと考えられる。畑宿産以外の黒耀石については、剥片剥離が行われた痕跡は認められないため、製品・剥片として搬入されたと考えられる。黒耀石に次ぐ石材として選択されている頁岩は、石核の点数が10点と多く、３区の北西部に集中して出土している。遺跡内では剥片剥離は行われていないため、石核を遺跡外に持ち出し、剥片剥離を行った後、再度遺跡内に持ち込まれたと考えるのが妥当だと思われる。各黒色帯から出土した石器については、黒色帯ごと出土点数は異なるが、器種には大きな差異は認められない。剥片剥離が行われた痕跡は認められず、石器は製品・剥片として遺跡内に持ち込まれている。石材は、黒耀石と頁岩が主体である。黒耀石は、BB ０層、BB Ⅰ層、BB Ⅱ層では、箱根系と信州系が搬入されているが、BB Ⅲ層では箱根系の搬入はなく、信州系の霧ヶ峰産と蓼科産に限られるのが特徴である。

遺構は、BB Ⅲ層中に掘り込み面を持つと考えられる17基の土坑が注目される。土坑は、形状や深度が類似する他、規則性をもって配列されていることなどから、同時期に構築されたものと考えられる。これらの土坑は、検出当初陥し穴、貯蔵穴、土壙墓などの機能が考えられたが、覆土を検討した結果、自然堆積により埋没している状況が窺えたため、土壙墓としての機能は否定された。陥し穴と貯蔵穴の機能を考えた場合、土坑底部には、縄文時代の陥し穴に見られる逆茂木痕は検出されないが、規模と直線状の規則性を持った配列から、陥し穴としての機能をもっていた可能性が高い。しかし、陥し穴とする根拠にはやや乏しく、また、土坑の直近からは石器ブロックが検出されていることから、積極的な所見にはしにくいことも事実である。『下原遺跡Ⅱ』では、縄文時代草創期の陥し穴と、旧石器時代の土坑の全国・県下集成の中で、構造や配置形態等を探りつつ、愛鷹・箱根の BB Ⅲ層の石器群の集成も絡めながら、土坑の性格付けを行っていく予定である。

なお、１区と３区に挟まる農道部分は、東駿河湾環状道の取り付け道路になる予定である。したがって、工事に着手する際には、土坑の連続性から考えて、新たな土坑が検出される可能性があるため、追加調査を実施する必要がある。

出土石器一覧表

グリッド	遺物番号	層位	石材	個体別	器種	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g	X座標m	Y座標m	標高m
I17	1	撹乱	石英安山岩		敲石	117.0	76.0	78.0	865.0	80.62	37.78	147.258
I17	2	撹乱	輝石安山岩		敲石・磨石	41.0	98.0	21.0	120.0	89.88	35.93	147.966
I18	1	撹乱	輝石安山岩		敲石・凹石	101.0	88.0	61.0	840.0	90.39	36.79	148.043
I18	2	撹乱	輝石安山岩		敲石・凹石					90.36	36.67	148.052
J12	2	FB	輝石安山岩		石皿	324.0	286.0	113.0	17500.0	34.43	41.46	148.238
J12	3	FB	過斑晶質安山岩		石皿	120.0	124.0	46.5	960.0	34.73	41.29	148.56
J12	4	FB	玄武岩		敲石	101.0	72.5	60.0	580.0	35.28	47.77	148.906
J12	5	FB	輝石安山岩		磨石	107.0	133.0	44.0	890.0	35.80	49.79	148.821
J15	2	YLU	凝灰質頁岩		尖頭器	136.5	38.0	14.0	53.9	67.62	43.62	145.689
J16	14	YLU	黒耀石	KRM−4	石鏃	(12)	(9)	(2.5)	(0.1)	77.08	41.51	146.952
J16	1	YLU直上	黒耀石	WDT−4	石鏃	20.0	16.0	5.5	1.0	76.06	47.72	147.72
J17	6	YLU直上	黒色緻密安山岩		有舌尖頭器	70.5	13.0	4.5	3.7	82.82	41.56	147.875
K10	1	FB	頁岩		石核	30.0	66.0	72.0	176.4	19.03	59.98	152.021
K10	2	FB	輝石安山岩		磨石・敲石	119.0	97.0	57.0	850.0	17.30	58.16	152.398
K11	2	FB	石英安山岩		敲石・凹石	108.5	54.5	58.0	413.4	20.93	50.67	151.03
K11	3	FB	黒耀石	KOZ1−3	剥片	20.0	16.5	9.5	3.5	20.82	52.85	151.587
K11	4	FB	玄武岩		敲石	111.0	93.0	74.5	1115.0	20.28	53.44	152.122
K11	5	FB	玄武岩		磨石	108.0	86.0	55.0	740.0	29.69	53.70	150.18
K11	6	FB	輝石安山岩		敲石・磨石	100.0	79.0	50.0	597.1	26.82	58.54	152.411
K11	8	FB	頁岩		石匕	57.0	73.5	12.0	30.8	25.73	58.19	151.133
K11	9	FB	輝石安山岩		磨石	76.0	38.5	30.0	135.3	28.27	53.99	150.417
K12	2	FB	多孔質安山岩		台石	253.5	228.0	85.0	6200.0	33.30	55.44	149.855
K12	3	FB	黒耀石	WDT−3	楔形石器	24.0	16.0	9.0	3.0	35.12	50.55	149.208
K12	5	FB	黒色緻密安山岩		剥片	42.0	34.0	10.0	12.3	35.89	57.91	149.761
K15	4	YLU直上	玄武岩		有舌尖頭器	52.0	14.5	9.0	5.7	66.84	50.73	147.166
K16	20	撹乱	玄武岩		敲石	108.0	72.0	38.0	364.8	76.32	53.84	148.257
K17	1	FB	黒耀石	測定不能	砕片	10.0	3.5	1.0	0.0	86.42	56.42	149.798
K17	2	FB	黒耀石	KOZ2−1	砕片	11.0	9.0	3.0	0.2	84.03	58.48	149.828
K17	3	FB	黒色緻密安山岩		剥片	32.0	15.0	7.0	2.5	84.46	58.62	149.84
K17	4	FB	頁岩		剥片	46.0	26.0	10.0	11.5	83.09	59.34	149.806
K17	5	FB	黒色緻密安山岩		砕片	17.0	16.5	8.0	1.5	84.35	58.23	149.755
K17	6	FB	黒耀石	HTJ−3	剥片	11.0	8.0	2.5	0.1	81.70	57.19	149.444
K17	7	FB	多孔質玄武岩		磨石	73.0	67.5	43.0	217.7	83.20	58.34	149.753
K17	3	YLM	黒色緻密安山岩		有舌尖頭器	28.0	21.0	11.0	7.0	88.25	56.98	149.749
L11	1	FB	頁岩		剥片	30.5	20.0	7.0	4.8	20.68	60.29	152.179
L11	3	FB	黒色緻密安山岩		抉入削器	60.0	61.5	24.5	55.9	21.18	63.26	152.331
L11	4	FB	玄武岩		敲石	124.0	93.5	57.0	956.0	26.58	62.93	151.307
L11	5	FB	輝石安山岩		敲石	99.0	89.5	45.0	475.1	21.18	69.58	152.541
L11	6	FB	輝石安山岩		敲石	64.5	82.0	54.0	299.6	25.38	62.15	151.303
L11	7	FB	頁岩		剥片	42.0	27.0	9.0	9.7	26.85	62.08	151.007
L11	8	FB	輝石安山岩		敲石・凹石	106.5	83.0	55.0	620.0	26.69	62.57	151.005
L11	9	YLU	頁岩		有舌尖頭器	30.0	14.5	5.0	1.8	23.56	69.33	151.194
L12	2	FB	輝石安山岩		石皿	232.5	270.5	85.0	7500.0	32.55	60.12	150.474
L12	3	FB	黒耀石	KRM−4	剥片	26.0	15.0	6.0	1.2	37.10	61.24	149.93
L12	4	FB	輝石安山岩		敲石・磨石	56.5	46.0	25.0	85.0	36.59	60.51	149.994
L12	6	FB	黒耀石	KOZ1−2	剥片	21.0	13.5	6.0	0.6	36.88	66.38	150.817
L12	7	FB	黒耀石	KRM−1	剥片	20.0	15.0	3.0	0.7	32.49	69.09	151.412
L12	8	FB	黒色緻密安山岩		剥片	57.0	38.0	7.0	10.7	34.06	67.31	150.75
L12	9	FB	黒色緻密安山岩		有舌尖頭器	48.0	20.5	8.0	6.3	33.74	62.69	150.401
L12	10	FB	黒色緻密安山岩		剥片	38.0	20.0	8.0	4.6	37.17	67.44	150.616
L12	11	FB	黒色緻密安山岩		剥片	38.5	11.0	7.5	1.6	36.37	69.76	150.744
L12	12	FB	珪質岩		剥片	54.0	49.5	25.0	32.7	36.23	65.50	150.545
L12	13	FB	玄武岩		U剥片	82.5	62.0	33.0	193.9	37.42	65.08	150.141
L16	1	FB	黒耀石	KRM−3	剥片	23.5	15.5	5.5	1.2	73.39	61.55	149.654
L16	2	FB	黒耀石	KRM−3	砕片	15.0	11.5	2.0	0.2	74.22	61.47	149.554
L16	5	FB	黒耀石	HTJ−2	砕片	17.5	13.0	6.0	1.0	71.04	63.60	149.447
L16	6	FB	頁岩		剥片	35.0	17.0	7.0	3.0	77.77	62.20	149.736
L16	7	FB	輝石安山岩		磨石	57.0	56.0	33.0	74.2	70.83	61.60	149.427
L16	8	FB	輝石安山岩		敲石	60.5	53.5	35.5	143.6	75.28	60.62	149.472
L16	9	FB	輝石安山岩		敲石	79.5	56.5	36.0	203.2	71.59	61.32	149.333
L16	10	FB	玄武岩		敲石	68.0	43.0	35.0	122.8	71.05	61.84	149.616
L16	11	FB	溶結凝灰岩		石核	58.0	158.5	101.0	1420.0	77.58	62.28	149.651
M11	1	YLU	頁岩		有舌尖頭器	43.0	15.5	5.5	2.9	26.05	78.01	152.516
M12	1	FB	黒耀石	KSW−1	石鏃	23.0	(15.0)	4.0	(0.9)	35.90	72.05	151.459
M12	3	FB	輝石安山岩		敲石	101.0	96.0	42.0	590.0	35.78	71.12	151.058
M12	4	FB	角閃石輝石安山岩		台石	164.5	157.0	58.5	2450.0	33.16	70.12	151.08
M12	5	FB	黒色緻密安山岩		剥片	34.0	50.0	17.5	14.5	34.72	77.16	151.928
M12	6	FB	黒耀石	KRM−1	剥片	23.5	19.0	9.0	2.0	33.78	77.81	152.131
M12	8	FB	黒色緻密安山岩		楔形石器	32.0	40.5	16.0	19.2	36.82	74.02	151.46
M12	9	FB	黒色緻密安山岩		石核	38.5	55.0	28.5	64.1	33.40	76.99	152.002
M12	10	FB	輝緑凝灰岩		剥片	46.0	39.0	10.5	13.6	36.67	71.65	151.277
M12	11	FB	黒色緻密安山岩		剥片	40.0	39.0	10.0	5.7	34.45	77.36	151.937
M12	12	FB	黒耀石	測定不能	砕片	10.0	4.0	1.0	0.0	35.14	72.81	151.494
M12	13	FB	黒色緻密安山岩		剥片	44.0	27.0	11.0	7.6	35.10	76.00	151.834
M12	14	FB	黒色緻密安山岩		剥片	23.0	19.0	5.0	1.7	35.12	76.99	151.913
M12	15	FB	黒色緻密安山岩		剥片	39.5	27.0	14.0	8.4	34.49	77.13	151.893
M12	16	FB	黒耀石	KRM−3	石鏃？	22.0	12.0	4.5	0.6	33.22	73.55	151.81
M12	17	FB	黒耀石	KOZ1−3	剥片	24.5	22.0	7.0	2.2	34.38	75.15	151.796

グリッド	遺物番号	層位	石材	個体別	器種	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g	X座標m	Y座標m	標高m
M12	18	FB	黒色緻密安山岩		剥片	36.0	30.0	14.0	13.3	33.58	75.54	151.831
M12	19	FB	黒色緻密安山岩		剥片	19.0	25.0	8.0	3.8	35.48	75.24	151.573
M12	20	FB	黒耀石	KOZ1−1	石鏃	22.0	(15)	5.0	(0.7)	31.66	72.85	151.566
M12	21	FB	砂岩		敲石	81.0	77.5	42.0	296.5	31.45	73.62	151.809
M12	22	FB	黒耀石	KRM−3	砕片	14.0	11.0	4.0	0.4	31.49	75.72	151.912
M12	23	FB	黒色緻密安山岩		楔形石器	32.0	38.0	14.0	14.7	34.86	75.01	151.532
M12	25	FB	黒色緻密安山岩		剥片	35.0	19.5	11.0	3.7	34.72	73.71	151.416
M12	26	FB	黒色緻密安山岩		剥片	44.0	39.0	19.0	24.3	34.42	77.51	151.871
M12	27	FB	黒色緻密安山岩		剥片	40.5	25.0	16.5	8.2	34.49	77.58	151.856
M12	28	FB	黒色緻密安山岩		剥片	36.0	22.0	15.0	8.6	34.22	77.59	151.928
M12	29	FB	黒色緻密安山岩		剥片	40.5	18.0	7.0	2.7	34.34	77.48	151.802
M12	30	FB	黒色緻密安山岩		剥片	42.5	19.0	9.5	6.1	34.21	77.19	151.771
M12	31	FB	玄武岩		磨石	149.0	86.5	54.0	890.0	33.28	75.92	151.769
M12	32	FB	輝石安山岩		敲石・磨石	110.0	98.0	44.0	694.0	33.40	78.03	151.846
M12	33	FB	黒色緻密安山岩		剥片	49.0	23.0	13.0	12.7	34.39	77.76	151.745
M12	34	FB	黒色緻密安山岩		剥片	25.0	21.0	5.0	2.3	33.84	77.71	151.744
M12	35	FB	黒色緻密安山岩		剥片	56.0	34.0	16.0	23.8	34.20	77.89	151.726
M12	36	FB	輝石安山岩		剥片	74.0	47.0	24.5	86.5	32.91	76.58	151.799
M12	37	FB	頁岩		剥片	41.0	37.0	10.0	14.5	33.80	73.51	151.432
M12	38	FB	石英安山岩		剥片	63.0	30.0	18.0	25.5	34.33	77.58	151.746
M12	39	FB	頁岩		剥片	24.0	20.0	6.0	2.1	34.41	75.05	151.474
M12	40	FB	黒色緻密安山岩		剥片	57.0	35.5	17.5	26.4	34.31	77.82	151.7
M12	41	FB	黒色緻密安山岩		剥片	25.0	15.5	3.5	1.1	34.35	77.48	151.656
M12	42	FB	黒色緻密安山岩		剥片	43.0	17.5	11.0	6.2	36.38	71.96	150.997
M12	43	FB	黒耀石	KOZ1−1	石鏃	13.5	7.0	(4.5)	0.3	36.90	71.75	150.99
M12	44	FB	黒色緻密安山岩		剥片	22.0	19.0	6.0	2.1	35.11	71.68	151.032
M12	46	FB	玄武岩		敲石	127.0	92.0	64.5	1065.0	35.46	73.80	151.116
M12	47	FB	輝石安山岩		敲石・磨石	132.0	91.0	53.0	890.0	35.64	73.84	151.115
M12	48	FB	頁岩		石刃	32.0	18.0	7.5	3.7	30.86	75.62	151.691
		表採	黒耀石	KRM−5	石鏃	16.0	14.5	3.0	0.4			
		表採	黒耀石	KOZ1−5	石鏃	23.5	18.0	7.0	2.0			
		表採	玄武岩		敲石	141.5	87.0	64.0	1075.0			

グリッド	遺物番号	層位	石材	個体別	器種	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g	X座標m	Y座標m	標高m
I10	1	YLU	頁岩		剥片	46.0	12.0	13.5	5.5	17.71	38.69	150.874
I16	1	YLU	黒耀石	HTJ－5	剥片	25.0	18.0	4.0	1.0	70.27	39.49	145.407
I16	2	YLU	頁岩		剥片	42.0	29.0	12.0	14.5	79.06	38.88	146.933
I16	4	YLU	頁岩		石刃	78.5	56.5	20.5	63.2	78.74	38.51	146.892
I16	5	YLU	頁岩		剥片	48.0	23.0	16.5	17.0	78.78	38.61	146.689
I16	6	YLU	黒耀石	KSW－3	砕片	9.0	6.0	2.0	0.1	70.18	38.33	145.127
I18	3	攪乱	輝石安山岩		磨石	87.5	80.0	53.0	500.3	90.18	36.17	147.316
J11	1	YLU	頁岩		石核	42.0	53.0	66.0	193.1	29.26	49.16	149.512
J11	2	YLU	頁岩		剥片	48.5	33.5	15.5	22.1	25.14	45.57	149.917
J11	3	YLU	頁岩		U剥片	52.0	42.0	19.5	30.9	25.72	49.11	150.061
J11	4	YLU	頁岩		剥片	51.0	25.5	7.5	10.2	24.93	42.22	149.975
J11	5	YLU	花崗閃緑岩		敲石・凹石	99.0	76.0	41.0	399.5	21.94	49.26	150.779
J11	7	YLU	輝石安山岩		磨石	146.0	75.0	34.0	620.0	25.86	48.76	149.970
J11	8	YLU	黒色緻密安山岩		原石	93.0	81.0	64.0	439.6	29.36	48.62	149.407
J11	9	YLU直上	黒色緻密安山岩		原石	105.0	51.5	30.0	131.1	27.35	48.03	149.656
J11	10	YLU直上	黒色緻密安山岩		剥片	55.5	31.0	17.5	17.0	29.14	48.91	149.451
J11	11	YLU直上	玄武岩		磨石	123.0	102.0	73.0	1365.0	21.63	48.39	150.597
J11	12	YLU	玄武岩		磨石	119.5	74.0	55.0	734.0	28.73	46.58	149.374
J11	13	YLU	玄武岩		敲石	127.0	94.5	69.0	1240.0	29.21	43.59	149.094
J11	15	YLU	輝石安山岩		敲石・磨石	167.0	84.0	50.0	1090.0	28.02	41.70	149.289
J11	16	YLU	玄武岩		敲石	139.0	82.0	64.0	1066.0	29.06	46.24	149.245
J11	17	YLU	輝石安山岩		敲石・磨石	111.0	65.0	58.0	535.5	20.80	49.74	150.964
J11	18	YLU	黒色緻密安山岩		剥片	45.0	36.0	17.5	13.0	29.98	49.95	149.422
J11	19	YLU直上	玄武岩		凹石	133.5	95.0	53.0	935.0	20.42	48.10	150.811
J12	1	YLU	頁岩		石核	38.0	55.0	51.0	120.1	34.67	47.40	148.668
J12	2	YLU	頁岩		石核	46.0	60.5	65.0	212.4	32.39	46.21	148.771
J12	3	YLU	頁岩		石核	32.0	69.0	75.0	257.5	32.28	44.95	148.750
J12	4	YLU	頁岩質ホルンフェルス		石核	45.0	72.0	66.0	275.1	31.16	49.00	148.575
J12	5	YLU	頁岩		石核	30.0	55.0	78.0	145.8	35.52	47.84	148.618
J12	6	YLU	頁岩		石核	32.0	56.0	57.0	130.6	32.40	46.18	148.776
J12	8	YLU	角閃石輝石安山岩		磨石	116.5	97.5	49.0	1122.0	32.88	48.50	148.974
J12	9	YLU	輝石安山岩		敲石	117.0	157.0	42.0	850.0	32.48	44.14	148.481
J12	10	YLU	輝石安山岩		敲石	134.5	115.0	60.0	960.0	31.38	48.92	149.167
J12	11	YLU直上	黒色緻密安山岩		剥片	50.0	41.5	14.0	22.5	20.13	49.46	149.557
J12	12	YLU	輝石安山岩		石核	68.0	110.0	67.0	474.0	33.31	47.07	148.807
J12	13	YLU	黒色緻密安山岩		原石	67.0	126.0	85.0	493.0	34.09	46.48	148.706
J12	14	YLU	黒色緻密安山岩		原石	122.0	68.0	45.0	359.2	32.26	47.16	148.817
J12	15	YLU	黒色緻密安山岩		石核	98.0	145.0	113.0	1952.0	32.31	43.54	148.647
J12	16	YLU	黒色緻密安山岩		剥片	59.0	34.0	14.0	20.9	35.17	48.43	148.648
J12	17	YLU	石英安山岩		磨石	118.0	97.0	48.0	743.8	32.07	43.23	148.532
J12	18	YLU	玄武岩		磨石	125.0	106.5	67.0	1265.0	35.49	48.76	148.644
J12	19	YLU	輝石安山岩		磨石	135.0	103.0	56.0	1100.0	33.60	43.07	148.434
J12	20	YLU	輝石安山岩		磨石	109.0	102.5	50.0	817.8	33.22	43.73	148.591
J12	21	YLU	玄武岩		敲石	146.0	79.0	70.0	1373.0	32.90	43.66	148.626
J12	22	YLU	角岩質チャート		石核	35.0	73.0	56.9	225.7	32.96	49.87	148.912
J12	23	YLU	頁岩		石核	32.0	86.5	72.0	215.5	35.44	49.60	148.201
J15	1	YLU	流紋岩		石核	58.5	24.0	28.0	27.7	67.81	47.65	146.546
J16	2	YLU	黒耀石	HTJ－5	剥片	25.0	16.0	6.0	1.6	79.30	48.92	148.106
J16	3	YLU	黒耀石	HTJ－7	剥片	23.0	14.0	4.0	1.2	77.26	41.51	147.041
J16	4	YLU	黒耀石	HTJ－3	砕片	12.0	10.0	4.0	0.3	76.26	48.47	147.744
J16	5	YLU	黒耀石	HTJ－5	砕片	11.0	6.0	3.0	0.1	76.99	48.38	147.784
J16	6	YLU	黒耀石	HTJ－5	剥片	25.0	19.0	6.0	2.3	70.16	44.54	146.306
J16	7	YLU	黒耀石	KRM－3	砕片	6.5	6.5	1.5	0.0	72.50	46.82	146.949
J16	8	YLU	頁岩		砕片	22.0	12.5	12.0	1.8	73.74	48.90	147.366
J16	9	YLU	頁岩		剥片	45.5	37.0	12.5	22.9	73.54	48.84	147.290
J16	10	YLU	頁岩		剥片	24.5	19.0	13.0	4.6	72.75	48.67	147.171
J16	11	YLU	黒耀石	HTJ－5	剥片	23.5	13.0	5.0	0.9	73.66	46.34	147.036
J16	12	YLU	頁岩		剥片	36.5	20.0	9.0	5.6	79.12	48.97	147.811
J16	13	YLU	黒耀石	HTJ－7	掻器	21.0	18.0	5.0	1.2	76.07	46.35	147.275
J16	15	YLU	頁岩		剥片	56.0	34.0	17.0	29.5	73.73	49.77	147.433
J16	16	YLU	玄武岩		敲石	310.0	157.0	135.0	9500.0	78.22	49.40	149.341
J17	1	YLU	黒耀石	TTS－1	ナイフ	27.0	16.5	5.5	2.2	81.66	46.45	148.127
J17	2	YLU	黒耀石	HTJ－5	剥片	19.0	12.0	3.0	0.6	80.91	46.43	148.023
J17	3	YLU	黒耀石	WDT－2	剥片	28.0	12.5	5.5	1.2	83.08	44.21	148.247
J17	4	YLU	黒耀石	KRM－3	U剥片	28.0	10.0	4.0	0.6	85.80	44.98	148.733
J17	5	YLU	黒耀石	WDT－2	尖頭削器	23.0	13.5	8.0	1.8	88.16	45.83	149.013
J17	7	YLU	黒耀石	KRM－3	U剥片	32.0	13.0	5.0	1.1	84.89	40.76	147.917
K10	1	YLU直上	黒色緻密安山岩		原石	114.0	92.0	66.0	500.1	19.87	52.04	151.265
K11	3	YLU	玄武岩		敲石・凹石	113.5	74.5	52.0	609.0	27.52	54.99	150.162
K11	5	YLU	玄武岩		磨石	174.0	96.0	54.0	1300.0	23.74	55.84	150.897
K11	7	YLU	溶結火砕岩		石核	51.0	112.0	128.0	828.0	28.07	50.00	149.868
K11	8	YLU	頁岩		石核	47.5	53.0	50.0	187.5	28.00	50.33	149.810
K11	9	YLU	緑色砂岩		磨石・敲石	123.0	87.0	43.0	607.7	25.98	50.68	150.109
K15	1	YLU	黒色緻密安山岩		剥片	31.0	30.0	8.0	5.0	66.90	54.80	147.832
K15	3	YLU	黒耀石	WDT－4	ナイフ？	28.0	17.0	7.0	2.4	67.38	50.66	147.082
K16	1	YLU	黒耀石	HTJ－5	剥片	38.0	14.5	7.0	3.7	76.54	53.42	148.391
K16	2	YLU	輝石安山岩		敲石	91.5	79.5	53.0	530.0	72.32	51.94	147.794
K16	9	YLU	黒耀石	HTJ－5	砕片	17.5	14.0	3.0	0.7	78.97	51.92	148.243
K16	10	YLU	黒耀石	KRM－3	剥片	16.5	9.0	6.5	0.7	73.33	51.17	147.797

グリッド	遺物番号	層位	石材	個体別	器種	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g	X座標m	Y座標m	標高m
K16	11	YLU	黒耀石	HTJ－5	剥片	17.5	12.5	4.0	1.0	71.35	50.82	147.448
K16	12	YLU	黒耀石	HTJ－3	削器	38.5	23.0	8.0	6.0	71.05	50.62	147.462
K16	17	撹乱	黒耀石	KOZ1－4	剥片	21.0	15.0	6.0	1.2	75.09	50.68	147.813
K17	1	YLU	黒耀石	KRM－2	剥片	16.5	12.5	4.5	0.7	88.12	55.09	149.729
K17	5	YLU	頁岩		剥片	46.5	38.0	14.0	26.6	83.41	52.72	148.617
K17	7	YLU	頁岩		剥片	33.5	33.0	15.5	16.9	83.08	54.63	148.797
K17	8	YLU	黒耀石	HTJ－7	剥片	17.5	17.0	4.5	1.4	81.84	50.64	148.327
K17	9	YLU	黒耀石	HTJ－5	剥片	37.5	18.0	8.0	4.9	82.79	50.12	148.312
K17	11	YLU	黒耀石	測定不能	砕片	7.0	6.0	2.5	0.1	81.99	56.93	149.059
K17	20	YLU	黒耀石	HTJ－3	剥片	19.0	16.5	5.0	1.4	81.08	59.67	149.093
K17	21	YLU	黒耀石	HTJ－5	剥片	29.0	22.0	9.0	5.0	84.79	56.49	148.974
K17	22	YLU	頁岩		剥片	27.0	10.5	8.5	2.1	83.07	57.23	149.123
L11	1	YLU	輝石安山岩		磨石	102.0	90.0	80.0	1034.0	28.34	61.62	150.686
L11	2	YLU	輝石安山岩		敲石・磨石	122.5	100.5	57.0	780.0	28.40	61.74	150.680
L11	3	YLU	頁岩		石核	24.0	57.5	74.5	145.0	20.10	62.93	152.146
L11	10	YLU	玄武岩		敲石・凹石	111.0	101.0	78.0	1069.4	23.29	69.19	151.835
L11	11	YLU	玄武岩		敲石・凹石	118.5	109.0	69.0	1240.0	23.49	68.97	151.791
L11	12	YLU	溶結火砕岩		石核	55.5	69.5	56.0	182.6	21.80	63.07	151.710
L11	13	YLU	溶結火砕岩		石核	58.0	78.0	61.0	263.9	21.66	63.11	151.882
L12	1	YLU	輝石安山岩		敲石	153.5	113.0	87.0	2200.0	30.30	60.75	150.317
L12	2	YLU	頁岩		石核	68.0	131.0	70.0	752.4	32.24	60.47	149.912
L12	3	YLU	輝石安山岩		敲石	144.0	88.5	70.0	1320.0	32.14	60.44	149.932
L16	1	YLU	頁岩		剥片	20.0	21.0	4.0	1.7	78.45	61.15	149.313
L16	3	YLU	頁岩		剥片	22.0	9.0	6.0	1.0	77.54	65.20	149.934
L16	4	YLU	黒耀石	WDT－1	剥片	24.0	19.0	4.0	1.2	71.73	66.49	149.860
L16	6	YLU	玄武岩質溶岩		敲石	101.5	98.5	35.0	265.5	76.45	67.98	150.018
L17	1	YLU	黒耀石	WDT－1	剥片	42.0	25.0	10.0	7.9	83.04	65.00	149.918
L17	9	YLU	硬質緻密安山岩		削器	73.5	34.0	14.0	29.3	84.11	61.54	149.497
L17	10	YLU	細粒凝灰岩		剥片	50.0	24.0	13.5	7.3	84.07	62.66	149.702
M12	3	YLU	輝石安山岩		磨石	124.0	105.5	56.0	1005.0	36.34	70.60	150.521
M12	7	FB	黒耀石	WDT－3	U剥片	44.0	16.0	10.0	3.1	36.10	74.90	151.71
M12	24	FB	黒耀石	HTJ－1	鋸歯縁削器	35.0	20.5	7.0	3.7	31.07	71.07	151.41
I16	3	YLM	頁岩		U剥片	49.0	31.0	13.5	23.1	78.60	38.08	146.662
I17	3	YLM	黒耀石	HTJ－3	剥片	15.5	14.0	5.5	0.8	81.06	38.54	147.032
J17	10	YLM	黒耀石	HTJ－5	剥片	20.0	21.0	7.0	2.1	81.99	39.78	148.261
K11	1	YLM	頁岩		剥片	53.0	24.0	16.5	16.5	20.12	50.87	150.528
K16	3	YLM	黒耀石	HTJ－3	砕片	12.0	11.0	3.0	0.3	74.59	56.62	148.322
K16	4	YLM	黒耀石	HTJ－3	砕片	8.0	6.5	2.0	0.0	77.62	53.14	148.537
K16	5	YLM	黒耀石	HTJ－5	砕片	16.5	14.0	3.0	0.7	77.54	53.03	148.536
K16	6	YLM	黒耀石	HTJ－7	剥片	37.0	15.5	12.0	4.5	75.07	59.51	148.616
K16	7	YLM	黒耀石	HTJ－5	剥片	25.5	12.0	5.5	1.5	78.00	53.08	148.208
K16	8	YLM	黒耀石	HTJ－3	砕片	10.0	9.0	2.0	0.1	78.83	55.92	148.430
K16	13	YLM	頁岩		剥片	45.0	35.0	14.0	20.0	74.23	50.49	147.473
K16	14	YLM	黒耀石	HTJ－5	剥片	19.0	15.0	5.5	1.1	77.09	51.51	147.913
K16	15	YLM	黒耀石	HTJ－5	剥片	15.5	17.0	4.0	1.8	79.15	51.41	147.983
K16	16	YLM	黒耀石	HTJ－5	砕片	19.5	10.0	4.0	0.7	77.88	50.99	147.917
K16	18	YLM	黒耀石	HTJ－5	剥片	24.0	18.0	6.0	1.9	77.36	52.78	147.849
K16	19	YLM	黒耀石	HTJ－5	剥片	28.0	21.5	10.5	5.9	79.67	56.39	148.396
K17	2	YLM	黒耀石	HTJ－7	剥片	24.5	22.0	9.0	2.6	88.71	56.71	149.667
K17	6	YLM	頁岩質チャート		削器	33.0	18.0	9.0	4.9	83.72	58.50	149.304
K17	10	YLM	頁岩		剥片	19.5	12.0	3.5	1.1	85.34	53.17	148.497
K17	12	YLM	黒耀石	HTJ－3	剥片	31.0	17.0	5.0	2.1	84.54	53.58	148.620
K17	13	YLM	黒耀石	HTJ－5	砕片	15.0	7.0	4.0	0.4	80.29	51.97	148.211
K17	14	YLM	黒耀石	HTJ－3	剥片	17.0	14.0	4.5	0.9	81.69	51.12	148.241
K17	15	YLM	黒耀石	HTJ－5	剥片	48.0	36.0	13.0	10.9	81.58	53.50	148.306
K17	16	YLM	黒耀石	HTJ－7	剥片	34.0	33.5	9.0	8.7	82.07	53.28	148.598
K17	17	YLM	頁岩		剥片	18.0	18.0	9.5	3.0	83.68	50.60	148.356
K17	18	YLM	チャート		剥片	37.0	30.0	13.0	12.7	85.32	55.43	148.875
K17	19	YLM	頁岩		剥片	17.0	16.0	2.5	0.7	85.38	59.88	149.274
K17	23	YLM	頁岩		剥片	28.5	19.0	6.0	3.1	82.57	52.89	148.207
K17	24	YLM	黒耀石	HTJ－7	剥片					81.12	53.16	148.216
K17	25	YLM	頁岩		砕片	19.5	11.0	10.0	1.6	82.81	52.44	148.341
K17	26	YLM	黒耀石	HTJ－3	砕片	14.0	12.0	3.0	0.3	81.92	54.92	148.605
K17	27	YLM	黒耀石	HTJ－3	剥片	22.0	15.5	7.0	2.0	82.88	56.63	148.894
K17	28	YLM	黒耀石	HTJ－7	剥片	43.0	26.5	10.0	8.4	84.27	59.40	149.264
K17	29	YLM	黒耀石	HTJ－3	剥片	29.0	17.0	3.5	1.5	83.73	56.15	148.820
K17	30	YLM	黒耀石	HTJ－3	剥片	20.5	10.0	4.0	0.6	84.05	56.37	148.768
K17	31	YLM	黒色緻密安山岩		剥片	23.5	20.5	7.0	2.4	80.82	55.36	148.585
K17	32	YLM	黒耀石	HTJ－3	剥片	19.5	17.0	3.0	0.6	80.57	54.85	148.505
K17	33	YLM	黒耀石	HTJ－3	剥片	17.0	14.0	4.0	0.5	80.11	55.77	148.608
K17	34	YLM	黒耀石	HTJ－7	剥片	24.0	14.0	8.0	2.0	83.70	55.61	148.719
K17	35	YLM	黒耀石	HTJ－5	剥片	18.0	14.5	5.0	1.0	84.97	57.05	148.905
K17	36	YLM	黒耀石	HTJ－3	剥片	19.5	10.0	7.5	1.2	84.55	57.64	148.951
K17	37	YLM	黒耀石	HTJ－5	砕片	14.0	12.0	3.0	0.5	84.66	57.46	148.907
K17	38	YLM	黒耀石	HTJ－5	剥片	19.0	18.0	8.0	1.8	84.33	56.75	148.803
K17	39	YLM	黒耀石	HTJ－5	掻器	31.0	18.0	6.0	2.6	80.34	55.20	148.651
K17	40	YLM	黒耀石	HTJ－5	剥片	21.0	13.5	3.5	0.9	80.96	57.68	148.797
K17	41	YLM	凝灰質頁岩		U剥片	57.5	52.0	13.0	27.1	82.81	56.59	148.717
K17	42	YLM	頁岩		剥片	58.0	40.0	11.0	30.1	81.94	55.90	148.586

グリッド	遺物番号	層位	石材	個体別	器種	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g	X座標m	Y座標m	標高m
K17	45	YLM	頁岩		剥片	41.5	30.0	13.0	14.9	84.35	54.46	148.446
K17	46	YLM	黒耀石	HTJ－3	剥片	14.5	13.0	3.5	0.7	84.59	56.33	148.636
K17	47	YLM	黒耀石	HTJ－3	砕片	12.0	9.0	2.0	0.1	84.02	55.74	148.541
K17	51	YLM	黒色緻密安山岩		石核	39.0	151.0	135.0	865.0	84.90	58.80	149.109
L16	2	YLM	黒耀石	WDT－2	剥片	25.0	11.0	4.0	0.8	76.27	67.87	149.932
L16	5	YLM	頁岩		剥片	23.0	14.0	7.0	2.4	74.41	68.16	149.994
L17	2	YLM	輝石安山岩		磨石	93.5	87.5	32.0	300.0	86.06	64.32	149.981
L17	4	YLM	頁岩		剥片	43.0	25.0	9.0	7.6	86.19	60.35	149.499
L17	5	YLM	黒耀石	HTJ－7	剥片	31.0	26.5	13.0	6.5	85.74	60.53	149.533
L17	6	YLM	碧玉		剥片	45.0	21.0	8.0	5.8	86.28	60.62	149.528
L17	7	YLM	黒耀石	HTJ－3	剥片	19.0	11.0	7.0	0.9	86.62	62.98	149.780
L17	8	YLM	頁岩		剥片	48.0	41.5	14.0	25.0	85.16	61.51	149.288
I17	4	YLL	黒色緻密安山岩		剥片	20.0	19.0	4.0	1.2	81.39	39.41	146.805
I17	5	YLL	黒色緻密安山岩		剥片	17.0	7.0	3.0	0.4	80.01	39.15	146.712
I17	6	YLL	黒耀石	HTJ－3	掻器	27.0	34.5	17.0	10.9	80.05	38.58	146.725
J17	8	YLL	黒色緻密安山岩		剥片	26.0	16.0	5.0	1.4	81.50	40.07	146.784
J17	9	YLL	黒耀石	HTJ－3	剥片	24.0	17.0	11.5	3.4	85.23	48.85	148.239
K17	4	YLL	黒耀石	KMT－1	剥片	25.5	13.5	7.0	2.4	89.67	56.50	149.635
K17	43	YLL	頁岩		剥片	48.0	19.0	14.5	11.0	84.90	54.54	148.563
K17	44	YLL	黒耀石	HTJ－3	砕片	11.0	7.0	2.0	0.1	80.09	54.66	148.324
K17	48	YLL	黒耀石	HTJ－5	砕片	13.5	10.0	4.0	0.3	82.23	54.26	148.090
K17	49	YLL	黒耀石	HTJ	剥片	28.5	11.0	4.0	1.1	83.20	58.28	148.553
K17	50	YLL	溶結凝灰岩		石核	40.0	69.5	63.0	183.0	86.89	54.57	149.135
L16	7	YLL	黒耀石	HTJ－5	剥片	22.0	24.0	6.0	2.4	78.75	60.13	148.678
L17	3	YLL	頁岩		剥片	62.0	37.0	18.0	44.5	89.11	61.64	150.017
		表採	黒耀石	HTJ－3	ナイフ	39.0	14.0	7.0	2.6			
K16	1	BB0	黒耀石	HTJ－6	剥片	30.0	10.5	9.0	2.7	77.11	56.04	147.364
K16	2	BB0	黒耀石	HTJ－6	砕片	16.0	8.0	3.0	0.1	75.69	54.91	147.267
K16	3	BB0	黒耀石	HTJ－6	U剥片	27.0	13.5	4.5	1.3	79.14	57.31	148.289
K16	4	BB0	黒耀石	HTJ－6	剥片	17.5	13.0	5.0	0.7	79.38	51.38	147.566
K16	5	BB0	黒耀石	KRM－3	剥片	23.0	21.5	5.5	1.4	75.88	57.30	148.111
L16	1	BB0	頁岩		剥片	27.0	15.0	7.5	2.7	78.06	65.63	148.750
I16	1	BB0	頁岩		石刃	87.0	15.0	12.5	14.7	79.86	37.06	146.608
J16	1	BB0	頁岩		剥片	39.0	16.0	9.0	5.2	78.30	41.92	146.400
J17	1	BB0	頁岩		石刃	63.0	27.0	13.5	20.6	82.66	40.59	146.790
J17	2	BB0	黒色緻密安山岩		剥片	29.0	12.5	6.5	1.5	82.74	40.18	146.747
J17	3	BB0	頁岩		剥片	28.0	19.5	5.5	2.3	82.86	40.88	146.965
J17	4	BB0	黒色緻密安山岩		剥片	29.0	25.5	14.0	7.5	83.51	40.58	146.895
I16	1	BBI	黒耀石	KRM－3	掻器	26.0	19.0	7.0	3.2	76.21	35.26	145.423
I16	2	BBI	黒耀石	KMT－2	剥片	21.0	8.0	4.0	0.6	76.25	35.63	145.631
I16	3	BBI	黒耀石	HTJ－4	剥片	38.0	38.0	9.0	8.7	76.55	36.41	145.670
I16	4	BBI	黒耀石	HTJ－4	剥片	35.0	25.0	8.0	5.7	76.34	35.67	145.673
I16	5	BBI	黒耀石	HTJ－4	掻器	26.0	27.0	7.5	3.9	76.18	35.29	145.426
I16	6	BBI	黒耀石	HTJ－4	掻器	34.0	40.5	19.0	19.1	76.50	35.42	145.611
I16	7	BBI	黒耀石	HTJ－4	剥片	33.0	22.5	10.0	4.0	76.34	35.41	145.445
I16	8	BBI	黒耀石	HTJ－4	砕片	12.0	9.0	4.0	0.3	76.75	36.57	145.724
I16	9	BBI	黒耀石	KRM－3	砕片	10.5	6.5	3.0	0.0	76.86	35.25	145.613
I16	10	BBI	黒耀石	測定不能	砕片	5.0	4.0	1.0	0.0	76.84	35.66	145.543
I16	11	BBI	黒耀石	KRM－3	砕片	11.5	5.0	2.0	0.1	76.88	35.41	145.514
I16	12	BBI	黒耀石	測定不能	砕片	6.0	3.0	2.0	0.0	76.28	35.61	145.631
I16	14	BBI	頁岩		ナイフ	66.0	33.0	15.0	32.7	76.94	35.27	145.605
I16	15	BBI	黒耀石	HTJ－8	削器	57.0	36.5	13.5	27.1	75.81	36.12	145.556
I17	1	BBI	黒耀石	HTJ－4	掻器	24.0	28.5	18.0	12.6	84.41	37.46	146.794
I17	2	BBI	黒色緻密安山岩		剥片	41.0	18.5	4.0	2.8	81.48	39.26	146.490
I17	3	BBI	黒色緻密安山岩		剥片	19.0	18.0	4.0	0.8	81.38	37.19	146.242
J16	1	BBI	頁岩		剥片	43.5	23.0	10.0	8.6	72.36	41.45	145.561
J16	2	BBI	黒耀石	HTJ－8	U剥片	34.0	29.5	6.0	5.1	72.29	44.49	145.891
J16	3	BBI	黒耀石	TTS－2	剥片	35.0	20.0	10.0	3.5	74.18	42.24	145.427
L16	1	BBI	黒耀石	HTJ－8	U剥片	49.0	39.0	11.0	21.2	75.68	60.20	147.694
I16	1	NL	黒耀石	TTS－5	砕片	12.0	9.0	3.0	0.3	80.98	33.81	145.326
H16	1	BBII	黒色緻密安山岩		剥片	40.0	32.0	11.0	11.9	77.44	26.56	144.556
I16	2	BBII	頁岩		剥片	29.0	26.0	6.0	3.7	77.41	32.72	144.861
I16	4	BBII	玄武岩		台石	152.5	124.0	75.0	1660.0	76.84	33.18	144.863
I16	5	BBII	黒色緻密安山岩		剥片	44.0	53.0	21.5	46.6	76.58	33.40	144.868
I16	6	BBII	黒耀石	KSW－3	残核	35.0	24.0	16.5	8.8	76.64	32.50	144.685
I16	7	BBII	石英		剥片	21.0	14.5	9.0	2.3	76.29	32.03	144.765
I16	8	BBII	頁岩		剥片	41.5	25.0	10.5	9.1	76.09	32.45	144.750
I16	9	BBII	黒耀石							75.48	33.01	144.799
I16	10	BBII	黒耀石	TTS－4	剥片	24.0	22.0	14.0	6.7	75.48	32.51	144.875
I16	11	BBII	頁岩		剥片	44.0	42.0	21.5	45.9	77.45	32.29	144.790
I16	12	BBII	黒耀石	TTS－4	石錐	36.5	20.5	9.0	10.9	76.57	34.51	145.152
I16	13	BBII	黒色緻密安山岩		剥片	25.0	21.5	5.0	1.9	76.72	34.26	145.027
I16	14	BBII	頁岩		剥片	62.0	48.5	16.0	33.3	76.55	35.45	145.005
I16	15	BBII	頁岩		剥片	16.0	10.0	4.5	0.6	76.54	35.46	145.037
I16	16	BBII	黒耀石	TTS－4	削器	27.5	31.0	12.0	9.0	76.89	34.99	145.103
I16	18	BBII	頁岩		剥片	50.0	35.0	18.0	25.9	74.43	35.05	144.740
I16	19	BBII	黒色緻密安山岩		R剥片	45.0	39.5	13.5	23.6	77.70	34.04	145.024
I16	20	BBII	黒耀石	KSW－3	砕片	14.0	11.0	4.5	0.4	73.45	38.13	145.110
I16	21	BBII	黒耀石	KSW－3	剥片	20.0	22.0	8.0	2.9	72.08	39.44	144.892

グリッド	遺物番号	層位	石材	個体別	器種	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g	X座標m	Y座標m	標高m
I16	22	BBⅡ	黒耀石	KSW－3	剥片	26.0	19.0	8.0	3.0	72.67	38.36	144.955
I16	23	BBⅡ	黒色緻密安山岩		剥片	18.0	19.0	3.0	0.8	74.21	38.05	144.974
I16	24	BBⅡ	黒耀石	KSW－2	剥片	20.0	12.5	5.0	0.5	76.93	36.97	145.241
I16	25	BBⅡ	輝石安山岩		台石	179.0	173.5	55.0	2245.0	74.90	37.88	144.934
I17	1	BBⅡ	黒色緻密安山岩		剥片	25.0	22.0	7.0	2.7	83.32	38.73	145.983
J16	1	BBⅡ	黒耀石	TTS－3	削器	62.0	22.0	11.0	13.1	76.56	43.49	145.561
J16	2	BBⅡ	頁岩		剥片	38.0	22.0	11.5	8.6	76.77	42.68	145.541
J16	3	BBⅡ	珪質頁岩		石刃	76.0	32.0	18.0	29.9	76.70	42.44	145.512
J16	4	BBⅡ	輝石安山岩		磨石	72.0	46.0	16.0	62.8	76.58	42.81	145.525
J16	5	BBⅡ	黒色緻密安山岩		剥片	32.5	19.0	7.0	3.0	78.05	47.28	145.904
J16	6	BBⅡ	黒耀石	KSW－3	剥片	28.0	16.0	9.0	3.4	74.20	42.41	145.327
J17	1	BBⅡ	頁岩		剥片	67.0	39.0	21.5	45.8	84.16	46.99	146.710
L16	1	BBⅡ	珪質頁岩		剥片	69.5	47.0	24.0	82.9	79.84	65.41	147.898
L16	2	BBⅡ	頁岩		剥片	60.0	38.5	20.0	30.4	79.77	65.65	147.897
L16	3	BBⅡ	頁岩		剥片	50.0	23.0	14.0	12.4	79.58	65.81	147.896
L16	4	BBⅡ	頁岩		剥片	45.0	31.0	13.5	16.3	71.02	66.01	147.892
L16	5	BBⅡ	頁岩		剥片	38.0	36.0	11.0	15.1	77.81	65.16	147.742
L17	1	BBⅡ	頁岩		剥片	64.0	48.0	19.0	53.1	83.09	63.67	147.912
G17	1	BBⅢ	黒耀石	TTS－6	削器	37.0	26.5	15.0	11.0	81.96	18.41	144.052
G17	2	BBⅢ	頁岩質チャート		剥片	42.0	22.5	8.0	7.5	82.53	16.39	143.618
G17	3	BBⅢ	頁岩（使）		剥片	61.0	35.0	12.0	19.7	82.35	16.21	143.673
G17	4	BBⅢ	頁岩		石刃	82.0	46.5	16.0	52.4	82.35	16.65	143.732
G17	5	BBⅢ	頁岩		剥片	38.8	19.0	9.5	5.7	82.27	16.58	143.717
G17	6	BBⅢ	頁岩		剥片	54.0	32.0	8.0	12.4	81.74	16.87	143.631
G17	7	BBⅢ	頁岩		剥片	55.0	39.0	9.0	20.7	81.72	16.87	143.630
G17	8	BBⅢ	珪質砂岩		剥片	89.5	51.5	24.0	101.7	81.73	15.57	143.351
H16	2	BBⅢ	黒耀石	TTS－6	ナイフ	24.5	11.5	6.0	1.0	78.28	22.28	143.877
H16	4	BBⅢ	頁岩質チャート		打面再生剥片	51.0	30.0	17.0	22.0	76.14	28.15	144.355
H16	5	攪乱	頁岩		剥片	63.0	53.5	18.0	65.2	74.48	27.80	143.954
H16	6	攪乱	頁岩		剥片	53.0	23.5	12.5	11.9	74.48	27.69	143.622
I16	2	BBⅢ	黒耀石	KRM－4	削器	42.5	28.5	11.0	10.5	77.12	36.44	145.030
I16	17	BBⅢ	黒色緻密安山岩		石核	50.0	78.5	34.0	99.4	75.68	34.80	144.559
J16	1	BBⅢ	輝石安山岩		剥片	28.5	22.5	6.0	2.5	76.46	42.06	145.170
J16	2	BBⅢ	頁岩		剥片	35.5	24.0	10.5	6.6	76.55	43.21	145.351
K17	1	BBⅢ	黒耀石		剥片					87.50	57.70	147.659
L17	1	BBⅢ	黒色緻密安山岩		剥片	42.0	27.0	12.0	16.4	70.81	65.38	147.705

出土礫一覧表

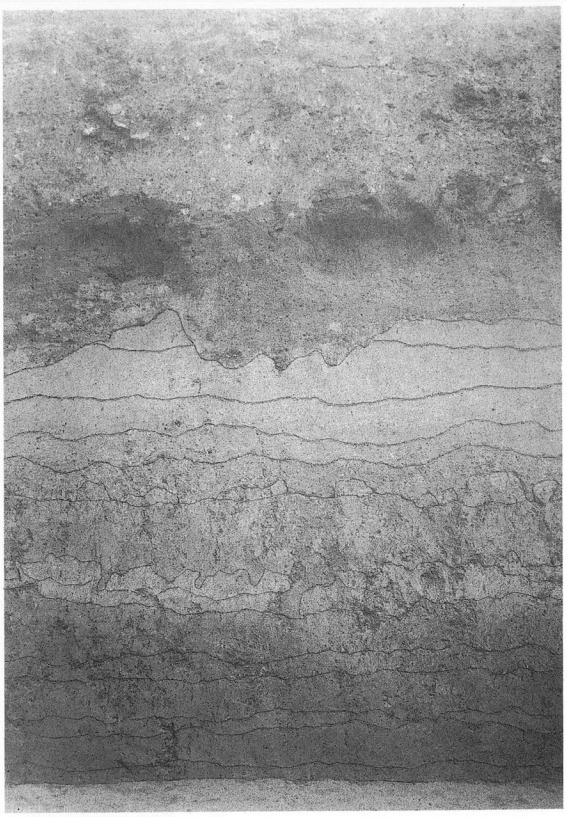
グリッド	遺物番号	石材	層位	最大長mm	最大幅mm	最大厚mm	重量g	赤化	X座標m	Y座標m	標高m
I16	1	輝石安山岩	YLU	62.5	44	34	140		79.1	38.65	146.946
I16	2	輝石安山岩	YLU	42	60	50	135		79.43	38.28	146.972
J11	1	過斑晶質安山岩	YLU	84	59	53	310		28.925	47.49	149.434
J11	2	輝石安山岩	YLU	136	73	30	390		22.501	48.6	150.503
J11	3	輝石安山岩	YLU	109	93	82	940		25.3	46.23	149.887
J12	4	輝石安山岩	YLU	95	60	34	395		20.83	46.09	148.979
J15	3	輝石安山岩	YLU	95	75	53	470	*	67.35	49.67	146.778
J16	1	輝石安山岩	YLU	53	43	35	50		76.3	40.38	146.683
J16	2	多孔質玄武岩	YLU	80	65.5	39	250.5		77.25	42.28	146.974
J17	1	輝石安山岩	YLU	82	71	15	110		80.3	46.48	148.024
J17	2	石質凝灰岩	YLU	84	71	31	180	*	80.05	44.14	147.992
J17	3	角閃石安山岩	YLU	66	46	23	55		83.594	40.723	148.122
J17	4	玄武岩	YLU	53	48	31	100	*	89.068	43.246	148.863
K11	3	石英安山岩	YLU	143	102	41	690		25.8	58.7	150.926
K11	4	玄武岩	YLU	133	105	74	1540	*	27.57	54.9	150.127
K11	5	多孔質玄武岩	YLU	76	87	54	630		24.2	59.958	151.136
K15	1	輝石安山岩	YLU	80	57	52	320	*	67.28	51.71	147.3
K15	2	輝石安山岩	YLU	73	49	49	235	*	68.82	54.57	147.452
K16	1	玄武岩	YLU	65	60	36	115	*	72.34	53.63	148.025
K16	3	玄武岩	YLU	126	87	38	525		73.24	51.82	147.767
K16	4	玄武岩	YLU	107	79	58	780	*	79.915	59.643	149.518
K17	12	玄武岩	YLU	108	110	40	570	*	88.84	53.15	149.669
K17	20	輝石安山岩	YLU	71.5	51	31	145	*	87.362	52.476	149.608
K17	21	輝石安山岩	YLU	87	47	50	275	*	87.57	52.46	149.601
K17	22	多孔質玄武岩	YLU	77	72	41	220		87.305	52.227	149.619
K17	23	輝石安山岩	YLU	140	103	80	1265	*	82.24	52.44	149.619
K17	24	多孔質玄武岩	YLU	56	36	31	70	*	87.367	52.618	149.616
K17	25	輝石安山岩	YLU	80	46	48	185	*	87.393	52.465	149.609
K17	26	輝石安山岩	YLU	61	48	41	155	*	87.709	52.489	149.56
K17	27	玄武岩	YLU	64	55	46	140	*	82.48	52.59	149.581
K17	28	輝石安山岩	YLU	154	124	35.5	680		87.5	51.88	149.568
K17	32	輝石安山岩	YLU	40	33	26	25	*	85.748	53.371	148.851
L11	1	輝石安山岩	YLU	88.5	73	67	505	*	28.28	61.508	150.867
L11	13	輝石安山岩	YLU	65	45	35	115	*	22.473	63.657	151.749
L11	15	輝石安山岩	YLU	69	58	46	490		27.21	62.79	150.951
L11	17	角閃石安山岩	YLU	147	76	47	690		20.175	69.514	152.394
L12	9	多孔質玄武岩	YLU	80	51	42	199	*	32.298	61.453	150.314
L12	13	輝石安山岩	YLU	104	63	33	205	*	31.09	60.05	150.066
L12	19	輝石安山岩	YLU	80	71.5	63.5	415	*	36.279	60.802	149.817
L12	42	石英安山岩	YLU	31	24	21	20		33.423	62.952	150.452
L12	43	玄武岩	YLU	59	48	44	150	*	33.203	63.09	150.475
L12	58	多孔質玄武岩	YLU	66.5	44	30	90	*	32.865	62.812	150.298
L16	21	玄武岩	YLU	58	46	41	130	*	75.98	68.5	150.181
L17	1	玄武岩	YLU	111	84	67	820	*	85.48	60.37	149.498
L17	2	石英安山岩	YLU	66	47	26	60	*	84.572	61.889	149.65
M11	13	輝石安山岩	YLU	78	155	148	5000	*	25.03	72.22	151.865
M11	14	輝石安山岩	YLU	103	85	51	610	*	27.56	78.6	152.283
J15	1	玄武岩	YLM	71	69	28	255	*	68.27	49.67	146.752
J15	2	玄武岩	YLM	87	87	73	770	*	68.12	49.18	146.709
J15	4	輝石安山岩	YLM	66.5	63.5	46	235	*	67.05	49.57	146.748
J15	5	輝石安山岩	YLM	42	42	23	50		67.24	49.6	146.772
J17	5	輝石安山岩	YLM	115.5	63	53	420	*	81.34	46.53	147.618
K17	34	熔結凝灰岩	YLM	91	69	46	320		83.49	58.22	148.965
K17	36	輝石安山岩	YLM	49	22	12	15	*	81.59	56.25	148.642
K17	37	熔結凝灰岩	YLM	63	54	23	80		82.52	56.19	148.623
K17	39	熔結火砕岩	YLM	74	50	20	50		80.85	54.97	148.557
L15	3	玄武岩	YLM	79	67	53	250	*	67.13	64.96	148.888
L15	4	玄武岩	YLM	54	50	41	130	*	67.46	65.07	149.013
L15	6	輝石安山岩	YLM	68	49	42	130		66.55	64.94	148.984
L15	7	輝石安山岩	YLM	72.5	61	36	150		66.74	65.34	149.096
L15	8	過斑晶質安山岩	YLM	60	50	42	145	*	67.5	65.06	148.984
L17	3	熔結凝灰岩	YLM	57	37	14	20		85.26	61.67	149.518
L17	4	輝石安山岩	YLM	93	66	57	510	*	84.02	61.62	149.158
L15	9	多孔質玄武岩	YLL	71	52	36	150		67.22	64.81	148.79
L15	10	玄武岩	YLL	70	52	31	145	*	66.7	64.61	148.75
L15	11	多孔質玄武岩	YLL	65	55	50	210		67.564	64.691	148.716
L15	12	輝石安山岩	YLL	66	50	33	160	*	68.496	63.698	148.498
L15	5	玄武岩	YLL	115	82	69.5	790	*	68.16	63.22	148.684
L16	34	輝石安山岩	BB0	26.5	22	9	20		78.64	65.143	148.666
I16	1	玄武岩	BBI	90	65	56	325		76.67	35.68	145.556
I16	2	玄武岩	BBI	50	37	40	100		76.63	35.65	145.556
I16	3	輝石安山岩	BBI	74	66.5	35	185	*	76.07	35.59	145.47
I16	4	玄武岩	BBI	123	77	61	860		76.5	35.7	145.543

グリッド	遺物番号	石材	層位	最大長mm	最大幅mm	最大厚mm	重量g	赤化	X座標m	Y座標m	標高m
I16	5	輝石安山岩	BBⅠ	198	176	103	4100	*	76.6	35.84	145.563
I16	6	シルト質砂岩	BBⅠ	83	76	42	470		76.18	35.65	145.501
J16	3	角閃石安山岩	BBⅠ	108	100	53	73		71.47	47.41	145.69
J17	6	輝石安山岩	BBⅠ	48.5	38	40	55		82.56	41.3	146.774
J17	7	輝石安山岩	BBⅠ	40	35	37	40		83.21	40.61	146.779
J17	8	輝石安山岩	BBⅠ	104	73	62	695		82.85	41.53	146.718
I16	1	輝石安山岩	BBⅡ	46	43	38	95	*	77.95	31.28	144.826
I16	2	玄武岩	BBⅡ	67	54	44	175	*	76.68	30.78	144.782
I16	3	多孔質玄武岩	BBⅡ	44	45	32.5	70		77.08	30.88	144.749
I16	4	多孔質玄武岩	BBⅡ	47	36	35	70		77.6	31.98	144.819
I16	5	輝石安山岩	BBⅡ	59	46	33	110	*	77.25	32.08	144.799
I16	6	玄武岩	BBⅡ	55	48	38	130		77.42	32.33	144.892
I16	7	多孔質玄武岩	BBⅡ	52	52	44	130	*	77.18	32.34	144.814
I16	8	多孔質玄武岩	BBⅡ	78	72.5	50	245	*	77.2	33.1	144.903
I16	9	多孔質玄武岩	BBⅡ	70	52	23	90		76.71	33.11	144.846
I16	10	多孔質玄武岩	BBⅡ	142	72	55	375	*	71.3	32.23	144.694
I16	11	輝石安山岩	BBⅡ	199	43	26	150		75.56	31.58	144.608
I16	12	玄武岩	BBⅡ	47.5	49	35.5	95	*	75.55	31.58	144.583
I16	13	玄武岩	BBⅡ	148	123	99	2370	*	72.5	38.28	144.879
I16	14	輝石安山岩	BBⅡ	185	127.5	51	1480		77.94	30.85	144.775
I16	15	輝石安山岩	BBⅡ	175	140	52	2065		73.37	33.18	144.895
J16	5	玄武岩	BBⅡ	148	143	54	1063	*	76.95	42.7	145.502
J16	6	石英安山岩	BBⅡ	125	103	90	1325	*	77.15	48.37	145.768
J16	7	輝石安山岩	BBⅡ	45	37	31	65		76.338	44.339	145.658
J16	8	輝石安山岩	BBⅡ	40	35	33	50	*	76.399	41.759	145.458
J17	9	角閃石安山岩	BBⅡ	198	180	59	2980		83.15	41.45	146.19
J17	11	玄武岩	BBⅡ	84.5	64.5	27	144.4		83.79	48.47	146.732
J17	12	玄武岩	BBⅡ	97	40	23	83		83.24	48.6	146.669
J17	13	玄武岩	BBⅡ	57	33.5	29	57.4		82.62	49.06	146.616
J17	14	輝石安山岩	BBⅡ	168	146.5	59	1830		83.54	47.9	146.645
J17	15	輝石安山岩	BBⅡ	250	143	50	1320		83.46	48.13	146.66
G17	1	石英安山岩	BBⅢ	79	63	32	150		82.29	16.2	143.588
G17	2	多孔質玄武岩	BBⅢ	52	46	31	99		81.85	16.75	143.623
H16	2	玄武岩	BBⅢ	138	130	45	1170		78.29	22.28	143.981
J16	4	石英安山岩	BBⅢ	116.5	60	49.5	340	*	73.73	48.45	145.586
K16	5	石英安山岩	BBⅢ	100	76	52	385	*	70.55	50.13	145.623
J17	10	多孔質玄武岩	SCⅢb1	62	62	57	260		84.047	46.54	146.156

写真図版

1　調査区発掘前近景（南より）

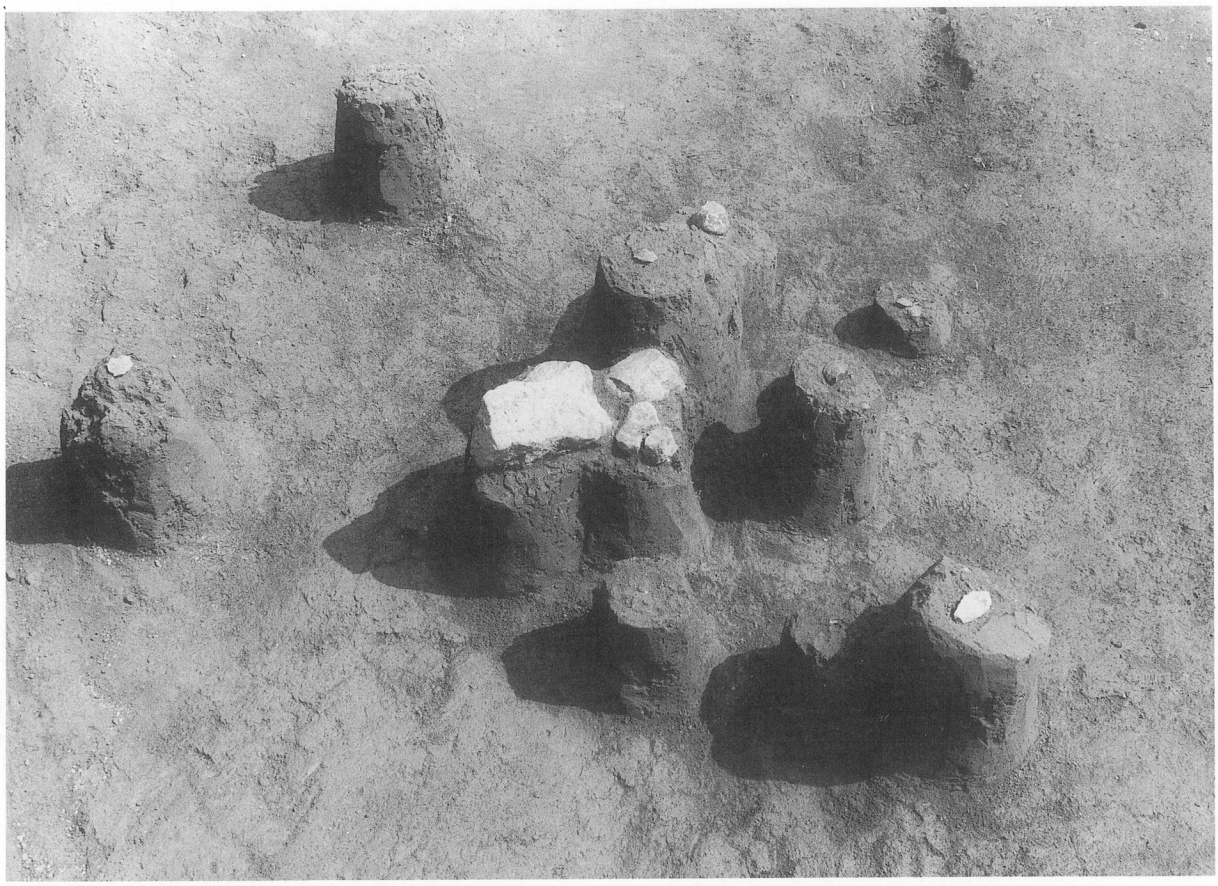
2　基本土層



3　基本土層（分層後）

1　縄文層遺物出土状況（東より）

2　縄文土器（鵜ヶ島台式）出土状況（東より）



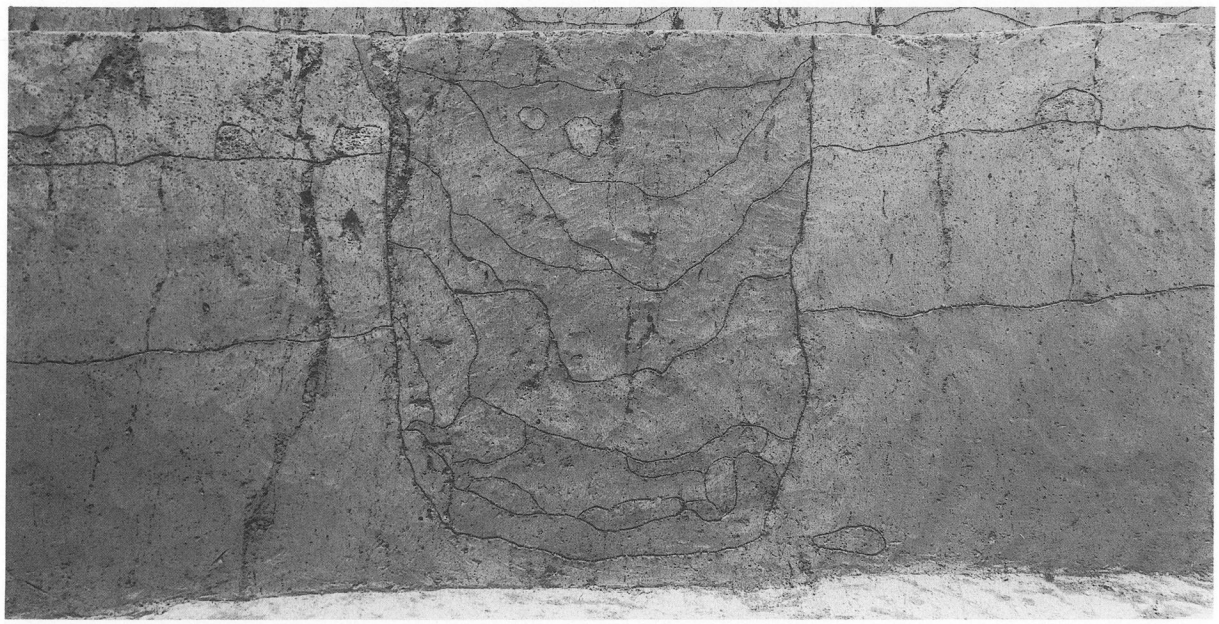
1　BBⅠ層石器ブロック検出状況（北より）

2　BBⅡ層Aブロック検出状況（北より）

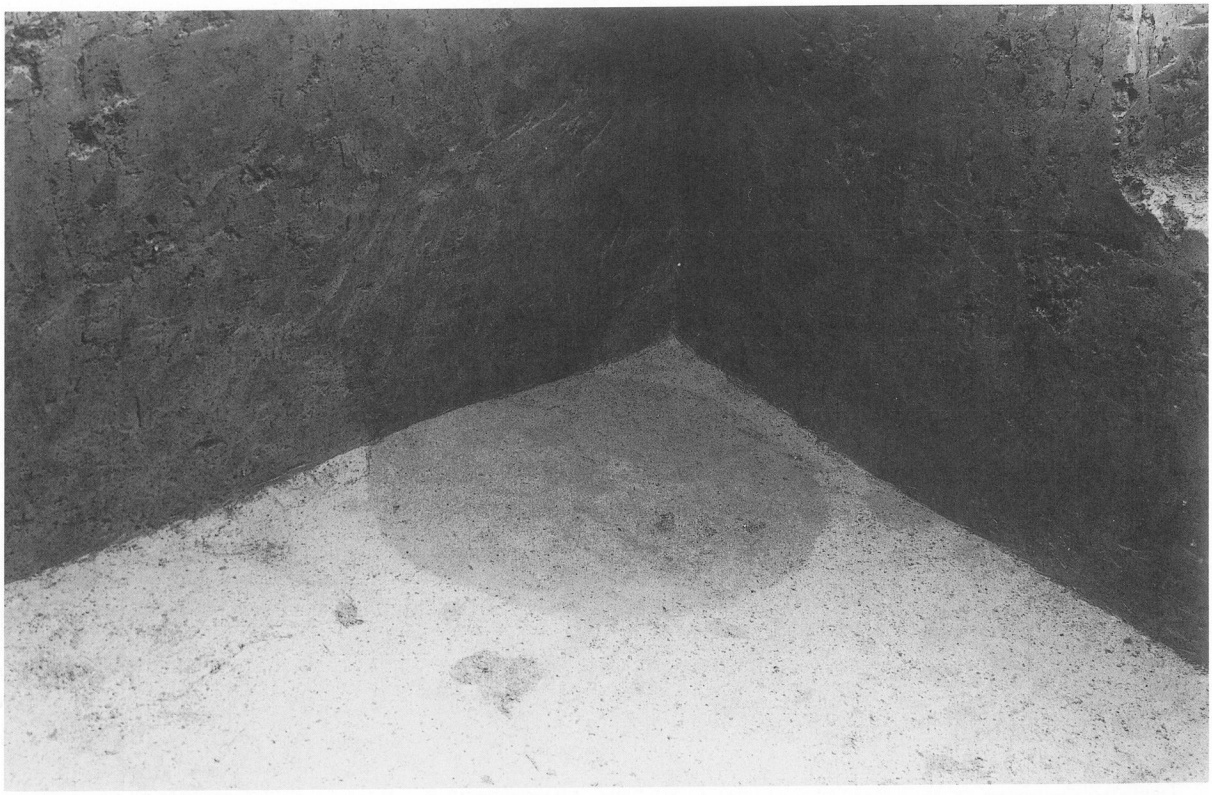
図版 4

1　BBⅢ層石器ブロック検出状況（西より）

2　BBⅢ層2号土坑層断面（南より）

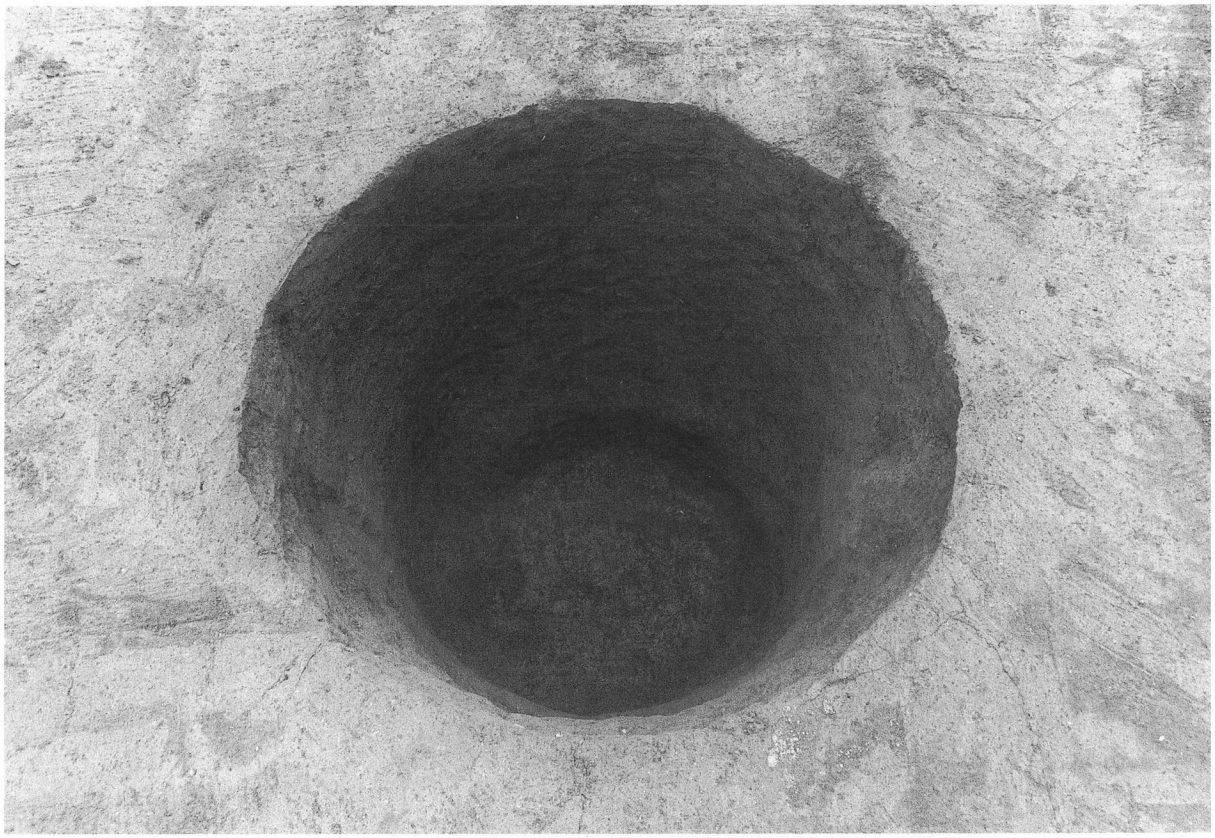


3　BBⅢ層3号土坑土層断面（南より）



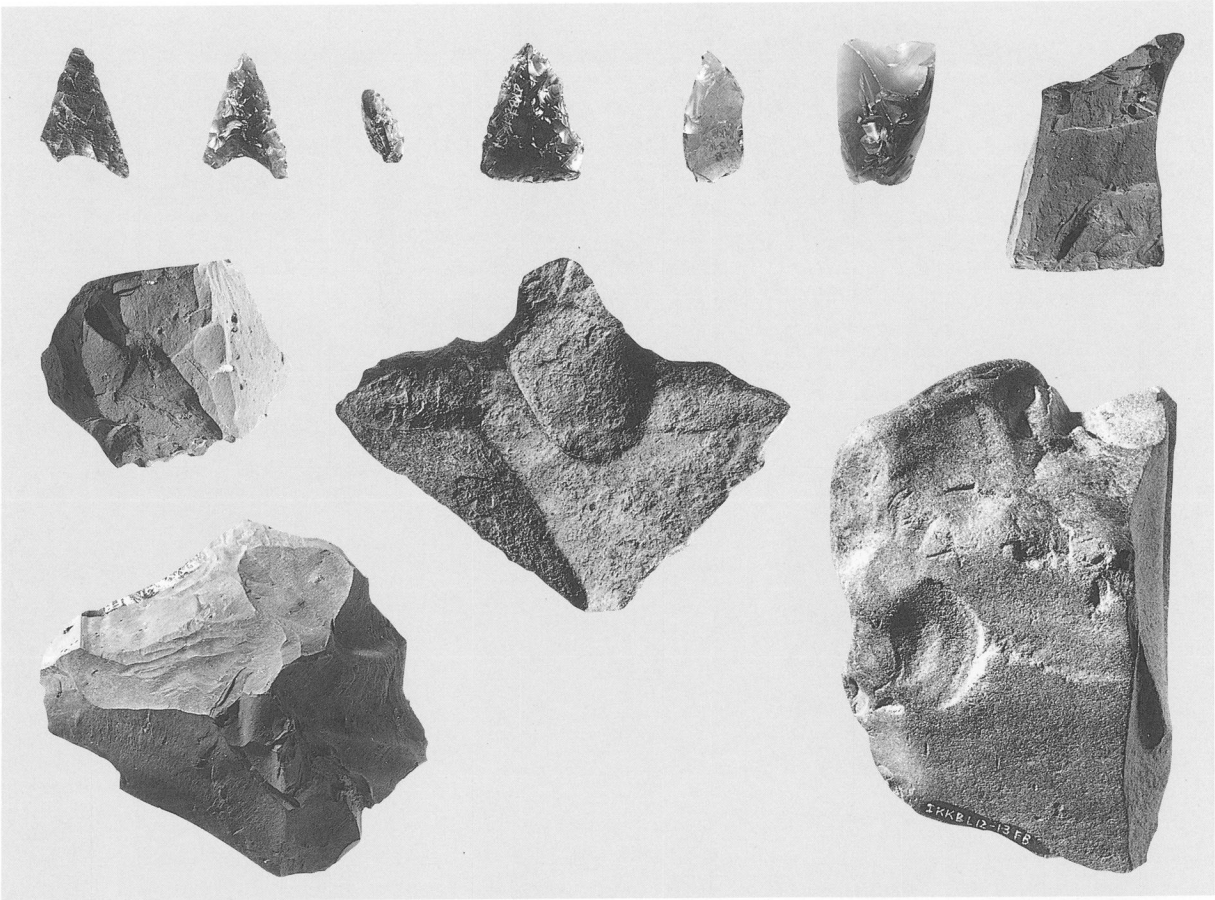
1　BBⅢ層９号土坑検出状況（北西より）

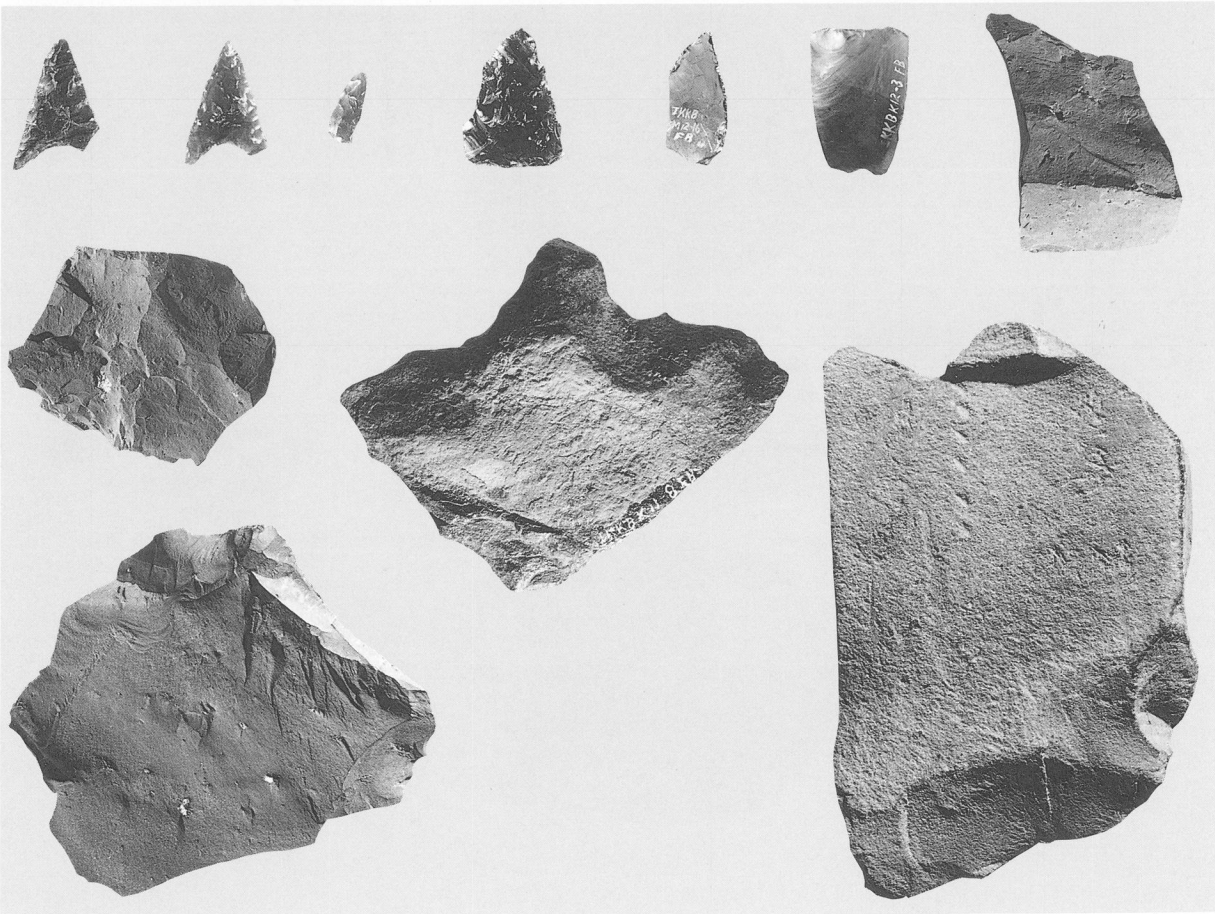
2　BBⅢ層４号（左）・５号（右）土坑土層断面（東より）



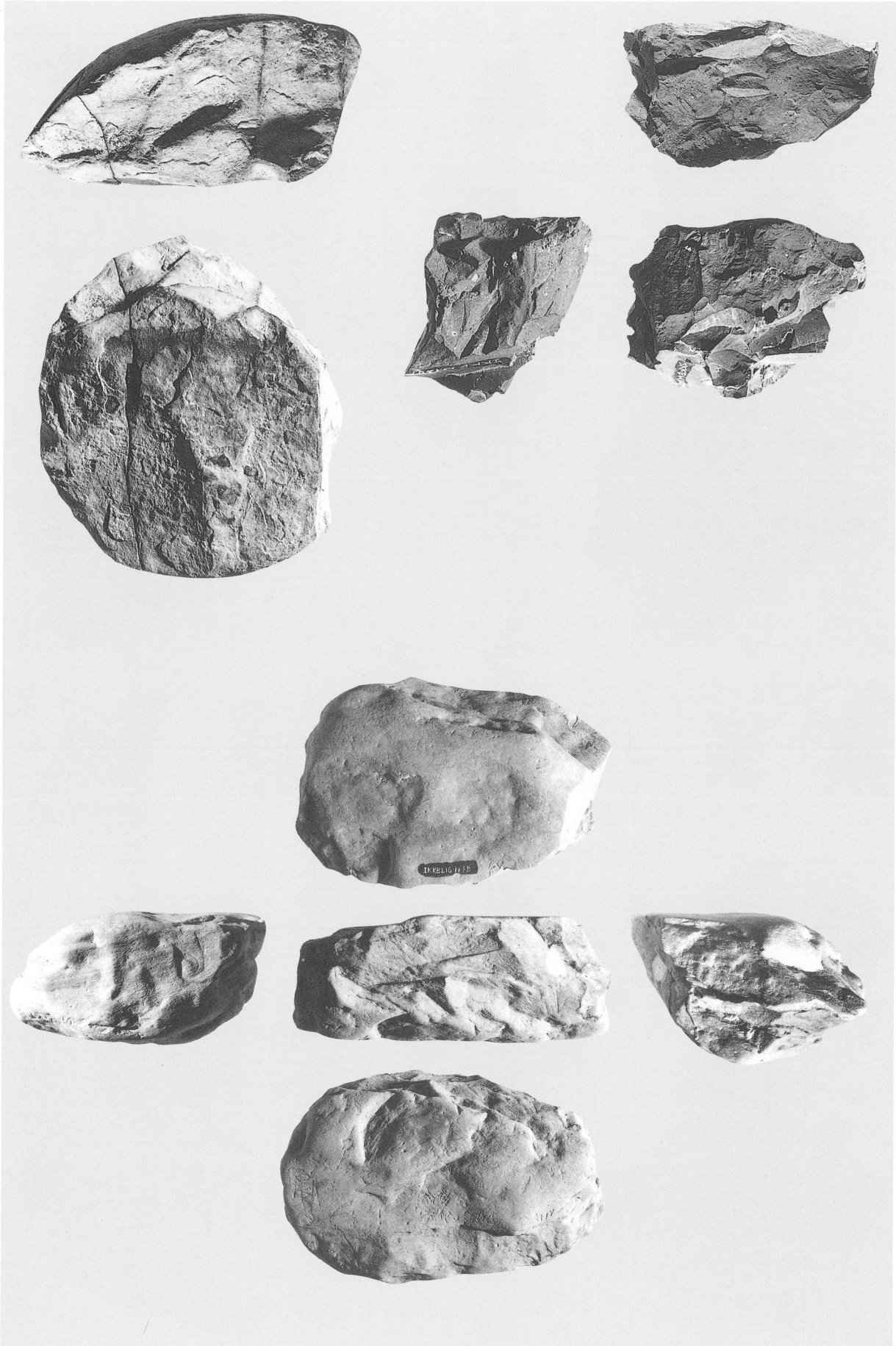
1　BBⅢ層１号土坑完掘状況（北より）

2　BBⅢ層土坑遠景（南より）



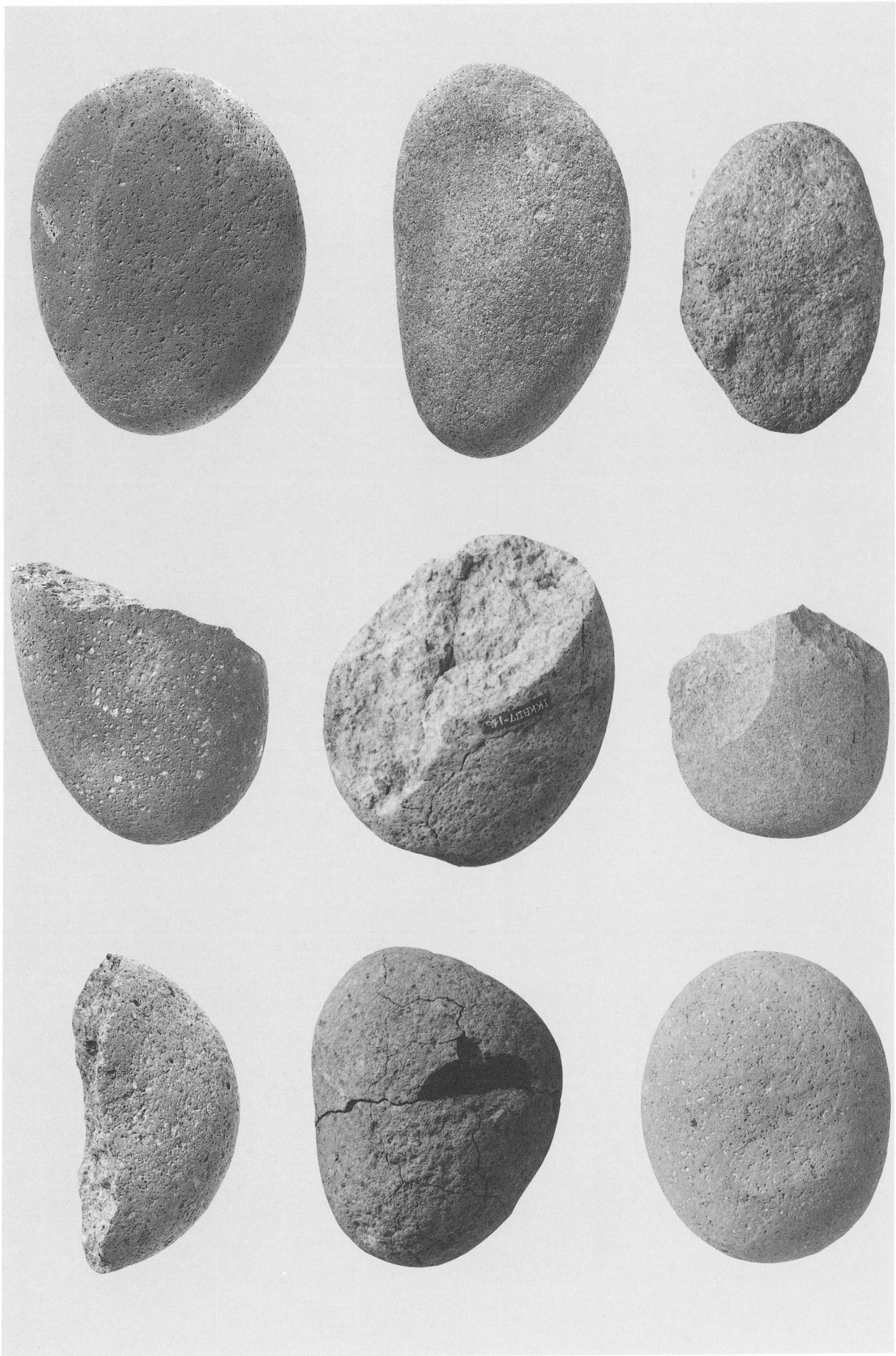


縄文時代の石器

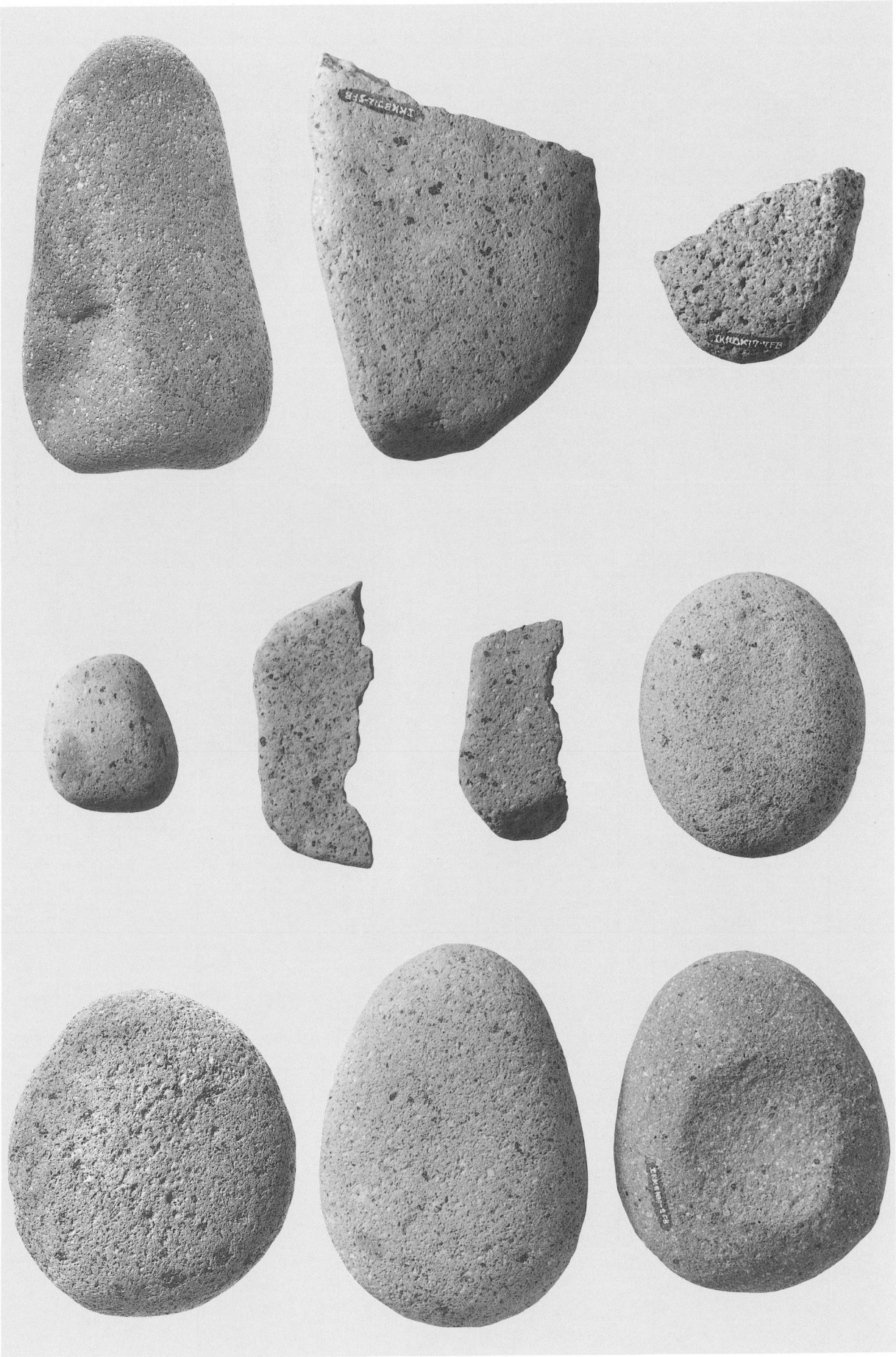


FB層石核

FB層敲石

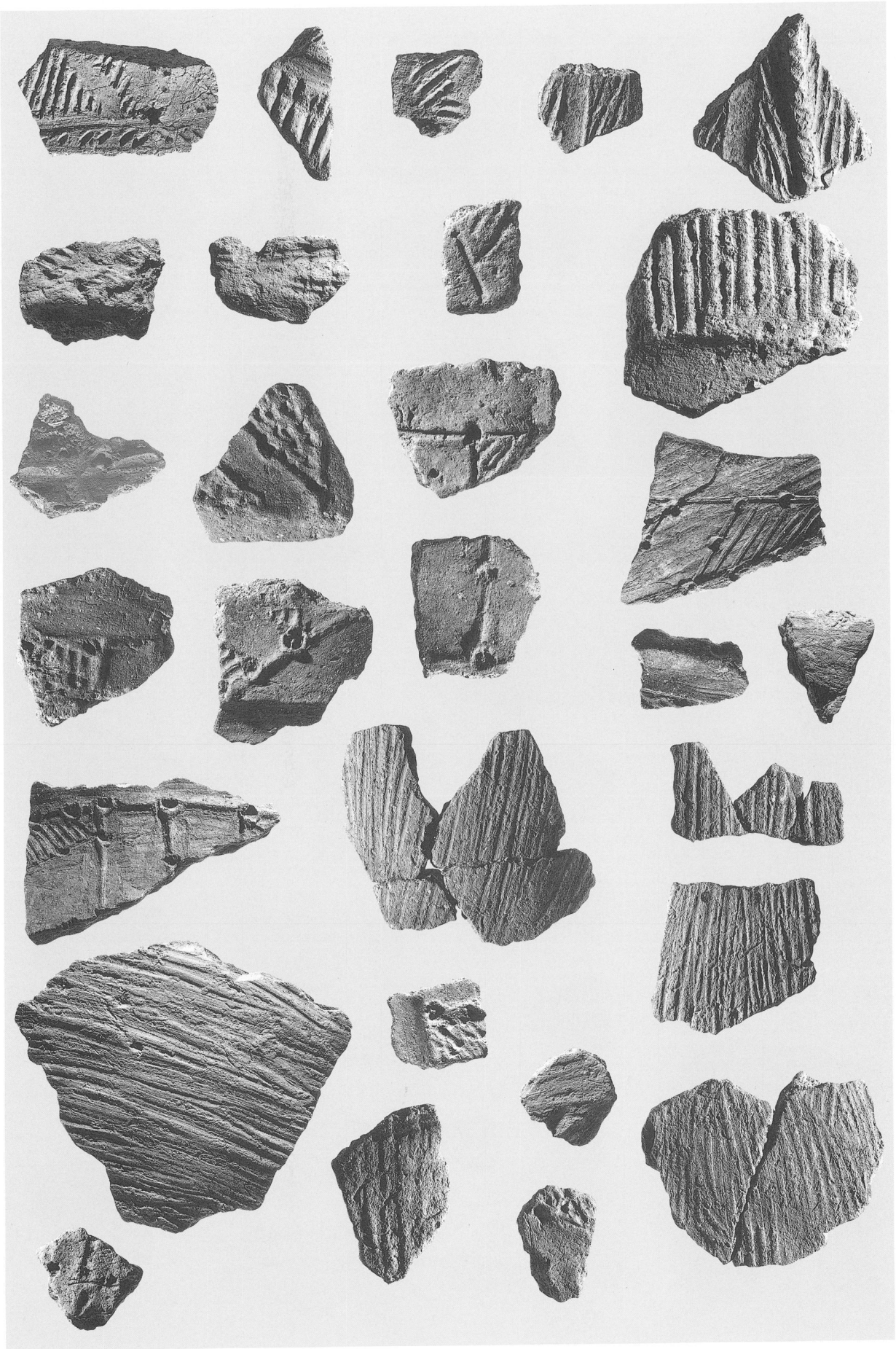


FB層敲石・磨石・凹石

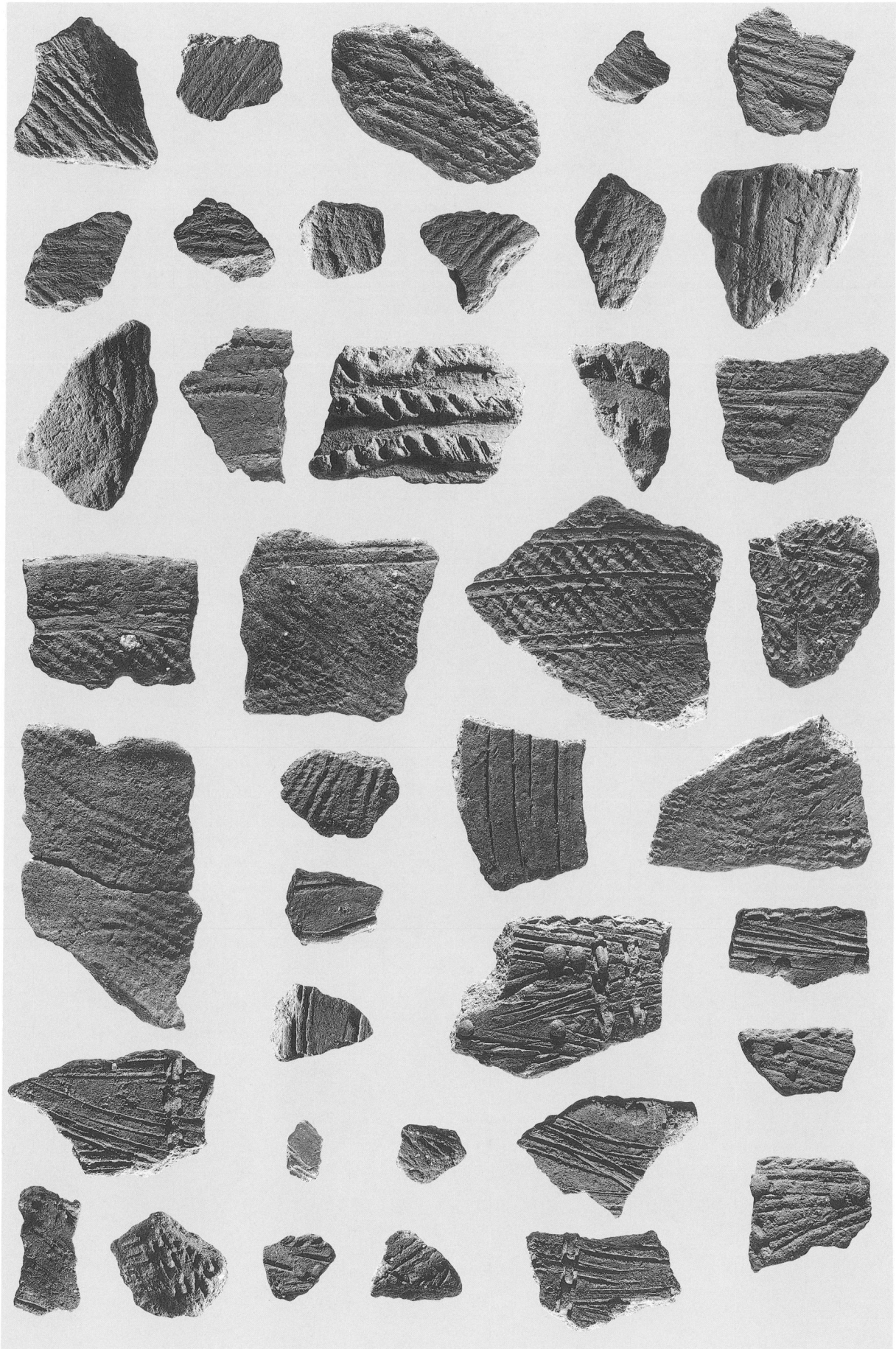


FB層敲石・磨石

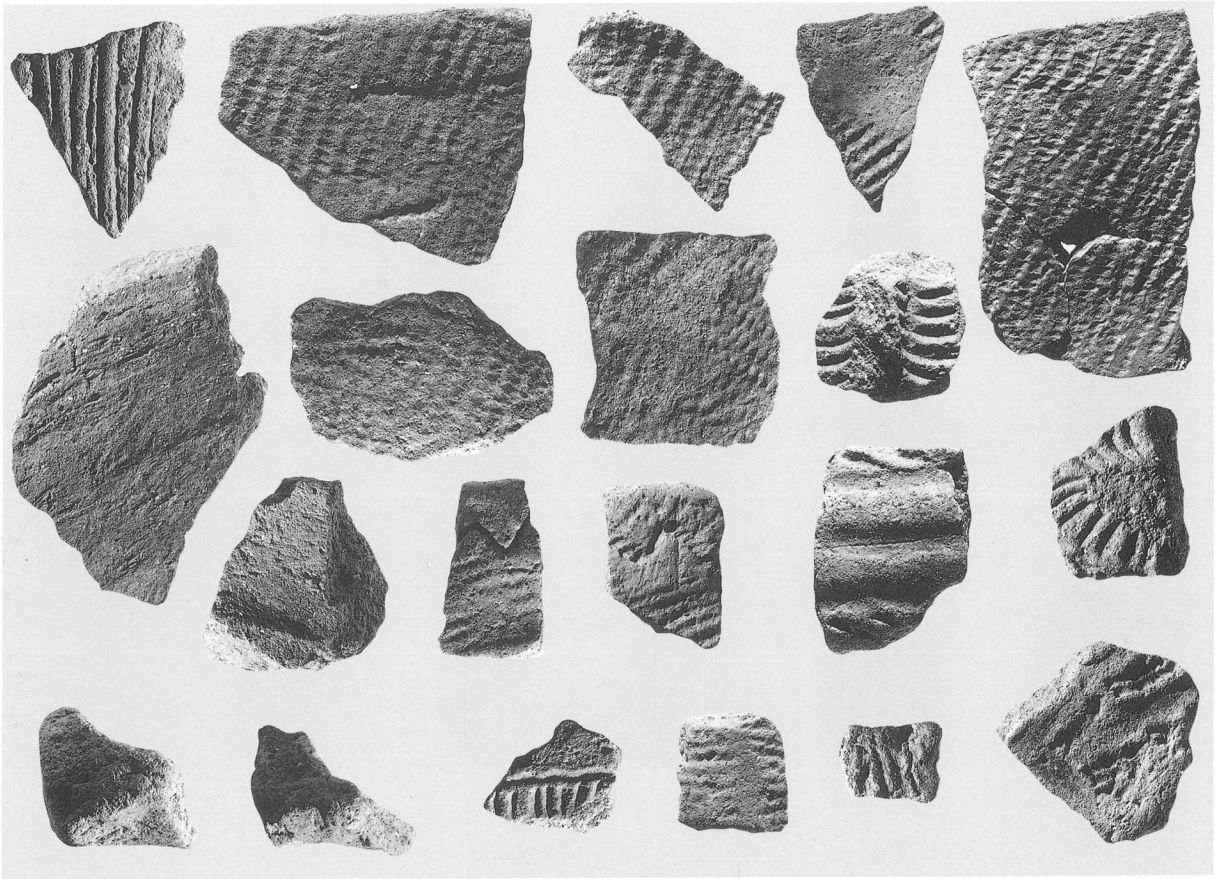
FB層台石・石皿



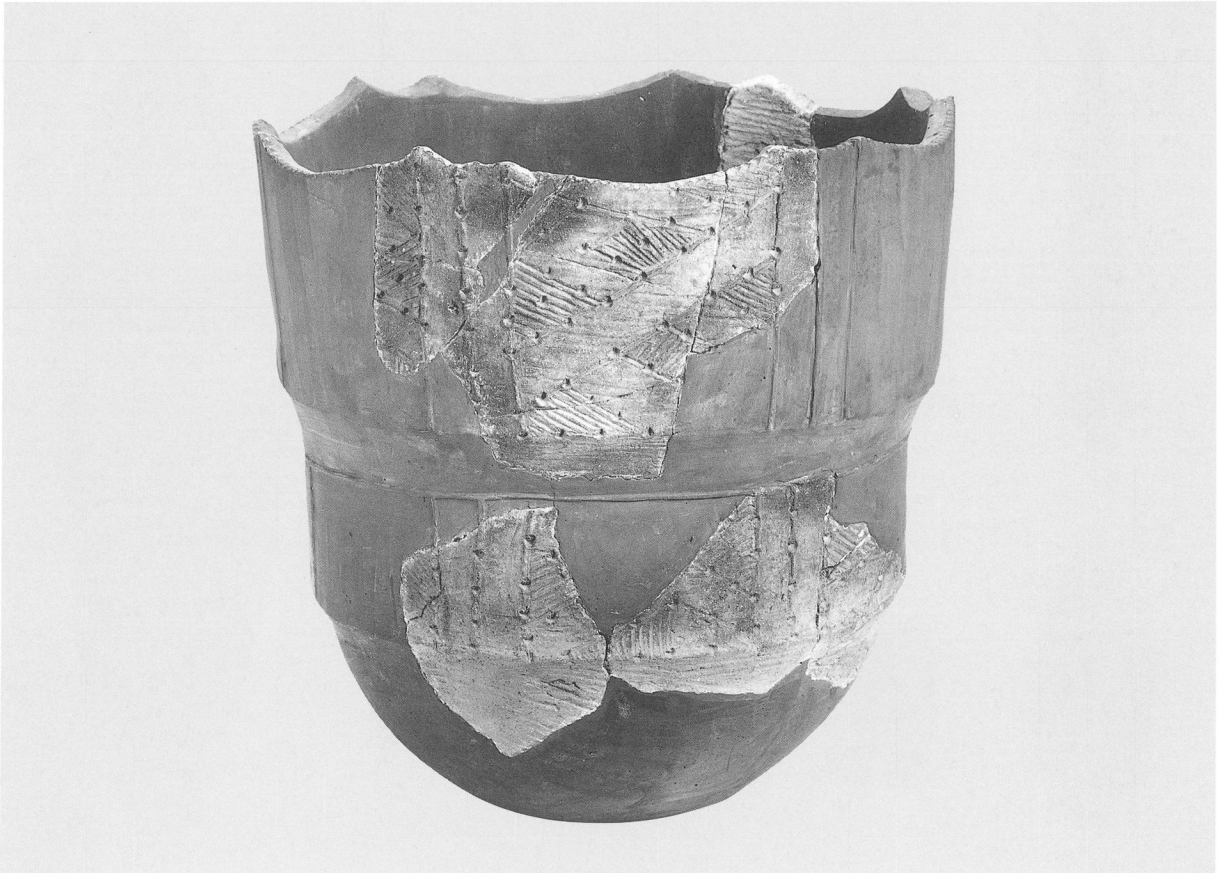
縄文土器 1



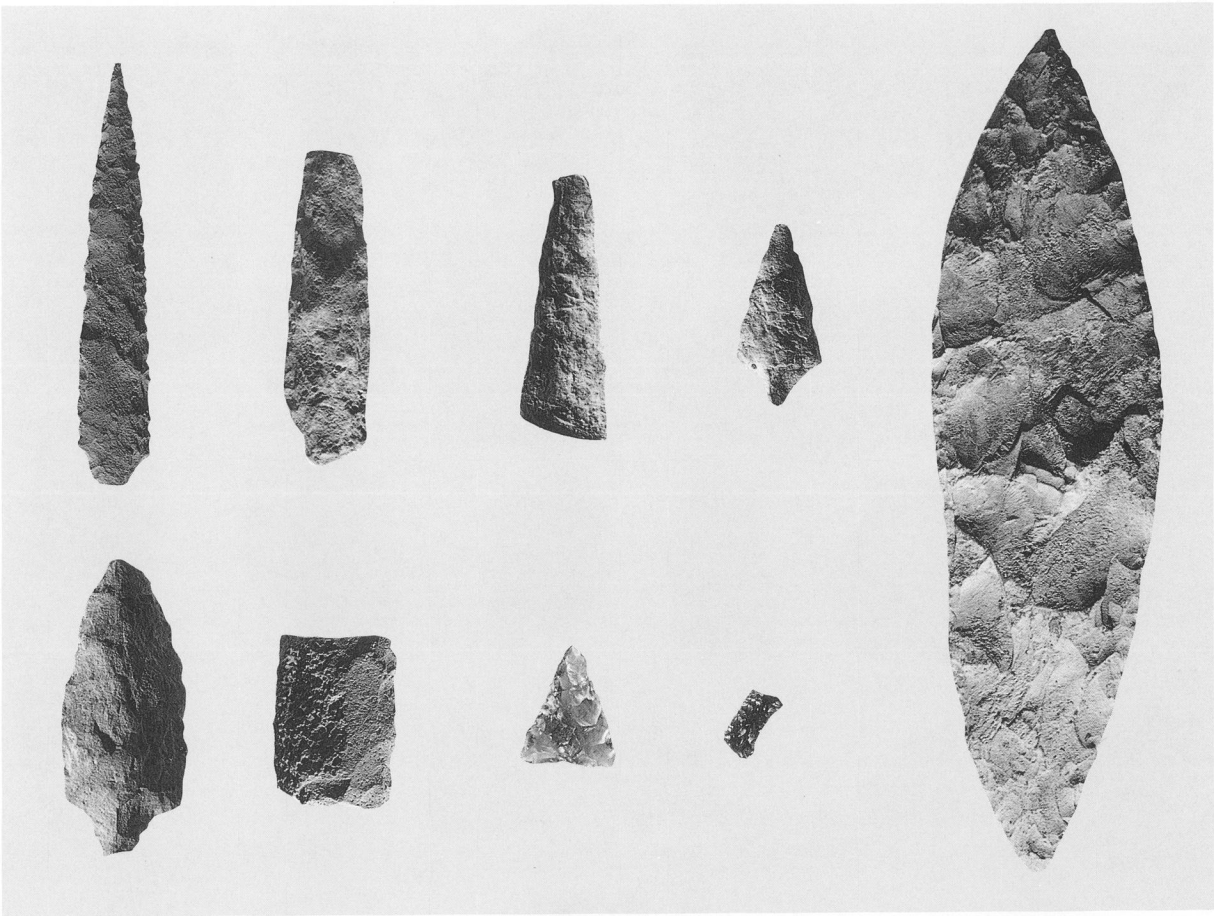
縄文土器 2

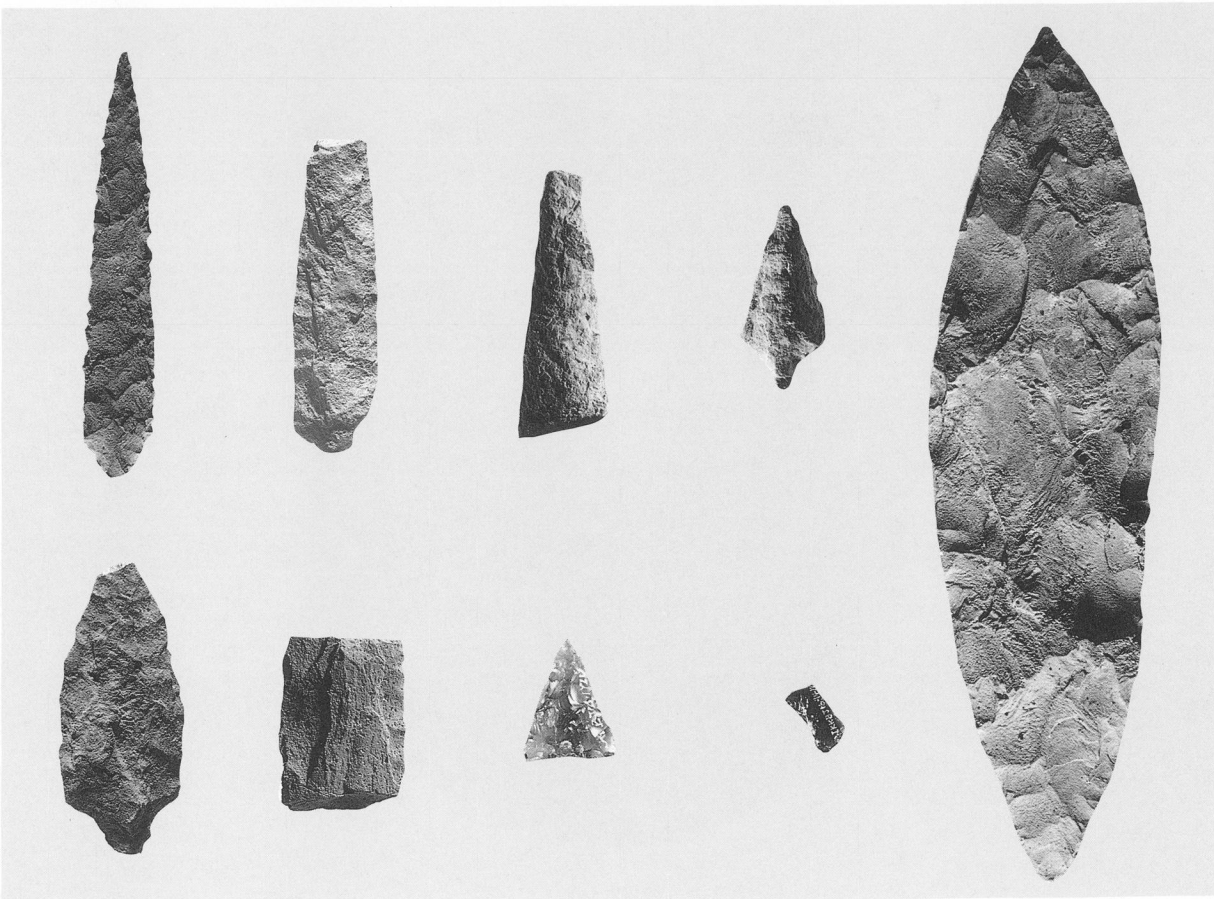


1　縄文土器 3

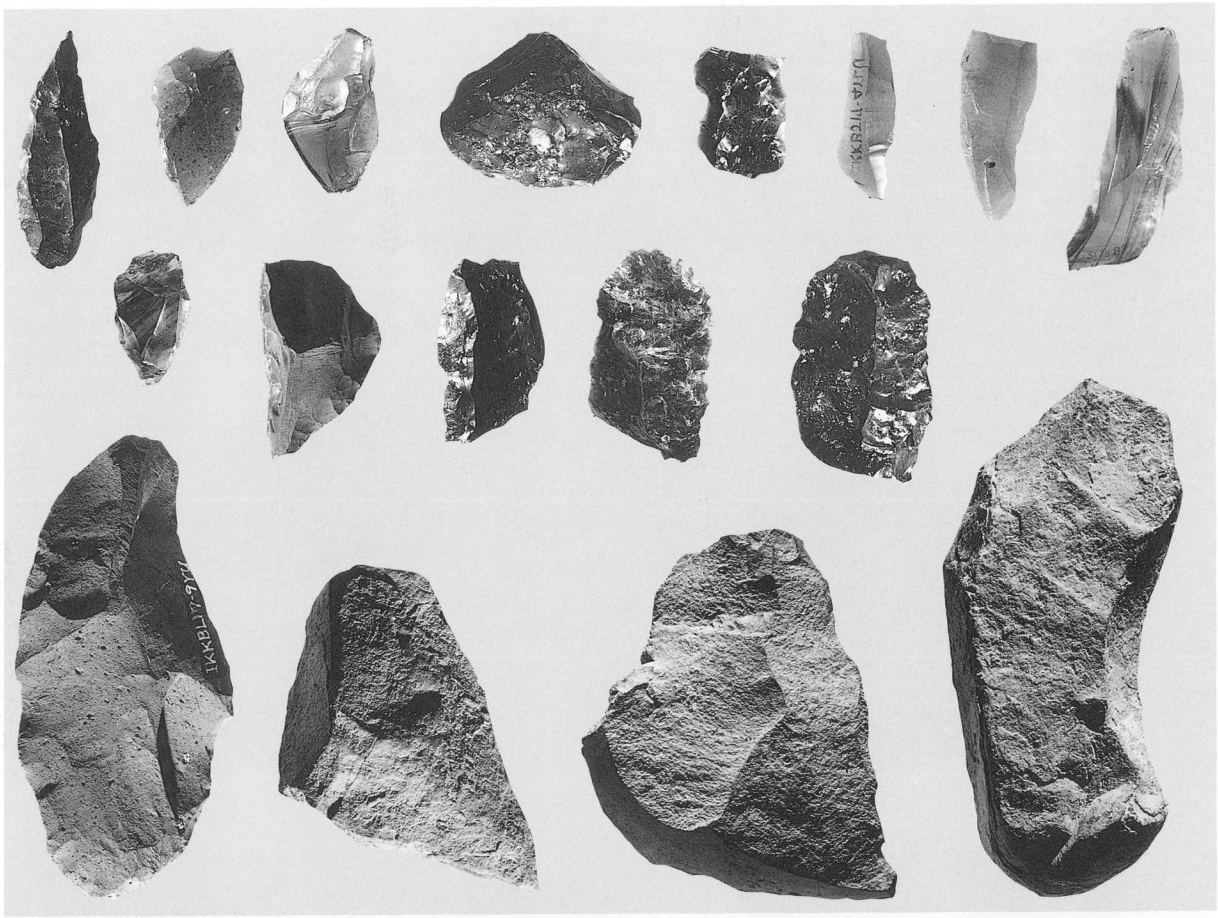


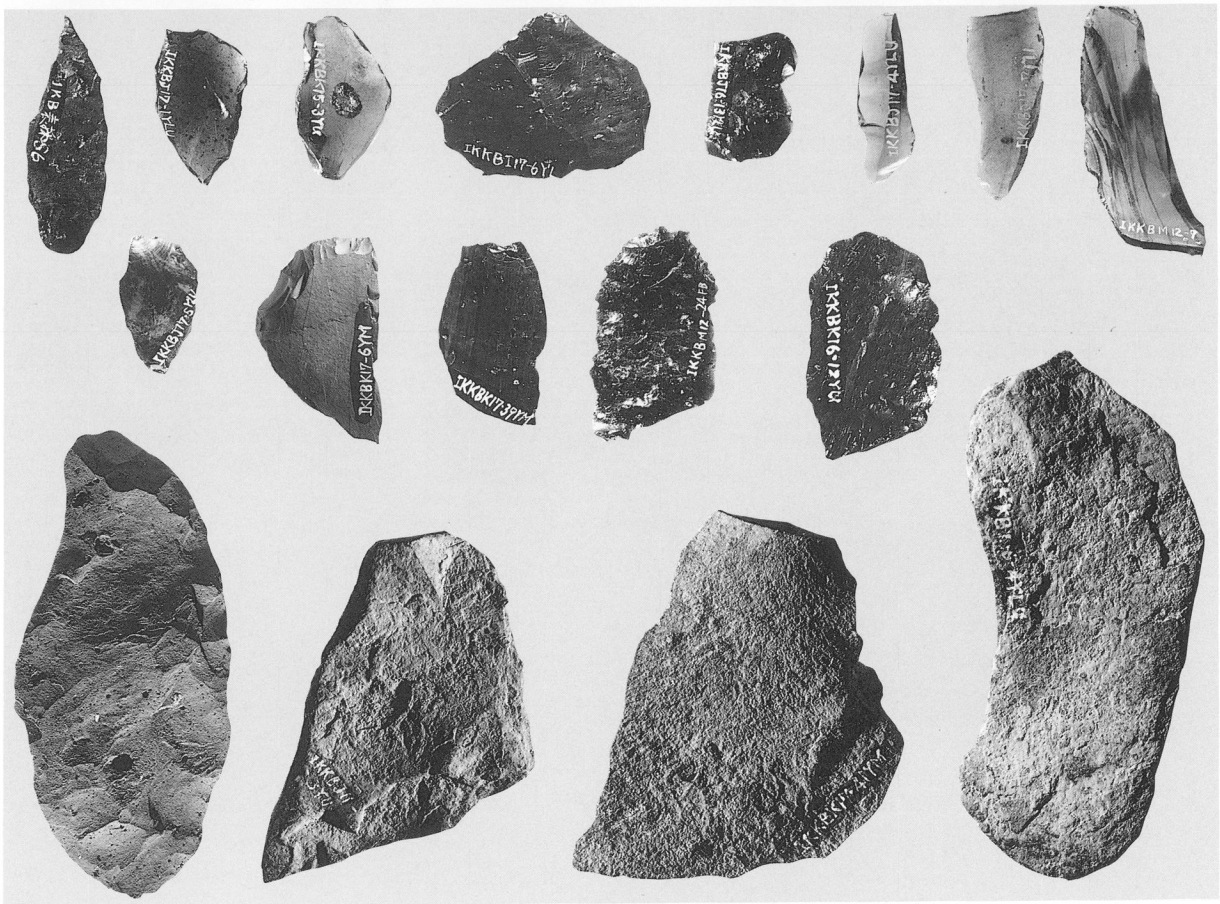
2　縄文土器復元資料



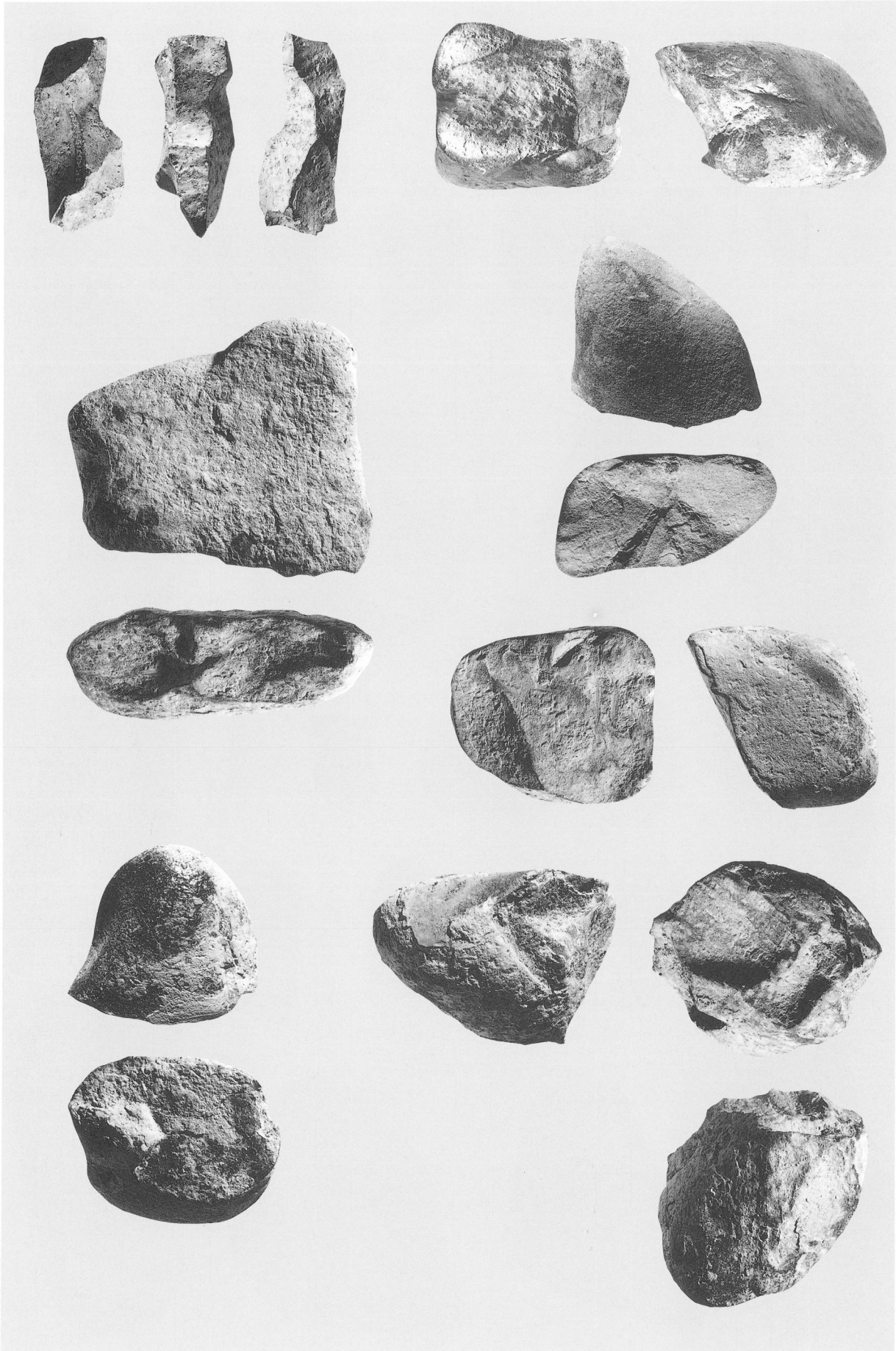


縄文時代草創期の石器

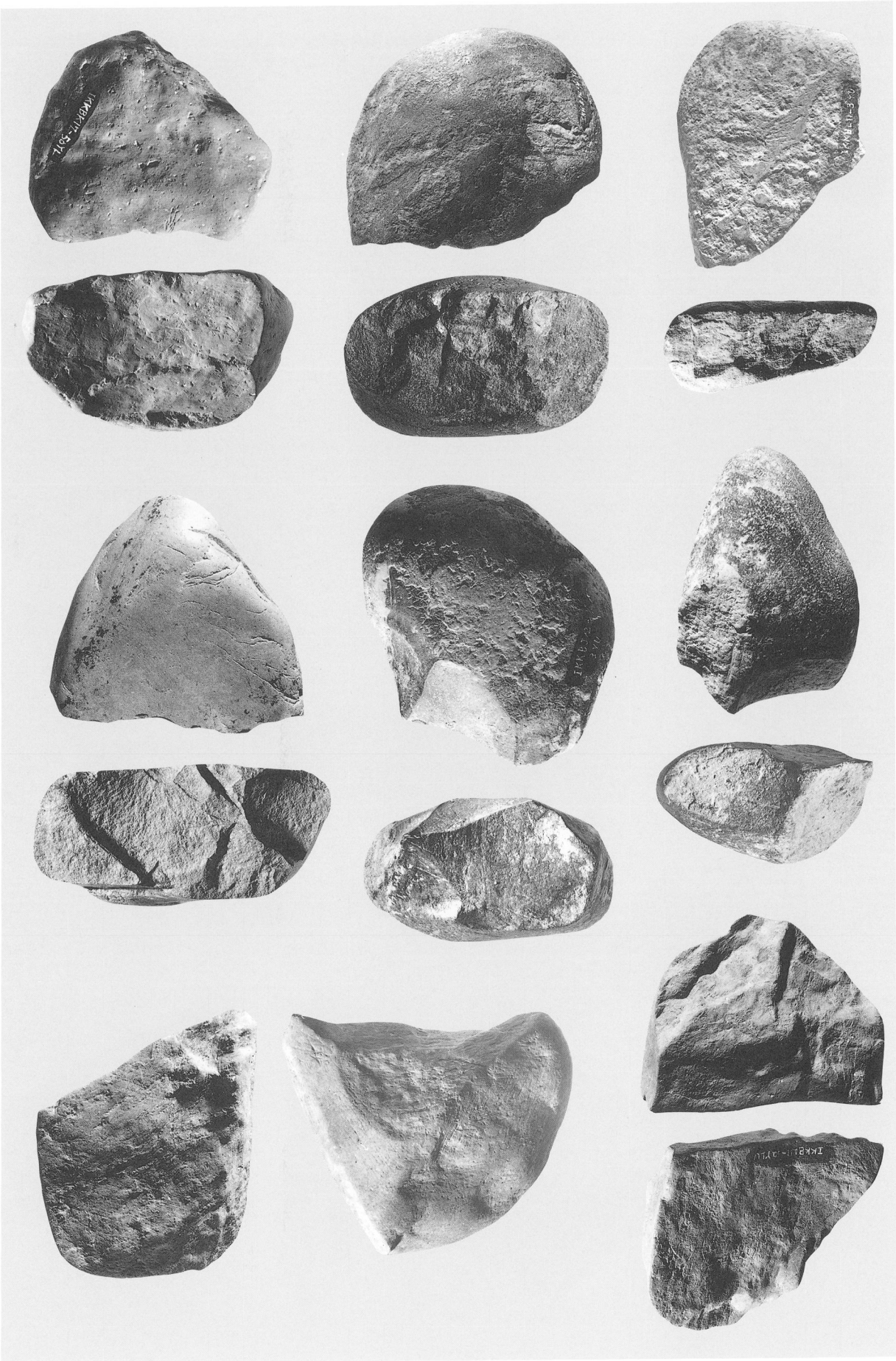




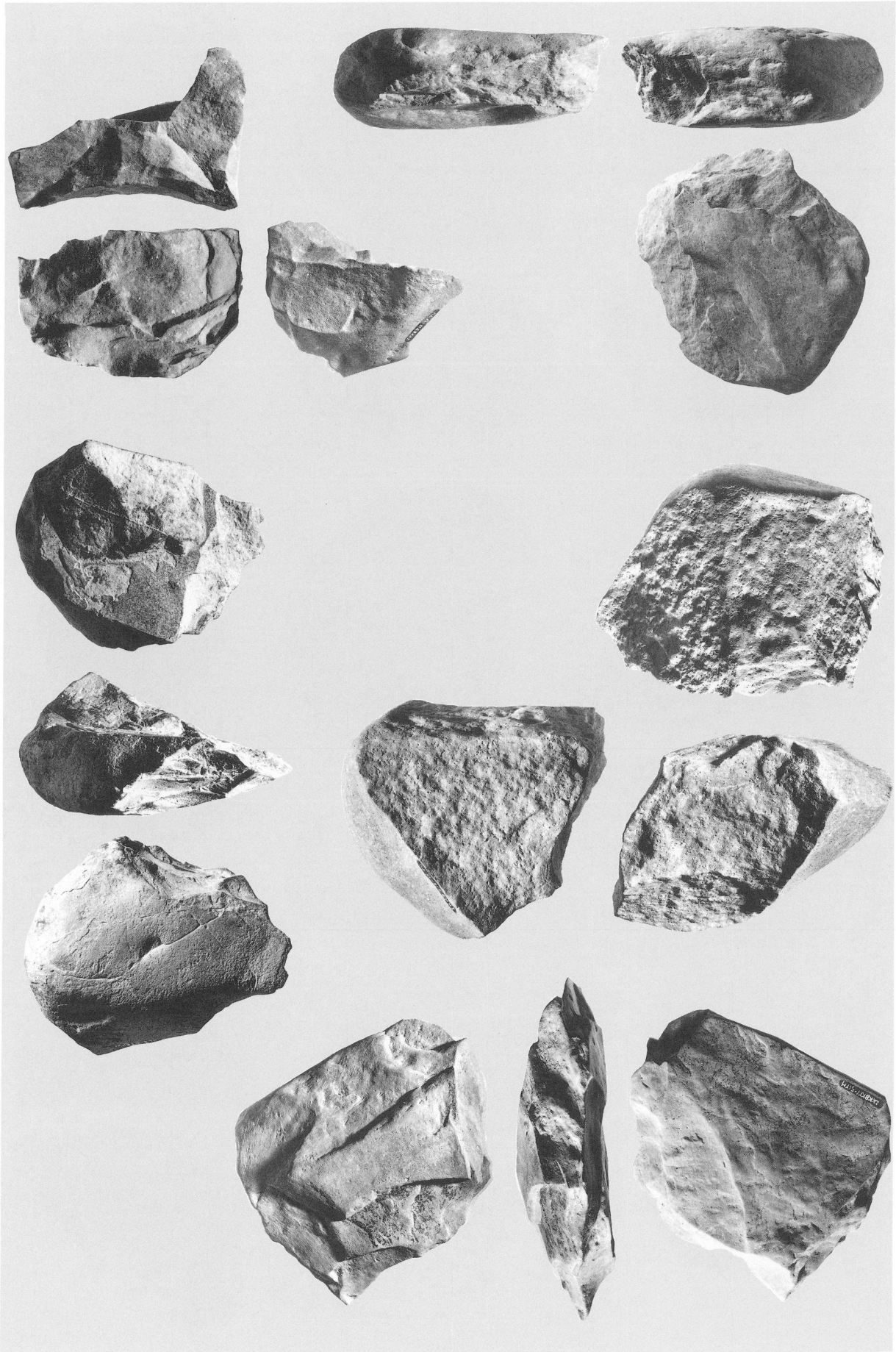
YL層出土石器



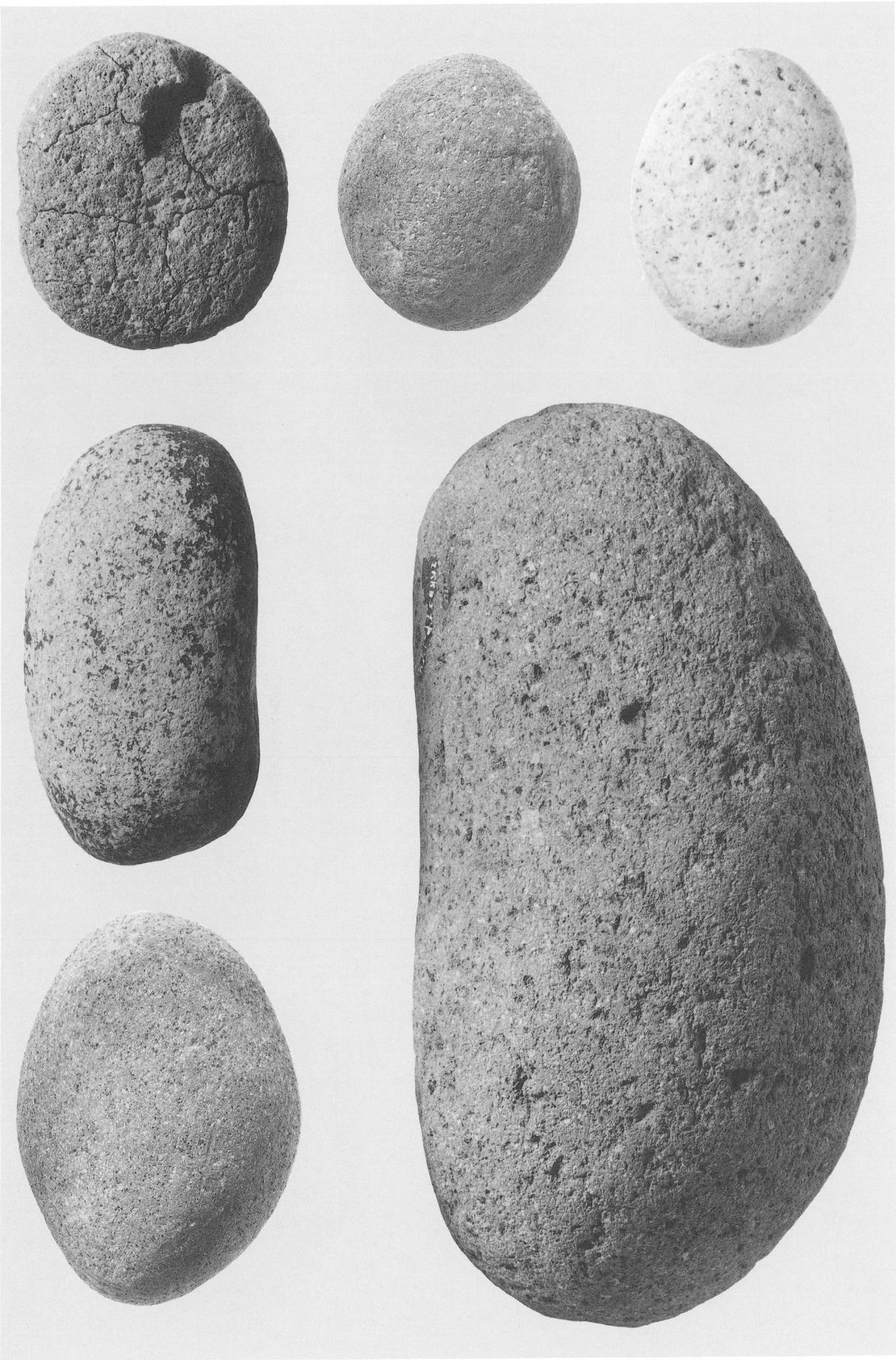
ＹＬ層石核１



YL層石核 2

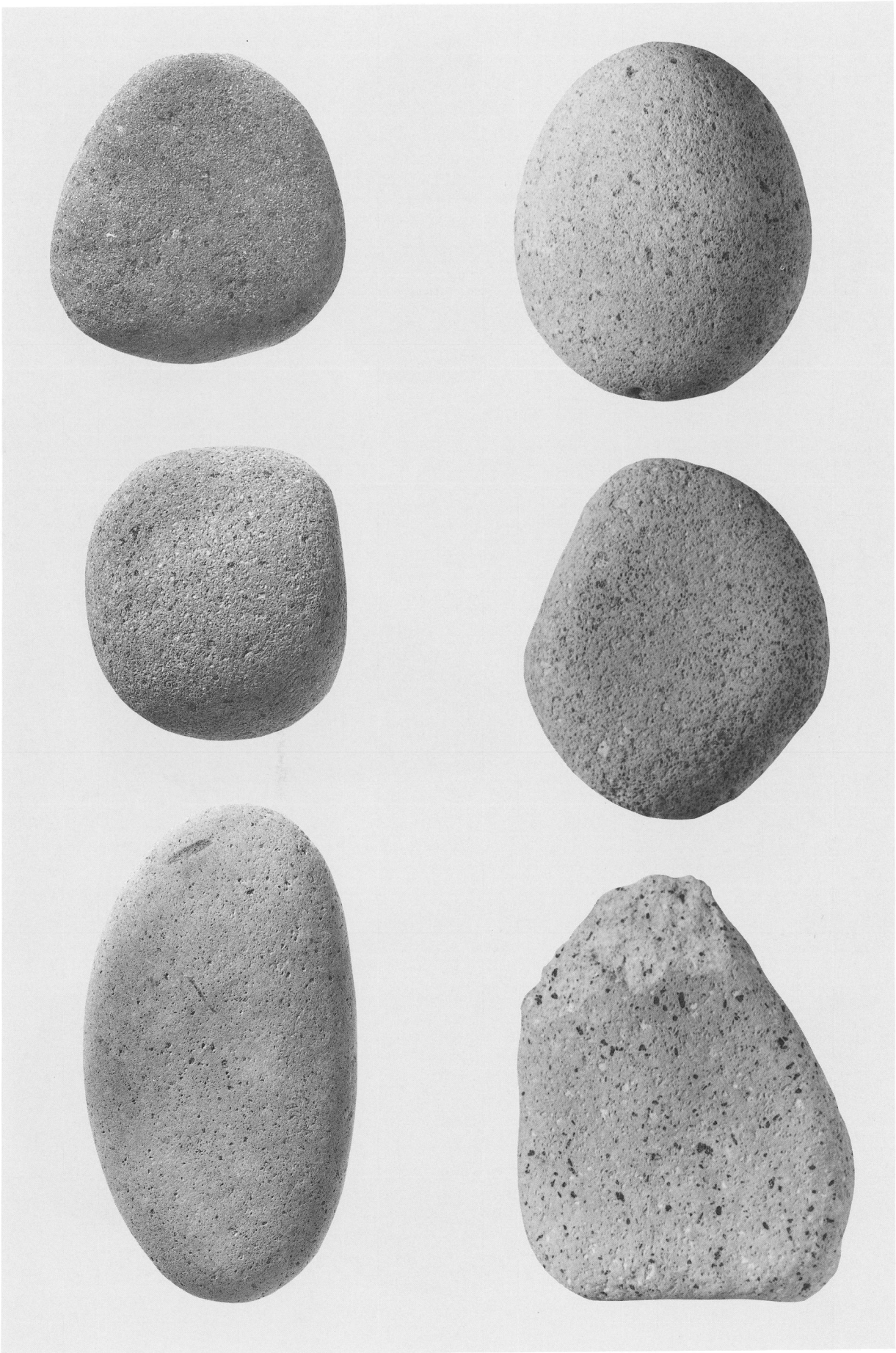


YL層石核 3

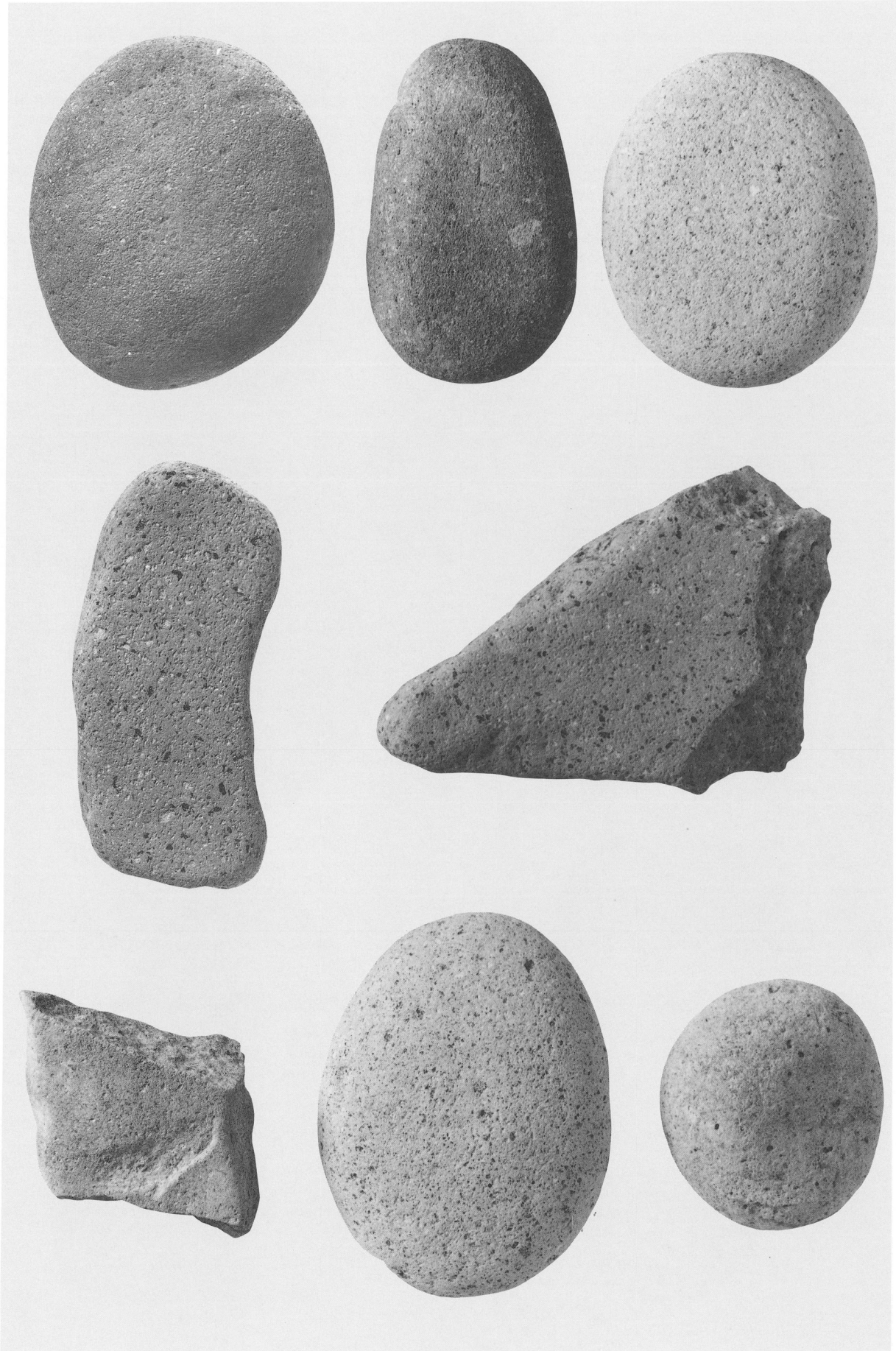


ＹＬ層敲石・凹石

YL層敲石・凹石

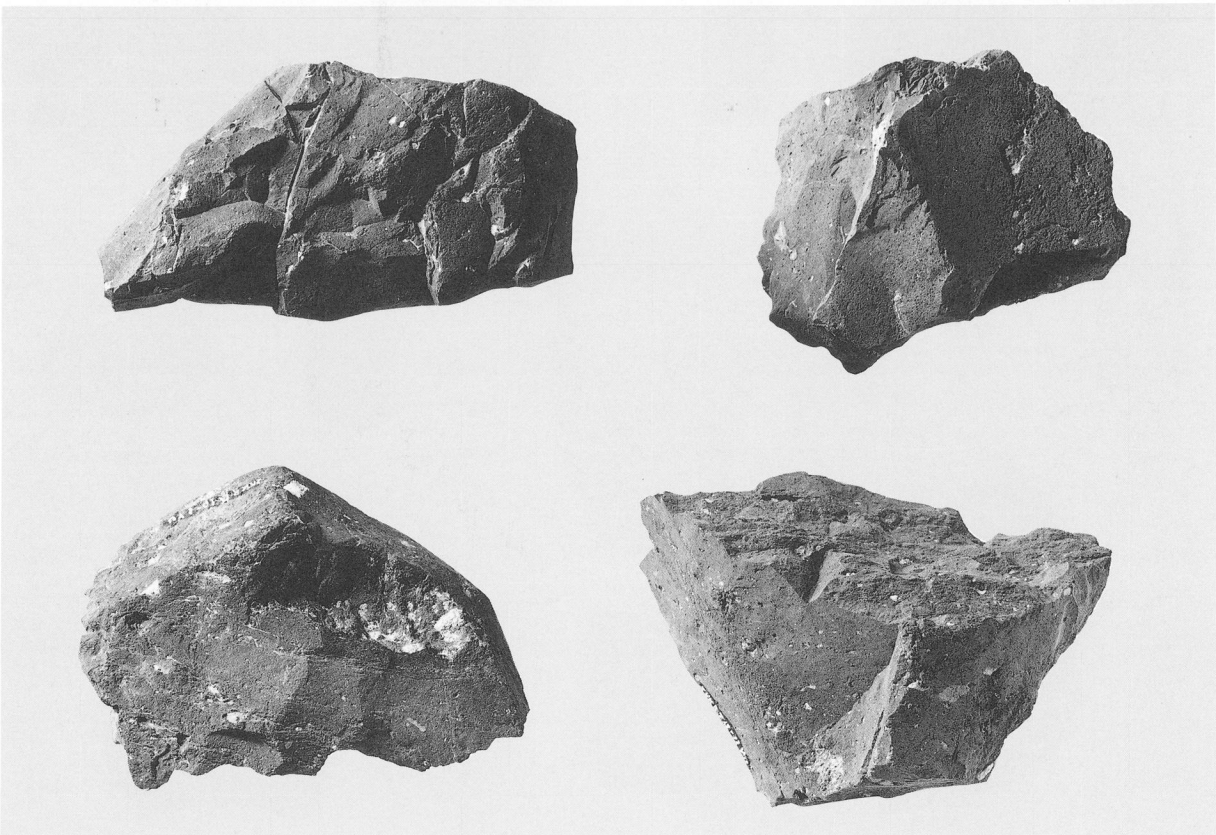


ＹＬ層磨石

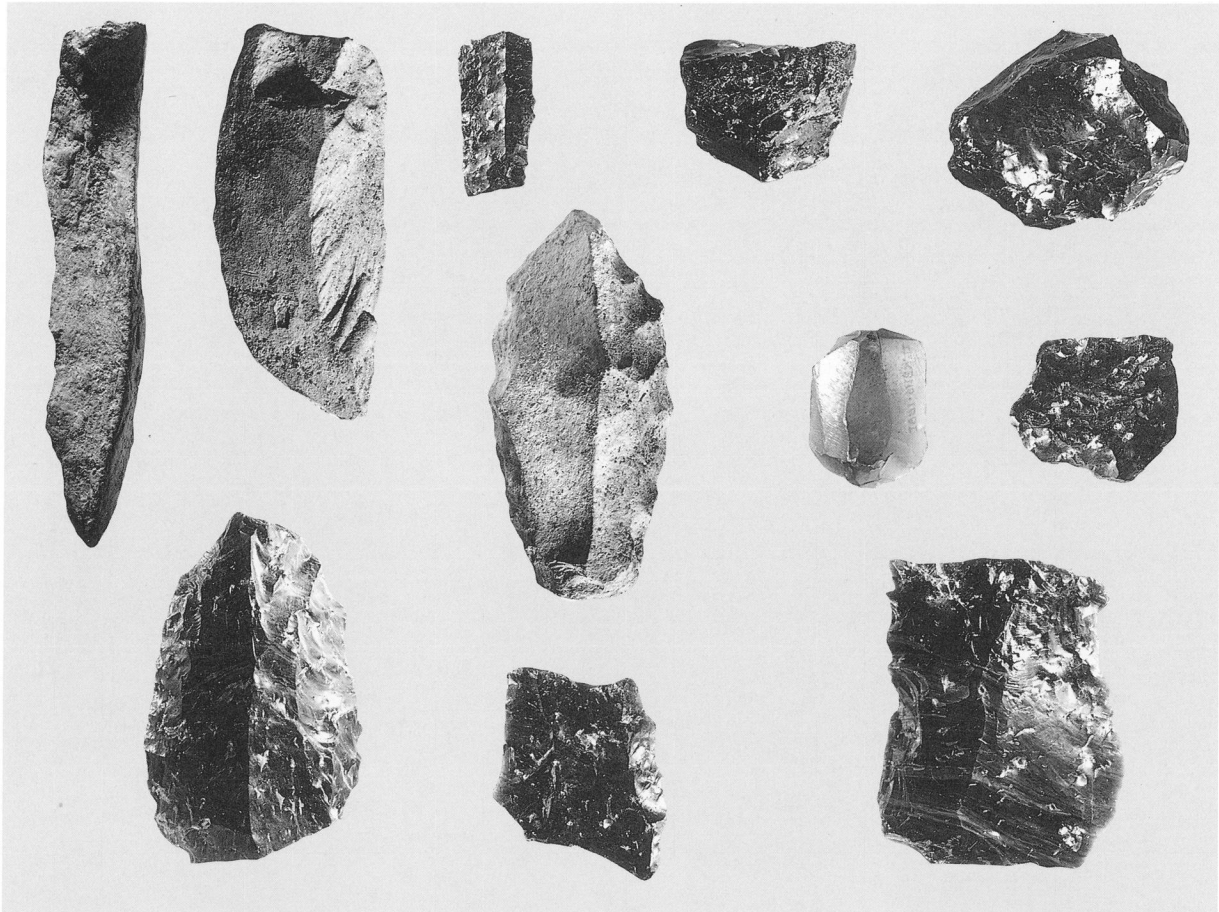


ＹＬ層敲石・磨石

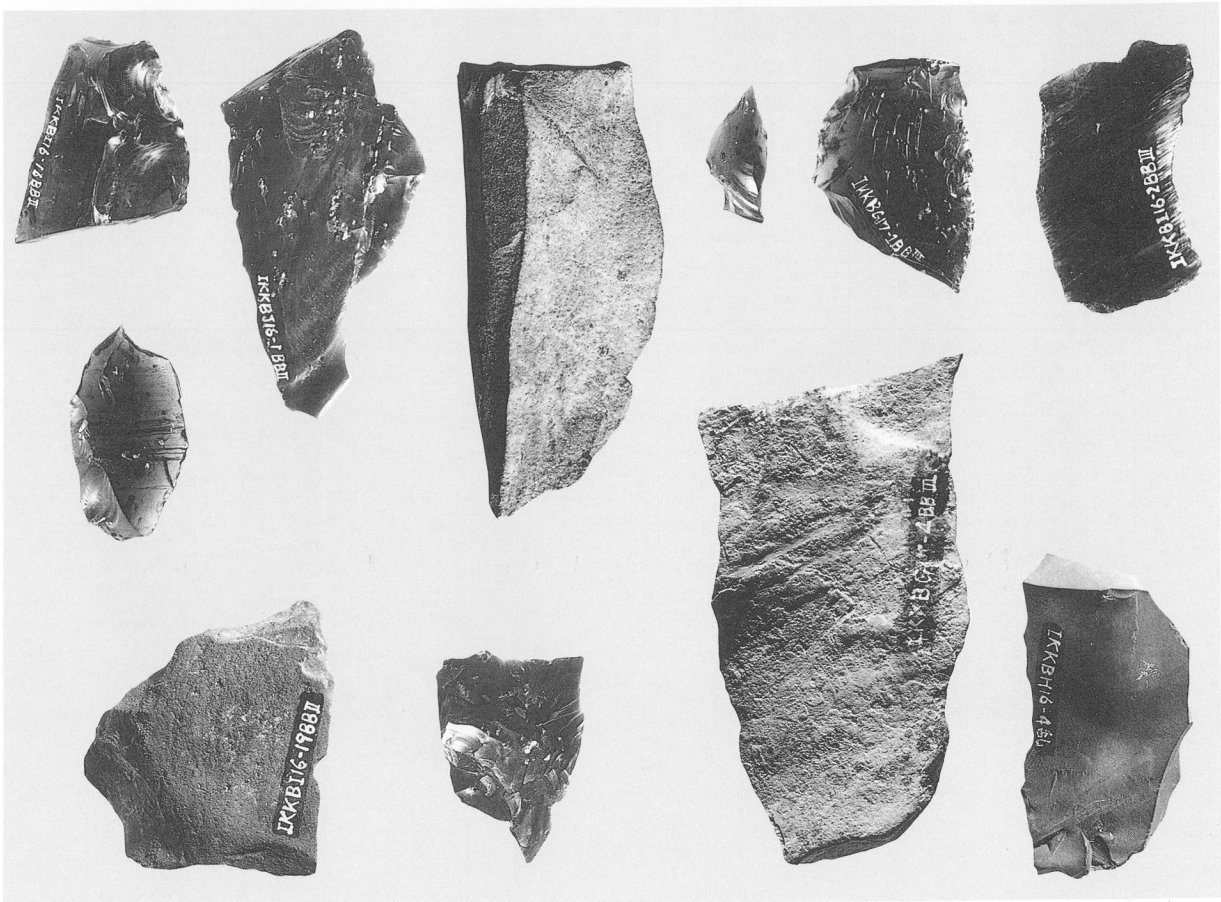
1　YL層敲石・磨石



2　YL層黒色緻密安山岩原石

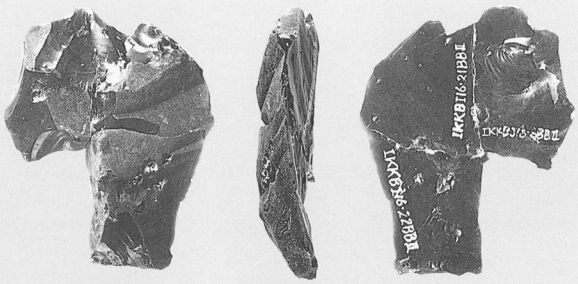


BB0層・BBⅠ層出土石器

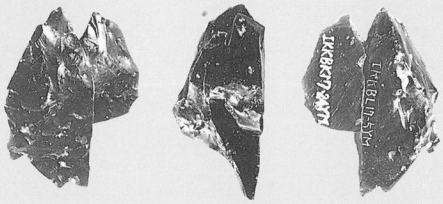


BBⅡ層・BBⅢ層出土石器

1　YL層接合資料1



2　BBⅡ層接合資料



3　YL層接合資料2

4　BBⅢ層石核

5　BBⅡ層台石

発掘調査参加者

桜井　富夫　　島村　栄一　　下山　　貢　　鈴木　秋夫　　鈴木　　武　　鈴木富士夫
高原　恒男　　高梨　　孝　　武士　晴信　　土屋　俊一　　土屋　　正　　土屋　義春
富田　昌之　　西島　　茂　　広瀬　　孝　　森嶋富士夫　　山口　　尚　　渡辺　秋夫
渡辺　勝藤　　秋元　慧子　　阿部　晴美　　小川とし江　　小野　ナツ　　後藤　俊江
柴田美佐子　　福島とき子

整理参加者

菅野みと子　　鈴木　里江　　鈴木　輝美　　高田みゆき　　高橋　裕子　　森嶋富士夫

- 石器の実測・トレースは、小野千賀子・鈴木里江・鈴木輝美・高橋裕子が行った。
- 石器の石材別・個体別分類は、森嶋富士夫が行った。

報　告　書　抄　録

ふりがな	かもノほらＢいせき
書名	加茂ノ洞Ｂ遺跡
副書名	平成６年度東駿河湾環状道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告
シリーズ番号	第７１集
編著者名	横山秀昭
編集機関	静岡県埋蔵文化財調査研究所
所在地	〒４２４　静岡県清水市江尻台町１８－５　TEL　０５４３－６７－１１７１
発行年月日	西暦１９９６年３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯/東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
かものほらＢ 加茂ノ洞Ｂ	みしましさわじあざかわほら 三島市沢地字河洞	22206	156	35°08′53″/ 138°55′49″	1994年4月 ～ 1995年3月	7,233㎡	道路建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
加茂ノ洞Ｂ	散布地	旧石器時代 ～ 縄文時代	石器集中地点 礫群 土坑 土坑	尖頭器、ナイフ形石器、掻器、削器、楔形石器、石刃、石核、剥片 有舌尖頭器、土器、石鏃、磨石、敲石、石皿	後期旧石器時代初めの土坑17基

静岡県埋蔵文化財調査研究所
調査報告第71集

加茂ノ洞B遺跡

平成８年３月31日

編集発行　財団法人
静岡県埋蔵文化財調査研究所

印刷所　みどり美術印刷株式会社
沼津市沼北町２丁目16番19号
TEL　（0559）21－1839㈹